

日本におけるリカレント教育普及の課題
-東京大学公共政策大学院からの考察と政策的展望-

論文・ページ数 : 68
論文・文字数 : 57,198
参考情報 : 68-217 ページ

2021年3月19日(金)
宮崎 翔太(学籍番号 51-198015)
東京大学公共政策大学院 公共管理コース 2年
研究論文(指導教員: 鈴木 寛 教授)

【目次】

| | |
|---|----|
| はじめに | 3 |
| 第1章：日本におけるリカレント教育の現状と政策..... | 10 |
| 第2章：日本においてリカレント教育が広がらない課題と先行研究の検討..... | 16 |
| 2-1) 個人・企業・大学等の期待値のギャップ..... | 17 |
| 2-2) 日本型雇用システムの影響と従業員に対する企業の理解..... | 25 |
| 2-3) 個人による経済的及び時間的な余裕のなさ | 31 |
| 第3章：外的要因によりリカレント教育が増加する日本..... | 34 |
| 3-1) テレワークと遠隔授業の普及 | 34 |
| 3-2) 大企業におけるジョブ型雇用の広がり..... | 41 |
| 3-3) 雇用の流動化と働き方の多様化 | 42 |
| 第4章：グローバリゼーション等の外的要因で広がる公共政策大学院の価値..... | 48 |
| 4-1) 専門職大学院と社会人受講者数の推移..... | 49 |
| 4-2) 公共政策大学院の状況..... | 50 |
| 第5章： 政策提言とまとめ..... | 54 |
| 5-1) テレワークと遠隔授業の推進 | 55 |
| 5-2) 教育機関における変革の必要性 | 57 |
| 5-3) 東京大学公共政策大学院による取り組みの強化..... | 62 |
| おわりに | 66 |
| 謝辞..... | 68 |
| 参考情報①：ステークホルダーマップ | 69 |
| 参考情報②：インタビューのテキストマイニングや感情分析 | 69 |
| 参考文献情報③：参考文献一覧..... | 71 |
| 参考情報④インタビュー対象者の属性と Raw Data..... | 77 |

はじめに

2020年9月3日の日本経済新聞電子版には「コロナで仕事に不安 社会人の学び直しが加速」という記事が登場した。2019年12月に中国湖北省武漢市で端を発したコロナウイルスの影響によりテレワークやオンライン授業が急激に実践されるなどパラダイムシフトが起きる中、今後の雇用や収入に対する不安から、ビジネススクールやプログラミングスクールにて学び直す社員が急増しているという¹。日本政府は長年リカレント教育の普及を目指し、2022年までに大学・専門学校等の社会人受講者数（大学公開講座を除く）を100万人にすることを掲げているが、2017年時点で51万人（前年比+1万人）となり、これまでのペースでは極めて達成が困難な目標といえる。

本稿ではリカレント教育を「職務経験者（以下職業人）によるフォーマルな（大学院等への就学を伴う）学び直し」として定義する。また、弁護士や教員などの資格やジョブ型雇用につながるロースクールや教職員大学院ではなく、公共政策という「非資格系」専門職大学院に進学する職業人の分析を元に、日本においてリカレント教育を普及させるための検討と政策提言を行う。日本においてリカレント教育が普及しない課題やコロナウイルスなどの外的要因を踏まえた今後の展望について考察を行うにあたり、本研究においては先行研究を用いた分析に加え、課題解決に資する方法論の一つとして、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（以下、M-GTA）分析を行った。M-GTA分析で用いるデータは、著者が職業人選抜として在学する専門職大学院である東京大学大学院公共政策学連携研究部・公共政策学教育部（以下、東京大学公共政策大学院）の職業人（入学前に職務経験のある）在學生と卒業生20名、著者が所属する企業の人事担当役員1名、そして比較対象として京都大学大学院公共政策連携研究部・公共政策教育部（以下、京都大学公共政策大学院）の在學生1名の協力を得て行った、オンラインもしくは書面（一部両方の組み合わせ）によるインタビューデータである（対象者の属性については表1を参照）。インタビューは主に2020年10月から12月にかけて実施された。

少子高齢化が進む日本が今後も国際競争力を維持するためには人材育成が鍵となり、リカレント教育の普及はこれからの国造りにとって不可欠な要素と考える。そして将来官僚や地方公務員を志す学生、もしくは既に政策に直接的・間接的な関わりのある教員や職業人学生が集う公共政策大学院における考察や発展は、日本全体においてリカレント教育を恒久的に浸透させるための効果的な政策立案を実行するという観点からも大きな意義があると考え、今回の研究対象とした。

¹ [日本経済新聞電子版, 2020]

■表1 インタビュー対象者の属性（合計21名の学生）

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|---------|-----------------|----|-----|----------|----------|---------------|----------------|----------|---------------|
| 1 | A | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 国家公務員 | 無 | 無 | 組織 | 学業に専念 |
| 1 | P | Yes | 女性 | 20代 | 他学 | 地方公務員 | 無 | 無 | 組織 | 学業に専念 |
| 1 | G | Yes | 男性 | 30代 | 他学 | 民間 | 無 | 有 | 組織 | フルタイム勤務 |
| 1 | B | Yes | 男性 | 30代 | 他学 | 民間 | 有 | 無 | 自費 | フルタイム勤務 |
| 1 | N | Yes | 男性 | 20代 | 他学 | 民間 | 無 | 有 | 自費 | やや時短 |
| 1 | D | Yes | 男性 | 30代 | 東大 | 地方公務員 | 有 | 無 | 自費 | 学業に専念/休職 |
| 1 | C | Yes | 男性 | 40代 | 他学 | 士業 | 有 | 無 | 自費 | やや時短 |
| 1 | F | Yes (自営業) | 女性 | 30代 | 他学 | 民間 | 有 | 有 | 自費 | 時短 |
| 1 | H | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 独立行政法人 | 無 | 無 | 自費 | 産休後、復帰 |
| 1 | J | Yes | 男性 | 60代 | 他学 | 民間 | 有 | 有 | 自費 | 時短調整可 |
| 1 | O | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 士業、議員事務所 | 有 | 有 | 自費 | 適宜調整 |
| 1 | E | Yes | 男性 | 20代 | 他学 | 国家公務員 | 無 | 無 | 組織 | 学業に専念 |
| 1 | T (アジア) | Yes | 男性 | 30代 | 他学 | 海外公務員 | 有 | 有 | 組織 | 学業に専念 |
| 2 | M | Yes | 男性 | 60代 | 東大 | 民間 | 有 | 有 | 自費 | 時短調整可 |
| 2 | K | No | 女性 | 30代 | 他学 | 元民間 | 無 | 有 | 自費 | 学業に専念/退職 |
| 2 | U (中国) | No | 女性 | 20代 | 他学 | 元民間 (海外) | 無 | 有 | 奨学金 | 学業に専念 |
| 3 | L | No (1ヶ月のみ) | 女性 | 50代 | 他学 | 元議員 | 有 | 有 | 自費 | 家族介護と両立 |
| 3 | S | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 地方公務員 | 無 | 無 | 組織 | 学業に専念 |
| 3 | I | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 地方公務員 | 無 | 無 | 組織 | 学業に専念 |
| 3 | R | No | 女性 | 30代 | 他学 | 元民間 | 無 | 無 | 自費 | 学業に専念/退職 |
| 4 | Q | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 地方公務員 | 無 | 無 | 組織 | 学業に専念 |

*備考： グループ1は2018-2020年度に入学した職業人選抜12名とアジアの政府機関からの教育派遣学生1名（計13名、筆者含む）、グループ2は同時期に入学した職務経験のある一般入試選抜の学生2名と国際プログラムコース（以下MPP/IP）の職務経験のある中国人学生1名（計3名）、グループ3は2017年以前に卒業した職業人選抜や職務経験のある一般入試選抜の学生（計4名）、グループ4は京都大学公共政策大学院の職業人選抜学生（計1名）。筆者の所属する企業の人事担当役員は上記表には含めない。

■表2 東京大学公共政策大学院における職業人選抜の推移

| 入試結果年度 | | 一般入試 合格者 | 職業人選抜 最終合格者 | インタビュー 実施人数 (職業人選抜) | インタビュー実施 人数 (一般入試の 職業経験者) |
|--------|-------------|-------------|----------------|---------------------------|---------------------------------|
| 2020 | 在 校 生 | 62 (18) | 10 (1) | 5 | 1 |
| 2019 | | 71 (25) | 6 (0) | 6 | 1 |
| 2018 | | 74 (31) | 3 (0) | 2 | 0 |
| 2017 | | 73 (18) | 5 (0) | 1 | 0 |
| 2016 | | 81 (17) | 6 (0) | 0 | 0 |
| 2015 | | 89 (11) | 5 (0) | 1 | 0 |
| 2014 | | 88 | 3 | 0 | 0 |
| 2013 | | 92 | 7 | 0 | 0 |
| 2012 | | 81 | 7 | 0 | 0 |
| 2011 | | 96 | 7 | 1 | 0 |
| 2010 | | 109 | 3 | 0 | 0 |
| 2009 | | 105 | 8 | 0 | 1 |

*上記表に2020年9月入学のMPP/IP学生（中国籍）1名は含まれない。出典：東京大学公共政策大学院ウェブサイト
<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/admissions/admission-results/> （2020年12月1日アクセス）

■分析手法

分析手法としては、人間の行動や他者との相互作用によってなされる「動き(変化・プロセス)」の説明や予測に有効な理論生成を目指す質的研究の一つである M-GTA を採用した²。当事者であるインタビュー対象者の経験をもとにボトムアップに理解を深めながら、分析者の視点を反映させることができるため、本研究の手法として適していると考えた。

M-GTA 分析では、まず、「分析ワークシート」(表 3 にサンプルを抜粋)を用いて、インタビューデータをもとに抽出した概念を最小分析単位とし、複数の概念をカテゴリーとして括る。その後、カテゴリー間の関係をもとに分析テーマであるリカレント教育における課題および今後の展望を考察していく。

M-GTA による分析の結果、本研究では、24 個の概念と 7 個のカテゴリーを生成した。生成された概念を表 3 に示す。下の文中【】は、表 4 に記載された概念を示す。

職業人学生が現在所属する(もしくは入学前に所属した)民間企業や公共団体などの組織、そして東京大学公共政策大学院はそれぞれリカレント教育を妨げる概念を持っている。その上で、職業人学生個人が公共政策大学院での学び直しをどのように捉え、大学院進学の効果をどのように評価しているのかが明らかになってきた。公共政策大学院には潜在的な需要が存在している可能性があり、また阻害要因を解決することでリカレント教育普及への提言にもつながると考える。

² [木下康仁, 2003]

■表3 分析ワークシート（サンプルを抜粋）

| | |
|-------|--|
| 概念名 | 期待値の低さ |
| 定義 | 組織の上司や同僚からの大学院進学に関する評価が低く、理解が得られない。 |
| 具体例 | <ul style="list-style-type: none"> - (派遣先からの期待値は)全くないです。なんで通ってるの？みたいな。ベンチャーっていうところもあるし、営業とマーケティングなのでなんで学問の話するの、みたいな。あんまり理解されていないんだなという気がしますね。僕はすごくつながっていると思ってますし、今の仕事の中でもGraSPPの先生とかつながりができて仕事に活かしている部分もあって、仕事へのフィードバックもできて。あまり表立って動いてないこともあるんですけど。 - (上司など派遣元からの期待値は)ないんですよ。とにかくそこで勉強してきなさいという辞令なんですけど何を勉強してこいというのが全然ないのでちょっと困りました。 - 地方公務員の職場は変わっていて、高卒の方も多い。大卒も増えてきている。学歴というのは意識しない文化で。それで学びに対する姿勢というところが軽視されていて、上司によって。学歴を重視しない文化と。今からの時代修士とか、そういうのもないと公共政策とかやっつけていけない時代になると思うので。 - 弁護士です、を100としたら、公共政策大学院を卒業しましたよ、というのは実感値として10とかかな。(周りからの評価について) - おもしろい話があったら教えてくださいよ、みたいな。会社の仕事関連で期待は全くないです。自分の生活の一部にしています。 |
| 理論的メモ | <ul style="list-style-type: none"> ① 期待値が低い中、勉強してきなさいと大学院に派遣する理由は何か ② 期待値の低さの要因はなにか ③ 進学自体が周りから評価されないのであれば、学ぶ内容を仕事で活かす方法を自分で見つけて実践するしかないのでは。 |

備考：() は著者が追記。

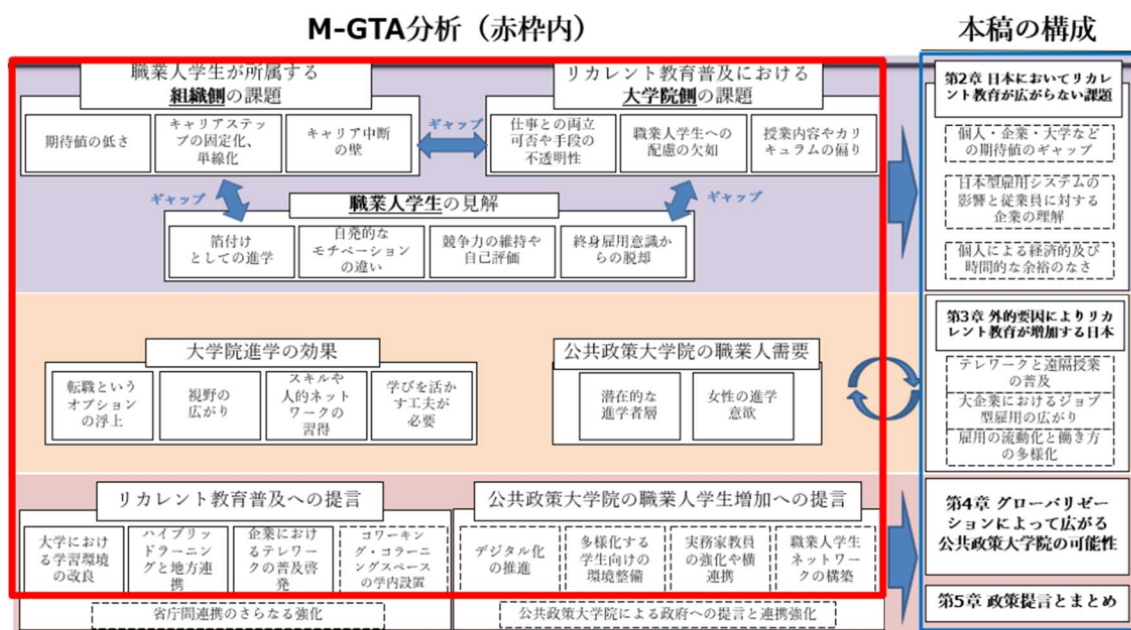
■表 4 東京大学公共政策大学院に通う職業人学生の語りの概念リスト

| カテゴリー | 概念名 | 定義 |
|----------------------|--------------------|--|
| 職業人学生が所属する組織側の課題 | 1 期待値の低さ | 所属組織の上司や同僚からの大学院進学に関する評価が低く、理解が得られない |
| | 2 キャリアステップの固定化、単線化 | 組織の人事配置や昇進の基準が、大学院で身につく知識やスキルを活かせるものになっていない |
| | 3 キャリア中断の壁 | キャリア中断がキャリア形成において不利に働き、退職や休職をして大学院に進学することの阻害要因になっている |
| リカレント教育普及における大学院側の課題 | 4 仕事との両立可否や手段の不透明性 | 学業と仕事を両立する可否および手段の不透明性が、社会人による大学院進学の検討を止めている |
| | 5 職業人学生への配慮の欠如 | 入学・通学・試験などにおいて、大学側が学部からの大学院進学者（非職業人）を主に想定しており、社会人のなかでも若くて家族がいない人のみが通いやすい |
| | 6 授業内容やカリキュラムの偏り | 大学院側の授業の中身とカリキュラム設定が、社会人学生およびその所属組織の需要に応えきれていない |
| 職業人学生の見解 | 7 箔付けとしての進学 | 大学院選択時の考慮項目の上位に大学院のネームバリューがきている |
| | 8 自発的なモチベーションの違い | キャリア転換やキャリアアップの一環として計画的かつ戦略的に進学する社会人学生と、組織からの派遣で進学する学生が存在 |
| | 9 競争力の維持や自己評価 | 大学院は人生100年時代において活躍する鍵。学んだことを職場で実績として活かせれば評価されるという意識が存在 |
| | 10 終身雇用意識からの脱却 | 転職経験や外資系企業における経験があると大学院に来るという選択肢が浮かびやすい。将来国際機関を志すために修士号が必要 |
| 公共政策大学院の職業人需要 | 11 潜在的な進学者層 | 民間においてもグローバル競争におけるルール形成など、公共政策の知識が必要になる。民間から行政へのキャリアパスの増加 |
| | 12 女性の進学意欲 | 育休を活かしたいなど、大学院進学を望む潜在的な女性層が存在 |
| 大学院進学の効果 | 13 転職というオプションの浮上 | 大学院進学によって転職を漠然と視野に入れ始める |
| | 14 視野の広がり | 普段は接しない人との議論など、社会人にとって大学院は新しい世界に触れるきっかけとなる |
| | 15 スキルや人的ネットワークの習得 | 専門知識に加え、論文の作成やタイムマネジメント、思考法などのスキルが身につく。教員や学生との人脈が形成される |
| | 16 学びを活かす工夫が必要 | 大学院で学んだ事実自体は評価されにくいのが、経験やスキル、ネットワークなどを活かせれば、卒業後のキャリアアップにつながる |

| カテゴリー | 概念名 | 定義 |
|------------------------|------------------------------|---|
| リカレント教育普及への 提言 | 17 大学における学習環境の改良 | 授業のスタイルに応じてオフライン・オンラインの環境を使い分けることで習熟度が上がる |
| | 18 ハイブリッドラーニングと地方連携 | 従来の対面授業とオンライン教育の組み合わせによって、仕事と学業の両立というオプションが浮上する。地方大学におけるカリキュラム・教員リソース連携などの広がりも期待される |
| | 19 企業におけるテレワークなど柔軟な働き方の普及啓発 | 企業が従業員のテレワークを認めることで仕事と学業、家庭の両立が図れる。テレワーク定着のためには個々人の役割を明確にする必要があり、ジョブ型雇用への移行にも寄与する。 |
| | 20 コワーキング・コラーニングスペース 学内設置 | 学部卒の学生と職業人の接点を増やすことで学ぶ内容と職業のレリバンスが醸成される。職業人は学ぶ環境との距離を縮め、職業人学生との接点を増やすことで心理的なハードルが下がる |
| 公共政策大学院の職業人 学生増加の提言 | 21 デジタル化の推進 | ハイブリッドラーニング環境の構築以外にも、入学説明会、出願プロセス、試験方法、情報共有方法の一元化（シンプル化）、そして学生目線のPDCAサイクルの構築が必要。教員へのサポート体制も含まれる |
| | 22 多様化する学生向けの環境整備 | 留学生向けの多言語対応だけでなく、学内における授乳室など、女性が子育てと両立しやすい環境の整備が必要。成績評価も出席点ではなく透明性のあるプロセスを導入することで理想的なハイブリッドラーニングが実現される。英語授業の必修化や数週間単位の短期集中プログラム（修了証）導入も職業人にとって間断なきリカレント教育を実施する一助になる |
| | 23 実務家教員の拡大や連携強化 | 企業におけるパブリックセクターやパブリックアフェアーズ経験者の教員を増やすことや、既存の実務家教員が大学運営に更に参画することで、職業人にとっての魅力向上や学生にとっての卒業後のキャリア形成の多様化につながる。アカデミック教員とのTeam Teachingは職業人にとって魅力的に捉えられる。 |
| | 24 職業人学生ネットワークの構築 | 職業人がお互いに情報交換できる機会を提供することで同じ課題を共有、協力し合える。 |

これらのカテゴリ間から作成した分析結果を図1に示す。具体的な考察及び提言は、本稿に記述する。

■図1 M-GTA分析と導き出した提言、論文構成との関連性



第1章：日本におけるリカレント教育の現状と政策

リカレント教育とは、就職してからも生涯にわたって教育と労働などの諸活動を個人の趣味や関心、職業上の必要性に応じて交互に行うといった概念であり、1969年にスウェーデンのパルメ文部大臣が第6回ヨーロッパ文部大臣会議の席上で紹介したことが契機と言われる³。この考えを経済協力開発機構（OECD）が注目し、1973年に政策文書「リカレント教育-生涯学習のための戦略」（Recurrent Education: A Strategy for Lifelong Learning⁴）を提出したことで加盟国に広がった⁵。政策をより実効性のあるものにするため、勤労者が学習のために一定期間職場を離れることができる教育休暇の流れも各国で加速し、1974年の国際労働機関（ILO）の第59回総会では「有給教育休暇に関する条約」勧告が採択されたが、日本においてはこの条約は批准されなかった⁶。

日本におけるリカレント教育は生涯学習政策の一部として推進されてきており、1992年の生涯学習審議会答申「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について（中間まとめ）」においてリカレント教育は「職業人を中心とした社会人に対して学校教育の修了後、いったん社会に出た後に行われる教育であり、職業から離れて行われるフルタイムの再教育のみならず、職業に就きながら行われるパートタイムの教育も含む」と定義されている⁷。本稿で取り扱うリカレント教育は主に大学院への進学を想定した学び直し的手段であり、フルタイムとパートタイムの両方を含める。しかしながら政府がこれまで実行してきた様々な政策に反して、海外と比較した場合の日本のリカレント教育の割合は非常に低い傾向にある。図2-1を見ると、25歳以上の短期高等教育機関及び学士課程への入学者割合はOECD平均を大きく下回る。この点については、日本の高等教育機関への進学率がそもそも高いことが影響している可能性があるが、30歳以上の修士課程への入学者の割合もOECD平均を大きく下回る。図2-3を見ても、学部から直接修士課程に進む学生が必ずしも他国と比較して多いわけではなく、そもそも日本においては修士課程に進む学生が海外に比べて相対的に少ないこと、また、職業人になってからフルタイムやパートタイム問わず、再度大学院に進学して修士号を取得するケースが少ないといえる。

³ [上杉孝實, 1984]

⁴ [文部省大臣官房, 1974]

⁵ [岩崎久美子, 2020]

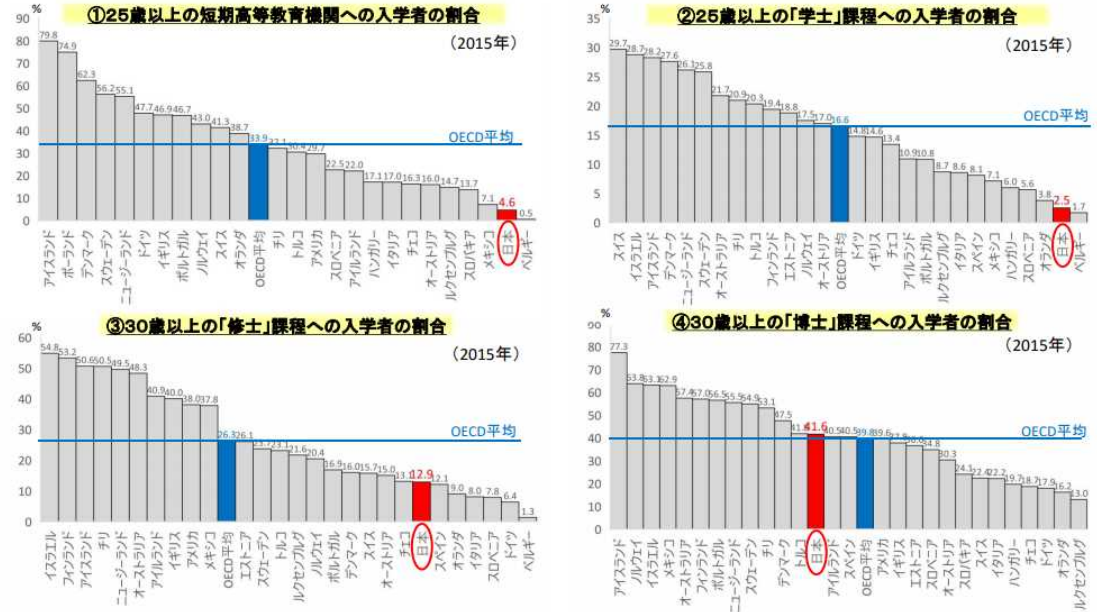
⁶ [岩崎久美子, 2020]

⁷ [生涯学習審議会, 1992]

■図 2-1 高等教育機関における 25（30）歳以上入学者割合の国際比較

高等教育機関における 25（30）歳以上入学者割合の国際比較

日本の短期高等教育機関、「学士」課程及び「修士」課程における25(30)歳以上入学者の割合は、低いものにとどまっている。(2015年)



出典- OECD Education at a Glance (2017) (諸外国) 及び「平成27年度学校基本調査」(日本)。
日本以外の諸外国の数値については、高等教育段階別の初回入学者の割合。
日本の数値については、それぞれ①短期大学、②学士課程、③修士課程及び専門職学位課程、④博士課程として算出(留学生を含む)。

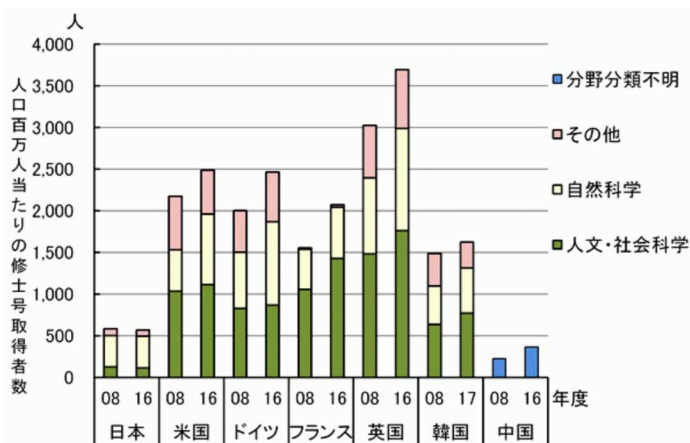
4

出典： 文部科学省 高等教育の将来構想に関する参考資料(平成30年3月27日)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2018/03/30/1403109_13.pdf

(2020年12月1日アクセス)

■図 2-3 人口100万人当たりの修士号取得者の国際比較



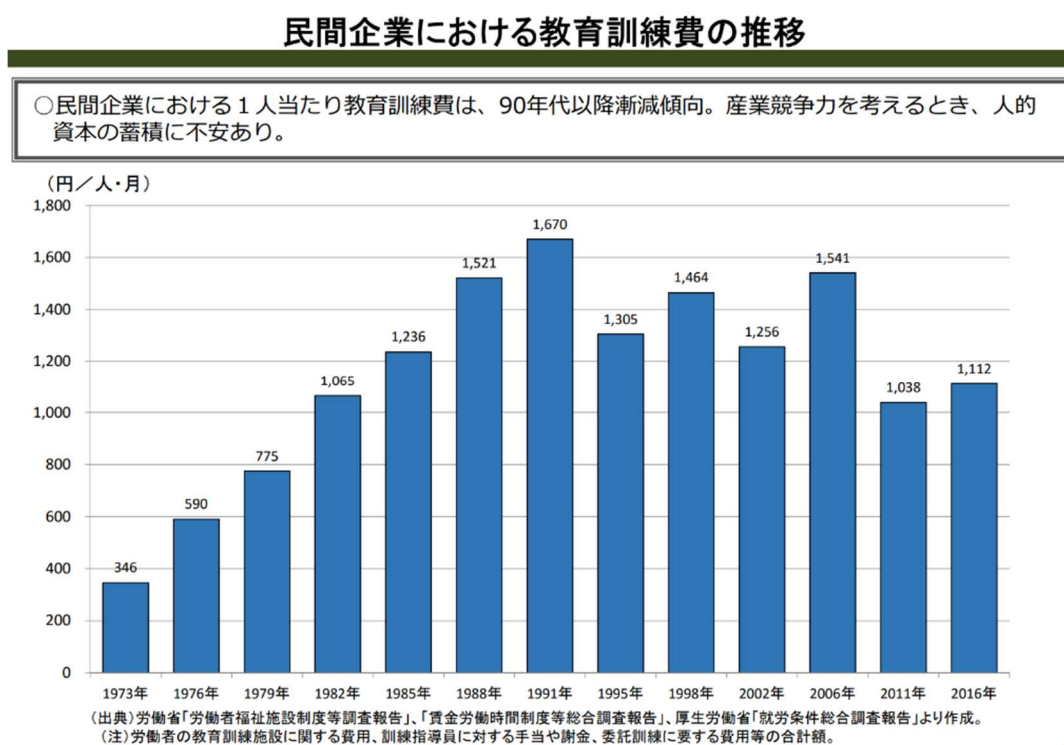
出典： 科学技術・学術政策研究所「科学技術指標 2019」

https://www.nistep.go.jp/sti_indicator/2019/RM283_35.html

(2020年12月10日アクセス)

日本においては新卒一括採用や終身雇用といった長期安定雇用慣行（内部労働市場）の影響により、個人が仕事に就きながらパートタイムで行う教育は大学院等への進学ではなく、業務を通じて学ぶ「オン・ザ・ジョブ・トレーニング（以下 OJT）」や業務を離れた研修などで学ぶ「オフ・ザ・ジョブ・トレーニング（以下 OffJT）」といった、企業が従業員に提供する「企業内教育機会」を指すことが多い⁸。詳細は後述するが、近年でもこの特徴は残っており、図 2-4 の通り、民間企業における教育訓練費は 90 年代以降漸減傾向となっている。とりわけ企業規模が小さくなればなるほど企業内教育の実施割合が低くなる。更には、非正規社員は正社員に比べて能力開発機会が乏しく、厚生労働省の調査によれば非正規社員の教育訓練は正社員と比較して約半数といった結果も出ている⁹。

■ 図 2-4 民間企業における教育訓練費の推移



出典：第 6 回人生 100 年時代構想会 平成 30 年 3 月 23 日

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryo/_icsFiles/afieldfile/2018/04/03/1403144_3.pdf (2020 年 12 月 3 日アクセス)

⁸ [塚原修一、濱名篤, 2017]

⁹ [厚生労働省, 2017]

企業の Off JT には大学等におけるリカレント教育も含まれる。経済変動と共に雇用システムに変革が起き、他社への転職など同一企業内でキャリアを完結しないケースなど雇用の流動化が進むにつれ、企業横断的な知識や技能を獲得する機会として、大学を含む外部の教育訓練機関の活用が注目されてきた¹⁰。それを受け、職業人に向けた教育機会の提供のため、文部科学省主導にて大学制度の弾力化をはじめとする改革が行われてきた(表 2-1 と図 2-5 を参照)。2015 年には社会人に向けた選択肢の可視化やプログラムの魅力向上、企業等の理解増進を図るため、大学等における社会人や企業のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP プログラム)として文部科学大臣が認定する制度が始まった。2020 年 5 月時点の認定課程数は 282 となっている¹¹。これらは主に文部科学省による政策だが、厚生労働省においても学び直し促進のための政策が展開されてきた。例えば 1998 年には雇用保険法が改正され、履修者の費用負担の軽減のため、厚生労働大臣が指定する職業に関する講座を修了した場合に支給される教育訓練給付制度¹²の成立や、2008 年には学び直しによる雇用上の工夫のため、履修実績等を記載したジョブカード制度の構築などが挙げられる¹³。

■表 2-1 政府によるリカレント教育関連政策の変遷 (抜粋)

| カテゴリ | 内容と時期 |
|---------------------|--|
| 大学設置基準 (文部科学省) | 大学設置認可における抑制の例外 (昭和 51 年より平成 14 年まで) ¹⁴ |
| 大学制度の弾力化 (文部科学省) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人学生の入学資格の弾力化 (平成元年等) ・ 夜間大学院 (修士課程は平成元年, 博士課程は平成 5 年) ・ 昼夜開講制 (学士課程は平成 3 年, 修士課程は昭和 49 年, 博士課程は平成 5 年) ・ 「メディアを利用して行う授業」の明確化 (平成 10 年) ・ 大学院修士課程の短期在学コース (平成 11 年), 長期在学コース (夜間大学院は平成元年, その他の修士課程は平成 11 年) ・ 専門職大学院の設置 (平成 15 年) ・ 早期卒業 (学士課程は平成 11 年, 修士・博士課程は平成元年) |

¹⁰ [塚原修一、濱名篤, 2017]

¹¹ [文部科学省, 2019]

¹² [厚生労働省, 2020]

¹³ [内閣府, 2007]

¹⁴ [文部科学省 中央教育審議会大学分科会大学規模・大学経営部会, 2010]

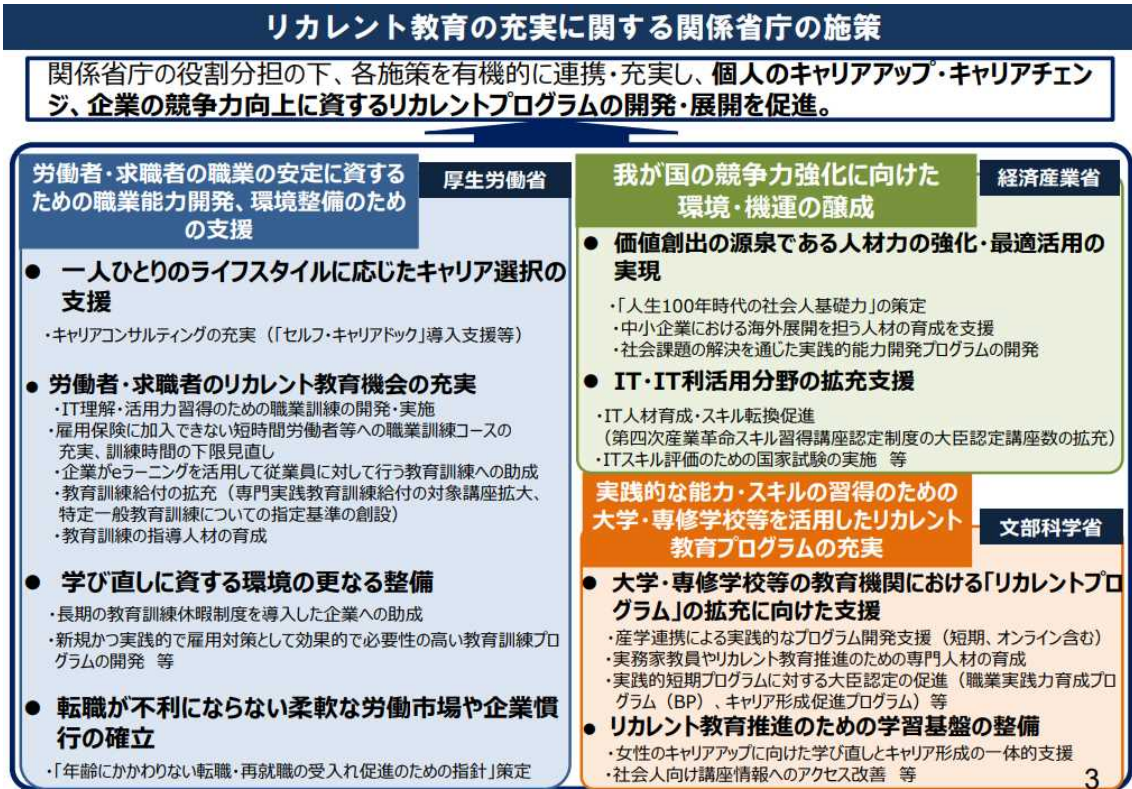
| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・長期履修学生制度（平成 14 年） ・サテライトキャンパスの制度化（平成 15 年） ・社会人の学びニーズ対応教育プログラム¹⁵ ・科目等履修生制度（学士課程は平成 3 年，修士・博士課程は平成 5 年）及び履修証明制度（平成 19 年） |
| <p>社会人の学習にかかる負担の軽減や情報アクセスの向上 （厚生労働省、文部科学省）</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教育訓練給付制度（平成 10 年） ・公立学校の教員が専修免許状を取得するための大学院修学休業制度（平成 12 年） ・国家公務員の自己啓発等休業に関する法律（平成 19 年） ・社会人を大学に派遣する企業等の経済的負担軽減策として、中小企業が雇用者を大学等に派遣する場合の法人税額控除（人材投資促進税制 平成 20 年から平成 24 年まで） ・職業実践力育成プログラム（BP プログラム）（平成 27 年） ・マナパス ポータルサイト（平成 30 年） |

*文部科学省および厚生労働省、中小企業庁、内閣府ウェブページより抜粋し著者が作成（下記は 2020 年 12 月 3 日アクセス）。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1293381.htm

¹⁵ [文部科学省, 2008]

■ 図 2-5 リカレント教育の充実に関する関係省庁の施策



出典：内閣府ウェブページ「文部科学省におけるリカレント教育の取組について（令和2年）」

<https://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/kisei/meeting/wg/koyou/20200409/200409koyou03.pdf>

（2020年12月3日アクセス）

近年の日本においてリカレント教育の議論が活発化した契機の一つとして、2016年に日本語版が発行されたリンダ・グラットン、アンドリュー・スコット（池村千秋 訳）による「LIFE SHIFT（ライフ・シフト）100年時代の人生戦略」（東洋経済新報社）が30万部¹⁶を超えるベストセラーとなったことの影響が挙げられる。個人の平均寿命が延びるにつれ、これまでの教育・仕事・引退という3ステージから、何度も教育と仕事を繰り返すマルチステージに移行することがグラットンとスコットから提唱され、リカレント教育の必要性について世の中に訴えかける内容となった。2017年の日本政府の成長戦略において「人づくり革命」の促進が政権の目玉政策の一つとして掲げられ、安倍晋三総理大臣を議長とし、前述のリンダ・グラットン氏も構成員として参画した人生100年時代構想会議は2018年に基本構想をまとめた。その結果として、費用補填、プログラム開発、在職者向け教育訓練などの観点から既存の政策が拡充された。

¹⁶ [デイリーBOOKウォッチ, 2019]

例えば専門実践教育訓練給付（7割助成）について第四次産業革命スキル習得講座（AI やデータサイエンスなど、第四次産業革命を牽引する先端分野に関する民間や教育機関による講座）の拡充、専門職大学課程の追加など対象講座の大幅拡大に加え、一般教育訓練給付対象者の拡大、そして IT スキルなどキャリアアップ効果の高い講座の給付率を 2割から 4割へ倍増した。また、文部科学省が認定した講座について社会人が通いやすいように講座の最低時間を 120 時間から 60 時間に緩和し、企業の長期教育訓練休暇制度導入と企業に対する人材開発支援助成金による支援、副業・兼業に向けた社会的気運の醸成などの方針が打ち出された¹⁷。

2019 年 6 月 21 日に閣議決定された成長戦略では、社会人、女性、高齢者等の多様なニーズに対応するため、大学や専修学校等のリカレント教育の拡大、実務家教員の育成、また、全ての大学院が入学前や他大学院での学修を活用して単位累積加算的に学位授与を行うための方策等を検討し、更なる大学・大学院での学位取得の弾力化を進めることが発表された¹⁸。そしてこのタイミングにて、「大学・専門学校等での社会人受講者数を 2022 年度までに 100 万人」とする KPI が掲げられたが、2015 年度は約 49 万人、2016 年度は約 50 万人、2017 年度は約 51 万人と横ばい傾向となり、非常に難易度の高い目標といえる（2017 年度以降は上記調査が終了しており、最新の数値を確認することができない）。

第 2 章：

日本においてリカレント教育が広がらない課題と先行研究の検討

日本においてリカレント教育（大学院におけるフォーマルな学び直し）が普及しない課題として、「個人・企業・大学等の期待値のギャップ」「所属組織の理解と日本型雇用システムの影響」「個人による経済的及び時間的な余裕のなさ」が代表的な要因として挙げられる。本章では東京大学公共政策大学院と京都大学公共政策大学院における合計 21 名の職業人学生及び修了者を対象にリカレント教育の経験について M-GTA の手法に基づいて分析を行った「語り」を交えながら、政府の調査や先行研究の検討を行う。

¹⁷ [首相官邸, 2018]

¹⁸ [文部科学省, 2020]

2-1) 個人・企業・大学等の期待値のギャップ

2016年に文部科学省が行った大規模な社会調査（委託事業）である「社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究」（イノベーション・デザイン&テクノロジー株式会社 2016）では、個人、企業（所属組織）、そして大学等の関係者間がリカレント教育に抱く考えやそれぞれの役割に対する期待値にギャップが存在することが確認できる。尚、本章では上記調査データに用いられていた「社会人学生」という表現を混在して用いるが、「職業人」と同義として位置づける。

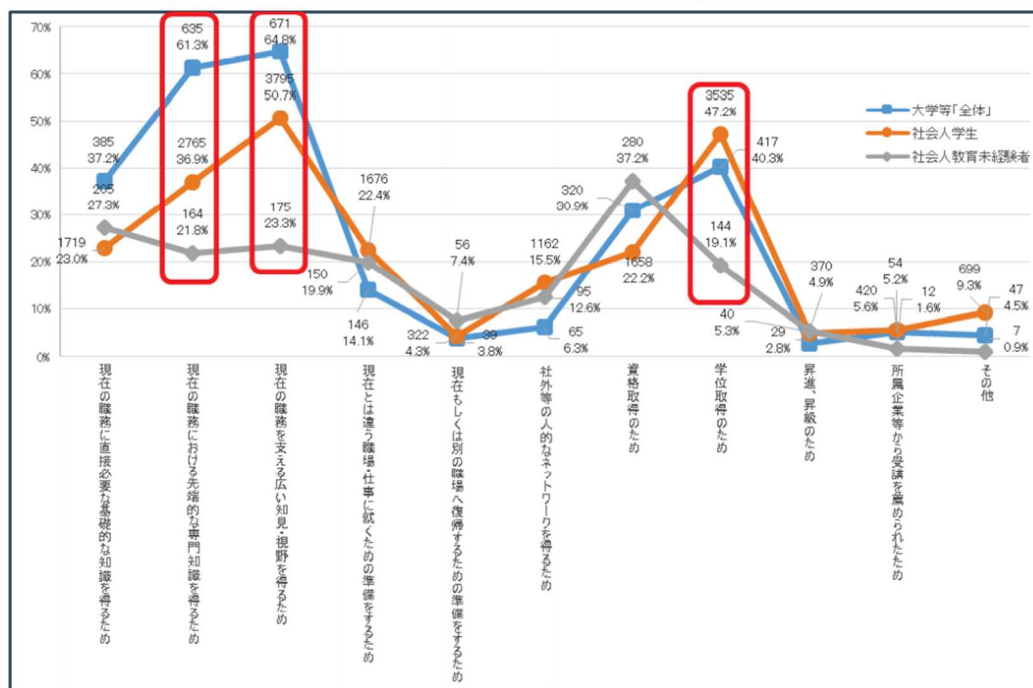
まず初めに、社会人がリカレント教育として大学等の教育機関を選ぶ理由（社会人側は大学等から得られる知識、大学側の視点としては提供できる知識）に対する期待値としては、社会人学生と大学側は「現在の職務を支える広い知見・視野を得るため」「現在の職務における先端的な専門知識を得るため」「現在の職務に直接必要な基礎的な知識を得るため」の順に回答し、職務に直結する能力の習得（個人）や提供（教育機関）を重視していることがわかる。また、学生が大学等で教育を受けるモチベーションには学位の取得も大きな意味合いを持つことがわかる（図 2-6）。M-GTA 分析からも、【箔付けとしての進学】という一面に加えて、学位が非常に高い価値を持ち、仕事との両立などの困難な状況の中で学び続ける動機となっていることが明らかになった。

士業の C さんは、「正直学位があった方がいい。それが強烈なモチベーションになると思うので。学位があって、それを目標に頑張るという形が自分としてはやりたかったことかな、と思いますけどね。」と述べている。また、シンクタンクの J さんも「学位がなくても受けていたと思いますね。ただ、（学位が）あることで、大変になってもあきらめないインセンティブになったと思います。」と同様の意見を述べている。M-GTA 分析に用いたインタビューデータの中には学位を大学院への主な進学目的として挙げたケースはなかったが、大半が社会的な証明やモチベーションとして重視していた。地方公務員の D さんも学位がなければ来ないと断言し、次のように述べた。「学位はやったことの証ですし、次のための踏み台です。自治大学校（総務省組織令第 126 条に基づき設置されている地方公務員向けの研修機関）でも取れるはずで、同じ内容をやっているはずで」と他のリカレント教育手段がある中であえて公共政策大学院に通うことの意義が学位取得に起因することを語った。

*（ ）は著者が追加。

■ 図 2-6 大学等で教育を受ける主な目的・動機に対する関係主体間の認識状況

「大学等で教育を受ける主な目的・動機」に対する関係主体間の認識状況（各主体ともに「3 つまで選択」。大学等 N=1,036、社会人学生 N=7,484、社会人教育未経験者 N=752）



出典：「社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究」（イノベーション・デザイン&テクノロジー株式会社 2016: P.73）

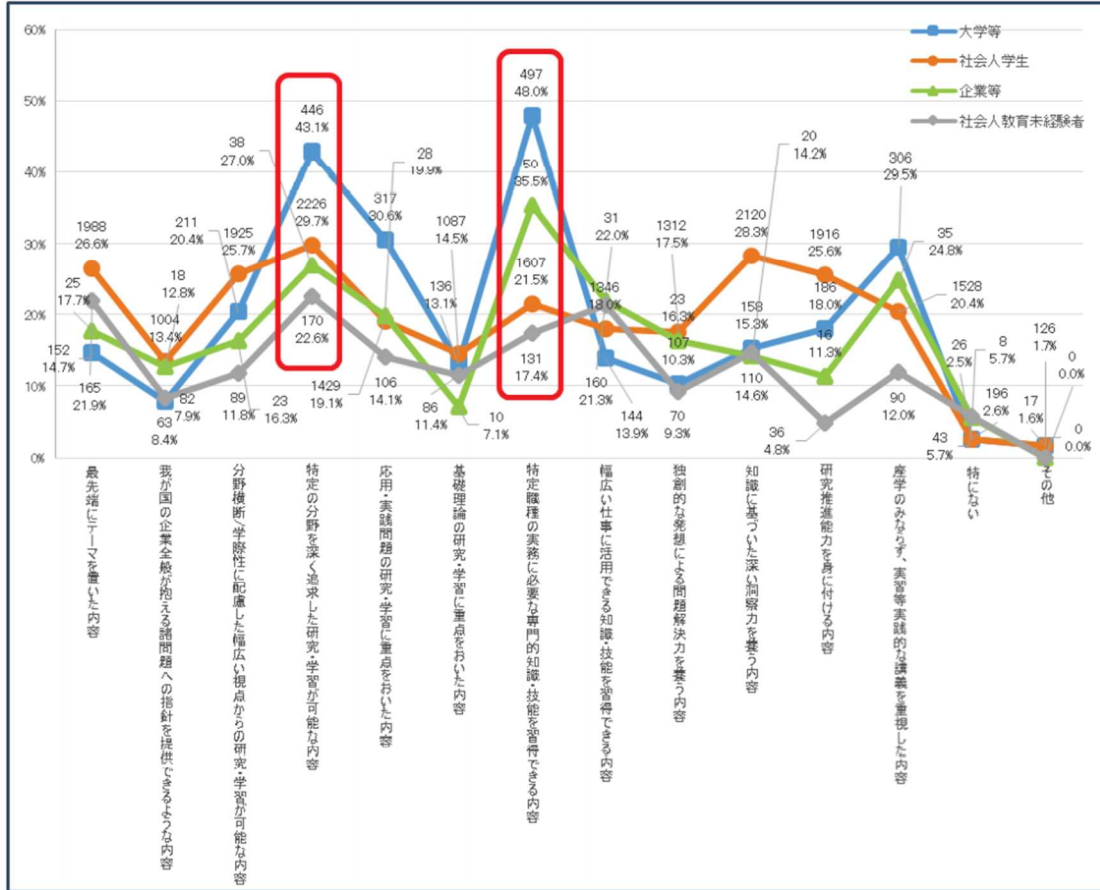
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1371459_01.pdf

2020年12月3日アクセス

本調査から推察できることは、多くの企業が大学等の教育機関を職業訓練に活用するという発想が欠如している状況である。「大学等のカリキュラムとして重視してほしい（重視している）内容」では、大学と企業は共に「特定職種の実務に必要な専門的知識・技能を習得できる内容」最も重視しており（大学は48.0%、企業は35.5%）、次いで「特定の分野を深く追求した研究・学習が可能な内容」を重視している（大学は43.1%、企業は27.0%）。前者は企業と大学等との期待値が一致しているが、後者については大学と企業の間ギャップが生じていることがわかる。（図 2-7 参照）

■ 図 2-7 大学等のカリキュラムとして重視して欲しい（重視している）内容

大学等のカリキュラムとして重視して欲しい（重視している）内容（各主体ともに「3 つまで選択」。大学等 N=1,036、社会人学生 N=7,484、企業等 N=141、社会人教育未経験者 N=752）



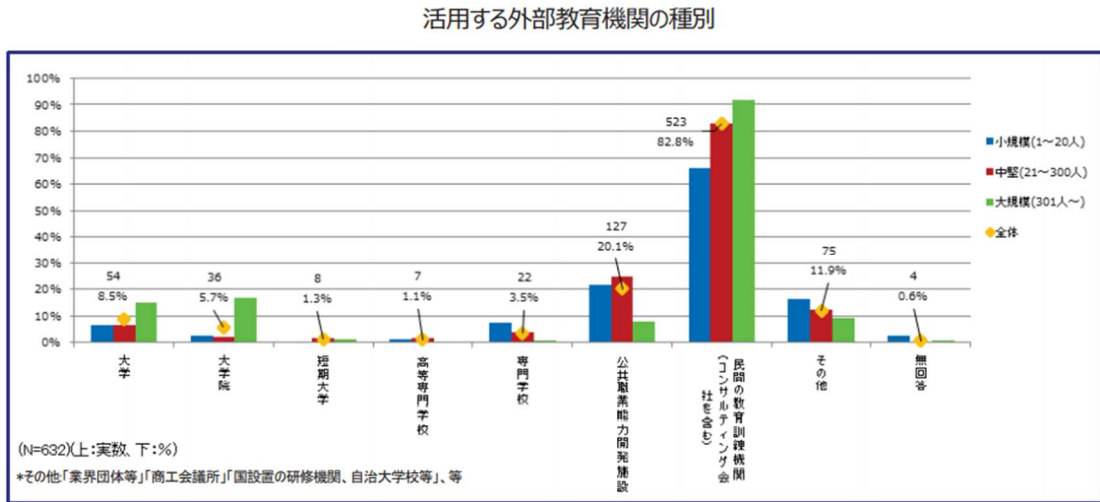
出典：「社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究」（イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社 2016: P.75）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1371459_01.pdf

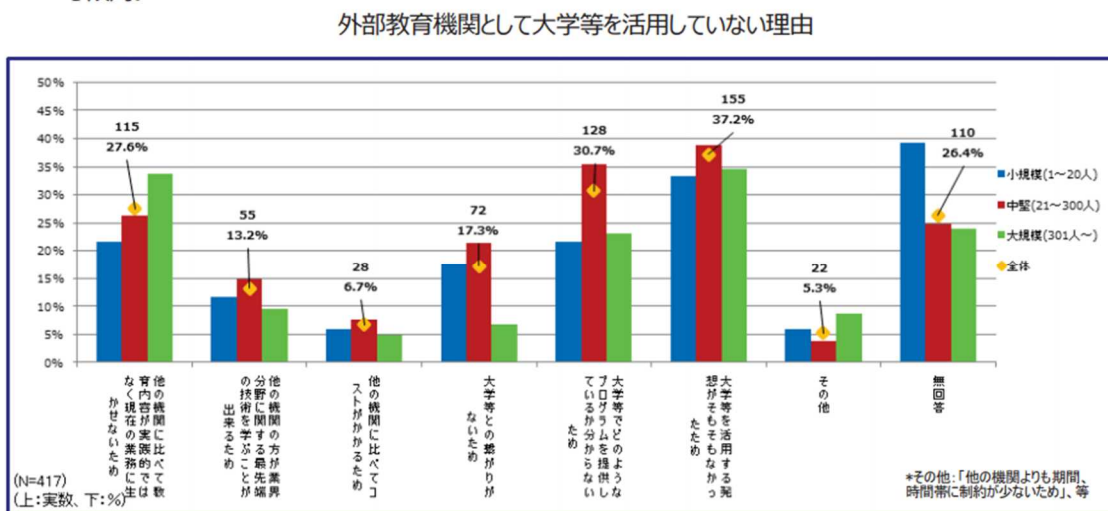
2020年12月3日アクセス

また、この調査データは注意した分析が求められる。同設問のサンプル数を注視すると、大学等が N=1,036 に対して企業等は N=141 と低く、多くの企業から有効な回答を得られていない可能性が高い。企業等の 8 割は大学や大学院ではなく、民間の教育訓練機関を活用している（図 2-8 参照）。また、大学等を活用しない理由としては、そもそも発想がなかったことや、どのようなプログラムを大学等が提供しているか分からない、実践的ではなく業務に役立たないといった意見がみられた（図 2-9 参照）。

■ 図 2-8 活用する外部教育機関の種別



■ 図 2-9 外部教育機関として大学等を活用していない理由



出典：図 2-8 と図 2-9 は共に「社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究」（イノベーション・デザイン&テクノロジー株式会社 2016: P.21-22）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1371459_01.pdf

2020年12月3日アクセス

M-GTA 分析からも、職業人が所属組織に在籍したまま公共政策大学院に進学した場合、所属する組織から見た大学院への【期待値の低さ】という傾向が伺えた。民間企業及び地方自治体や中央省庁などの公共団体の双方において同様の結果が得られた。

国家公務員 A さんは、「(卒業して職場に) 戻ったらスキルを活かしてくれとはいわれているが、あまり (期待値は) 高そうではないですね。半年に一回はその学期に学んだ

授業の概要や内容を報告することになっていて人事係に報告していますが。」と述べており、ベンチャー企業の B さんは、「(派遣先からの期待値は)全くないです。なんで通ってるの？みたいな。ベンチャーっていうところもあるし、営業とマーケティングなのになんで学問の話するの、みたいな。あんまり理解されていないんだなという気がしますね。僕はすごくつながっていると思ってますし、今の仕事の中でも GraSPP (東京大学公共政策大学院の略称)の先生とつながりができて仕事に活かしている部分もあって、仕事へのフィードバックもできて。」と述べている。社会人学生は、現在の職務に活かせる知識や広い視点を得られている【視野の広がり】の実感があるが一方、所属組織側は大学院の授業の中身やカリキュラム設定には【授業内容やカリキュラムの偏り】があり、特定の職務遂行に必要な専門的知識が身につかないと感じているギャップが M-GTA 分析でも明らかである。 * () は著者が追加。

職業実践力育成プログラム(BPプログラム)は文部科学省による認定制度であり、社会人に向けた選択肢の可視化やプログラムの魅力向上を図り、企業等が従業員のリカレント教育に大学等の教育機関を活用するよう促す政策である。しかし、前述の「社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究」では 84.9%の組織が BP プログラムについて「知らない」と回答しており、社会人教育未経験者(大学等で学び直しを行っていない社会人)の 96.0%、社会人学生(大学等に通う社会人学生)の 92.3%が同様に BP プログラムについて「知らない」と回答している。本政策については認知度の課題が極めて大きい。

BP プログラムについては認知度以外にもその認定プロセスについても改善の余地があるといえる。文部科学省が大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして毎年認定しているが、例えば令和元年度の審査委員会名簿を見ても、10 名中 1 名は全国中小企業団体中央会が含まれているものの、他は大学教授など、教育機関の関係者で占められている¹⁹。大学等が提供するプログラムに対して企業側の理解や評価を上げるためには、BP プログラムを認定する審査員の中に企業側の代表者を増やすことが望ましい。

東京大学公共政策大学院は 2021 年 1 月現在、BP プログラムに認定されていないが、インタビューを通して、職業人が学ぶ上での課題が大学院側に存在することがわかる。M-GTA 分析からは、リカレント教育を提供する大学院側の課題として、【仕事との両立可否や手段の不透明性】および【職業人学生への配慮の欠如】も明らかになっている。また、【授業内容やカリキュラムの偏り】として、基幹科目のカリキュラム設計など、大学側が基

¹⁹ [文部科学省, 2019]

本的には学部卒業後に就職せず、そのまま大学院へ進学する非職業人学生を想定しており、職業人のなかでも若くて家族がいない人のみが通しやすい構造になっていることが示唆される。

前述のベンチャー企業の B さんからは【授業内容やカリキュラムの偏り】に関連して、「どうしても学部上がりの学生が多いじゃないですか。そうすると授業の内容とかも、社会人としては目をつぶってもできるようなことも、手を抜いてもクリアできてしまうような科目も一部あったりして、その辺は単位取れるのでありがたいんですけど、物足りなさは (あります)」と述べている。また、マイナス面で印象に残った講義についても「大教室でレジュメだけ配って、これ受けてて意味あるのかな、とか。ただ聞いているだけの授業って大学院でもったいないな、と。そういう意味で基幹科目の設定が雑だな、と思った」「社会的にはせつかく時間削ってきているのに」という意見が出た。 * () は著者が追加。

また、金融機関を退職して一般入試で入学した K さんは「専門職大学院って実務に偏っているイメージがあって、なんというか腰を据えて (基礎から学ぶ) というよりは知識として知っておいてくださいね、という感じで。それはポジティブでもあるんですけど、私みたいに学問のバックグラウンドがない人間にとってはベース (基礎) のところをちゃんとやりたかったの。東大の良いところって、学部から院生まで全部同じところでやるじゃないですか。そういう意味ではフレッシュに取り組んでいる学部生から博士でやっている方も含めて皆フラットに理論の話とかを、日本では超著名な先生から習えたというのはものすごく価値があったなと思ってます」と述べた。学生の習熟度を向上させるため、講義の実施方法は創意工夫の余地があるが、フルタイムで働きながら学業と仕事を両立している職業人学生と、仕事を退職して学業に専念している学生との間では時間的な制約や大学院への期待値といった観点で相違があることがわかる。また、日本において退職や休職をして大学院に進学することがキャリア形成において不利に働くことがあり、リカレント教育の阻害要因になっている【キャリア中断の壁】については後述する。 * () は著者が追加。

尚、職業人学生にとって、教員や他の職業人学生とのディスカッションを通じて学びたいというモチベーションを持つケースが多く存在するものの、東京大学公共政策大学院では職業人選抜学生の割合が圧倒的に低い。著者が入学した 2019 年度では 6 名 (合格者全体の約 8%) という状況であり、2020 年は 10 名 (合格者全体の約 16%) と上昇したものの、2018 年は 3 名 (合格者全体の約 4%) と低い傾向が続いてきた。そのため、必然的に授業において職業人と出会う機会は限られ、オンライン授業環境ではそもそも他の学生の顔が見えない場合が多く横のつながりを構築しづらいため、その傾向は更に強まる。地方公務員の D さんも「先生とのディスカッションとかもっとしたかった。コロナのためでオンラインのせいというのもあるけど、終わってからそういう (ディスカッションの) 時間もな

いし、講義形式が多くて。もう少し事前課題があってもいいのかな、と。受講しなければいけない単位もネックになっている気もする。私はむしろ大学卒業直後の人よりも（職務）経験のある人と議論したほうがいいのかな、と。もっと社会人の人や先生とディスカッションしたいという期待値なんですけど、そういうのもあまりできなくて」と語っている。

前述のベンチャー企業の B さんが「学部生と話してて思うのが、穴埋め問題は得意だけど、いろんな情報集めたりとかファンダメンタルに考え直す力が弱いなというのは感じたんです。そもそも目の前に起きている事象の根本を、どうしても表面的な情報だけを集めていだけだとなかなか本質の議論に行きつかないというのはすごく感じて。そういうのを GraSPP がやるとか、一つ有効なんじゃないかなと思います」と語るように、大学側が職業人選抜学生を増やし、【職業人学生ネットワークの構築】を支援することで、学部卒の学生の学び方や議論の深みなど、大学院全体にとって相乗効果が生まれる可能性が考えられる。*（）は著者が追加。

また、キャリアを中断せず、フルタイムで働きながら学業との両立を目指す職業人学生を増やすためにはカリキュラム設計の改善が必要と考えられる。例えば東京大学公共政策大学院では卒業に必要な基幹科目は 10 時から 17 時といった時間帯に集中しており、職業人にとっては仕事と重なってしまう可能性が高く、履修調整が難航する。表 5 の通り、職業人が比較的履修しやすい朝一や夜、土日や集中講座などでの開講は非常に限定的である。外資系コンサルティング会社の N さんは「今年度は Micro/Macroeconomic、Statistical Methods などのコア（基幹）科目を履修しており、それらの授業時間割は平日日中帯が多いので、その点は社会人にとっては厳しいです。録画が提供される授業であれば良いですが。なので、必修科目は夜間 or 早朝ないしは土日で開講してもらるか最低限録画をマストにしてもらえると助かるなと思います」と述べている。*（）は著者が追加。

また、東京大学公共政策大学院では「官公庁・企業・団体等に在職のまま入学を希望する者は、入学手続の際に、在学期間中学業に専念させる旨の所属長の承諾書を提出すること」といった出願条件があり、そもそもフルタイムで働きながら学業を両立させる学生を想定していないといえる。自営業で政治家を志す F さんは、「なぜこのような（誓約書の）縛りを設けるのか意図がわかりません。これからの時代は、10-15 年ごとくらいにリカレント教育を受け、職業人としてアップデートし続けないと時代の変化について行けません。そのようなサイクルを妨げる条件だだと思います」と述べた。また、組織からの派遣ではなく、自費で入学した独立行政法人の H さんは「上司の推薦書が必要でしたよね？なぜ会社から派遣されていないのに必要なのかは謎でした」といった、推薦書に関する条件（2 通のうち一名は勤務先の上司であること）についても触れている。これは著者の推察となるが、フルタイム就労を行う学生は学業が疎かになり、大学側が学歴ロンダリング目的の学生が増える

ことを懸念しており、そのための防止策と考えられる。ただ、そういった学生の排除については誓約書ではなく、出願プロセスや面接、そして何よりも入学後の成績評価で厳しく公平に行うべきである。例えば GPA が著しく低い生徒については海外の大学院同様、放校処分なども検討すべきと考える。学び直す意志があるものの、職場での理解を得られにくい職業人にとってもチャレンジする機会を与えるために改善が望まれる。

京都大学公共政策大学院に通う地方公務員の Q さんによれば大学側の職業人への配慮について「地方自治関係の授業が土曜日の午前とか隔週とか、一応学校としても自治体職員学生が多いので、(大学院側としては) 配慮はカリキュラム上しているのかな、と。(学業に専念している職業人) 学生としてはきついですけど。私たちの代では(フルタイム就労している職業人学生は) 1-2 人ですけど、民間企業はあまりいなくて、国の出先機関や公務員が多いです。京大は誓約書みたいなものもなく、長期履修制度を使う人も前の代で 2 人いましたし、仕事と両立している方が多いのも、実績があるのは大学院の配慮ということかなと思います」と述べている。東京大学公共政策大学院においても、カリキュラム上の配慮や誓約書の撤廃などの工夫によって職業人学生の増加につながる可能性がある。 * () は著者が追加。

■表 5 東京大学公共政策大学院における基幹科目の開講時間帯

2020年Sセメスター

| | 1限 | 6限 | 土日 | 集中講座 |
|------|----|---------|----|------|
| 政治基幹 | | 2 *木に重複 | | |
| 法律基幹 | 1 | | | |
| 経済基幹 | | 1 | | |

2020年Aセメスター

| | 1限 | 6限 | 土日 | 集中講座 |
|------|----|---------|----|------|
| 政治基幹 | | 2 *木に重複 | | 1 |
| 法律基幹 | 1 | | | |
| 経済基幹 | 3 | | | |

備考： 東京大学公共政策大学院のシラバスより著者作成。6 限に政治基幹科目が 2 つ開講されていたものの、共に木曜日の同じ時間帯に重複している状況だった。

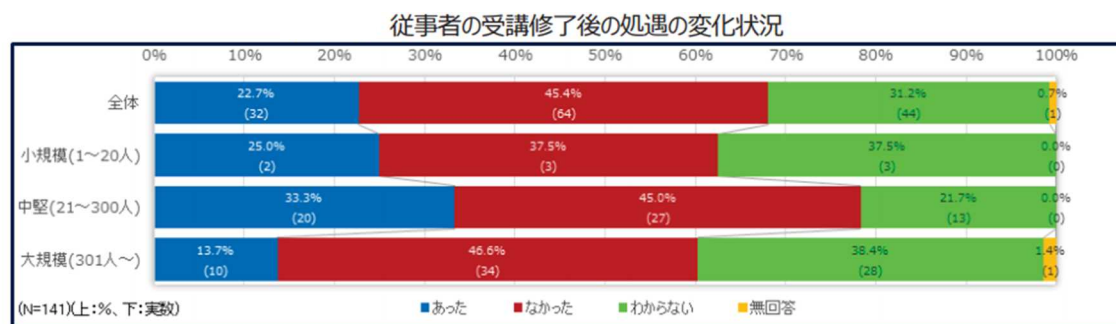
1 時限: 8:30 - 10:15、2 時限: 10:25 - 12:10、3 時限: 13:00 - 14:45

4 時限: 14:55 - 16:40、5 時限: 16:50 - 18:35、6 時限: 18:45 - 20:30

2-2) 日本型雇用システムの影響と従業員に対する企業の理解

リカレント教育が普及してこなかった代表的な課題の一つは日本型雇用システムにある。現在、東京大学非常勤講師であり、労働政策研究・研修機構労働政策研究所長の濱口桂一郎によれば、日本型雇用システムの本質は職務（ジョブ）の定めのない雇用契約であり、欧米や中国などでは企業の中の労働を職務ごとに切り出し、その職務に対応する形で労働者を採用、従事させるが（ジョブ型）、日本型雇用システムでは職務ごとの切り出しは行わず一括して雇用契約の目的にする。雇用契約にジョブディスクリプションといった具体的な職務は定められておらず、使用者の命令によって決まる一種の地位設定契約あるいは「メンバーシップ契約」と考えられる²⁰。終身雇用と年功序列賃金と合わせ、個人の給与も現在価値ではなく将来価値を前提として組み立てられ、若年時の給与は業務量やパフォーマンスに関わらず薄給でも、年齢を重ねると共に昇給し、最終的には退職金によって大きな報いを得る²¹。そのような組織では、実務に直結する企業内教育（OJT や OFF-JT）が重視され、仮に個人が新しい知識やスキルの必要性を感じて大学院等で学び直しても、習得した知識やスキルを発揮できるポジションに就けるかは保証されていない。また、給与面などの待遇においてもすぐには評価されない可能性が高く²²、この傾向を表すように職業人のリカレント教育受講修了後に処遇の変化があったとする回答は22.7%にとどまっている。（図2-10 参照）

■ 図 2-10 従事者の受講修了後の処遇の変化状況



出典：「社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究」（イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社 2016: P.21-22）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1371459_01.pdf

2020年12月3日アクセス

²⁰ [濱口桂一郎, 2013]

²¹ [中元崇, 2019]

²² [中元崇, 2019]

また、日本型雇用システムのもう一つの特徴である新卒定期一括採用では、学生が大学等の卒業後にそのまま就職する「間断のない移行」²³を行い、仕事に就いてから業務を通じてスキルを身に着けることが一般的である。日本におけるこの現象は、アメリカの経済学者L.サローが提唱した職業競争モデルを用いて説明できる。職業競争モデルとは「賃金」をめぐって労働者が競争するモデルとは異なり、「職業」をめぐって労働者が競争を行い、雇用をみつけたのちに職業訓練（OJT）を通じて必要なスキルを習得する²⁴。また、その場合、企業は労働者の「訓練可能性（trainability）」²⁵を前提に採用することになり、新卒一括採用が前提となる日本においては一部の理系学生を除き、学生の学業成績ではなく出身大学等の学歴を技能に置き換えて採用する企業が大半である。そして東京大学教授の本田由紀によれば、1996年の就職協定の廃止により新卒採用の早期化が進むにつれて、大学教育を修了するずっと前に採用が決まってしまうため、大学生は大学で学ぶ内容が将来仕事で役立つという「職業的意義」を実感できない状況に陥ると主張する²⁶。

かつて日本の大学はレジャーランドと呼ばれ、学生は学業ではなく遊びやアルバイトなどに明け暮れる場所として批判されていた時代がある。実際にそういった学生時代を過ごしてきた世代が現在の企業や公共団体の管理職に就いている場合、従業員が大学や大学院で学び直すことを評価しない傾向につながっている可能性がある。言い方を変えれば、初等教育や大学生時代における体験が将来的なリカレント教育に影響を与えるという観点では、職業人学生がキャンパスに増え、職務経験のない学生がその学び直しの姿勢を身近にすることで学生自身にとっても学業や将来のキャリア設計に好影響を及ぼす可能性があると考えられる。

士業に従事するCさんは大学院進学動機について、「子供が3人いて、娘が4年生、次が高3で受験。勉強している背中を見せたかった。ただ勉強しろと言っても説得力がない。見せたかったんですよね。結構効果があって驚いている。（子どもたちが）勉強するようになって。（将来的に）東大受けるとも言っている。高校の成績もよくなっている。まだ続けたい。勉強はやらされるものではなく楽しくてやるという背中を見せてやりたいんです。」と語り、直接的なスキル習得以外にもリカレント教育がもたらす意義があることが伺える。 *（）は著者が追加。

ただ、現時点では日本におけるリカレント教育の割合は低いことを鑑みると、残念

²³ [中村高康, 2014]

²⁴ [サロー, 1984]

²⁵ [サロー, 1984]

²⁶ [本田由紀, 教育の職業的意義—若者、学校、社会をつなぐ, 2009]

ながら C さんのような人材は少ないといえる。繰り返しとなるが、企業等の管理職は学業と仕事は直結しない（レリバンスが低い）という解釈をしている傾向が M-GTA の【期待値の低さ】にも現れている。とりわけ、この傾向は技術や資格などに直結しない可能性がある文系教育に対して特に強いといえる。ただ、たとえ文系教育であっても「女性、情報通信・マスコミ・ソフトウェアなどの第 4 次産業の従事者、そして学校教員」は職業レリバンス（仕事と学業の関連性）を高く感じているという先行研究がある²⁷。職業レリバンスを意識し、大学等での学びの効果は業務に直結すると考える管理職が増えれば、従業員のリカレント教育を評価・推奨する動きが職場で広がる可能性がある。

筆者も外資系の IT 企業に従事しており、また、IT 分野に強みのある外資系コンサルティング企業に従事する N さん含め、働きながら学業を両立させており、大学院で得たスキルは仕事に役立つと考えている。また、ただ学位を取ったという証明だけではなく、【学びを活かす工夫が必要】であり、学業で得たスキルを自らの努力で職場において役立てることが可能と考えている共通点が M-GTA 分析で伺えた。尚、前述の【授業内容やカリキュラムの偏り】とも関連するが、実務へのつながりとしては事例研究などの授業は実践的なスキルにつながると考えている傾向がある。

大学院で学んでいる内容が業務に役立つかという質問について、N さんは「役立たいとは思っています。ただ、コースによっては 1 年時は必修科目を履修するので精一杯だと思いますが、それらは実務に繋がりにくいかと思います。やはり事例研究などの科目のほうが実務寄りだと思います」と述べている。筆者も 2020 年 12 月時点において、事例研究の必要単位 8 に対して 20 単位と大幅に超過して取得しており、最終学期も事例研究を聴講している。授業における積極的なディスカッションやプレゼンテーション、レポートなど負荷は大きいものの、実務に直結する知識や教員や他の学生との議論といった経験が得られている実感から実務家教員による事例研究を必要単位に関係なく多く選択している。

女性は学業に対して職業レリバンスを高く感じるという先行研究について述べたが、日本企業にはダイバーシティ面の課題が存在する。2019 年時点で役員に占める女性の割合は 5.2%と諸外国と比較しても低く²⁸、リカレント教育の普及妨げに影響している可能性がある。また、世界経済フォーラムが公表しているグローバル・ジェンダー・ギャップ報告書 2020 において日本は 153 カ国中 121 位と、前年の 149 カ国中 110 位から更に順位を下げている²⁹。このランキングには日本の衆議院議員の女性比率の低さも大きく影響してい

²⁷ [豊永耕平, 2018]

²⁸ [男女共同参画局, 2020]

²⁹ [World Economic Forum, 2019]

る。政府が進める女性活躍政策のさらなる強化とともに、公共政策大学院における女性の職業人選抜や多様な学生を増やすことはリカレント教育の普及だけでなく、日本がダイバーシティの観点から国際的に評価されるための大きな貢献につながることを期待される。

ただ、学内に多様な学生を増やす上での課題も存在する。独立行政法人の H さんは妊娠中に入学し、1 学期目に出産を経験した。【女性の進学意欲】という観点から、その時の経験について「期末期間中に生まれるとわかっていたので代替措置を先生たちにお願ひしていただんです。でも（試験を）レポートに変更 OK してくれたのは一人だった。先生の理解は人それぞれ。（大学の）ガイドラインとかで決まってないんだ、と。最初はだめと言われたけど。そもそも取るな、と言われてたり。あとは保健センターあるじゃないですか？あそこに妊娠中はここにきて休んでいいですか？と聞いたら、ここは本当に具合の悪い人のために妊婦のためじゃないので、と言われた。学内差別みたいなものがある。お腹が大きいのになぜ通ってるの？みたいな。私は社会人だからいいけど、学生たちで妊娠している人とか、授乳室はないし。赤ちゃん連れている方とかいるので、その方たちのためにも作ってもいいのに」と、【多様化する学生向けの環境整備】の必要性について述べた。

H さんのような妊娠中、もしくは育児休暇中を「トランジション・プロセス」と捉えて民間企業が能力開発機会を提供する取り組み³⁰もあり、M-GTA 分析からも大学院進学を望む潜在的な女性層が存在することがわかる。前述の H さんは、「女性で、同じように育休に入る人たちから相談を受けることはあって、この機会に何かしてみたいと思う方は多いようです。」「マタニティ大学生からママさん大学院生で修了したということが、自分にもできるんだということが、他の人から見て、もしかしたら私みたいな学位の取り方ができるかもと思ってもらえるという意味ではそういう評価をされてほしいです。一年だったらできるという人はいるけど2年は結構難しい。それをどう（自分が）マネージしたか。それなりの Obstacle（障害）にぶつかったの。あ、もしかしたら自分にもできるかもしれないと日本の強い女性たちが気づいてくれれば」と語る。特に、コロナ禍で広がったオンライン授業については、「通学がない分、時間が有効に使える。緊急事態宣言は子供に保育園に預けられなくて悲惨だったけどそれでもできないことはなかった。子育てと両立は可能で、通学は子供と一緒に負担が大きい。保育園に預けてというのは、時間割を調整できるのでオンラインの方が体力的にも楽」と語っている。*()は著者が追加

育児と学業の両立が努力や支援の内容次第では可能であると同時に、多くの職業人は両立が難しいというイメージを持っており、それが職業人の大学院進学を阻んでいるといえる。大学院において多様な人材を受け入れるためのソフトやハード面での準備を整

³⁰ [国保祥子, 2020]

えることは不可欠であり、金融機関を退職して一般入試で入学された前述の K さんは「GraSPP（東京大学公共政策大学院の略称）は半分女性だし留学生だし。せっかく異端なのであれば学部サイドというか、東大全体にポジティブな影響を与えるくらいの力を持ってたらいいのになと思いました」と期待を込めた。*（）は著者が追加。

次に、職場において修士等の学位取得者が多ければ、従業員のリカレント教育に対する理解や支持につながると仮定し、海外と比較する。やや古いデータとなるが、米国の上場企業の管理職等の最終学歴では約 4 割が MBA 取得者である一方（1997 年）、日本企業の役員等は大学院修了者が 5.9%という割合（2007 年）である³¹。米国では大学卒業後、社会に出てから再度大学院等で学位を取得するなど、リカレント教育を行うことが常識的な慣行と言えるため、従業員がリカレント教育を行うことに対する理解の日米差は大きいといえる。また、米国においては MBA 卒業後に 50%、5 年後は 80%以上の賃金増につながるという調査結果もあり、ジョブ型且つ雇用の流動性が高い米国の労働市場において、転職を前提にリカレント教育を実施すれば待遇が改善する可能性が高く、個人にとっては高額な学費やキャリアを中断するリスクを負うインセンティブが高いと言える³²。また、近年では米国においてもキャリアの中断が少ない 1 年制などの短期型 MBA の人気上昇しており³³ キャリア中断というリスクを減らすことは国際的に見てもリカレント教育へのハードルを下げるポイントといえる。

M-GTA 分析の結果、民間企業だけではなく公共団体においても【キャリア中断の壁】が存在し、キャリアを学業などで一時的に中断することが公務員の昇進制度上は想定されておらず、大学院進学を阻害していること、そして、【キャリアステップの固定化、単線化】のため、大学院で習得する知識やスキルを考慮した人事戦略がとられていないケースがあることがそれぞれ明らかになった。また、自治体によってもこの傾向に差異があった。

国家公務員の A さんは、「2 年間大学院で法律、政治、経済を幅広く学んだのでそういうような経験を踏まえた人事配置を気にかけてほしいなと思います。全然関係なさそうな部署とか。去年一橋（公共政策大学院）いていた人が会計課など。考慮される場合もあればされない場合もあるし。」と述べている。国家公務員の E さんは、「公務員だと基本的に年功序列になっていて、採用区分としてある程度、何年やってこの役職という。大学院に行って変わるということは短期的にはないと思うんですね。」とも述べている。*（）は著者が追加。

³¹ [文部科学省, 2018]

³² [Yeaple, 2014]

³³ [デレック・ボック（宮田由紀夫訳）, 2015]

地方公務員の D さんは、「評価？むしろ下がるのかなと思ってます。キャリアの中断になるので。上の人たちと話すと2年間（実務）経験がないね、と言われます。これも地方公務員法で毎年度昇給するんですが、期末勤勉手当、いわゆるボーナス反映されるはずなんですけど、勤務年数に応じて加算される」ことが仕組み的な弊害を物語っており、実務から離れた期間がマイナス評価につながる可能性や仕組みについて述べている。*（）は著者が追加。

ただ、評価という観点では地方公共団体によっても差がある。京都大学公共政策大学院に通う地方公務員の Q さんは、「過去（の卒業生を見ると）研究テーマとかに沿った人事配置がなされているのかなと。前任者は立法政策というか条例とかを学んでいたのそういう部署で仕事をしていますし、もう一つ前は観光政策で、観光課というところに。大学で学んだエリアを希望すれば可能性は高いかな、と。私自身が（進学を）希望したわけではないので、地域振興は興味があったのですが、もう少し政策立案に関われる部署や議会、長期計画などの企画部門に関わりたいという話はしているので配属になるといいなと思います。」と述べている。人事評価には、給与などの待遇面だけではなく希望するポストなど、チャレンジできる機会の提供も個人のモチベーションに直結する。国家公務員の E さんも「例えば自分が何か学んで来て、それを元に職場で何か提案できる立場になったら、大学院でこれを培ってきて、これをやってみたいんだけど、ということが採用されたり少しでも新しいことができたなら嬉しいなと思いますね」と述べる。年功序列型の賃金体系が残る組織において給与などの待遇を急に変えることは難しくとも、大学院で学んだスキルや得た経験を活かせる可能性のあるポジションに配置することは職員がリカレント教育に挑戦する意欲に直結するといえる。*（）は著者が追加。

元地方議員で東京大学公共政策大学院卒業生の L さんはリカレント教育によるキャリアの中断が発生した場合、「その分、皆より仕事の遅れがあったことになる。ディグリーを取った後の仕事についてが（リカレント教育が日本で広がらない理由として）一番かと思えますね。やりたいとは皆言うけど、そこまでリスクを取りたくない。そこは元々日本人の根底にある。皆と同じでいるのが安心ですし」と日本人の同調性や文化的な側面について語った。

アジアの政府関連機関に所属し、組織内の選抜に合格して入学している T さんは「スポンサー（組織派遣）で来たので5年間働かなければいけない。そういう契約をしました。プロモーション（昇進）には良い影響が出ると思います。給料には影響は政府機関なのでだいたい変わらないです。プロモーションでは複雑な影響なんですけど、東京大学の大学院を出たことによるプロモーションではなく、こういう教育プログラムに選ばれること

が良い評価だし、会社に戻ると、この留学の経験が給料以外に他のメリットだと。2年間海外で勉強に専念できることがメリット。今までのプロモーション速度よりはこの期間は少し下がる。この頃ちょっと変わりました。留学してすぐ昇進する人もちょっと出て期待しています」と述べ、基本給や手当など2年間で合計1,300万円程度の支給を受けながら学べる機会に対する価値にも触れている。また、前述の日本人の同調性と類似した状況についても述べている。「私が博士取るには提示退社しなきゃいけない。周りに迷惑をかけるかもしれない。私から考えるとすごく同僚のプレッシャーが心配です。一般的には(出身国)でもあります。どこでもあります。今は教育派遣されている感じで、自分が自分で自費で会社の後に夜間の大学に行こうとしたらすごく気になります。会社からの系統的に支援する教育プログラムと、自分からの自己発展だと全く違います。でもこれがだんだん変わりました。2-3年間、1週間52時間法律的な働く時間の規定があります。上司とか目線気にしなくて退社する人が増えています」 * () は著者が追加。

2-3) 個人による経済的及び時間的な余裕のなさ

厚生労働省による令和元年度「能力開発基本調査」によれば、労働者全体の76.7%が自己啓発を行う上で問題があるとしており、そのうち「仕事が忙しくて自己啓発の余裕がない」、「費用がかかりすぎる」、「家事・育児が忙しくて自己啓発の余裕がない」が上位を占める³⁴。文部科学省による調査でも、社会人学生の大学等に期待する教育環境として「授業料を安く設定すること」と「夜間、土日、休日等の社会人に配慮した時間帯での授業を開講していること」を挙げている³⁵。経済的な負担を軽減するための政府からの教育訓練給付制度について、認知率は7割近くにのぼるものの、活用した人は3分の1程度にとどまっている³⁶。手続きが複雑といった声も聞かれるものの、需給のミスマッチが発生している可能性が高い。図2-11は内閣官房人生100年時代構想推進室の資料からの抜粋となるが、専門実践教育訓練の指定講座数は昼間課程が多い中、実際の需要は夜間・土日・通信課程が高いことが伺える。これは、リカレント教育に取り組んでいる職業人は仕事を辞めず、業務時間外に学んでおり、且つ、通学だけではなく遠隔による学びも含め、仕事との両立を目指している傾向が伺える。

³⁴ [厚生労働省, 2020]

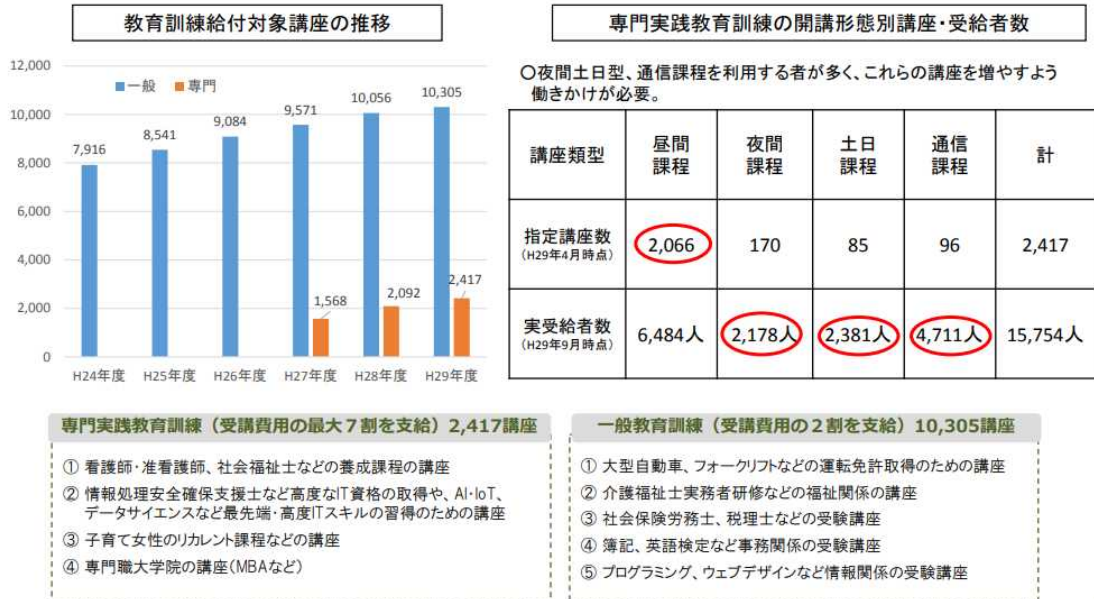
³⁵ [イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社, 2016]

³⁶ [的場康子, 2018]

■ 図 2-11 教育訓練給付の対象となる講座

教育訓練給付の対象となる講座

○教育訓練給付の対象となる講座は増加しているが、昼間課程の講座が多いのに対し、受講者の希望は、夜間・土日・通信課程に偏っており、需給のミスマッチが存在。



15

出典： 内閣官房人生100年時代構想推進室 「リカレント教育 参考資料（平成30年3月）」

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/jinsei100nen/dai6/siryou1.pdf> 2020年12月3日アクセス

また、「仕事が忙しくて自己啓発の余裕がない」根本的な背景としては長時間労働が挙げられ、時間的な制約により学びと仕事を両立することが困難なことがリカレント教育普及の大きな妨げといえる。長時間労働は前述の日本型雇用システムに深く関連付けられる課題といえる。一橋大学教授の小野浩によれば、長時間労働はインプット重視社会の象徴であり、アウトプットよりも企業に対する忠誠心といったインプット評価される仕組み³⁷といえる。より多くの時間を仕事（職場）に投入したかどうかが評価に直結する。また上司が職場の部下を一望のもとに置き、思いついたときに部下を呼び集めて指示する可変性、柔軟性、集団性³⁸や、残業がプラスのシグナルであり、逆に定時に帰宅することがマイナスのシグナルとして捉えられてしまう懸念³⁹が長時間労働を助長している原因と言える。また、これらの職場環境では通勤を伴う働き方が前提となり、日本においてテレワークの普及が

³⁷ [小野浩, 日本の労働時間はなぜ減らないのか? : 長時間労働の社会学的考察, 2016]

³⁸ [諏訪康雄, 2017]

³⁹ [小野浩, 日本の労働時間はなぜ減らないのか? : 長時間労働の社会学的考察, 2016]

これまで進んでこなかった要因でもある。テレワークが普及せず、また、大学側も対面式授業が前提となる教育環境においては、社会人にとって通勤と通学を両立することは極めて困難と想定できる。

一方で、M-GTA 分析からは、職業人学生の【自発的なモチベーションの違い】が存在することがわかった。職業人学生の中には、企業および公共団体から自薦もしくは辞令として派遣されて、学費負担を受けながら学んでいる学生と、自分の意思で出願して学んでいる学生がいる。後者の中にも、休職や退職を選択する学生と、フルタイムもしくは時短で働きながら大学院に通う学生の 2 パターンが存在する。仕事と勉強の両立をしている学生は、職場の上司の理解がある場合が多く、両立は容易ではないが、ある程度満足いく成績で卒業見込みを立てていた。また、職場で辞令を受けて大学院に進学した地方公務員で卒業生の S さんは成績優秀表彰も受けている。職場に成績を報告しなければならない職業人は成績評価を重視して学業に真面目に取り組んでいる状況が伺える。

更に、キャリア転換やキャリアアップの一環として計画的かつ戦略的に進学する職業人学生にとって、仕事と学業の両立が可能であることや、覚悟を決めて学業のみに専念する場合は学費より生活費が心配の種であること、そして、オンライン授業などの条件が揃えば家事・育児との両立も可能であることの 3 点が明らかになっている。

経済的負担に関して、自営業の F さんは「会社を辞めて、収入は止まりますよね。収入がないというのがこんなにつらいものだというのはこんなに思わなくて。あるものから使っていく、減っていくのは精神的につらい気持ちになりました。大学院に通っている間、所得がゼロになるということがリカレント教育が広がらない背景だと思う」と述べている。民間企業を退職して一般入試で入学し、卒業後は地方公務員となった R さんの伴侶（地方公務員）も大学院進学に興味があるものの、その間の学費ではなく生活費が厳しいため子どもが独立するまでは見送っているという話が聞けた。政府が用意している給付金は主に学費補填を対象にしており、職業人がキャリアを中断してリカレント教育を行う場合の生活費などに転用できる柔軟な支援が求められる。また、学費や生活費も合わせた支援に加え、遠隔授業が整備されれば、生活コストが比較的安価な地域に一定期間移住しながら遠隔で学ぶなど、地方の関係人口増加に寄与する可能性もあり得る。

元地方議員で卒業生の L さんは入学後に家族の介護に直面し、休学も経験した。「介護をどっぷりするとは思ってなかったの。 (学費は) 当時の収入からは払えない額ではないと思っていた。ただ、介護でアルバイトもできなくなってしまい、月々いくらかというのが入ってこないというのと、前年の収入に対する税金は結構厳しくて、慌てて奨学金を探しました。でも、年齢を重ねるとあんまりないんですよ。最終的に、すぐにもらえるものは

なくて、選考を重ねて一年後とか。貸付金のものに申し込んで、それで支払うことに。結局休学しなければ成績優秀者で免除とかになるんですけど、休学してしまうとだめで、今でも引き落としてます」と語った。学費に対する政府の給付金について、申請プロセスの簡略化や情報アクセスの向上、そして年齢制限や支給タイミングなどの柔軟化が求められる。

第3章：外的要因によりリカレント教育が増加する日本

次に、昨今の新型コロナウイルスを含む外的要因で変化が起きている日本人の働き方について検討を行い、リカレント教育が今後普及していく可能性について考察を行う。

3-1) テレワークと遠隔授業の普及

前章で述べた通り、「職場への通勤」と「大学等への通学」の両立はリカレント教育の大きな妨げとなるが、テレワークや遠隔授業が普及して物理的な移動を伴わないことで一般化されることでリカレント教育のハードルは大きく下がる可能性がある。

新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的とした政府による在宅勤務の呼びかけにより、これまで低迷していたテレワーク導入率が大きく増加した。パーソル総合研究所の調べでは、緊急事態宣言前は 13.2%だったテレワーク実施者が緊急事態宣言後には 27.9%まで拡大した⁴⁰。ただ緊急事態宣言が解除されてからは徐々に実施率は下がりつつあり、日本生産性本部の調べでは5月時点で 31.5%だったテレワーク実施率が7月調査では 20.2%に減少した⁴¹。しかしながら一度テレワークを実施したことで、コロナ後もテレワークを行いたいという従業員が全体で 75.6%にのぼり、50代男性が 87.8%、管理的仕事に就いている者も 89.2%がテレワークを支持しており、組織文化の変革につながる可能性が期待できる⁴²。一方では「仕事の成果が適切に評価されるかどうか不安」、「オフィスで勤務する者との評価の公平性」といった課題が挙げられており⁴³、メンバーシップ型雇用の弊害が今後の日本におけるテレワーク普及に引き続き影響を与えるといえる。

また、大学においても新型コロナウイルスへの対応を迫られ、遠隔授業の導入が一斉に進んだ。大学設置基準第 32 条第 5 項では、通学制の大学は 124 単位のうち、60 単位まで

⁴⁰ [株式会社パーソル総合研究所, 2020]

⁴¹ [公益財団法人日本生産性本部, 2020]

⁴² [公益財団法人日本生産性本部, 2020]

⁴³ [公益財団法人日本生産性本部, 2020]

は双方向型のテレビ会議式授業やオンデマンド型のインターネット配信授業が可能となるが、2020年7月に文部科学省は以下の特例措置を各大学に周知した。これにより5月20日時点では90%の大学が全面遠隔授業を実施し、7月1日時点では全面遠隔授業は23.8%に下がったものの、引き続き対面型と遠隔授業の併用を行っている大学が60.1%にのぼる⁴⁴。

「文部科学省においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、自宅での遠隔授業が可能であることのルールの明確化や、面接授業の全部又は一部の実施が困難である場合に実施する遠隔授業による修得単位数については、上限への算入は不要とする以下の特例措置を講ずることを各大学に周知（令和2年3月～6月）。来年度も面接授業の実施が困難な場合も想定されるため、当該特例措置の延長を周知。（令和2年7月）⁴⁵」

職業人によるリカレント教育という観点でも遠隔授業の広がりには仕事との両立をより容易にするという傾向がある。ただ、例えば教育訓練給付金の申請書類はハローワークに赴いて物理的に提出する必要がある、一刻も早い行政のデジタル化やサービスのワンストップ化が求められる。

インタビューにおいても東京大学公共政策大学院における出願プロセスに対する【デジタル化の推進】などの改善要望が多く表れた。地方公務員のPさんは文書主義について理解を示しつつも、「（出願時は地方に在住する者として）遠方のやり取りなので入学決まってから成績表出したり、大学が千葉だったのでやり取りが郵送で、ギリギリで死ぬかと思ったことがありました」と語る。また、地方公務員のDさんは学部も東京大学だが、大学院出願時には改めて成績証明書を取らないといけない点について指摘しており、同じ学内からの進学者に対する効率化の余地は大きいと考えられる。 *（）は著者が追加。

海外からの留学生の観点はより深刻である。アジアの政府関連機関のTさんは出願プロセスについて次のように述べている。「結構時間がかかりました。外人としては自己紹介とか文書のチェックも厳しかったです。自分の手で書かなければならなかったこと。東京大学のブランドに関わると思いました。」「オンラインで全部やればすごく楽なことを、返還用の封筒を入れて、私は海外に住んでいます。アジアやヨーロッパの学生もいっぱいいるのに日本の返還先を記載しなきゃいけない。外国に住んでいる人たちはインターナショナルポスト切手を貼らなきゃいけない。それが高い。」

中国からの留学生であるUさんも出願プロセスについては厳しい意見を述べた。

⁴⁴ [文部科学省, 2020]

⁴⁵ [文部科学省, 2020]

「まず、日本の大学は国内に注力しているように感じます。例えば米国と違い、日本の大学は海外の留学生をリクルーティングすることに全く興味がないように感じます。ウェブサイトはほとんど日本語で、試験や出願書類も大半が日本語です。私は日常会話レベルであれば対応できますが、出願理由等、日本語で書くことはかなり難しいです。たとえ書けたとしても英語と同じ品質を担保するのは難しく、言語の壁が存在します。次に、日本の大学には圧倒的な紙文化が存在します。すごく驚きましたが、例えば出願時には、紙の出願書類が大学に到着する期限が設けられていました。私はそのとき香港にいたのですが、郵送費用も比較的高価で、必着の期限を超えたら無効になるため、日本までの郵送日数も計算するのが必要がありました。香港よりも更に遠い国にいた場合、日本への郵送は1週間かかるケースもあるため、個人によっては非常に大きな障害になると思います。そして、海外の大学の卒業タイミングは日本とは異なるため、学士などの学位を授与されるタイミングも異なります。香港では5月に卒業する場合、学位（卒業証明書）は11月に手元に届きます。11月までには日本の大学に出願しないといけないのですが、まだ正式な証明書が手元にありません。大学側が卒業を保証するレターを発行してくれますが、日本の大学はそういったレターを受け付けず、正式な証明書を求められます。私や友人数名も、学部卒業後にギャップイヤーを取得し、正式な証明書が届いたタイミングで出願を開始しました。ギャップイヤーは多くの学生にとって大きなコストだと思いますし、その時間やリスク要因を考慮すると、卒業後にそのまま就職の方がシンプルだったりします。（中略）中国の学生にとって、就労する選択肢、国内の大学に進学する選択肢、そしてプロセスがとてもスムーズで全てがオンラインで完結し、郵送などが全く求められず、レターも受領してくれる英国や米国の大学といったオプションがあります。長期的に見れば、優秀な留学生を失うため、日本の大学にとっては良い傾向ではないと思います。端的に言えば、世界はあなたが変わることを待ってはくれない。他国との競争状態にあり、自らのファンタジー（幻想）と競争している場合ではないのです⁴⁶。」 *著者による和訳。（）は著者が追加。

⁴⁶ Firstly it's like Japanese universities are very inward targeted. So I feel like unlike US, I felt that Japanese universities are not interested in recruiting foreign students at all. Most websites are in Japanese, most of the exams and application materials are in Japanese. For me I can handle daily conversation but if you ask me to write personal statement in Japanese that will be quite challenging. You can write one but cannot deliver same quality in English, so language barrier. Secondly I think Japanese universities are extremely paper based. Which is surprising and like when I was applying for it, they had deadline you need to mail the paper document to the university. I was in Hong Kong and was quite expensive and had to count how many days will take to arrive to Japan. If it was late it doesn't count. If you are in a more remote location which will take one week to mail to Japan, I think that will be a significant barrier for some people. And also the third thing is that I wonder whether you know but graduation time of oversea universities is different from Japanese universities and so bachelor certificate granting timing. So on Hong Kong if you are graduating in May, your graduation certificate will be given in November. And by November you must apply to Japanese university so you don't have a certificate yet. University can give letter to prove but

また、著者の意見としても、2018年の出願時には申請書類は基本的に全て紙であり、学務の窓口時間内に直接受け取りに行く必要があった。また、書き損じが起きると再度学務に取りに行くという業務の間の移動が発生した。更に、出願のための小論文等はパソコンを用いることも可能だが、完成後は印刷の上、申請用紙の破線内に収まるように貼付けして提出する必要があった。口述試験会場では面接官の前に分厚いフォルダで出願者の書類がファイリングされている光景が印象に残っている。コロナウイルスの影響により移動制限が起きる中、上記プロセスは非現実的になることはもちろんのこと、環境配慮や、オペレーションにかかる人的リソースの観点からも一刻も早いデジタル化が求められる。2021年1月現在、コロナウイルスの影響もあり出願プロセスの多くはデジタル化されてきているが、例えば卒業式のガウンレンタルのために学内で修了見込み証明書を印刷の上、別途システムにスキャンもしくは写真でアップロードする必要があるなど、一貫通貫した更なるデジタル化を期待したい。

コロナ禍における試験実施についても改善の余地が伺えるコメントが多々存在した。国家公務員のEさんは「オンライン環境で、テストによってはオンラインで受けて、答案を写真で撮ってITC-LMS（東京大学公共政策大学院のイントラサイト）に上げてほしいと。時間内に、技術的にできず。ちょっとどうにかならないかなと思いました。財政法は答案を郵送するというのもありました。法学部のスタイルに準じてというのだと思いますけど」と課題を明らかにした。ベンチャー企業のBさんも同様に「(経済学部の)小川(光)先生の(試験)はやりやすかったです。法科大学院では紙に書いて写真、本紙も送れと。普通にタイピングすればいいじゃん、と。すげえ無駄だな、と思って」と語り、学部によって試験方法の実施の違いや課題について明らかにしている。大学側としても本人確認などの不正防止策を試行錯誤している状況と思われるが、学生の習熟度をこれまでの対面型講義と同じ試験等の仕組みで図ることは非現実的である。国家公務員のAさんも「去年までは持ち込み不可だったのが今年は持ち込み可だった。だからこそ、暗記とかに頼らず、暗記で

Japanese university does not accept such kind of letter and only want official certificate. That is also one of the reason for myself and for few other friends they decided to take a gap year after their graduate from bachelor studies. After they officially received their certificate they can start the application. I think for many people a gap year is a significant cost because you consider the time and uncertainties it is quite troublesome and is really more difficult than you go and work.

And if you consider Chinese students, the options are different, have option to work, or go to Chinese university, or study in UK or US universities and they are very smooth in the process, you can submit everything online, and they don't need you to mail anything, if haven't graduated yet they are okay, very flexible. As long time view I don't think it is good for Japanese university losing highly talented international students. The thing is, the world won't wait for you. You are competing with other countries, not with your fantasy.

答えられるような設問は出しませんと先生も言っていて」と語り、教員によっては出題する内容を工夫したことが伺える。また、こちらは筆者の意見となるが、各講義への出席点にしても、Zoom上で学生の参加状況をただチェックリストで管理するのではなく、発言などの貢献度で評価するなど、効果的な工夫を行った教員も多く存在した。今後は成績評価におけるデジタル技術の活用など、教員も含めたプロセスの変革が求められる。*（）は著者が追加。

ただ、遠隔授業はドロップアウト率が高いことが弱点と言われ、学習者の孤独感の原因になることが多く⁴⁷、授業の質が著しく低下するケースもある⁴⁸。M-GTA分析においても、他の学生との横のつながりの構築を重要視する職業人学生が多く、コロナ禍で授業がオンライン形式に切り替えられた際、その自由度の高さを重宝しつつも、人間関係構築のために対面授業を実施するコロナ禍における【ハイブリッドラーニング】を求める声が多く集まった。民間企業出身のKさんは、「なかなか授業の中で、グループワークとかはたまにあったんですけど、やって終わりになっちゃうとか。友達を作ろうとする勢いもあると思うんですけど。なかなか長期的な関係を築くのには半年くらい時間をかけて毎週会うとかじゃないと難しい。」とその困難さを語る。

また、オンラインにおいては習熟度の課題も伺える。Kさんはオンラインで感じたデメリットについて「(授業が)終わった瞬間に切れてしまう。(対面型授業では)メリハリがきいていて、思考が深まる瞬間が(あって)。終わった後にもキャンパスにいて考える時間があったんですけど、オンライン授業だと、結構疲れるのもあって、とりあえず別のことをして、という細分化して。メリハリがきいてしまうことが学問的な余裕とか、思考の広がりに限られるのはマイナスだなと感じました」と語る。京都大学大学院で地方公務員のQさんも「効率性とかは上がると思うんですけど、偶然性が排除されてしまうので、雑談とかアクシデントから生まれる気づきですとか、必然性以外のものは排除されてしまうので」と同様の意見を述べた。*（）は著者が追加。

コロナ禍における遠隔授業については、国内外の大学において学生による学費返還署名運動などにも発展しており、また、学生によっては自宅にインターネット環境が整備されていないケースもあり、完全オンラインの課題は残るものの、目指すべき方向性は対面とオンラインのハイブリッド型環境と考える。議論中心の少人数授業は対面、講義形式はオンライン、社会人にとってオンラインという選択肢を選べる環境は子育てなどの家庭環境との両立にもつながる可能性があり、女性活躍等の政策と合わせてリカレント教育を普及

⁴⁷ [向後千春, 2020]

⁴⁸ [鈴木洋子 (ダイヤモンド編集部), 2020]

させる鍵となる。

M-GTA 分析においても、理想的な履修環境については大半がコロナ後も対面とオンラインの組み合わせである【ハイブリッドラーニング】を希望している。地方公務員の P さんもハイブリッド環境を希望し、その理由として「講義形式だったら（オンラインでも）学習面は大きな差はないのかなと思うけど、（ゼミ形式はオンラインでも）ディスカッションとかできるけど対面の方がやりやすいし、活発化できるのかなと。駒場の授業とか遠い授業ならオンラインの方が（良い）。ショッピングウィーク（履修登録前に授業に参加し、履修意思を検討する期間）とかだと（オンラインの方が）めちゃくちゃいいです。1時間以内に5個くらいのぞき見できる。聴講しやすい」と語る。卒業生で介護と学業を両立した元地方議員の L さんも「オンラインだったら当時は本当に楽だったと思いますね。横浜から通うのは往復で3-4時間かかっちゃうんですよ。時間的に一科目取るだけでも大変なので、休学しなくても済んだことがあったと思うんですよ」と、超高齢化が進む日本における介護と両立したりカレント教育実現のためにはオンラインという選択肢は不可欠といえる。

*（）は筆者が追加。

一方で、ハイブリッド環境では成績評価に不公平感が出るのではないかという声もあった。地方公務員の D さんは「どっちかにしないと中途半端になる。何人かはオンラインで何人かはオフラインでとなると。併用もあるとは思いますが、先生が来ている人とオンラインの人の差をつけるんだろうな、と。（教授が）かまわないな、といていたとしても。印象に残るのは目の前の人でしょうし。成績をつけるとき不公平さは出てくると思うんですよ」と指摘しており、ハイブリッド環境における教員による成績評価方法についても検討が必要である。また、これは企業においてテレワークが広がらない要因である人事評価（職場に出勤している者の方が評価は有利になるのではないかという心理的なハードルなど）と類似している。著者の経験でも、遠隔授業で毎回積極的に発言し、最終レポートでも自己評価としては満足の行く内容で提出したものの、成績評価が想定より低い状況が発生した。講師に質問書を送ったが返事もなく、講義に対するアンケート調査は成績評価が発表される前に締め切られる。遠隔授業が前提となる場合、教員との直接のコミュニケーション量が減ることも考慮して、成績評価の透明性の確保がより重要になる。教員が学生を評価するだけでなく、学生が教員を評価する仕組みについても検討が必要と言える。特に、学生のレポートについては剽窃や盗用を検知するシステムである Turnitin が導入されているが、教員が学生の不正を検知するだけでなく、教員による成績評価の公平性を担保する取り組みも求められる。例えば複数の教員や TA によるルーブリック評価など、選択肢は多数ある。*（）は筆者が追加。

学生が成績評価をどの程度重視するかといった観点では、海外の視点が参考にな

る。中国からの留学生である U さんは日本の企業が就職（転職）時に学生の成績を重視しない傾向について自身の意見を述べた。「香港では成績は非常に重視されます。仮にトップランクの大学から卒業しても GPA が 2.3/4.0 程度であれば、よりランクの低い大学から 3.8/4.0 の GPA で卒業した学生の方が高く評価されます。企業としては大学に入ったら学生は怠けがちになり、挑戦をしなくなる傾向を理解しているので、成績はどれだけ学業に注力しているかの重要な指標になる。中国では大学入学後、高校以上に学業に打ち込んでおり、それは企業が採用時に成績を見ているから。例えば投資銀行では、3.3 以下の GPA を取った場合、履歴書を捨てられます。コンサルティング企業ではそのしきい値は更に高く、トップ校の成績優秀者しか興味がなく、更には学年全体のトップ 35%の成績に入っていない場合には履歴書を捨てられます。また、採用面接でも、実際に自分も聞かれましたが、数学やプログラミングの授業は取ったか、取ったのであれば成績はどうだったか質問を受け、説明が求められます。⁴⁹」* 著者による和訳。

学生が卒業のための単位取得ではなく、より学業に打ち込むには、国家公務員試験などの成績が採用時に算定される仕組みを除き、民間企業等が採用時に成績評価をより重視するような意識変革が必要となる。その場合、教員による成績評価のプロセスもより透明且つ厳格になる必要がある。中国からの留学生である U さんは米国やシンガポールの大学への交換留学経験もあり、東京大学公共政策大学院の成績評価の透明性について次のように述べている。「(GraSPP の成績評価は)これまでの海外大学と全く比較にならないくらい、海外は透明性があります。香港では、何名が A や A-を取得するかが明確で、第一回の授業

⁴⁹ In Hong Kong the grade really matters. If you graduate from the top university with low score like 2.3 out of 4, and another person from second tier university of 3.8 out of 4, is going to be evaluated highly because people think after you join university you get lazy and won't challenge yourself. Your grade is the best indicator in how much effort you are putting in your studies. In China, after entering university, many people are investing more energy in studying that high school. Companies will look at grades. For example in investment banking, if you get lower than 3.3 they will throw your resume away. For consulting threshold is even higher, they just want top graders from top universities. If your grade is less than 35% of total scale they just throw your resume away. And they will specifically ask you during interviews, I got asked a few times, "did you study mathematics, programming, what was your grades in these classes?" A lot of explanation needed.

⁵⁰ No. Not really comparable in any of my experience in overseas. They were more clear. In Hong Kong, it is very clear, how many students will get A, A-. They have it all sorted out with curve. Teacher in first class will explain what is required to get a A. What kind of quality should be expected for final essay. The criteria and expectations are all very clear. By the middle of the semester you kind of know where you are and where you will be landing. In Singapore as well, there are many mini quiz and presentation and after each, grades will be generated. In US as well, I think the professor communicates with students quite closely. If you are behind, and go to the professor, he would help you like take a look at essays. Sometimes you don't even have the basic instructions like how many pages, what is the spacing, what I need to write in essays. Some professors just say "just write an essay and submit by this day." I feel really really strange.

で教員が A に求められる論文の質や期待値を明確に説明してくれます。学期の半ばではクラスにおける自身の成績順が分かるようになっていきます。シンガポールでも講義時間内に小テストやプレゼンがあり、都度成績が発表されます。米国では教員と学生がより近い距離でコミュニケーションをしていると思います。成績が芳しくない場合、先生に相談すれば論文に対するアドバイスなどを受けれます。GraSPP では時に、レポートに求められるページ数やフォーマット、内容など、基本的な指示すら出ないことがあります。中にはこの期日までにレポートを提出すること、というレベルの指示しか出ないこともあり、非常に不可解に感じます⁵⁰。」 * 著者による和訳。() は筆者が追加。

最後に、M-GTA 分析においては仕事と学業を両立（フルタイムもしくは時短で就労）している職業人学生の全員が、テレワークの恩恵を受けたと述べている。コロナ以前からテレワークをしていた民間企業の N さんは、「テレワークを会社が認めていなかったらこの環境は、絶対無理じゃないですかね。特に 1 限の授業とか 6 限の授業は、会社行きながらは結構きついので。上司も、大学があるのでこの打ち合わせムリです、といっても何も言われない。」と語る。オンライン教育と対面授業を組み合わせた【ハイブリッドラーニング】と【企業におけるテレワークの普及啓発】の組み合わせ、そして成績評価の透明性確保が実現できれば、仕事や学業、家庭を両立できる可能性が高まり、リカレント教育の普及に直結するといえる。

3-2) 大企業におけるジョブ型雇用の広がり

日本においてジョブ型雇用が広がれば職務に求められるスキルが可視化され、個人にとってはスキル習得を行う動機づけになる。また、個々人の役割が明確になることで、企業としてはアウトプットによる評価がより容易になる。リカレント教育を受けてスキルを身に着けた個人がスキルを活かせるポストに就くなど、結果によっては組織から待遇面で評価される可能性は高まる。2020 年 5 月、日立製作所が国内 16 万人の従業員を含む世界 30 万人の社員のジョブ型雇用実現に向けた計画を発表した⁵¹。また、富士通や KDDI、資生堂などの大手企業がジョブ型雇用の導入を進めている。新型コロナウイルス感染拡大によりテレワークが広がったことで従来のメンバーシップ型雇用では人材管理の対応が難しくなったことが背景の一つとして挙げられるが、コロナ以前より、経団連の会長を務める中西宏明氏は 2018 年から終身雇用制や新卒一括採用に関しての限界や、2019 年にはメンバーシップ型雇用の見直しを示唆していた⁵²。大企業から始まり、この傾向が将来的に中小企業等に影響を及ぼす可能性がある。また、現在は正社員と非正社員の間には賃金や教育機

⁵¹ [日本経済新聞, 2020]

⁵² [山田久, 2020]

会などの雇用格差が深刻となっているが、正社員がジョブ型に転換しアウトプット評価になることで同一労働同一賃金の実現、雇用格差是正につながる可能性も期待される。

3-3) 雇用の流動化と働き方の多様化

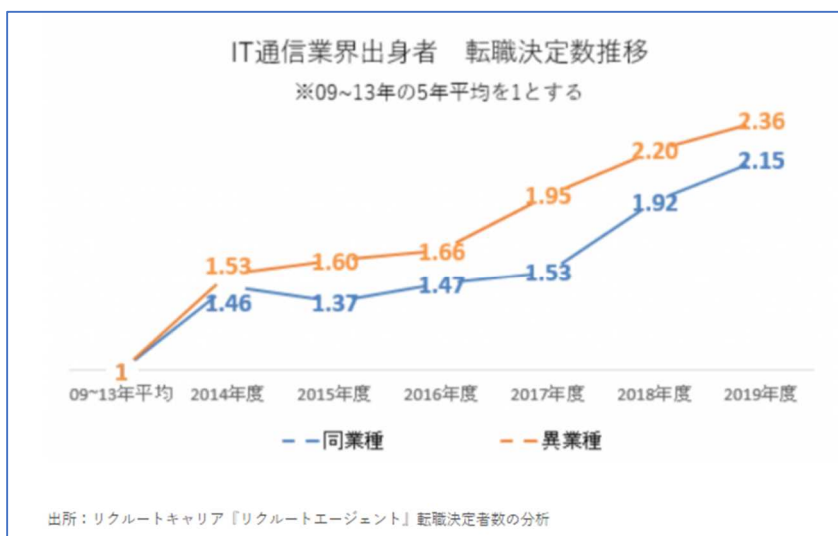
転職市場が活性化することにより、リカレント教育を行った個人が仮に所属する組織で評価されなくとも、他の組織から評価され、転職を通じた待遇面の向上につながる可能性がある。国内では雇用の流動化が徐々に進んでおり、8年連続で国内の転職者数が増え（2018年は前年比で5.8%増の329万人）とりわけ45歳以上の中高年層が38%と10年で11ポイント増えた⁵³。また、転職後に前職と比べて賃金が1割以上増加した転職決定者の割合も2020年4-6月期は27.3%と、高い水準で推移している⁵⁴。人材不足により中途採用の枠を増やす企業が増えていることや、ITやコンサルティングなど特定の業種から異業種への転職も増加している。また、中高年層の流動化が進むことで、終身雇用制度の変革や、若手人材のスキルに応じた賃金体系の導入など、ジョブ型雇用の導入により有効な土壌ができる可能性も期待できる。更には、2020年10月にANAホールディングスが400人の社員の出向を発表したが、こちらも自治体含め異業種への出向を通じて雇用流動化や新たなスキル獲得のためのリカレント教育の加速につながる可能性もあり、⁵⁵且つ民間企業から自治体といったトランジションに際しては公共政策大学院が果たせる役割は大きい。

⁵³ [日本経済新聞, 2019]

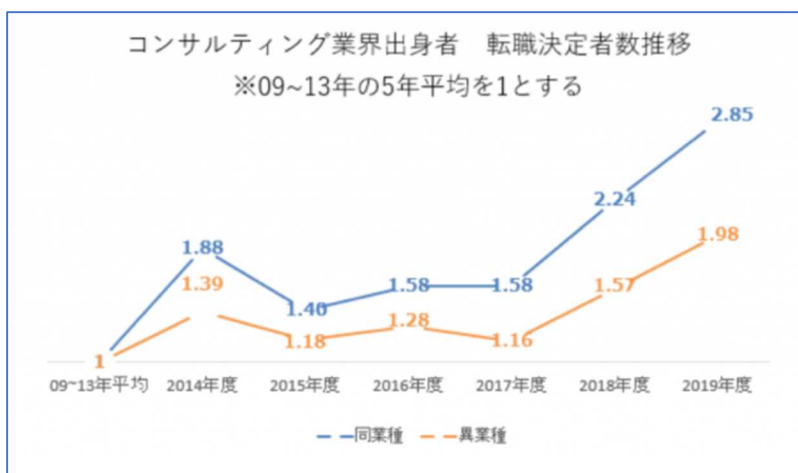
⁵⁴ [株式会社リクルートキャリア, 2020]

⁵⁵ [ITmedia ビジネス Online, 2020]

■ 図 3-1 IT 通信業界出身者 転職決定数推移



■ 図 3-2 コンサルティング業界出身者 転職決定数推移



出典：リクルートエージェント

<https://www.r-agent.com/guide/article7184/> 2020年12月3日アクセス

<https://www.r-agent.com/guide/article7192/> 2020年12月3日アクセス

中高年層の意識という観点において、インタビュー対象者にも2名の60代男性と1名の40代男性がいた。外資系企業の元代表で、現在シンクタンクに在籍するJさんは日本においてこれまでリカレント教育が広がってこなかった要因について「やっぱり日本ってあなた何歳なんですか、とか、60年定年とか年齢年齢を言っている。私が会社を辞めるときも定年ですよ、と（いう制度に直面した）。何歳だからなんとかです、ということではなく、50代後半になったけどそれから部長になったり役員になったり、資格やスキル、能力で対応していく」重要性について述べ、また「人生100年時代でいくつも次のステップ

に進む前に、新たに勉強して知識を蓄えて。大学を、40 から 50 年を 4 年の勉強でやっていくんですかと。一度ならず二度三度、本屋で勉強した程度じゃなくて。(職場で) 評価するとかそんな問題じゃなくて、自分自身の人生設計の中で必要だよ」と語り、卒業後は「就職」したいと目標を共有してくれた。年齢にとらわれない【競争力の維持や自己評価】、【終身雇用意識からの脱却】が顕著にみられた。* () は著者が追加。

民間で社外取締役を務める 60 代の M さんは職業人選抜ではなく一般入試で入学した。その理由について「私の場合は金融機関で、同期が役員になっていくタイミングで外に出ていく。だいたい親元の銀行がキャリアを、働き場所を紹介してくれるんですよ。63、4、5 (歳) くらいで紹介を終える。(その後は) 働きたければ自分で。私としては 70 (歳) くらいまでは社会とつながりながら、仕事という意味で、きちんとした形でつながりたい。仕事とか NPO とかもありなんですけど、社会貢献ということであるならば、せっかくなら勉強して論文書くとか若い方々、先生方含めて議論することを含めてそういう関わり方もあるのかな、と思ったんです。そもそも社会に対してやりたいテーマもあるので」と述べた。また、リカレント教育が広がらない背景についても、「(企業が) 大学の勉強を重視してないからじゃないからですからね。学問を甘く見ている。学問の知識ベースで仕事をするという慣行が欠けているからじゃないでしょうか。一般的な社会の風潮というか。我々の世代が会社に入った時代というか、大学で勉強したことを仕事に活かすということはあまり考えてなかったですよ。大学というのは証明書をもらうもの、こういう大学であればこういう会社にと。会社に入ってから実務を通して学んでいくという。とりわけ文系の場合はそうじゃないかなと思うんですけど。とりわけ行政学とか経済学とか、体系立てて学んだことを活かすということができなかったんじゃないかな、今もできていないんじゃないかなと思います。今は実務でも、相応の立場で仕事するからには身に着けていなければいけない知識があると思うんですけど」と語った。J さんは外資系企業経験があり、M さんは海外駐在経験がある。他国の商習慣に触れるなど、グローバルな経験はリカレント教育への理解につながっている可能性も示唆される。* () は著者が追加。

士業で 40 代男性の C さんも、「人生 100 年時代。元々の教育システムは寿命が短い時代 (に設計されたもの) で。終身雇用で、定年までの効果があるものを大学で習得するという前提だったと思うけど今は変わってしまったと思うんです。今は終身雇用もなくなってきているし。どんどん転職していったり、65 から 75 歳でも全然現役とか、それだと 22 歳まで勉強した大学の中身で、そこまで (の年齢までやっていけるくらい) 勉強したかと思うとおぼつかない。途中でリカレント教育して、もう一回巣立って行って、まだ 70 だろうが 80 だろうが戻ってきて社会に還元する仕事と学びのサイクルを考え直したらいいと思う」と語る。また、リカレント教育の効果として「子どもと多少の話題が合う。(子どもと) 多少の共通話題が作れるというきっかけすらない人が多いと思う。そこからコミュニケ

ーションが生まれる。世代間のバトンタッチとしてもリカレント教育は意味があるんだよと思います。次の世代と一緒に勉強するという。勉強会やって。現役の学部上がりの子と。若い方からの気づきも多い。自分は陳腐化していると思ったけど案外ディスカッションできるな、と思った。こういうことは自分は教えられるんだ、とか。説明の仕方がうまいな、と学部生から教わることもある」と語り、中高年の職業人学生が増えることで若い学生が人生設計を行い、将来的なリカレント教育の必要性を意識する上で非常に効果が大きく、また職業人学生も非職業人学生から学ぶという相乗効果が期待される。コロナが終息した後、学内における対面式の学びが戻った際には職業人と学生が交流できる【コワーキング・コラーニングスペースの学内設置】は効果的な施策となり得る。*（）は著者が追加。

働き方の多様化といった観点では、副業の広がりもリカレント教育の普及に寄与する可能性がある。リカレント教育による【スキルや人的ネットワークの習得】が所属団体以外で評価されることで、個人が学び直すインセンティブにつながることも考えられる。現在、コロナ禍における業績悪化に伴い、社員の収入源から副業の解禁を行う企業が増加傾向にある。キリンホールディングスなど大手企業が副業を解禁し、Zホールディングス傘下のヤフーが7月に100名程度の副業人材を募集したところ4500人以上の申し込みがあった⁵⁶。テレワークの実施率が上がったことにより通勤時間がなくなり、時間確保が容易になったことも影響している。

コロナウイルスの影響によりグローバル企業の動向も注目される。マイクロソフトやグーグルは在宅勤務を2021年まで継続する発表を行い、フェイスブックは完全な在宅勤務への移行の可能性も示唆している⁵⁷。マイクロソフトが10月に発表した従業員に関する働き方のガイダンスでは、在宅勤務に支障がない場合は海外への転居も許される⁵⁸。テレワークによって国を超えた就労が可能になれば個人にとってジョブ型雇用を採用している企業への転職の選択肢が増える。また、外国人管理職など多様な職場環境の中に身を置くことで、リカレント教育を行うインセンティブやプレッシャーが働く可能性がある。三菱ケミカルホールディングスのように、社外から外国人のトップを招聘する動きが日本企業においても広がればジョブ型雇用の加速はもちろん、これまで組織内であまり評価されてこなかった修士号や博士号といった学位の重要性が高まる可能性も考えられる。副業や国を超えた就労など、税法や利益相反、労務管理など検討すべき課題は多々あるものの、職業人が新たなスキルや人的ネットワークを求めて教育機関にて学び直す外的要因が増えていると考えられる。尚、参考までに今回インタビューした職業人学生が大学院で得ている価値（も

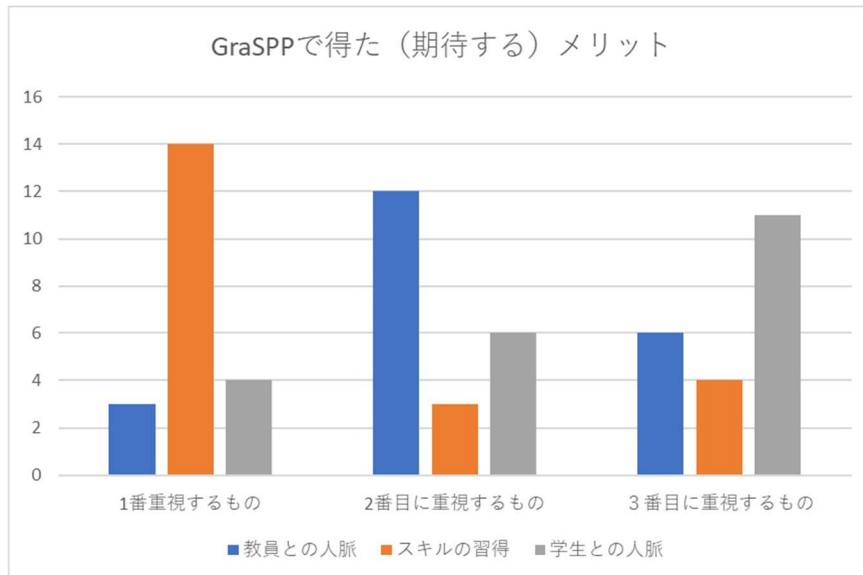
⁵⁶ [日本経済新聞, 2020]

⁵⁷ [ITmedia NEWS, 2020]

⁵⁸ [ITmedia NEWS, 2020]

しくは期待する価値)を「スキルの習得」「教員との人脈」「学生との人脈」の順位付けに対しては以下の結果となった。

■ 図 3-3 職業人学生が考える、東京大学公共政策大学院で得たメリットの優先順位



*インタビュー結果から著者作成。傾向としては、2020年に入学した職業人学生は教員や学生とのつながりを構築する機会が圧倒的に少なく、スキル習得を最も高く選択している点、そして2020年以前に入学した学生は職業人が少ないことから学生（この時点ではまだ就職していない学生が多い）との人脈を3番目につけたという回答があった。

大学院におけるスキルとは、実際の講義などで得られる知識以外にも存在することがインタビューでも明らかになっている。元民間企業のKさんは「私は学部時代あまり勉強しなかったダメな学生だったので勉強の仕方とか、論文の読み方とか書き方とか、今やっているものと比べるとゴミみたいなものだったので。修士レベルの読む力、ある程度のレポートを書く力とかはすごく大きいなと思って。実際社会人やってても情報の探し方とかできない方もいて、大学院にいと必要な情報を探してきて信憑性がどれくらいあるのか、情報価値があるのかなど、当たり前にならないといけない環境というのは、仮に直接大学院とキャリアが直結する人じゃなくても大きな財産になるんじゃないかなと個人的には思いますね」と学ぶプロセスにおいて成長が得られる可能性に触れた。OECDの教育・スキル局長でPISA（Programme for International Student Assessment）の生みの親であるアンドレアス・シュライヒャーは教育を、学ぶことへの情熱を育てること、そして未来を築くための自立した意思決定者を育成することと捉え、「学び方を学ぶ」重要性について述べている⁵⁹。これは主に初等中等教育を想定した言葉だが、大学や大学院などの高等教育にも普遍的な共通点があると考えられる。

⁵⁹ [シュライヒャー・アンドレアス, 2019]

次に、M-GTA 分析からは、【転職というオプションの浮上】という大学院進学の効果があり、リカレント教育が労働市場の流動化に寄与する可能性について示唆が得られた。独立行政法人の H さんは将来的な思いとして、「転職も視野に入れている。パブリックセクターを見ること自体が面白くなってしまったんですよね。より広くコンサルタントとかでパブリックやっているような会社に転職し、プライベートセクターからパブリックセクターを見るとか、パブリックセクターの可能性を感じている」と述べている。

国家公務員の E さんも具体的な検討はしていないものの、「大学院に行って、こういうことを自分ができるかもしれない、転職したらどうなるみたいなことが見えた気がします。例えば議会に関心を持って今の職場に入ったので、転職しても変わらないと思うんですけど、仮に今の職場でできないことを将来的に独立なり外に出たりだとかは面白いんじゃないかなというのは大学院に入ってから思ったことですね。」と転職というオプションの浮上について振り返る。転職を前提に学び直すパターンに加え、教育機関における学びや多様なつながりを通じてキャリアに関する視野が広がり、人材の流動化が促進される可能性も示唆される。

尚、職業人学生の中には組織から学費負担を受け、卒業後一定期間以内に退職した場合には学費の返還義務を負うという話がインタビューでも多々存在し、転職というオプションを所属組織側が抑制しているといえる。こちらは筆者がヘッドハンティング会社との会話の中で得た見解となるが、これからは人材獲得競争が益々熾烈になるため、優秀な人材を引き抜くためにはサインアップボーナス（転職時に支払われるボーナス）が支払われることもめずらしくない。また、その金額を算定する際、交渉次第では学費なども転職先が負担するケースも十分に考えられる。実際に著者自身が他社（外資系企業）から過去に提示されたサインアップボーナスの額は数百万円から 2 千万円まで大きな幅があった。東京大学公共政策大学院の 2 年間の学費や入学金を合わせても 135 万円強のため、リカレント教育で得られたスキルや人的ネットワークが他社で評価されれば学費を回収することは十分交渉の範囲内といえる。ただ、繰り返しとなるが、リカレント教育で得たスキルの証明には工夫が必要であり、成績も確実にその重要な要素の一つとなる。

過去 10 年で企業が米国における MBA 取得の社費留学を抑える動きがあり、日本人留学生が半減したという記事が 2019 年 12 月の日経新聞の見出しを飾った⁶⁰。帰国後の退社が増えていることが要因の一つである。著者が所属する企業の人事担当役員（社費で海外 MBA を取得）によれば、社費留学の MBA 学生に対しては、自らの投資やリスクでリカレント教育を行った職業人に比べれば評価は低いと断言した。ただ、それ以上に企業側のス

⁶⁰ [日本経済新聞 電子版, 2019]

タンスについて「危機感がないんだと思いますよ。お金があって（社員のリカレント教育）をやるんだったらもっとやった方がいいと思います。たとえその会社を辞めたとしても恩義には思うし、僕だって最初の会社に出してもらったって思うし。今も、全く無料で（前職）のお手伝いをしていて。全然それ自体はウェルカムだし。それはやっぱり自分の基礎を作ってくれた会社、それはMBAだけじゃなくて最初の上司も鬼のように怖かったけど。それは尊敬ですよ。企業外の学びの場を作った方がいいと思いますね」と語った。人材獲得競争が激化する中、企業内教育の機会を減らすことは企業が優秀な人材を失い、且つ、既存の社員が能力をアップデートできず競争力を失うリスクにも通じる。

政府としては、個人がより長期キャリアプランを戦略的に計画しやすくするため、例えば企業による企業内教育投資額の公開義務化や、仕事と学業を両立するために不可欠なテレワーク導入率の公開義務化などの政策を省庁横断型で検討すべきと考える。また、自社では人材育成に投資せず、他社で育成された優秀な人材の引き抜きに注力するいわゆるフリーライダー企業が将来的に増加する可能性も考慮し、各社で職業訓練用の費用をプールするための賃金税の導入等も視野に入れ、企業による人材育成投資を促し、且つ個人が企業を選ぶ上での指標にできる政策が必要である。また、個人としては自社でたとえリカレント教育が評価されなくとも他社で評価される可能性に目を向ける意識改革が重要である。更には、人材を獲得する企業側は当然ながら個人のスキルを見て判断するものと思われるが、企業が大学院における個人の成績評価を重視することで、個人・企業・大学院（将来的には学部含め）のより良い関係性や職業レリバンスが醸成される。

第4章：

グローバル化等の外的要因で広がる公共政策大学院の価値

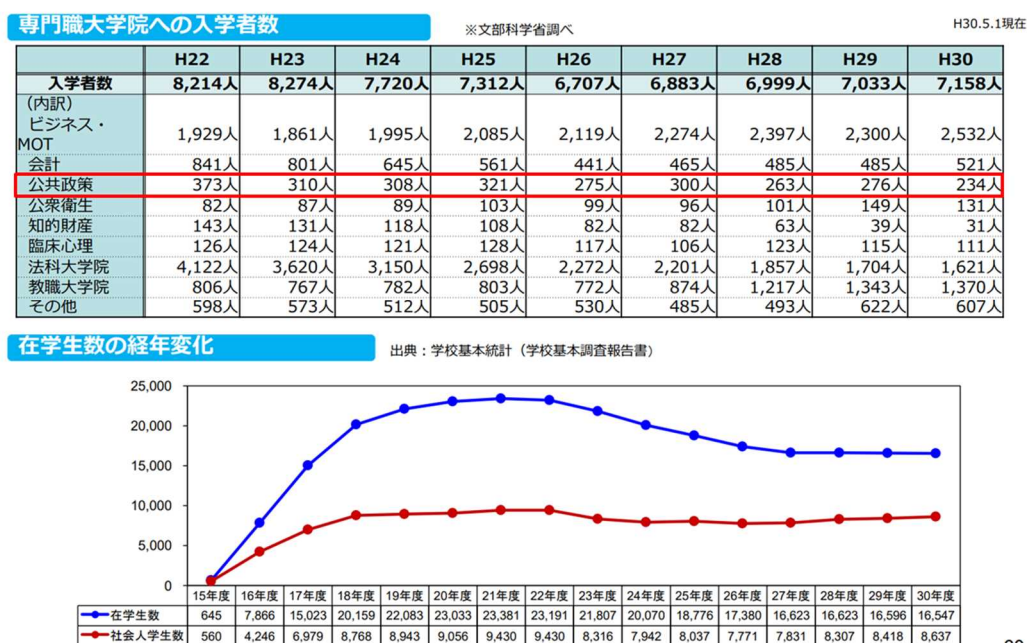
ここでは筆者が在学している東京大学公共政策大学院を中心に、現状ではメンバーシップ型雇用が未だ主流な日本の労働市場を踏まえ、「非資格系」専門職大学院におけるリカレント教育について考察を行う。はじめに専門職大学院と社会人受講者数の推移について概述し、その中でも公共政策大学院が果たせる役割やリカレント教育の受け皿となる可能性についてM-GTA分析を用いながら説明する。

4-1) 専門職大学院と社会人受講者数の推移

1998年、大学審議会に高度専門職業人の養成に特化した修士課程の設置が提言され、2003年の学校教育法改正により専門職大学院が制度化された⁶¹。MBAを含むビジネス・MOT（技術経営）、会計、公共政策、公衆衛生、知的財産、臨床心理、法科大学院、教職大学院などが挙げられる。2018年時点での入学者数は以下7158人となり、ほぼ横ばい傾向となる。

■ 図 4-1 専門職大学院の入学者数及び在学者数推移

■ 専門職大学院の入学者数及び在学者数推移



出典：文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/1423019_009.pdf

2020年12月3日アクセス

また、大学院の専門職学位課程は通学、通信共に約5割が社会人学生となる⁶²。専門職大学院全体の在学者数は17,000人規模ではあるが、MBAは経営のプロフェッショナルの養成を目指し、公共政策は公務員や政策立案に関わるプロフェッショナル養成を目的としている。これら専門職大学院で修学した人材が将来的に企業や国・自治体の要職に就くことで日本のリカレント教育全体の発展につながることを期待される。初期教育において高校就学率の高い日本においてはフォーマルな学び直しの際は主に大学や大学院になると

⁶¹ [塚原修一、濱名篤, 2017]

⁶² [文部科学省, 2018]

考えられるが⁶³、大学進学率の上昇に伴い、これからは大学院の需要が高まると想定される。

MBA（ビジネス）・MOTは専門職大学院課程の中でも平成30年時点で2532人と最も多い入学者を誇るが、遠藤功は著書「結論を言おう、日本人にMBAはいらない」（角川新書）でほとんどの日本企業がMBAを評価していないこと、そして日本におけるMBAの質が低いという観点から批判を行っている。これは前述の日本型雇用システムの影響もあり、海外MBAと比較して経済的リターンの低さ、また、逆に頭でっかちで扱いづらいというレッテルを貼られ企業等から敬遠される保守的慣行も示唆している⁶⁴。

4-2) 公共政策大学院の状況

現在、文部科学省が認定する公共政策の専門職大学院は全国で7校ある（図4-2）。MBAと比較して公共政策大学院の入学者数は2018年時点で234人と、専門職大学院の中でも決して多いとは言えず、世の中の認知度もまだ十分ではない。地方公務員のIさんのように、公共団体から派遣される前は公共政策大学院について聞いたことがなく、「公共政策は知らなかった。なんですか？みたいなことを先輩に聞いてました。」と語るケースもある。これまで公共政策は国際機関や公務員人材のための学問というイメージが強かったものの今後変化する可能性がある。

昨今の新型コロナウイルスの影響からも、国や自治体の政策と民間企業による経済活動の重要な関連性が明らかになり、民間企業においてもパブリックアフェアーズ戦略を重視する動きもある。著者も外資系企業のパブリックアフェアーズ部門に所属しており、当初は自費での進学を予定していたものの、公共大学院における学びが業務に直結する可能性があることから、途中から所属組織による学費の補助が実現した（注：著者が所属する組織には公式な大学院派遣プログラムは存在しない）。気候変動やエネルギー問題など、持続可能な開発目標（SDGs）などによる国際的な企業責任やルール形成、マルチステークホルダーの複雑な調整ができる人材育成に向け、公共政策学が寄与できる領域は多く⁶⁵、2020年11月に発表された経済団体連合会の提言にもルール形成に係る人材育成について記載がある（図4-3）。また、菅義偉政権における昨今のデジタル庁創設では民間からも人材が募集され、テクノロジーアセスメントなどの科学技術と政治や行政⁶⁶をつなげる橋渡し人材の需要は高まると考えられ、公共政策大学院が果たせる役割は大きい。

⁶³ [本田由紀, 世界の変容の中での日本の学び直しの課題, 2020]

⁶⁴ [遠藤功, 2016]

⁶⁵ [秋吉貴雄, 2017]

⁶⁶ [城山英明, 2018]

■ 図 4-2 令和 2 年度 公共政策大学院一覧

| 【公共政策】 | | | | | | | |
|--------------|----------|------------|-----------|--------------|------|-----|--------|
| 区分 | 大学院名 | 研究科名 | 専攻名 | 学位名称 | 入学定員 | 位置 | 開設年度 |
| 国立 | 北海道大学大学院 | 公共政策学教育部 | 公共政策学専攻 | 公共政策学修士(専門職) | 30 | 北海道 | 平成17年度 |
| 国立 | 東北大学大学院 | 法学研究科 | 公共法政策専攻 | 公共法政策修士(専門職) | 30 | 宮城県 | 平成16年度 |
| 国立 | 一橋大学大学院 | 国際・公共政策教育部 | 国際・公共政策専攻 | 国際・行政修士(専門職) | 55 | 東京都 | 平成17年度 |
| 国立 | 東京大学大学院 | 公共政策学教育部 | 公共政策学専攻 | 公共政策学修士(専門職) | 135 | 東京都 | 平成16年度 |
| 国立 | 京都大学大学院 | 公共政策教育部 | 公共政策専攻 | 公共政策修士(専門職) | 40 | 京都府 | 平成18年度 |
| 小計:国立5大学 5専攻 | | | | | 290 | | |
| 私立 | 明治大学大学院 | ガバナンス研究科 | ガバナンス専攻 | 公共政策修士(専門職) | 55 | 東京都 | 平成19年度 |
| 私立 | 早稲田大学大学院 | 政治学研究科 | 公共経営専攻 | 公共経営修士(専門職) | 50 | 東京都 | 平成24年度 |
| 小計:私立2大学 2専攻 | | | | | 105 | | |
| 合計:7大学 7専攻 | | | | | 395 | | |

出典：文部科学省 令和 2 年度専門職大学院一覧

https://www.mext.go.jp/content/20210113-mxt_senmon02-000009181.pdf

(2020 年 12 月 1 日アクセス)

■ 図 4-3 日本経済団体連合会による 2020 年 11 月 17 日発表

ルール形成による世界市場への展開：

新たな成長産業を創るうえでは、拡大する世界市場を視野に入れたビジネス展開が不可欠である。そのためにも、ヘルスケア、教育、サプライチェーン等の分野において、課題解決による価値創造に重点を置きつつ、国際的な規制やシステム標準等のルール形成を積極的にリードする必要がある。ルール形成に係る人材育成とともに、政府や企業が国際的なルール形成への関与を強化していくことが重要である。

出典：一般社団法人 日本経済団体連合会 。新成長戦略

https://www.keidanren.or.jp/policy/2020/108_honbun.html#s3-1

(2020 年 12 月 13 日アクセス)

M-GTA 分析からは、職業人学生にとって大学院進学という選択肢の中でも、とりわけ公共政策が興味のある分野であり、加えて【終身雇用意識からの脱却】、【スキルや人的ネットワークの習得】、【箔付けとしての進学】、人生 100 年時代における【競争力維持や評価】など様々な観点から自ら意思を持って公共政策大学院を志したケースが多い。また、地理的な理由以外にも、特に東京大学公共政策大学院に絞って入学したケースが存在した。

自営業で議員を目指す F さんは「国会議員になりたかったので、日本の公共政策を学べる場を探していました。法律・国際関係・行政についてある程度勉強してから、政治活動を始めたいという意図です。(中略) 政治塾みたいところに入るべきか公共政策(大学院)の二択だと思うのですが、(塾に)最初は行ってこれは全然勉強にならないだろうなと思いました。それくらいの知識がないと政治家はやれないだろうと思って」と将来のキャリアに直結した出願動機を語った。* () は著者が追加。

独立行政法人の H さんは公共政策大学院の中でも東京大学公共政策大学院を選ん

だ理由について、「二つあって、一つは国際協力の世界はマスターを取るのが普通というか、今後のキャリアを見据えた必要性。二つ目はアカデミックな部分で、(中略)(海外)に駐在していたことがあって。開発の現場で見たものがどうジェネライズされたものとして消化できるのか、ということを考えるようになって。現場の問題意識を体系化して日々の業務に役立てないなと思いました。公共政策がいいというのは分野的に決めていて、東大か GRIPS (政策研究大学院大学) や一橋になるんですけど、プライベートなんですけど、夫も東大の情報学環を出ていて、世界でも知られている大学院に行った方がいい。世界の人でも理解できる。知名度の高い東大を選んだ感じですよ」とブランド力の高い大学の修士号が拓く新たなキャリアパスの可能性や業務に直結した問題意識が教育機関を決める際に影響を与えることを示唆している。* () は著者が追加。

民間企業を退職して入学した卒業生の Rさんは「学部卒業後、証券会社で勤務したが、ノルマに追われる日々で証券営業は自分には向いていないと感じたことがきっかけ。利益を追求する民間企業ではなく、公務員の方が自分には合っているのではないかと考え、もう一度学び直したいと考えたから。私が入学したのは2009年だが、その当時、公共政策大学院が東大の他、他大学でも設立された時期で、学部時代に学んだ法律の知識に加えて幅広く学べると思ったから」という理由で出願し、現在では自治体職員としてキャリアチェンジに成功している。

また、既に弁護士資格を持つ Oさんは2度目の大学院への進学理由について、「我々弁護士の世界って留学が普通なんですよ。肌感覚的には1/3とか半分は周り留学してるんですよ。ボスが4人いて、2人は留学してるんですよ。留学は絶対した方がいいよ、という。留学するのは割と普通。別にロースクール行っても良かったんだけどLL.M.(Master of Laws) やるのは弁護士で普通だし、当時英語があまりできなくて留学が遅くなっちゃったのもあるんですけど、政策秘書もやっていて法律の議論はできるんだけど経済とか全然わからなくて、役所の人とガチの議論するときだめだなと思って。公共政策大学院があるのは知っていたかな。私の先輩の弁護士がコロンビアの公共政策大学院に行ったんですよ。そういう先輩もいたので、公共政策か、MBAか、LLMか。全く分からない分野勉強しようと思って」と語り、シンガポールへのダブルディグリーにチャレンジした⁶⁷。* () は著者が追加。

東京大学公共政策大学院が持つ留学制度に関して【潜在的な進学者層】を示唆する

⁶⁷ ダブルディグリー制度とは、複数の大学が教育課程の実施や単位互換等について協議し、それぞれの大学において条件を満たした学生に対して双方の大学が学位を授与するプログラムを指す。

コメントも得られた。元民間企業の K さんは現在コロンビア国際公共政策大学院にダブルディグリー制度を利用して留学している。「留学についてはもうちょっと社会人向けの説明会とかしてもいいんじゃないかなと思いました。GraSPP（東京大学公共政策大学院の略称）が今見てるのはどうしても学部卒か留学生で。若手の社会人とか掘り起こせば相当ニーズがあると思うんですけど。私は会社辞めてきているのでカリキュラム的なものというか、社会人にもっと情報発信があってもいいんじゃないかと思いました。特に留学制度については本当にそうだと思うので、私の周りでは海外留学か無か。GraSPP 入ってしまえば学位も取れてしまうのもったいな、と。」「奨学金ももらっています。東京大学のダブルディグリーの学生向けの狭いけど（金額は）多い。かなりの額をサポートしていただいているので、これに通れば自費でニューヨークに来れるというやつで。35 歳までなんですけど。まー、結構社会人でも射程に入る方は多いと思うので」と語る。海外への社費留学が減少する中、海外と比較して学費の低い東京大学公共政策大学院に入学して、奨学金を得ながら海外の学位も取得できるという環境を魅力的に感じる職業人が存在する可能性があり、東京大学公共政策大学院としてもそういった潜在的な層に向けた説明会などの情報発信は職業人選抜を増やすための戦略となり得る。*（）は著者が追加。

一方で、インタビューの対象者からは大学院が提供する留学プログラムや、留学生が多く参加する英語の授業に対しては語学への苦手意識から意識的に履修を避ける声も多く聞かれた。例えば、卒業生で地方公務員の I さんは、「英語の授業とかほとんど取らなかったです。オンラインでも、英語苦手なんで受けてないと思います」といった意見があった。むしろ積極的に英語の授業や留学生との交流を図っている独立行政法人の H さんは「日本人は英語のクラスとか取らない。失敗しちゃいけないと感じている。そういう人が官僚になってもそういう社会になる。留学生の友達がいる子も少ない。等身大の世界を大学の中で感じられないのは残念です。選んで避けて通れる。」と機会損失について指摘した。仮説としては、英語への苦手意識はもちろん、職業人選抜で組織から派遣されている学生は所属組織に対して成績を報告するケースが多い。そのため、成績が人事評価に影響するかは分からないものの、低い成績を取る可能性のあるリスクを避ける行動は想定できる。日本の公務員が海外の公務員留学生と交流を持つのは意義が大きく、例えば合格か不合格の二択の成績による必修の英語クラスの開設なども大学院として検討に入れるべきと考えられる。

最後になるが、著者が在籍する外資系企業の人事担当役員は近年国内外を問わず、MBA 資格をあえて特別視はしないという一方で、公共政策（Master of Public Policy）は評価しているという意見があった。「公共政策は学校で勉強すると評価されるんじゃないですか。ネットワークになるし、役所からも人が来ているし。企業として Government Affairs とかそういうポジションとかは体系的に学ぶとか、それはスペシャリストのエリアとして大きいんじゃないですかね。MBA とかは超ゼネラリストだから。」という意見を通じて、パ

ブリックアフェアーズなどの分野は企業内においてスペシャリスト枠という捉え方をしていることが理解できる。また、分野は問わず、大学院へ自らの意思で進学している従業員に対しては「大学院へ行っているのは、growth mindset とか self starter（自ら進んで行動する姿勢）、みたいな感覚で評価することも。リスク取ってやるんだよね」と述べており、自発的に学ぶ姿勢について一定の評価が伺えた。外資系コンサルティング企業の N さんも「弊社では積極性という観点で評価されます（学歴そのものというより）。また社内で大学院に行き短日勤務することを伝えたとき、ほんの少しでも否定的なコメントをする方は一人もいなかったの、会社としてこうした積極性を評価してくれる土壌・文化が既にあると思います。この意味では他企業と比べるとかなり良い意味で特殊なのかもしれません」と所属組織からの評価について語った。ただ単に学位を取得したという結果だけではなく、そのプロセス含めた【学びを活かす工夫】ができる学生は、転職市場含め、大学院における【スキルや人的ネットワークの習得】が評価される可能性を示唆している。*（）は著者が追加。

第5章： 政策提言とまとめ

最後に、これまでに検討してきたリカレント教育の普及を阻む課題や分析を踏まえた提言を行う。外的要因の変化によって日本においてリカレント教育が広がる兆しは見えてきた。しかしながら引き続き日本型雇用システムを採用する組織が多い日本において、退職や休職などキャリアを中断して大学院に進学することには多くの個人にとって心理的・経済的ハードルが残ることが想定される。そこで、この章ではキャリアを中断しない「間断なきリカレント教育」に向けた提言として、て、テレワークと遠隔授業の推進、及び教育機関における変革の必要性について述べる。その上で、特に東京大学公共政策大学院に特化した提言を行う。

リカレント教育の普及のためには企業や大学が個別に取り組むのではなく、省庁間のさらなる連携強化や自治体連携が必要となる。例えば現状ではテレワークは総務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省が推進しており、オンライン授業は文部科学省、リカレント教育については文部科学省に加えて厚生労働省や経済産業省といった複数省庁にまたがっている。文部科学省が主導する BP プログラムの認定プロセスに厚生労働省や経済産業省がより深く関わることや、企業による教育投資費用やテレワーク導入率の公表義務化など、企業や職業人、教育機関などマルチステークホルダーの視点に立った一貫性のある政策が求められる。また、リカレント教育政策の立案は大学院で実際にリカレント教育を率先垂範した人材が望ましい。そういった観点からも東京大学公共政策大学院が率先して職業人学生を増やし、学部からそのまま大学院に入学する学生とも積極的な交流ができる環境を

整備し、国や自治体に対して政策人材を輩出する意義が大きいことを付け加える。

5-1) テレワークと遠隔授業の推進

1つ目の提言として、個人がキャリアを中断することなくリカレント教育を実現するためには、その個人が所属する組織によるテレワークと大学側によるオンライン授業が並行して推進されることが重要である。企業等におけるテレワークなど、柔軟な働き方の普及啓発が進むことで個人の働き方が多様化され、リカレント教育を志す者にとっては業務や家庭との両立が容易になる。【企業におけるテレワークの普及啓発】により、例えば東京圏で働く個人が人材不足に悩む地方の企業で遠隔から副業する可能性も想定され、その場合、個人としては副業時の差別化を図るためリカレント教育を通じてスキルやネットワークを習得するモチベーションが向上することも考えられる。また、フルタイムの学びを退職してから修める個人にとっても、給付金等で補助されない生活費をテレワークによる副業で学業と両立しながら補うという選択肢が増える。そして場所に囚われない働き方や学び方が実現することで地方への移住や関係人口の増加を通じた東京圏一極集中の是正、地方創生戦略の実現も期待できる。

テレワークとオンライン授業を組み合わせることにより、外資系コンサルティング企業の N さんは出張先の沖縄から仕事と学業を両立させることができるようになり、著者も地方出張と学業の両立が可能なケースが圧倒的に増えた。これは、元々テレワークを認めている組織に所属しているという影響に加え、大学院側がオンライン授業に切り替えたことで両立が更に容易になった。オンライン授業が実施されるまでは通学が前提となり、出張時には教員に個別に相談し、許可を取れた場合のみ仲の良い学生に協力を依頼して当日遠隔から授業に参加するなどの対応をしていたが、前例がないため断られることはもちろん、オンライン参加しても良いが出席としては認められないなどのケースもあった。しかし、出席は教室への物理的な移動・参加で判断するのではなく、授業における発言数や発言内容で評価すべきと強調する。そういった評価方法があればオンライン授業でも十分対応できる。そもそも学生に発言機会が与えられず、テストやレポートのみによって成績評価が行われる、教員から学生に対する一方通行の講義のように、出席点を考慮する必要性や習熟度について今一度議論が必要なケースもある。

中国からの留学生で米国やシンガポールへの留学経験もある U さんは、日本の大学における出席点はまるで小学校のようだと語る。「(出席点) のような仕組みは香港、シンガポール、米国でも見たことはありません。香港ではこの日に試験があるなどの予定が公開され、その日に欠席すると成績は取り返しのつかないことになるが、多少遅刻しても問題はないです。出席という行為そのものは全く成績に関係がないです。シンガポールでは更に進

んでいて、講義の録画がすぐにアップロードされます。シンガポールでは夏場は気温がものすごく上がり、通学することが拷問のような状況にもなります。クラスに一度も行かずに修了する学生もいます。また、米国でも、学生に授業参加させるために出席点を取るということはありません。米国では授業の内容で勝負します。授業が非常に興味深い内容で、むしろ学生としては欠席したくない気持ちにさせられます。(中略) 学生が授業をサボるようなことがあれば、教員は自らを見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。もしも授業の内容が学生にとって重要でありそれが伝わるのであれば、必然的に私も授業に参加します⁶⁸。」ここで参照されている米国の大学はアイビー・リーグの上位校であり、日本の教育システムとの違いは存在するものの、教育に対する本質的な投げかけを行っている。*著者が和訳。

また、本稿でも取り上げたが、実際に教室で授業に参加する学生と遠隔から参加する学生に対して教員による評価にばらつきが発生する可能性も想定されるため、成績評価方法の透明性の確保が大事である。民間企業で導入が進んでいる360度評価のように、単なるアンケート調査ではなく学生が教員を評価する手段や、学生が他の学生の授業貢献度などを評価する手段のように多様な評価手段の検討余地がある。

また、オンライン授業が地方創生に寄与する可能性について、シンクタンクのJさんからは「働く場だけでなく教育の場が地方にない。一流の授業を一からフルではなくとも時折対面があったりして、地方にいても(そういった授業が)受けられるんだよ、というのはこれからの方策として考えていかないと」という意見があった。例えば自治体が東京圏等の大学に地元に住したまま遠隔進学する学生を支援する取り組みを行えばJさんの問題意識は、かなり解決されると感じる。また、政府は東京圏から地方への移住者に対する金銭的な支援を打ち出しているが、東京圏に在住しながら地方大学にオンライン授業(時折対面のため地方へ移動)で入学する職業人学生に対するインセンティブの検討も、将来的な移住に向けた関係人口創出の第一歩につながる可能性がある。

その上で、【地方連携】として複数の公共政策大学院が国内ダブルディグリープロ

⁶⁸ I have never seen similar thing either Hong Kong, Singapore, or United States. In Hong Kong they would tell you that maybe this course will have in class exams and if you don't come on that day you are dead but if you are little late to class that is still acceptable. Attendance does not matter at all. And in Singapore it is even better because they always upload quickly the recording for lectures. And because Singapore is very hot in summer it is quite a torture to go to class room Some people finish class by watching video never going to classroom. And in United States it is another case, teacher never use attendance as a tool to secure attendance. They use content of the teaching. What they teach is so interesting that you don't want to miss out which is quite different from Kohara. If people don't want to attend you should reflect on yourself whether your class is relevant to students, if it is, I will naturally be there.

グラムなどで遠隔連携を行う仕組みがあれば、地方創生に寄与する可能性はさらに広がる。地方在住の個人が都市部に住まなくとも遠隔から授業を受けられることはもちろんのこと、都市部の公共政策大学院にリモートで通う職業人学生にとっては地方大学院が持つ地域活性化などの独自コンテンツを魅力的に感じる可能性は大きい。国家公務員の E さんは、地方大学における授業のオンライン履修や聴講の可能性について「興味ありますね。論文とかみたときに興味あるとき、そういう先生の授業にオンラインで受けられたらいいな、と思いますね」と述べている。また、職業人学生向けのカリキュラム提供を断念した大学院の多くは実務家教員の確保を課題としているが、オンライン授業を中心とした遠隔クロスアポイントメント制度などの活用により、大学院側にとってのリソース確保手段の選択肢が増える。更には、コロナ禍において留学生が日本に入国できずに母国から講義に参加している状況を踏まえ、国内だけではなく海外大学院との遠隔連携も強化できる。渡航について心理的・経済的なハードルがある日本人学生にとってもオンラインでの海外大学院へのチャレンジは比較的チャレンジしやすく、語学力強化も期待できる。

5-2) 教育機関における変革の必要性

2つ目の提言はリカレント教育を提供する大学等の教育機関側に向けて行う。教育機関は職業人含めた多様な学生を受け入れるための学習環境の整備が必要である。また、授業の中身や目的に応じて対面及びオンラインの環境を使い分ける【ハイブリッドラーニング】が強く求められていることが M-GTA 分析からわかった。具体的には、大学での学びを最大化するために、【大学における学習環境の改良】や【多様化する学生向けの環境整備】が求められていた。まず、難易度が高い授業が繰り返し聞けるように、録画データの公開を希望する声大きい。国家公務員の E さんの次の言葉が、職業人学生の希望を的確に表している。「授業によるかなと思うんですよね。ゼミ形式とかディスカッションの方がそりゃ対面の方がいいと思うんですよ。ただ、レクチャー形式の授業とか、何か法律的なことを学ぶとか、特にオンラインで聞くことで差し支えないですし、対面とかであればレコード（録画）できないと思うんですよね。こんな難しい授業をレコードされないなんて到底単位取れなかったと思うんですよ。好きな時間に復習できる環境がすごく良かったと思います。」学業と仕事や家事・育児・介護との両立を可能にするオンライン授業は、満足度が高く、コロナ後も継続してほしいという要望が圧倒的に多い。*（）は筆者追加。

一方、上記 E さんのコメントでも触れられているように、ゼミ形式などオンライン授業よりも対面が望まれる授業も存在する。また、他の学生との横のつながりの構築を重要視する職業人学生が多く、それをオンラインで実現するのは困難なため、対面授業を求める声も存在した。士業に従事する C さんは現在の状況について、「人間関係がブチ切れてしまっている。オンラインだから雰囲気とか分からない。名前が表示されるだけで。そう意味

ではドライですよ。本郷キャンパスの雰囲気もったいない。事務所からキャンパスまで近いので。雰囲気を味わうというのがなくなってしまった。赤門くぐって安田講堂、図書館あって。厳粛な雰囲気というか、勉強しに来ているという空気を味わいながら。今は画面の中の空気だけなんで。寂しい気がする。山上会館で飯食ったりとか、そういうものも大学の思い出として残る。」と語る。アジアの政府関連機関の T さんも横のつながりについて「(知り合いは) 3人くらいいるんですけど。現場授業一回やったんですよ。そのとき以外はいないです。皆外国人です。横のつながりをオンラインでつくるのは不可能です」と答えている。
* () は筆者追加。

コロナ禍における急務且つやむを得ないオンライン化を踏まえ、大学側の早期の改善を求める声も多く存在する。民間で社外取締役を務める M さんは大学院に対して「一人一人の学生に対して、メンターとは言わないけどアドバイザー的なものがあつたら良かったかもしれないですね」といった大学側からの機会の提供を求めた。特にコロナ禍においては横のつながりが全くできないといった声も多く聞かれ、外資系コンサルティング会社の N さんは「事務的なことは大学のアドミンにメール連絡しますが、授業でキャッチアップ出来ない場合に相談出来る相手がいないのが厳しいです。コロナ禍のため実質放送大学に通っているのと変わらない感じではあるので」と語る。国家公務員の E さんも「私社会人になって3年目で、大学時代から学ぶことで時間が経っていないので授業履修したりは大学の延長というのはイメージで来たんですけど、これがリカレントで10数年ぶりの方は難しいんじゃないかと思いました」と述べ、ある程度社会人経験を積んでからリカレント教育に挑戦している職業人の悩みについても触れた。

アジアの政府関連機関の T さんは留学生目線から見たコロナ禍における大学のサポート体制について更に厳しい思いを共有した。「新生が会う機会も一回もなかった。先輩ともなかった。全体が難しいならコースごとに分ければいいと思う。新生に対する、まー、何もないですね。PDFのファイルだけ。きついです。学生証も、自分から聞いて、もらいに行く。これはだめですよ。私が行ったときは学生証がすごく(窓口に積んで)ありました。メール1通だけ(でもあればよかった)。隔離が終わったら学生証とかロッカーのキーもらいに来てください、というそれだけでも送れば便利なのに。窓口行って、説明して、担当者見つけて。会社から来てるから気楽だけどお金ない学生は厳しいですよ。」Tさんは学部時代に日本の大学に交換留学していたこともあり日本語が堪能なため、自ら解決する糸口を見つけれられた。ただ、それでもコロナ禍において入国後の隔離期間が設けられ不安な思いに駆られる中、大学側から入国時に連絡がなかったことを課題に感じつつ、他の留学生も考慮して Tutor 制度の提案を行った。「(Tさんが交換留学した日本の大学)ではちゃんとやってたし、ほとんどの会社組織でやってるけど、Tutorが一番いいですよ。その制度。先輩とか同級生、日本人も、すごく役に立つと思いますよ。(日本の大学名)ではそれがあ

ったんですよ。日本の学生がキャンパス案内してくれたり、図書館カード作ってあげたり。学校からその Tutor にバイト代が出るというシステム。日本の学生もコロナでバイト減ってるんでしょ。役に立つと思いますよ。今の学部から来た日本人学生と、私のような仕事経験者を Tutor、すごくいいです。同じ業界や異業界の交流もめっちゃいいですね。」

中国からの留学生である U さんも同様にメンター制度を提案した。「中国ではメンター・メンティー制度があります。入学後、大学側が 1 人担当をつけ、人生相談からキャリアまで色々な相談に乗ってくれ、学業についても質問できます。その人は大学側と直接的なパスがあり、経営層に対しても直言できるため、問題解決につながります。経験値も溜まるため、問題が起きた場合には解決のための異なるオプションの提示もできます。これらのメンターは大学側のスタッフです。また、学生同士の Peer system も存在します。入学後、自動的に学年が上の学生に対して 4-5 人の新入生をつけて、適宜アドバイスをを行う関係になる。ただ、このシステムがうまく機能するかは文化的な側面も重要です。シニアな学生がジュニアな学生に時間を投資するカルチャーの場合は効果的ですが、例えば東京大学ではメンターがつくものの、彼女は私に全然話しかけてくれません。シンガポールでも同様のシステムがあり、オリエンテーションも良いですし先輩後輩の助け合う文化も存在しますが、日本ではあらゆることや関係性にやや距離が存在することが驚きです⁶⁹。」 *著者が和訳。

メンター・メンティー制度の導入など、コロナ禍における一歩踏み込んだ大学側の学生支援は全ての学生にとって急務である。また、今回のインタビューの際、研究論文やリサーチペーパーの執筆予定について質問したところ、コロナ禍に入学した学生の多くから執筆したい意思はあるものの、指導教員を見つけられるか不安、そもそも何をすればいいかわからないといった声が聞かれた。アジアの政府関連機関の T さんは研究論文について「元々は書こうと思ったんですけど今は考えてます。専門職、東京大学の博士にはいかない

⁶⁹ In China there is a system like a mentor and mentee. As soon as you enter the university the university will assign one person who will take care of your all of your life and career and all that issues, and you can go to this person during the study in university. He can basically help in anything and have direct channel in university including high level official so he can further report out and things can get solved quite easily. They can find other alternatives because this person is quite experienced in all that kind of things. The mentors are staff of university. But there is also a peer system, they automatically assign a senior student, he or she have 4 to 5 junior students and you can always go to this student for any advise. This works quite well but I think it depends on how is the culture of that university. If it is a culture that seniors will invest a lot for junior students, it will help drastically but in U-Tokyo I also get one mentee but she never talks to me so I think I don't see the culture here that senior will build that personal connections with juniors and help them. In Singapore it is the same, and the orientation is quite good and there is also similar junior senior relationship there so I am quite surprised that in Japan everything feels quite remote.

ので、それと、もう一つは、リサーチペーパーとか、指導先生の OK サインが必要ですよね。公共政策大学院の職員たちは、ゼミとかそういう制度がない。一年間先生に直接会ったことがない。どうやって指導教員にお願いすればいいか分からないし、自分の興味に合う先生が誰なのか分からない。先生の興味分野と私のがマッチすればベストですけど、私が頼んだトピックが、先生に興味ないと難しいし、どんな人がいるか分からない。GraSPP は掲示板に提出期限しか書いてない。だめですよ」と述べた。教員と学生の接点を増やす活動に加え、職業人を含む学生同士のネットワークが強化されれば、お互いに助け合う共助も期待できる。ただ、現時点では入学時の同期や、誰が職業人かといった情報は提供されず、個々人の能動的な努力によって大きく状況は異なる。著者は 2019 年に入学し、1 年目は対面式の授業だったため、その際に職業人や非職業人学生など、多くのつながりを構築することができたが、2 年目は授業でできた友人は 5 名程度だった。

中国人留学生の U さんは同じ講義で良い意見を述べた学生に対しては積極的に Zoom 上からプライベートチャットを送り、オンラインでのコーヒーチャット（雑談）の機会を設けている。U さんは日本人学生（職業人学生に特定しない）について感想を述べた。「友人からは日本人は全体的に恥ずかしがりやが多いと聞いています。日本語のクラスに出ていた時、1 学期が終わっても日本人学生は誰の連絡先も取得していなかった。日本人は連絡先を聞くことを恥ずかしがっている様子でしたが、横のつながりを構築せずに知識だけを一方的に吸収するのでは、わざわざ大学院に来る必要がなく、他にもオンラインなどでも学ぶ手段はたくさんあります⁷⁰」とつながりを積極的に構築することの重要性や姿勢について述べた。

日本人が受け身な姿勢という意見を踏まえ、大学院として、学生同士、そして可能であれば【職業人学生ネットワークの構築】を大学側が用意し、コミュニケーションがスタートできる機会の提供は入学時に必ず実施すべきと考える。また、現在は主にウェブ会議機能である Zoom が使われているが、横のつながりを発展する上では学生は LINE や Teams など、個別のツールを使っている。ウェブ会議単体の機能だけではなく、総合的なコラボレーション機能を搭載したツールを全学で導入することが望ましい。

学生同士の中でも、共通した課題を多く共有する職業人のつながりが一度大学院

⁷⁰ Generally I heard from my friends that people in Japan are kind of shy. I had some classmates from Japanese class I was attending after one semester nobody was getting contacts of other people because they were shy to get contacts of other people. Then it will be purely lessons and if you only want the knowledge there are many other ways than doing these schools.

側の調整で構築されれば、その後は自主的な発展につながり、卒業後も在学生に対してサポートするなど、関係性が中長期的に続くことが期待される。また、職業人に対するインタビューにおいて、東京大学公共政策大学院のOB/OG会についての認知度はまちまちとなり、現時点で入会しているのは1名となり、多くが一応入会はすると思うが、活動については理解も期待もしていないといった声が聞かれた。職業人のつながりは卒業後のOB/OG会におけるネットワーク活性化や将来の職業人学生のリクルーティング活動にも寄与するため、大学院側の支援体制強化を提言する。

オンラインと対面のハイブリッドラーニング環境実現のためには、ハード面・ソフト面の整備にかかる政府からの補助も必要となる。教育機関向けの補助はもちろんのこと、例えば家庭でインターネット環境がない学生（職業人学生ではなく学部卒の学生を想定）に対する支援も必要となる。東京大学および慶応義塾大学のクロスアポイントメントを受けている鈴木寛教授は、通信会社による学生に向けた安価な料金体系の提供（通信料の大幅な値下げ）を提言しており、これは日本政府が求めている一律値下げ以上に通信会社にとって社会的にも望ましい手段と考えられる。また、テレワークが普及すれば、在宅でインターネット環境を整備する動きも増えるため、通信会社による創意工夫に加え、日本政府や自治体が提供しているテレワーク補助金の活用条件の柔軟化も望ましい。現在のテレワークに関する助成金は専用性が審査時に重視され、例えば厚生労働省が提供する助成金ではテレワーク以外の用途には一切認められないといったケースがある。インターネット環境の整備については学生が教育に使用することを認めるべきと考える。

尚、コロナウイルスが終息し、学内における対面式の講義が戻ってきた際の教育機関側の取り組みも提言する。学生にとって、大学時代の就業体験が将来的な職業レリバンスにつながるという先行研究⁷¹を考慮して、【コワーキングスペース・コラーニングスペースの学内設置】を実現し、職業人と学生の接点を増やすことが長期的なリカレント教育普及のために望ましい。テレワークが広がり、コロナウイルスの影響が収まった際には在宅と職場以外の選択肢であるコワーキングスペースが再度注目される可能性があるが、それを学内に設置して開放することで、学部卒の学生は身近で職業人の働く姿に触れることができる。地方大学と東京圏の大学連携が進めば、例えば地方大学内に設置されたコワーキングスペースにて、地方在住の非職業人学生が遠隔にある企業へテレワーク型のインターンシップなどを行い、そのまま地方に在住したまま就職するケースなど、新たな就労の形が増える可能性がある。更には大学内にいる職業人学生と、学び直しを行っていない職業人の接点を増やすため、大学側がコワーキングだけではなく、コラーニングの機能を持たせたハイブリッド環境を物理的に提供することも効果的と考える。そこでは、授業の一部無料聴講に加え、

⁷¹ [豊永耕平, 2018]

1 週間から 1 ヶ月程度で修了証が得られる短期集中型のカリキュラム提供も検討の余地がある。当然ながら、【多様化する学生向けの環境整備】として、キャンパス内における授乳室の設置や掲示板に貼り出される情報のデジタル化、多言語化対応などが合わせて必要になる。

5-3) 東京大学公共政策大学院による取り組みの強化

最後に、これまでの先行研究や M-GTA 分析内容から教育機関の中でも東京大学公共政策大学院に特化した提言を行う。職業人学生の枠を増やすことで、学部からそのまま進学している学生に対しても意義があるという前提に立った提言となり、これまでの内容と一部重複する。尚、職業人学生を増やすには、退職や休職を伴うケースではなく、キャリアを中断しないリカレント教育を念頭に提言を行う。

まず出願プロセスの【デジタル化の推進】や簡略化が挙げられる。出願から卒業までに、全てをオンラインで完結できる仕組みを、日本語および最低でも英語で実現することが不可欠である。また、入学時に「学業に専念させる旨の上長からの誓約書」は撤廃し、成績評価や面接で職業人を公平に評価することが望ましい。更に、成績が著しく低い場合は放校処分なども検討の視野に入れるべきと考える。更に、東京大学出身の学生については成績証明書をオンラインで大学院に連携できるような仕組みの導入も挙げられる。

次に、【大学における学習環境の改良】として職業人に配慮したカリキュラムの実現が求められる。現在、仕事と学業を両立する職業人学生にとってはタイムマネジメントが困難なカリキュラム設計といえる。たとえば 1 限や 6 限、土日などに基幹科目などの必修単位が取得できる授業枠を拡大することや、キャリアを中断せずに学修し、学位ではなく修了証が授与される短期エグゼクティブ向けコースの導入も効果的と考える。海外と比較すると、東京大学に限らず、日本の公共政策大学院ではエグゼクティブ向けのプログラムが不足しているといえる。1 年や 2 年間の履修は強いコミットメントやキャリアの中断が必要になるが、短期プログラムの提供により、企業や公務員の幹部層が集中的に公共政策に関するスキルを習得することができる。また、英語やオンラインでも開講することで他国の企業や公務員の幹部層との交流にも繋がる可能性がある。こういった短期集中型の選択肢があれば、所属する組織も従業員をリカレント教育の場に送り出すハードルが下がるといえる。まずは、多くの職業人がより身近に、そしてより容易に学びの機会に触れる環境を大学側が用意することで、将来的な職業人学生の増加が期待できる。

次に、【職業人ネットワークの構築】や強化である。職業人学生が共通の悩みや展望を持っていると仮定し、全体オリエンテーションだけではなく、職業人学生同士をつなげ

るオリエンテーションを大学院側が入学時に提供することが望ましい。また、教員や学務スタッフによる職業人向け相談担当の設置や、リソース的に難しいようであれば職業人の先輩・後輩・卒業生によるメンター・メンティー制度が導入されることで、新たに入学した職業人に対するサポート強化にもつながる。仮に卒業生がメンターとして在学を支援する場合、例えばインセンティブとしてメンター期間中は卒業後も講義を限定的に聴講できる権利等を付与することで協力が得られる可能性はある。(そのような機会があれば著者は積極的に参加する)

対面式の授業とオンライン授業を組み合わせた【ハイブリッドラーニング】環境の整備は不可欠である。ゼミは対面、講義形式はオンラインなど、授業によって使い分ける方式に加え、職業人にとってはオンラインの選択肢を常に提供することで、キャリアを中断せず、また介護や育児との両立も図れる可能性が格段に高まる。更に、教員とのウェブ会議の機能だけでなく、学生がお互いに共同作業やウェブ会議をするための機能が備わったコラボレーション IT ツールの導入や、ITC-LMS と UTAS が履修登録などでワンストップ連携するなど、全学における改良も求められる。更には、IT に苦手意識のある教員には学生が単なるヘルプデスクではなくオンライン上の学生に発言を促すファシリテーター的な役割も担って補助する役割を与えることも将来的なキャリア構築のスキルとしても有益である。また、履修登録前のショッピングウィークの授業は全て録画を必須にして即日公開することや、基本的には全ての授業を録画して学生が出席できなかった場合でも自主的にキャッチアップできる体制が望まれる。

そして成績評価については、これまでの対面式授業を前提とした仕組みを大幅に見直すことが望ましい。出席点を廃止し、発言回数や授業への貢献度で評価すること、そして【ハイブリッドラーニング】環境では教員が対面参加している学生を優遇しないよう、レポートのルーブリック評価など、透明性の確保が不可欠である。そして他の学生のアイデアを盗用したり、グループワークに貢献しないいわゆるフリーライダーを防ぐため、教員が学生を評価するだけではなく、学生同士による Peer review、学生が教員を評価する 360 度評価などを検討すべきである。現状、学生アンケートも成績評価が出る前に締め切れ、期待値がずれた際のクレーム先が不在である。成績優秀表彰のクライテリアも公表し、また、GPA 1 位だけではなく、GPA ランキングの上位 10 名は氏名を公表するなどのインセンティブを付加することが望ましい。また、オンライン対応に遅れが目立つ法学部法律系の試験方法については改善を望む声がインタビューの語りからも多く聞かれた。ひたすら一方通行にて学生からの質問を受け付けない講義を行い、期末試験による一発評価型はオンライン環境では課題があり、職業人はインタラクティブな学びの場を求めている。大学院では質問を積極的に受け付ける授業スタイル(例：経済系科目)やディスカッション中心(実務家教員)を高く評価し、強く求める声が M-GTA 分析からも明らかになった。

更に、東京大学公共政策大学院においては現在、インターンシップは任意になっているケースが多いが、職業人学生含め、省庁、地方自治体、海外大使館等（遠隔）への公務員インターンシップや民間のパブリックアフェアーズ部門へのインターンシップを必修化することで、公務員と民間の交流にもつながり、将来的なりボルビングドア⁷²の実現や公務員人材の多様化も期待できる。また、米国における「The Presidential Management Fellows Program（以下 PMF）」では、国内外の公共政策大学院等で優秀な成績を修めた米国人学生をパブリックセクターで確保するため、広く公募を行い、厳正な審査の元に選抜者は公式ウェブサイト上で氏名と大学名が記載される。それらの選抜者には給与が提供されるフェローシップが提供され⁷³、個人のキャリアパスにとっても有益な影響を及ぼす。こういったプログラムが確立されるためには公共政策大学院等における成績評価の信頼性や教育の質を評価する認証制度が強化される必要⁷⁴があるものの、日本全国の公共政策大学院がアライアンスを組み、政府への提言と連携を行う余地はあると考える。また、国内の公共政策大学院が遠隔連携し、教員のクロスアポイントメントや国内ダブルディグリー制度などの仕組みを検討することにより、居住地を変えることなく遠隔で授業を受けつつ、フィールドワーク型の授業などで都市部から地方への関係人口を創出できる【地方連携】の可能性もある。

職業人学生から実務家教員への満足度が相対的に高いことを踏まえ、【実務家教員の拡大や連携強化】など、理論的体系的な学びと実務の接続を意識したカリキュラムを設計することが望ましい。例えば実務家教員とアカデミック教員による Team Teaching などの講座を増やすことは効果的と考えられる。また、民間のパブリックアフェアーズ部門などの実務家教員を増加することで将来のキャリアパスの多様化が見込め、職業人が入学するインセンティブが増す。更には、前述のインターンシップ提携団体の拡充や交渉のため、実務家教員が大学院のマネジメントにより関与していくことも学習環境の活性化につながる可能性がある。これまでは法学部と経済学部のアカデミック分野の教員が大学院長に就任することが多い中、実務家教員によるトップ就任もリカレント教育を志す職業人学生向けの環境強化という観点において選択に含まれるべきと考える。

多様な学生を受け入れ、そして日本人学生も含めた交流を活性化させるための【多様化する学生向けの環境整備】が必要である。多言語対応などの環境整備はもちろん、合格か不合格のみを成績に記載する（GPA に影響しない）英語授業を設置し、必修化することで、

⁷²国家公務員から民間、民間から国家公務員といった経験者（中途）採用を前提としたキャリアパスの多様化

⁷³ [The Presidential Management Fellows (PMF) Program, 2020]

⁷⁴ [坂本勝, 2007]

学生全員がグローバルな視野を獲得し、語学力向上が期待される。組織派遣の職業人学生は成績報告義務が課せられているケースが多く、英語に苦手意識を持つ職業人学生は意図的に英語による授業を極端に回避して卒業することがあり、東京大学公共政策大学院では職業人・学部卒・留学生の分断が目立つため、この分断を回避するための方策にもなり得る。更には、海外大学とのオンラインダブルディグリーや共同授業により経済的な理由や、仕事との両立により海外留学を断念する職業人にとっては大きな魅力となる可能性がある。一方で、オンライン上で横のつながりが形成される機会の提供や仕組みづくりは必須となるため、前述のネットワーク構築は合わせて必要である。

最後に学生目線の PDCA 構築が必要である。大学側のサポート体制については支持する意見と支持しない意見が存在し、基本的には大学側は学生に対して放任主義という意見も出る。ウェブサイトに掲載される情報を充実化し、アクセスやインターフェイスを向上することで問い合わせそのものを減らす努力は必要だが、常に環境が変化する今日において、大学に対してフィードバック体制を強化することは重要である。学部卒の学生だけでなく職業人に特化した課題（例：入学から期間が経過していることによる履修計画、他大学の卒業生にとっての施設やツール利用など、初歩的な質問をする先がない等）の特定することはもちろん、ポジティブなフィードバックも伝えられることで業務品質の向上や職員のモチベーションの向上にもつながると考えられる。また、学生から教員に対するフィードバックを強化し、例えば学生が選ぶ「Best Educator of GraSPP 2021」などの表彰制度を設立し発表するなど、限られた学生同士が入手可能な口コミ情報だけではなく、人気の講座を全学生が特定できることで教員同士の健全な競争意識や緊張関係が醸成されることも期待される。尚、表彰については実務家教員部門とアカデミック教員部門、もしくは法律、政治、経済で分け、複数名の表彰が望ましい。

繰り返しとなるが、これらの提言を実現するためには大学院だけではなく、個人や所属組織に至るまで徹底的なデジタル化の推進が必要になる。そして、デジタルはあくまでも手段であり、中心には人がいるということを忘れてはならない。コロナ禍において遠隔授業が続く中、多くの学生が対面式の授業を求めていることも事実であり、教員や学務含めて見えないストレスと日々戦っている。まだ先が見通せない状況ではあるが、デジタルを活用しつつ、横のつながりの構築やメンターなどはテクノロジーを上手に活用しつつ、人間が直接介入する必要がある。企業のテレワーク普及含め、デジタル化を行うことで業務や課題の見える化にもつながるため、そこで無駄を排除しつつ、デジタル化で捻出した新たな時間を人と人のつながりや教育など、最も大切な領域に投資するという意識が最も求められる。

■東京大学公共政策大学院に向けた 10 項目の提言

| # | 項目 | 提言内容 |
|----|-------------------------|--|
| 1 | 枠 | 職業人選抜枠の拡大 |
| 2 | プロセス | 出願プロセスの改善、デジタル化、多言語化 |
| 3 | カリキュラム | 職業人に配慮したカリキュラムや環境の実現、短期集中プログラム（修了証）の導入 |
| 4 | ネットワーク | 職業人学生同士のネットワーク提供と強化、メンター・メンティー制度の導入 |
| 5 | ハイブリッドラーニング | コロナ後も遠隔授業の継続、対面を組み合わせたハイブリッド環境の実現 |
| 6 | 成績評価 | オンライン環境に合わせた成績評価や授業手法の改善 |
| 7 | 他団体との連携強化 | インターンシップの必修化、地方公共政策大学院等との連携強化 |
| 8 | 実務家目線の強化 | 実務家教員によるカリキュラム、カバー範囲の拡大 |
| 9 | 多様な学生の受入れ/交流、 教育機関連携 | 英語授業の見直しや必修化、国内海外大学院との遠隔連携強化、介護・育児との両立環境 |
| 10 | 学生目線のPDCA構築 | 学生から大学・教員に対するフィードバック機能の強化 |

おわりに

本稿では日本において長年リカレント教育が普及してこなかった課題について検討を行い、リカレント教育に影響を与える外的要因とその変化について先行研究やM-GTA分析を通じて考察を行ってきた。特に筆者が在籍する東京大学公共政策大学院は現在、そして将来的にパブリックセクターに関わる人材が多く、本学における職業人学生の増加は、日本全体のリカレント教育政策に寄与するという思いから提言を行った。しかしながら、本稿でカバーしきれないテーマも多岐にわたる。例えば、ハイブリッドラーニング環境で学生個人の習熟度を高めつつ横のつながりも構築するための工夫、ジョブ型雇用に変革した際に求められるスキルを持っていない従業員（もしくはリカレント教育を行っても習得に課題のある従業員）に対する対応や解雇規制の在り方や国としてのセーフティネットや職業訓練、大学院以外の教育機関等のリカレント教育手段における検討、公共政策大学院の職業人卒業生が国家公務員や地方公務員になるキャリアパスの多様化（リボルビングドア）、リカレント教育が広がらない要因である日本社会のダイバーシティの課題（女性管理職や女性議員比率の増加させる手段）など、議論しなければならない複雑な課題は山積している。

また、参考情報に記載するが、ビッグデータやAIを用いた分析など、デジタルをより活用した研究手法も期限の関係から実施できなかった。今日のテクノロジーでは、例えばインタビューデータに対してテキストマイニングを行い、学生たちが繰り返し用いる単語の抽出やポジティブ・ネガティブ分析なども可能である。更には、インタビュー対象者の許諾が得られれば、オンラインインタビュー時の表情をAIで解析することで言葉には現れない感情が分析できる可能性がある。コロナ禍においてウェブ会議やデジタルが中心だからこそ取り組める研究手法にも挑戦していきたい。

現時点ではコロナウイルスがもたらした急激な変化により、これまで少子高齢化や AI 時代において仕事が奪われるといった、個人にとってはいつ訪れるか分からない漠然とした不安ではなく、所属組織の業績悪化や失業、健康不安と言った身近な不安が拡大し、それが個人レベルへの危機感となってリカレント教育の広がりにつながってきているといえる。この危機感を企業や教育機関、そして政府が同じレベル感で共有し、部分最適な政策ではなく全体最適を意識した政策を実現するためには、メディアを含め、マルチステークホルダー間の連携が不可欠である。そのためには、これまで最も多くの国会議員や官僚を輩出している東京大学の大学院である東京大学公共政策大学院が果たせる役割は非常に大きい。また、デジタル化もリカレント教育も手段に過ぎず、個々人が主権者として、目的に応じて戦略的に選択していくものであるということは忘れてはならない。日本や世界においてコロナウイルスは引き続き甚大な被害を及ぼしているが、世界で最も少子高齢化が進む日本が、コロナういった前から抱えていた中長期なリスクを乗り越え、世界の模範になるための「機会」に転換するためには、リカレント教育の普及は不可欠な政策の一つである。

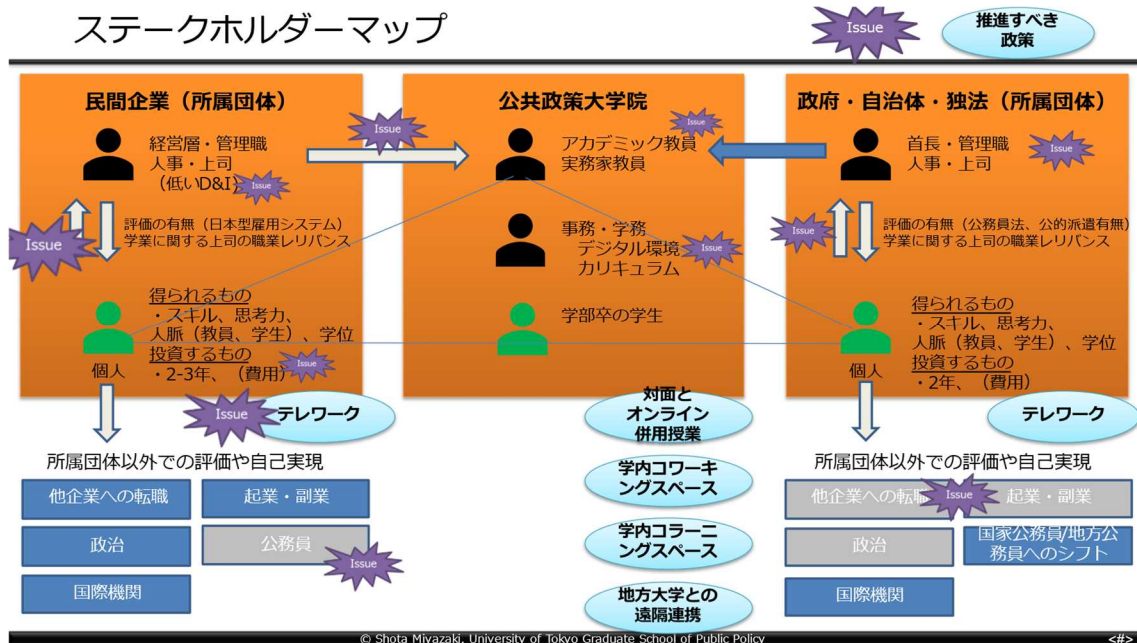
著者は学部を卒業し、就職してから 15 年近くが経過したタイミングにて「間断なきリカレント教育」に挑戦した。テレワークやコロナ禍におけるオンライン授業などを駆使しながら、仕事と学業をそれぞれ 100%以上の状態で両立して 2 年間で卒業することができた。成績評価も GPA 4.0 に近い結果で終えることができた。また、授業を通じた学びだけではなく、魅力的な職業人や学部からそのまま進学した優秀な学生、そして日常生活では到底出会うことができなかつた多彩な教員からの学びや交流など、大変充実した経験が得られた。一方で、常に厳しい期日に追われる日々を過ごし、特にコロナ禍においては IT 業界として業務負荷が大きく増加したこともあり、タイムマネジメントの難しさなど多くの課題に直面した。そのため、自分一人ではなく、業務含め、たくさんの方に支えられ、励まし合うことで乗り越えられた実感がある。それら全ての経験が「学び」であり、また、新たな領域を「学ぶ」という行為に対して抵抗がなくなり、より意欲的になれた自分がある。自宅の書棚を見れば、入学してから 200 冊以上の書籍を読み込んだことに気付かされる。教育については「脳の筋トレ」や「学び方を学ぶ」といった表現を用いる文献がある。大学院におけるリカレント教育はただ単に仕事に必要なスキルの習得という観点だけではなく、自分の興味範囲外の文献も大量に読み込み、苦手な分野についても限られた時間内で徹底的に考え抜き、他者のフィードバックも得ながら自分なりのロジックを用いて議論するなど、個人のキャパシティやコンフォートゾーンを無意識に、そして強制的に広げてくれた。大学院における経験は間違いなく社会人基礎力の向上につながり、仕事にも大いに役立っている、もしくは自らの意志や努力によって役立てることができると確信する。急速なテクノロジーの進歩などで過去の常識が通用しなくなり、先が見通せない人生 100 年時代を、公私ともに豊かに生き抜くためには様々な工夫が必要である。その中で、何度でも学び直しを行う柔軟性や意識 (Growth Mindset)こそが不可欠な武器であり、リカレント教育の意義の

一つである。著者としても日本におけるリカレント教育の普及に微力ながら貢献し、再度リカレント教育のステージに必ずや戻ってきたい。

謝辞

コロナウイルスの影響により日々様々な負担を強いられる中、本稿の執筆に当たり多くの現役や他学の職業人学生、卒業生にオンラインや書面によるインタビューにご協力いただいたことを心から感謝申し上げます。インタビューは限られた時間内ということもあり、十分にヒアリングできなかったことやインタビューデータのさらなる分析が可能な状況で一旦執筆を終えることが非常に心残りですが、今後も研究を続けていきます。そしてコロナ禍で横のつながり構築が困難になった中、インタビューを通してたくさんの方のつながりを得られたことに感謝し、緊急事態宣言が解除された際には職業人ネットワークのハブ的な役割を果たすことで恩返しをしたいと考えています。また、本稿の指導教員として、そして事例研究等の教員としても一生のキャリアに役立つ貴重な学びを数え切れないほどいただき、業務の影響からご迷惑をおかけしながらも真摯にご指導をいただいた鈴木寛教授に心より御礼申し上げます。更に、本稿の審査をいただいた城山英明教授、有馬純教授にはお忙しい中限られた時間内で審査にご対応いただき、研究論文を改良するための真摯なフィードバックをたくさん頂戴したことへの感謝とご迷惑をおかけしたお詫びを申し上げます。そして多くのアドバイスや履修時の学びやサポートをいただいた東京大学公共政策大学院の教員の皆様、学務の皆様、そして年齢を超えて共に大変楽しい学生生活を送らせていただいた学生の皆様に深く御礼申し上げ、卒業後もこの素晴らしい関係性が続くよう努めていきます。本当にありがとうございました。

参考情報①：ステークホルダーマップ



参考情報②：インタビューのテキストマイニングや感情分析

研究におけるテクノロジー活用- より深いInsightを得るための利活用を検討



研究におけるテクノロジー活用- より深いInsightを得るための利活用を検討

The screenshot displays a Microsoft PowerBI dashboard with the following components:

- Word Cloud:** A word cloud on the left side, with prominent words like '授業' (class), '思い' (thought), and '業務' (business).
- Table:** A table titled 'グループ 回答者 期間への在籍 (在学期) 性別 年代 出身学部 職業 転職経験 (入)' containing survey response data.
- Survey Questions:** A list of survey questions in Japanese, with question 19 highlighted in red: 'Gradyで学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか? 助の星3レと比べる?'.
- Pie Chart:** A pie chart showing sentiment analysis results for question 19: Positive (23.4%), Neutral (64.8%), and Negative (11.8%).

言葉の選択やニュアンスでPositive/Neutral/Negativeを分析 (Microsoft PowerBI)

研究におけるテクノロジー活用- より深いInsightを得るための利活用を検討

感情認識

怒り、軽蔑、嫌悪感、恐怖、喜び、中立、悲しみ、驚きなど、認識された表情を検出します。人の内面の状態を表すのは表情だけではないことに注意する必要があります。

The screenshot shows the Microsoft Azure Cognitive Service interface for emotion recognition. On the left, a group of people is shown with bounding boxes around their faces. A legend lists emotions and their scores:

- 怒り 0.00000
- 軽蔑 0.00000
- 嫌悪感 0.00000
- 恐怖 0.00000
- 喜び 1.00000
- 中立 0.00000
- 悲しみ 0.00000
- 驚き 0.00000

On the right, the JSON output for the detected faces is shown:

```

    検出結果:
    4 個の顔が検出されました
    JSON:
    [
      {
        "FaceRectangle": {
          "top": 114,
          "left": 212,
          "width": 65,
          "height": 65
        },
        "FaceAttributes": {
          "emotion": {
            "anger": 0.0,
            "contempt": 0.0,
            "disgust": 0.0,
            "fear": 0.0,
            "happiness": 1.0,
            "neutral": 0.0,
            "sadness": 0.0,
            "surprise": 0.0
          }
        }
      },
      {
        "FaceRectangle": {

```

顔の表情で感情を分析 (Microsoft Azure Cognitive Service)

参考情報③：参考文献一覧

■参考論文

- 中元崇. (2020). 「学び直しが評価されない日本社会の課題」 大学マネジメント 2019 年 6 月
- 本田由紀. (2020). 「世界の変容の中での日本の学び直しの課題」 日本労働研究雑誌 2020 年 8 月
- 岩崎久志. (2020). 「社会人大学院での学び直しに関する一考察」. 流通科学大学論集 人間・社会・自然編 - 第 32 巻第 2 号, 51-66 (2020)
- 岩崎久美子. (2020). 「学び直しに至る施策の変遷」 日本労働研究雑誌 2020 年 8 月
- 向後千春. (2020). 「社会人の学び直し - オンライン教育の実態と課題」 日本労働研究雑誌 2020 年 8 月
- 川山竜二. (2020). 「専門職とプロフェッショナルスクール-現代社会における専門職業知の誕生と脱魔術化」 社会情報研究第一号 1-7 (2020 年 3 月)
- 奥村旅人. (2019). 「社会人の学び直しに関する政策の現状と課題」. 京都大学大学院教育学研究科紀要 (2019), 65:247-259
- 竹澤聡, 三上行生, Jinkai Zhang, 長松昌男, 高島昭彦, 中村香恵子 (2017). 「社会人学び直し認定制度の定着に向けた同類型講座との比較と評価」 工学教育 65-5 (2017)
- 中島弘至. (2017). 「学歴主義と就職協定 (就活ルール): いかにかプレイヤーは振る舞ってきたか」 関西大学高等教育研究 2017-03-01 8 巻, 79-91
- 出相泰裕. (2016). 「職業人の大学院進学に向けての決断課程 -K 大学専門職大学院ビジネススクール在学生へのインタビュー調査から-」 大阪教育大学 高等教育研究第 19 集 (2016)
- 塹江清志. (1989). 「従業員の個人的特性と雇用策に対する意識との関係について 第 2 報 -学歴, 地位, 職種の効果」 産業・組織心理学研究 1989 Vol.3 No.1, 53-60

■参考文献

- 大槻達也, 小林雅之, 小松親次郎. (2020). 「2020 年以降の高等教育政策を考える グラウンドデザイン答申を受けて」 桜美林大学出版会
- 岩崎久志. (2020). 「学び直しの現象学—大学院修了者への聞き取りを通して」 晃洋書房
- 日本キャリア教育学会. (2020). 「新版 キャリア教育概要」 東洋館出版社
- 大内伸哉. (2020). 「デジタル変革後の「労働」と「法」 -真の働き方改革とは何か?」 日本法令
- 塩野 誠. (2020). 「デジタルテクノロジーと国際政治の力学」 NewsPicks パブリッシング
- 内藤琢磨. (2020). 「デジタル時代の人材マネジメント: 組織の構築から人材の選抜・評価・処遇まで」 東洋経済新報社

- 安宅和人. (2020). 「シン・ニホン AI×データ時代における日本の再生と人材育成」株式会社ニューズピックス
- 経済協力開発機構 (OECD) (編著), 井上裕介 (訳). (2020). 「高齢社会日本の働き方改革 生涯を通じたより良い働き方に向けて」明石書店
- シュライヒャー・アンドレアス (著). 経済協力開発機構 (OECD) (編). 鈴木寛, 秋田喜代美 (監訳). 小村俊平/平石年弘/桑原敏典/下郡啓夫/花井渉/藤原誠之/生咲美奈子/宮美和子 (訳). (2019). 「教育のワールドクラス 21世紀の学校システムをつくる」明石書店
- 大前研一. (2019). 「大前研一 稼ぐ力をつける「リカレント教育」(誰にも頼れない時代に就職してから学び直すべき4つの力)」プレジデント社
- 藤本昌代, 山内麻理, 野田文香. (2019). 「欧州の教育・雇用制度と若者のキャリア形成: 国境を越えた人材流動化と国際化への指針」白桃書房
- 海老原 城一, 中村彰二郎. (2019). 「Smart City 5.0 地方創生を加速する都市 OS」インプレス
- 大沢 真知子 (著, 編集), 日本女子大学現代女性キャリア研究所 (編集). (2019). 「なぜ女性管理職は少ないのか 女性の昇進を妨げる要因を考える」青弓社
- 鶴 光太郎. (2019). 「雇用システムの再構築に向けて 日本の働き方をいかに変えるか」日本評論社
- 石塚浩美. (2018). 「働き方と年収の壁の経済学」日本評論社
- イリス・ボネット (著), 大竹文雄(解説), 池村千秋 (翻訳). (2018). 「WORK DESIGN(ワークデザイン):行動経済学でジェンダー格差を克服する」NTT 出版
- 城山英明. (2018). 「科学技術と政治」ミネルヴァ書房
- 濱口 桂一郎. (2018). 「日本の労働法政策」労働政策研究・研修機構
- 本田由紀. (2018). 「文系大学教育は仕事の役に立つのか—職業的レリバンスの検討」ナカニシヤ出版
- 川廷 宗之 (編著), 安岡 高志 (ほか共著). (2018). 「専門職大学の課題と展望—社会人などの多様な学びを支えていくために」ヘルス・システム研究所
- 諏訪康雄. (2017). 「雇用政策とキャリア権—キャリア法学への模索」弘文堂
- 秋吉貴雄. (2017). 「入門 公共政策学 社会問題を解決する『新しい知』」. 千代田区: 中央公論新社.
- 遠藤 功. (2016). 「結論を言おう、日本人にMBAはいらない」角川新書
- 小野浩. (2016). 日本の労働時間はなぜ減らないのか? : 長時間労働の社会的考察. 東京都: 労働政策研究・研修機構 日本労働研究雑誌.
- 上杉孝實, 香川正弘, 河村能夫. (2016). 「大学はコミュニティの知の拠点となれるか: 少子化・人口減少時代の生涯学習」ミネルヴァ書房
- 日本教育工学会 (監修), 中山 実 (編集), 鈴木克明 (編集). (2016). 「職業人教育と教育工学 (教育工学選書II)」ミネルヴァ書房

- 山田 久. (2016). 「失業なき雇用流動化—— 成長への新たな労働市場改革」慶應義塾大学出版会
- 濱口 桂一郎. (2015). 「働く女子の運命」文藝春秋
- デレック・ボック (著), 宮田 由紀夫 (翻訳). (2015). 「アメリカの高等教育」玉川大学出版部
- 高橋和幸, 難波利光. (2015). 「大学教育とキャリア教育—社会人基礎力をキャリア形成に繋げるために」五絃舎
- 吉田 文. (2014). 「「再」取得学歴を問う—専門職大学院の教育と学習」東信堂
- 溝上慎一, 松下佳代. (2014). 「高校・大学から仕事へのトランジション—変容する能力・アイデンティティと教育」ナカニシヤ出版
- 金成 隆一. (2013). 「ルポ MOOC 革命——無料オンライン授業の衝撃」岩波書店
- 濱口 桂一郎. (2013). 「日本の雇用と労働法」日本経済新聞出版社
- 児美川孝一郎. (2011). 「若者はなぜ「就職」できなくなったのか?—生き抜くために知っておくべきこと」日本図書センター
- 吉田 文, 橋本鉦市. (2010). 「航行をはじめた専門職大学院」東信堂
- 森田 慎一郎. (2010). 「社会人と学生のキャリア形成における専門性」武蔵野大学出版会
- 池田洋一郎. (2009). 「ハーバード・ケネディスクールからのメッセージ 世界を変えてみたくなる留学」英治出版
- 本田 由紀. (2009). 「教育の職業的意義—若者、学校、社会をつなぐ」ちくま新書
- 早田 幸政. (2008). 「アメリカ公共政策大学院の認証評価システムと評価基準 NASPAA のアクレディテーションの検証を通して」公人の友社
- 坂本 勝. (2007). 「行政学修士教育と人材育成 - 米中の現状と課題 -」公人の友社
- OECD (編著), 清家 篤 (監訳), 山田篤裕 (訳), 金 明中 (訳). (2005). 「高齢社会日本の雇用政策」明石書店
- 杉村太郎, 細田健一, 丸田昭輝. (2004). 「ハーバード・ケネディスクールでは、何をどう教えているか」英治出版
- ジョセフ・S. ナイ, Jr. (著), ジョン・D. ドナヒュー (著), 嶋本 恵美 (翻訳). (2004). 「グローバル化で世界はどう変わるか—ガバナンスへの挑戦と展望」英治出版
- ジョセフ・S. ナイ, Jr. (著), デビッド・C. キング (著), フィリップ・D. ゼリコウ (著), 嶋本 恵美 (翻訳). (2002). 「なぜ政府は信頼されないのか」英治出版
- 城山 英明, 細野 助博, 鈴木 寛. (1999). 「中央省庁の政策形成過程—日本官僚制の解剖」中央大学出版部
- サロー(小池和男・脇坂明 訳) L.C. (1984). 「不平等を生み出すもの」. 同文館.
- 上杉孝實. (1984). 「日本大百科全書」. 小学館.

■参考ウェブサイト

- ITmedia NEWS. (2020年10月11日). Microsoft、オフィス再開後の働き方ガイダンス公開 50%未満ならリモート可、他. 参照先: ITmedia NEWS: <https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2010/11/news018.html>
- ITmedia ビジネス Online. (2020年11月13日). 生き残りをかけた ANA「400人出向」左遷ではなく"将来有望"のチャンス? 参照先: ITmedia ビジネス Online: <https://news.yahoo.co.jp/articles/5c92623b94f65585b836afc369f35f3f4235cb33?page=1>
- NHK. (2019年4月8日). NHK NEWS WEB. 参照先: なぜ? 東大生の“官僚離れ”: <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20190408/k10011876991000.html>
- YeapleRonald. (2014年3月17日). MBA Pay. 参照先: Forbes: <https://www.forbes.com/sites/ronaldyeaple/2014/03/17/mba-alumni-profile-2/?sh=75b6d48737c1>
- イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社. (2016年3月). 「社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究」. 参照先: 文部科学省: https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1371459_01.pdf
- デイリーBOOK ウォッチ. (2019年1月13日). 人生100年時代...カネばかりではない大切な「資産」とは? 参照先: BOOK ウォッチ: <https://books-j-cast.com/2019/01/13008526.html#:~:text=2016%E5%B9%B4%E7%A7%8B%E3%81%AB%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E,%E3%81%99%E3%82%8B%E3%83%99%E3%82%B9%E3%83%88%E3%82%BB%E3%83%A9%E3%83%BC%E3%81%AB%E3%81%AA%E3%81%A3%E3%81%9F%E3%80%82>
- 株式会社パーソル総合研究所. (2020年6月11日). 第三回・新型コロナウイルス対策によるテレワークへの影響に関する緊急調査. 参照先: 株式会社パーソル総合研究所: <https://rc.persol-group.co.jp/news/202006110001.html>
- 株式会社リクルートキャリア. (2020年8月4日). 2020年4-6月期 転職時の賃金変動状況 「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者数の割合」は27.3% 前年同期比1.7ポイント低下. 参照先: 株式会社リクルートキャリア: <https://www.recruitcareer.co.jp/news/pressrelease/2020/200804-02/>
- 公益財団法人日本生産性本部. (2020年7月21日). 第2回 働く人の意識調査. 参照先: 公益財団法人日本生産性本部: https://www.jpc-net.jp/research/assets/pdf/attachment1_20200721.pdf
- 厚生労働省. (2017年3月31日). 平成28年度「能力開発基本調査」の結果を公表します. 参照先: 厚生労働省: https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11801500-Shokugyououryokukaihatsukyoku-Kibansetsubishitsu/0000118619_4.pdf
- 厚生労働省. (2020年12月3日). 教育訓練給付制度. 参照先: 厚生労働省: https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html
- 厚生労働省. (2020年5月26日). 令和元年度「能力開発基本調査」調査結果. 参照先: 厚生労働省: https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/00002075_000010_00004.html
- 向後千春. (2020年8月). 社会人の学び直し - オンライン教育の実態と課題. 参照先: 日本労働研究雑誌: <https://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2020/08/pdf/015-025.pdf>

- 山田久.(2020年10月14日). 第1回 なぜ今ジョブ型雇用か 過去にもブームあったが定着せず. 参照先: Human Capital Online: <https://project.nikkeibp.co.jp/HumanCapital/atcl/column/00002/100200001/>
- 首相官邸.(2018年6月). 人生100年時代構想会議. 参照先: 人づくり革命 基本構想: <https://www.kantei.go.jp/jp/content/000023186.pdf>
- 生涯学習審議会.(1992年5月13日). 今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について(中間まとめ). 参照先: 国立社会保障・人口問題研究所: <http://www.ipss.go.jp/publication/j/shiryou/no.13/data/shiryou/syakaifukushi/447.pdf>
- 男女共同参画局.(2020年12月3日アクセス日). 上場企業における女性役員の状況. 参照先: 男女共同参画局 女性役員情報サイト: <https://www.gender.go.jp/policy/mieruka/company/yakuin.html>
- 中元崇.(2019年6月). 学び直しが評価されない日本社会の課題. 参照先: 大学マネジメント 特集 社会人の学び直し(2019年6月/Vol.15, No.3): <https://researchmap.jp/nkmt/misc/16880181>
- 的場康子.(2018年10月). 「学び直し」のための教育訓練給付制度の活用状況. 参照先: 第一生命経済研レポート2018.10: http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/monthly/pdf/1810_9.pdf
- 内閣府.(2007年6月19日). 経済財政改革の基本方針2007. 参照先: 内閣府: <https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/cabinet/2007/decision070620.pdf>
- 日本経済新聞.(2019年4月27日). 8年連続で転職増、4割が中高年 雇用の流動化進む. 参照先: 日本経済新聞 電子版: <https://www.nikkei.com/article/DGXMZO44325030X20C19A4EA2000?unlock=1>
- 日本経済新聞.(2020年11月1日). コロナ下の副業ブーム 相次ぐ解禁、副業人材募る企業も 収入不安の高まりや時間のゆとりが後押し. 参照先: 日本経済新聞 電子版: <https://www.nikkei.com/article/DGXMZO65479880W0A021C2000000>
- 日本経済新聞.(2020年5月27日). 世界標準 在宅が後押し 日立「ジョブ型」雇用へ転換 業務内容定め成果で評価. 参照先: 日本経済新聞 電子版: <https://www.nikkei.com/article/DGKKZO59589090W0A520C2TJ1000>
- 日本経済新聞.(2020年1月10日). 日本経済新聞. 参照先: 地方で兼業、交通費支援 政府、3年で最大150万円: <https://www.nikkei.com/article/DGKKZO54240660Z00C20A1PP8000/>
- 日本経済新聞 電子版.(2020年9月3日). コロナで仕事に不安 社会人の学び直しが加速. 参照先: 日本経済新聞 電子版: <https://www.nikkei.com/article/DGXMZO63376630T00C20A9CE0000>
- 文部科学省.(2008). 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム(「大学・専修学校等における再チャレンジ支援推進プラン」の一部). 参照先: 文部科学省: https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/shakaijin.htm
- 文部科学省.(2018年1月29日). 経営系大学院を取り巻く現状・課題について. 参照先: 文部科学省: https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/085/gijiroku/_icsFiles/afiedfile/2018/01/29/1400609_04.pdf
- 文部科学省.(2018年7月26日). 今後の社会人受入れの規模の在り方について. 参照先: 文部科学省: https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/042/siryu/_icsFiles/afiedfile/2018/07/26/1407548_3.pdf
- 文部科学省.(2019年12月16日). 職業実践力育成プログラム(BP)認定制度について(概要). 参照先: 文部科学省: https://www.mext.go.jp/content/20191216-mxt_syogai03-1360258_3.pdf

- 文部科学省. (2020 年 9 月 17 日). 大学等における新型コロナウイルス感染症への. 参照先: 文部科学省: https://www.mext.go.jp/content/20200917-mxt_koutou01-000009971_14.pdf
- 文部科学省. (2020 年 4 月 9 日). 文部科学省における. 参照先: 文部科学省: <https://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/kisei/meeting/wg/koyou/20200409/200409koyou03.pdf>
- 文部科学省 中央教育審議会大学分科会大学規模・大学経営部会. (2010 年 3 月 12 日). 大学における社会人受入れの促進について (論点整理) . 参照先 : 文部科学省 : https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1293381.htm
- 文部省大臣官房. (1974). 「リカレント教育-生涯学習のための戦略」 邦訳、教育調査/文部省編、第 88 集. 文部省.
- 鈴木洋子 (ダイヤモンド編集部) . (2020 年 9 月 30 日). 大学オンライン授業は「もう限界」、学生の怒りと絶望と落胆の声 123 件. 参照先: ダイヤモンドオンライン: <https://diamond.jp/articles/-/249421?page=2>
- 東京大学公共政策大学院ウェブサイト. 入試結果・修了者進路 <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/admissions/admission-results/> (2020 年 12 月 1 日アクセス)

参考情報④インタビュー対象者の属性と Raw Data

■表1 インタビュー対象者の属性

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|---------|-----------------|----|-----|----------|----------|---------------|----------------|----------|---------------|
| 1 | A | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 国家公務員 | 無 | 無 | 組織 | 学業に専念 |
| 1 | P | Yes | 女性 | 20代 | 他学 | 地方公務員 | 無 | 無 | 組織 | 学業に専念 |
| 1 | G | Yes | 男性 | 30代 | 他学 | 民間 | 無 | 有 | 組織 | フルタイム勤務 |
| 1 | B | Yes | 男性 | 30代 | 他学 | 民間 | 有 | 無 | 自費 | フルタイム勤務 |
| 1 | N | Yes | 男性 | 20代 | 他学 | 民間 | 無 | 有 | 自費 | やや時短 |
| 1 | D | Yes | 男性 | 30代 | 東大 | 地方公務員 | 有 | 無 | 自費 | 学業に専念/休職 |
| 1 | C | Yes | 男性 | 40代 | 他学 | 士業 | 有 | 無 | 自費 | やや時短 |
| 1 | F | Yes (自営業) | 女性 | 30代 | 他学 | 民間 | 有 | 有 | 自費 | 時短 |
| 1 | H | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 独立行政法人 | 無 | 無 | 自費 | 産休後、復帰 |
| 1 | J | Yes | 男性 | 60代 | 他学 | 民間 | 有 | 有 | 自費 | 時短調整可 |
| 1 | O | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 士業、議員事務所 | 有 | 有 | 自費 | 適宜調整 |
| 1 | E | Yes | 男性 | 20代 | 他学 | 国家公務員 | 無 | 無 | 組織 | 学業に専念 |
| 1 | T (アジア) | Yes | 男性 | 30代 | 他学 | 海外公務員 | 有 | 有 | 組織 | 学業に専念 |
| 2 | M | Yes | 男性 | 60代 | 東大 | 民間 | 有 | 有 | 自費 | 時短調整可 |
| 2 | K | No | 女性 | 30代 | 他学 | 元民間 | 無 | 有 | 自費 | 学業に専念/退職 |
| 2 | U (中国) | No | 女性 | 20代 | 他学 | 元民間 (海外) | 無 | 有 | 奨学金 | 学業に専念 |
| 3 | L | No (1ヶ月のみ) | 女性 | 50代 | 他学 | 元議員 | 有 | 有 | 自費 | 家族介護と両立 |
| 3 | S | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 地方公務員 | 無 | 無 | 組織 | 学業に専念 |
| 3 | I | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 地方公務員 | 無 | 無 | 組織 | 学業に専念 |
| 3 | R | No | 女性 | 30代 | 他学 | 元民間 | 無 | 無 | 自費 | 学業に専念/退職 |
| 4 | Q | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 地方公務員 | 無 | 無 | 組織 | 学業に専念 |

*備考： グループ1は2018-2020年度に入学した職業人選抜12名とアジアの政府機関からの教育派遣学生1名（計13名、筆者含む）、グループ2は同時期に入学した職務経験のある一般入試選抜の学生2名と国際プログラムコース（以下MPP/IP）の職務経験のある中国人学生1名（計3名）、グループ3は2017年以前に卒業した職業人選抜や職務経験のある一般入試選抜の学生（計4名）、グループ4は京都大学公共政策大学院の職業人選抜学生（計1名）。筆者の所属する企業の人事担当役員は上記表には含めない。

■質問一覧

2020年10月～12月にかけて約60分間のオンラインインタビューもしくは書面による調査を実施。対象者によっては追加質問を行った。時間内に全ての質問を網羅できなかった対象者や質問が該当しない対象者もあり、それらは空欄となっている。他大学院生については大学院名を変更して質問し、卒業生に対してはオンライン授業等の質問は割愛している。オンラインインタビューでは質問の順番が前後するケースや聞き方に一部違いがあった。個人の氏名や組織の固有名詞などは削除し、（ ）にて著者が表現している。

[入学前に関する質問]

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由は？東大公共政策大学院（以下、GraSPP）を選んだきっかけは？公共政策という分野は元々ご存知でしたか？
2. 入学前、他のリカレント教育は実施されていましたか？
3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

4. 学費は自費負担でしょうか？
5. 3年履修制度などは活用されていますか？
6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？
7. 【組織に在籍しながら在学の場合】組織からの期待値は？
8. 【組織に在籍しながら在学の場合】休職など学業に専念できる or 時短 or フルタイムで働きながら在学
9. 【時短 or フルタイム就労の場合】組織はテレワークを認めていますか？

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありますか？
11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせますか？
12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか？どのような点が変わればさらに通いやすくなりますか？
13. 1限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？それは仕事との両立を図るため、もしくは取りたい授業があったからでしょうか？
14. 履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか？
15. 成績評価はご自身の満足のいく内容ですか？
16. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありますか？
17. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？
18. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください
19. GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？脳の筋トレと比べると？
20. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください
21. 研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？
22. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？
23. 卒業後のキャリア展望について教えてください（所属組織における立場・年収の変化や転職する可能性など）
24. GraSPP を面倒を見ている後輩に勧めますか？それはどうしてですか？
25. GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知ですか？また、卒業後は入会されますか？
26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください: スキル・学生との人脈・先生との人脈（1が最も大きい）

[コロナ禍に関する質問（対象者のみ）]

27. 対面型とオンライン授業、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか？それはどうしてですか？

28. オンラインで感じたメリットを教えてください
29. オンラインで感じたデメリットを教えてください
30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は？（対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など）
31. 卒業後、大学院での教育は社会で（職場やコミュニティで）評価されますか？理想は、どのように評価されてほしいですか？
32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか？

[追加質問]

33. 日本でリカレント教育が広がらない要因は何かご意見を聞かせてください。
34. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（社会人）はいますか？その人はどうして行かないのでしょうか？

A さん

| イニシャル | 組織在籍 | 性別 | 年代 | 職業 | 転職経験 | 外資/海外経験 | 学費 | 休職/時短 |
|-------|------|----|-----|-------|------|---------|------|-------|
| A | Yes | 女性 | 30代 | 国家公務員 | 無 | 無 | 組織負担 | 学業に専念 |

[入学前に関する質問]

1. **社会人として大学院に行こうと決めた理由は？公共政策大学院、その中でも東大公共政策大学院（以下、GraSPP）を選んだきっかけは？**

8-9年くらい働いてたんですけど、仕事してるとどうしても仕事を決められた期限までにとりあえずこなしていくのに精いっぱいになってしまい、本当はもう少し時間があればこういうところ学びたいな、みたいな自分のインプットに使う時間が欲しいと考えていて、でもなかなか仕事しながら学ぶのは難しく、平日は目いっぱい仕事してからだと十分な時間がないので。そうすると普段の仕事ももう少し効率よく回せたりするのかな、と考え始めて、職場の国内留学の制度があるというのを知って、行きたいな、というのがきっかけです。公共政策大学院に行きたいと思った時、関東近郊がいいなということがあり。東大、一橋、政策研究大学院大学などあるが、情報通信技術とか、科学技術とかが関係している業務なので、文系だけしかない大学より東大のように社会科学と自然科学など色々な研究をしている先生や生徒がいる方が両方学べる、学生との交流ができると思ったのが理由です。公共政策大学院は仕事柄思っていましたね。公務員の国内留学する人は多いというのもあるんですが、たまに工学部もいますが。先輩から聞いていることもあり、公共政策大学院の率が高かったのです。

2. **入学前、他のリカレント教育は実施されていましたか？**

仕事の前とか後で自分で英語の勉強したり電波系の本を読んだりしていたことはあります。大学とかに通っていたわけではないです。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

4. 学費は自費負担でしょうか？

職場負担です。教科書は自費です。

5. 3年履修制度などは活用されていますか？

2年で修了する予定です。一橋は1年があるから、1年か2年のどちらかという選択でした。

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？

組織

7. 【派遣の場合】派遣先からの期待値は？

戻ったらスキルを活かしてくれとはいわれているが、あまり高そうではないです。半年に一回はその学期に学んだ授業の概要や内容を報告することになっている。人事係に報告しています。

8. 【派遣の場合】

休職ではなく出向と同じ扱いです。

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（社会人）はいますか？（その人はどうして行かないのでしょうか？）

います。日々の業務が忙しくて応募するタイミングを逃しているパターンですね。結婚や子どものこともあるし、興味はあるけど通えるかどうか不安で出せてないと思います。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありますか？

受ける前の方が、大学時代は農学部だったし不安だったけど、受けてみると先生たちもみんな優しいし、内容によっては高度な話で大変ですけど、親しみやすい先生が多いし、公共政策で入ったけど他学部履修可の授業がほとんどなので工学部系の授業もとれるし、幅広く学べていいな、と思いました。元々国際的なルール形成とか国際交渉に興味があって入ったので、それに近い授業も一個か二個はあったけど、ドンピシャな授業

がなくて。自分の関心分野にぴったりの先生がいるとも限らないので、リサーチペーパーも基礎的に知っておくべき知識などは勉強にはなったんですけど、それに自分が一番職場で言ってきたものと合う先生がいないので。

11.何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせますか？

まずは〇〇さん（同期の学生）とか社会人で仲良くなった人、友達に聞いてみて、GraSPPの学生に聞いたりしつつですかね。

12.在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか？どのような点が変わればさらに通いやすくなりますか？

全体的に放任感が強いですよ。分からないことが多すぎて困った気がする。大学からの情報提供ってこれが普通なのかな。もうちょっと最初の方とか、基礎的な情報もわからなくて、学部からいたら知ってるからかもしれないですけど。建物や授業の受け方とか。職場にいた方がむしろ担当の人が事前に説明してくれるけど、大学は普通にしてたら情報もらえるというよりは分からなかったら聞きに来いという感じでした。

13.1限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？

1-6限は興味ある授業は取ったりしました。土曜はたまたま受けたいのがなかったから取ってないです。

14.履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか？

一応予定通りです。

15.成績評価はご自身の満足のいく内容ですか？

そうですね。あんな感じかな、と。

16.UTASやITC-LMSなどの活用にあたって困ったことはありますか？

UTASシラバスが若干調べにくい。授業カタログの方が使いやすいですね。ITC-LMSも、二つ並行してシステムがあるのでやり方がよくわからなくて、教材の見方などは人から聞いて分かりました。

17.同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

授業で一緒になった子、オリエンテーション、友達になった人の友達。

コロナ禍では授業で一緒に座っていたりして、オンラインだとグループワークで知り合いになっても、オンラインだと厳しい。友達はできないです。

18. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください

遅くなりそうなときは職場で一緒にご飯食べたりしてたけど今は授業によって6限まであると、レポートとかで不規則になっても家事とかもサポートしてもらってご飯作ってもらったり。やりやすかったです。前よりは平日ご飯作れたり分担できてます。

19. GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？脳の筋トレと比べると？

めちゃくちゃ直接的に役立つか、とぴったりのがあるわけではないが、今までは普通の業務範囲を狭く見ていたが、普段扱わない範囲や新しく知ったことなど幅広く学べたので、直接的に影響があります、というわけではないが自分の自信にはなりました。政治経済法律と。たぶん役に立つと思います。

【先生や横のつながりは、卒業後も役に立つと思いますか？】

役に立つと思います。学んだこともそうですが、つながりができたことがよかったです。同級生ももちろんですが、先生も授業受ける中で知り合えてフランクに話せる先生がいて、今後業務とかで相談したいなと思っても全然知らない先生に初めましてではなく相談させてもらえそうなつながりができたのは良かったと思います。海外留学とかしてる人は職場でもいて人気ですけど、国内留学はアメリカのつながりとは遠いので東大とかの先生とつながっていると頻繁に会えたり相談出来たり、国内留学の良さかなと思います。

20. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください

21. 研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？

リサーチペーパーを考えてます。

22. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？

はい

23. 卒業後のキャリア展望について教えてください（所属組織における立場・年収の変化や転職する可能性など）

24. 東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか？それはどうしてですか

25. GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知ですか？また、卒業後は入会されますか？

入会しようと思ってます。

26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください: スキル・学生との人脈・先生との人脈 (1 が最も大きい)

- ① 学生との人脈 ② 先生との人脈 ③ スキル

[コロナ禍に関する質問 (対象者のみ)]

27. 1年目は対面、2年目はオンラインでしたが、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか? それはどうしてですか?

オンラインになってから通学しなくていいので勉強の時間自体は確保しやすかったし、授業とかも結構数を受けれたんですけど、ちょっと先生に授業の前後で少し確認したいこととか、分からないこととかメールを送ったことはあったんですけど、知識の吸収はオンラインでもできると思うんですけど、授業全体の満足度や達成感というのでは対面の方が授業を受けて先生とか同級生とかの交流もありつつ。オンラインだと。

28. オンラインで感じたメリットを教えてください

時間、授業たくさん受けれるところですかね。

29. オンラインで感じたデメリットを教えてください

30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は? (対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など)

併用出来たら一番いいのにな、と思いますね。オンラインは時間的なメリットや気軽に受けれる、ちょっと興味があるから覗いてみたかった授業など。オンラインはラッキーというか。オンラインだからこそ。オンラインだけがひたすらつづく結構きつい。ショッピング期間はオンラインとか。録画して公開は便利。そうしてもらった方が良く分からなかったことも復習できるので。

【オンラインでのテストは簡単でしたか?】

去年までは持ち込み不可だったのが今年は持ち込み可だった。だからこそ、暗記とかに頼らず、暗記でこたえられるような設問は出しませんと先生も言っていて。私が受けたアフリカ政治とかは時間なくて(みんなで相談させないように短めに切っていて)大学院の試験って比較的多めのイメージがあったけど時間がなくて。慣れないオンライン試験で時間もなくて。要領も得ない感じだった。先生次第だと思います。

31. 卒業後、大学院での教育は社会で(職場やコミュニティで)評価されますか? 理想は、どのように評価されてほしいですか?

2年間大学院で法律、政治、経済を幅広く学んだのでそういうような経験を踏まえた人

事配置を気を留めてほしいなと思います。全然関係なさそうな部署とか。去年一橋いっていた人が会計課など。考慮される場合もあればされない場合もあるし。立場・年収の変化はもしかしたら人事で管理はされていて、幹部候補者研修などへの手を挙げたいですとか受けてみたらという機会は増えると聞いているんですが、留学が自動的にそういう昇進や昇給につながるわけではないと思います。今後のキャリアパスに影響はあるかもしれないけど。転職は今のところ考えてないですけど、留学してすぐだとお金返さないといけないとかもあります。

32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか？

今は思っていないんですけど元々は海外の短期の調査員などは応募したいなと思っていました。最初は博士号とかあったらありかな、とか思っていたり。結構きついですね。

[最終質問]

33. 日本でリカレント教育が広がらない要因は何かご意見を聞かせてください。

34. 【時短 or フルタイム就労の場合】組織はテレワークを認めていますか？

Bさん

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|----|---------------|----------------|----------|---------------|
| 1 | B | Yes | 男性 | 30代 | 他学 | 民間 | 有 | 無 | 自費 | フルタイム勤務 |

[入学前に関する質問]

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由は？（東大公共政策大学院を選んだきっかけは？）公共政策を知るきっかけは？

元々今の会社に入る前にコンサルに努めていて、エネルギーとか気候変動とかのコンサル業をやっていて、昔から国際機関に行きたいと思っていて、国際機関では Master の学位が求められると思いますし、公共政策はキャリアとして Apply できる。あとは自分ももっと興味持っているところの Public Policy が関わることが多いと思うのでまとまって思考を整理するタイミング。公共政策大学院？ そんなには知らなかったです。元々慶應の SFC に行こうと思ってたんです。SFC でも環境とか気候変動とかやっている先生がいて、色々と調べて、東大でも。両方受けていたんですけど。2校を受験しました。

2. 入学前、他のリカレント教育は実施されていましたか？

短期集中的な夜間教育、定時後、開かれる講座で1-2 か月間は取ったりしたことはあります。自分で探して受けました。自費で。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

3か月前。半年か3か月くらい前。試験勉強したりとかは特にないので。ある程度固まっていたら。願書は特になかったんですけど TOEFL は面倒だった。

4. 学費は自費負担でしょうか？

はい

5. 3年履修制度などは活用されていますか？

元々2年の予定だったんですけど単位が予定通り取れなかったので1年延長して。学費を多く払って。

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？

自主的な入学です。

7. 【派遣の場合】派遣先からの期待値は？

全くないです。なんで通ってるの？みたいな。ベンチャーっていうところもあるし、営業とマーケティングなのでなんで学問の話するの、みたいな。あんまり理解されていないんだという気がしますね。僕はすごくつながっていると思ってますし、今の仕事の中でも GraSPP の先生とつながりができて仕事に活かしている部分もあって、仕事へのフィードバックもできて。あまり表立って動いてないこともあるんですけど。

8. 【派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学

1年目：GraSPP に結構時間取られてましたね。半々か 6:4 で学業。

2年目：仕事7 GraSPP3 本当は 6:4, 5:5 が理想だったんですけど維持できず。3年目に。仕事が忙しくて。海外マーケティングもあり、海外出張もあり、物理的に学校行けなくて。やむを得ず Drop out する授業もありました。オンラインだったらいけたと思います。そういう意味では今回はやりやすかったです。

3年目：仕事メインで、修論のみ。3年目の前期は結構取ってました。6コマ。社会人はオンラインがあったほうがいいですね。

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（社会人）はいますか？（その人はどうして行かないのでしょうか？） 公共政策という分野を周りにご存知ですか？

結構聞かれたりしますね。多くは大学院に行って意味あるのか、という人、両立の仕方が難しいと思ってていけない。両立目指したいという人（中断ではなく）が多い。2年間の大学院に行くほどモチベーションがあるわけではない。

公共政策はあんまりない。MBA ですか？と聞かれてて。公共政策というと何勉強しているんですか？と聞かれます。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありますか？

入学するときは漠然としたイメージしかしてなくて。どういう授業取りたいですか、にも具体的な授業名はなくて。もうちょっとエネルギーとか、もっと授業科目が多いと思ってた。その辺はもったいなかったかな、と。どうしても学部上がりの学生が多いじゃないですか。そうすると授業の内容とかも、社会人としては目をつぶってもできるようなことも、手を抜いてもクリアできてしまうような科目も一部あったりして、その辺は単位取れるのはありがたいんですけど、物足りなさは。最初の時は新しいこと新しいこと。後半になると簡単に取れるやつを取ろうという感じで、だれちゃったな、という感じもあります。

他学の授業？ そんなにいっぱいを受けていないです。法学の GraSPP の授業は受けている。あとは柏のキャンパスも聴講しています。

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせますか？

学務。あとは結構社会人の方に学生同士で。

12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか？どのような点が変わればさらに通いやすくなりますか？

あんまりなんかフレンドリーではないです。なんかあんまりこう、良い印象はないです。

やっぱり入ってすぐ位の時には、あんまり社会人のネットワークがあるというのを知らなくて、元々は〇〇さんとかもう一人の方とかしかつながりはなくて、情報収集はあんまりできてなくて。学部生とは仲良くなるタイミングが少なくて。オリエンテーションみたいなのはありましたけど、横のつながりから情報取るというのができてなくて。

GraSPP の社会人の横と縦ができてからはいろんなことができてきて。その後の学生生活は楽になりましたね。

13.1 限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？

1限や6限はとってました。半々くらいかな。6限とかでも取りたい授業がありましたし。一方で単位とか会社と両立しやすいののとっていたやつもありましたね。

基幹とかが結構つらかったな、と。基幹がそもそも必要なのか、というのはずっと疑問に感じてます。自分が学びたいことがあるから来てるんだし。

14.履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか？

2年目は課題でしたけど、本来は研究論文書くだけという予定でした。

15.成績評価はご自身の満足のいく内容ですか？

一部そんな悪かったかな、というのもあったんですけど。法学部系の授業がグレードのつけかたが厳しかった気がしました。法科大学院の授業とか。

【成績評価は気にしていますか？】 自分が興味ある授業は関心持ってるけど基幹科目とか帳尻合わせは気にしてないです。

16. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありますか？

行ったり来たりするのがめんどくさい。一元化してほしいです。履修登録期間を1週間で区切るのやめてほしいです。資料共有も色々なツールが登場するので Google Drive や Dropbox とかめんどくさかったですね。先生によって提出方法も違うし。

17. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

授業を一緒に受けている。でも、あんまり会わなかったりとか。留学生とか多かったのと。そもそも国際公共と違うので友達としては。学業ではない。

オンラインに切り替わってからはほとんど・・・でも LinkedIn とか Facebook で申請がきたりとかはあったりはしました。

18. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください

結構時間は取られましたよね。仕事と学業両方で。そっちに時間もっていかれて。生活のバランスが崩れるほどでは。1年目は生活リズムが乱されましたけど。その後はちょっとずつ慣れてきたのと。

19. GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？

そうですね。細かいテクニク的なところで、MBA みたいにすぐに職業に使える知識というよりは自分がある業界や産業とか、マクロ的な位置づけとか業界のトレンドとか、第一線で活躍されている研究者とかから聞けるタイミングは良いところで、いろんなビジネスを組み立てることができるようになってるので、政策の最新の動向。今の入学してから大きな学びですかね。

【脳の筋トレとスキル習得と比べるとどっちが大きかったですか？】 前者。日々業務で直面している課題を整理しながら。レポート書いたりプレゼンテーションまとめたり。

良いトレーニングだったな、と。

20. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください

一番楽しかったし大変だったのは開発研究。印象に残ってますし。職業に大きく関係するわけではないですけど。課題文献がすごく多くて読む量が多かったんですけど、その分授業の中でのディスカッションが多かったんですけど、先生のテーマの設定。ゼミ的な感じの授業だったので。横のつながりも濃密な。A1だけの授業だったんですけど。そのあとTAもやっているの。

【マイナス面では？】 大教室でレジュメだけ配って。法科大学院には多かったですけど。3号館で。これ受けてて意味あるのかな、とか。ただ聞いているだけの授業って大学院でもったいないな、と。そういう意味で基幹科目の設定が雑だな、と思ったのは、GraSPPの中で開講している授業を基幹に設定して少人数制の授業を取ればいいのに。時間の無駄なんだなと。社会的にはせっかく時間削ってきてるのに。大教室でもパソコンで仕事してるだけというのはもったいないなかつた。

21. 研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？

研究論文

22. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？

してないです。行きたかったんですけど。

【理由は？】 職場ですかね。東大は認めてもらってましたけど、さすがに認められないだろうなと思った。海外の授業オンラインなら絶対にしてたと思います。留学の意味の半分はオンラインで達成できるんでしょうけど、残りの半分は達成できない。オンラインで情報は集められると思うんですけど、学生の間で議論したりとか、他の先生とか。ちゃんとディスカッションの場があったりとか。Zoomのブレイクアウトではなかなか難しいのかな、と思って。日本人だけでなく多様な方々と話しあう目的は達成されないのかな、と。海外の方が課題文献やグループワークが多いと思うので。その大変さはオンラインでは体験できないのかな、と思って。

23. 卒業後のキャリア展望について教えてください（所属団体における立場・年収の変化や転職する可能性など）

GraSPPに入学した時には面接で、一体いつ国際機関に行くんだ、とか。なかなか今の仕事は離れられない。4-5年後には国際機関にアプラインしたいかなと思ってますが。ヤングポジションじゃなくなると思うので、現職で実績とかつかけながらコネクションを増やしながら。上のポジションで考えてたりします。

24. 東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか?それはどうしてですか?

今のところない。僕の知り合いの後輩が大学院に行っていたりするので。目的意識の作り方が難しいかな、と。社会人でどういう目的で GraSPP に入るんだろうとか。公務員は。言い方悪いですけどキャリアをストップする目的でも来れると思うんですけど。学業と仕事の両立とか、仕事を辞めてというモチベーションの作り方が難しいかな。簡単に人にすすめられるものではない

25. GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知ですか?また、卒業後は入会されますか?

知っていました。

【何を期待して入会されますか?】

はい。キャリアでのコネクションというか横と縦のつながりを維持。東大や GraSPP 出身で国際機関で働いている人たちもいるので。

26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください: スキル・学生との人脈・先生との人脈 (1 が最も大きい)

①スキル ② 先生との人脈 ③ 学生との人脈

[コロナ禍に関する質問 (対象者のみ)]

27. 1 年目は対面、2 年目は対面、3 年目はオンラインでしたが、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか?それはどうしてですか?

それは対面ですね。僕は大学院に行って情報のインプットはあると思いますけど同じ課題に違う側面で考えてる人との議論とか新しい発想とか。そこはなかなか。学びの効果を最大限できる。情報インプット+議論を一貫した。一つの単位に対して得られるものは最大限なのかな。オンラインは情報を入れるだけ一人で考えるだけ。

28. オンラインで感じたメリットを教えてください

仕事の負担をかけずに単位を取ることができた。通学、移動の時間の節約。オンライン授業できて。会議やって。連続。単位をいっぱいとるにはありがたかった。

【ショッピングウィークがオンラインであることのメリット?】 ありますねー。けどショッピングした記憶がなくて。

29. オンラインで感じたデメリットを教えてください

ディスカッション。あとはつながりが作れないというのがデメリットかなと思ったのと。集中するのが難しい。どうしても仕事のメール見ちゃったりとか。Slackとか。そっちに気を取られたりするのです。

【オンラインでテストは難しい？】 小川先生のはやりやすかったです。法科大学院は紙に書いて写真、本紙も送れ、普通にタイピングすればいいじゃん、と。すげえ無駄だな、と思って。ほぼ筆記。それが成績悪かった。生徒の Satisfaction が低いんじゃないかな、と。どうやって測ってるんだろう。

30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は？（対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など）

併用が社会人にとっては嬉しいですね。どうでもいい基幹科目はオンラインで。自分がすごく興味があるゼミ形式は対面とか。予定が組みやすい。

31. 卒業後、大学院での教育は社会で（職場やコミュニティで）評価されますか？理想は、どのように評価されてほしいですか？

もう少し大きな視点でパブリックセクターで働きたいと思ってるので、その時に評価されてほしいなと思いますし、転職するときとかベンチャーと大学院を掛け持ちしてという姿勢、マネジメントだったりとか、評価されてほしいなと思いますね。

[最終質問]

32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか？

そうですね。将来的には考えてます。期間は後かなと思います。

[最終質問]

33. 日本でリカレント教育が広がらない要因は何かご意見を聞かせてください。

やっぱり日本の社会というか、日本において大学教育というのが正しく認識されていないと思います。大学院の必要性みたいなものはまだまだ認識されていないんじゃないかなと思っていて。学部時代に真面目に勉強していたわけではないので、学問がどういう風に役に立つのかわかってなかった。職業との両立というか、海外と比べた慣習とか。大学院に行って学ぶモチベーションが低い。それが少ないのかな、と思っていて。日本ってコロナでもそうですけど、科学とか学問の重要さがすごく軽く見られていて。客観的に物事を見るとかデータを使うとかが低く見られているなという気がしてて、それが大学院で学べることのすごく大きな部分だと思っていて、それが大事だと思っている人が少ないからモチベーションが低いんじゃないかな、と。キャリアの必要性にかられて MBA に行く人はいるんですけど、MBA は学問とは思わないので。そういう意味での本当の意味でのリカレント教育が広がっていないんじゃないかと。モチベーション。大学

と同じものと思われる。遊びに行ってるのと思われかねない。そういう理解ってなかなか。職業でいうと管理職とか。大学院に Apply していく世代でも認識されていかないと。個人的には GraSPP は穴場とっていて。入るのは難しくないけど授業としては面白いですし、単位としては東大の履歴も残るし。狙い目だと思うんですけど。レベルも高いと。日本の中では。海外からの留学生も政府機関だったりとか。なかなか社会人の Apply が多くないのもったいないな、と。 周りの説得とか行ける環境を作る。職を変えてできる環境にうつらないとできなかつたので。入学する前には大変だったなと。前の会社コンサルだったんですけど一人独立して、だったんですけど。業務委託でもいいかな、とあって。それは No と言われて。一部業務委託で学費稼いだりしてましたけど。ベンチャーである程度働き方（4人くらいだったので当時）給料を下げて働き方を柔軟にさせてくださいとあって入った。

対象を日本の人に限って言えば学ぶ理由。海外はもっと高いモチベーション。もっと金銭的な。学費とか安い方が。日本人に限って言うなら。モチベーションの作り方というのがキーになるのかなと思います。入学案内の開催を増やすとか、説明会でもっと PR していても気づきを与えられるのではないかと。今は大学院に入りたいという人に対して紹介をしている。もう少し裾野を広げる活動ってあんまりないと思うので。大学院で学べる機会。そういうのを GraSPP がやるとか、一つ有効なんじゃないかなと思います。自分だけでは気づかないと思うので。会社派遣がない限りは民間はなかなか難しいですね。

学部生と話して思うのは自分の意見を発信する力、一つの正しい解を求めるのは強いんですけど。白紙の回答で、自由に。気候変動について考えてくださいというフリーズしてしまうとか、穴埋め問題は得意だけど。日本の教育が足りてないな、と。いろんな情報集めたりとかファンダメンタルに考えなおす力が弱いなというのは感じたんです。そもそも目の前に起きている事象の根本を。どうしても表面的な情報だけを集めていだけだとなかなか本質の議論に行き着かないというのはすごく感じて。それが高校からの教育なのかもしれないですし、根本的な社会資本主義とか分業体制とか根本的に捉え直す授業として興味深かったんですけど、TAとして客観的に学生が参加しているのを見ると、根本を突き付けられるとすごく難しくてどう返していいかわからなくて、そういう意味では足りてないのかな、とちょっと思います。

34. 【時短 or フルタイム就労の場合】組織はテレワークを認めていますか？

はい

【追加質問. 学位がなくても取っていましたか？】

元々国際機関に行くための Degree だったので。来なかったと思います。個別の授業が分割して受けられるんだったら、修了しょうがもらえるんだたら、もしかしたら。2年間ずっとにはならなかったと思いますね。

【追加質問. 給付金の存在は知ってましたか?】

知ってました。GraSPP はなんで対象じゃないんだろう、と。

C さん

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|----|---------------|----------------|----------|---------------|
| 1 | C | Yes | 男性 | 40代 | 他学 | 士業 | 有 | 無 | 自費 | やや時短 |

[入学前に関する質問]

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由は？（東大公共政策大学院を選んだきっかけは？）

文京区ですずっと住んでいまして、東大は最高学府。私立大に行っていたんですが、いつかは最高学府に行きたいと考えていました。明治大学の公共政策大学院に行っていて。楽しかったのもっとやりたいと思って。修士と博士と両方受けた。個人の事務所も本郷7丁目。よく散歩していた。公共政策に決めていた。元々会計士だったんですが自治体の監査をやることになり、シンクタンクで携わる仕事も法政策だったので。

子供が3人いて、娘が4年生（薬学部）、次が高3で受験。勉強している背中を見せたかった。ただ勉強しろと言っても説得力がない。その姿を見せたかった。結構効果があって驚いてます。勉強するようになった。東大受けるとも言っているし。高校の成績もよくなっている。まだ続けたい。勉強はやらされるものではなく楽しくてやるという背中を見せたいです。

人生100年時代。元々の教育システムは寿命が短い時代で。終身雇用で、定年までの効果があるものを大学で習得してという前提だったと思うけど今は変わってしまったと思うんです。今は終身雇用もなくなってきているし。どんどん転職していったり、65から75歳でも全然現役とか、それだと22歳まで勉強した大学の中身で、そこまで勉強したかと思うとおぼつかない。途中でリカレント教育して、もう一回巣立って行って、まだ70だろうが80だろうが戻ってきて社会に還元する仕事と学びのサイクルを考え直したらいいと思う。

子どもと多少の話題が合う。多少の共通話題が作れるというきっかけすらない人が多いと思う。そこからコミュニケーションが生まれる。世代間のバトンタッチとしてもリカレント教育は意味があるんだよと思います。次の世代と一緒に勉強するという。勉強会

やって。現役の学部上がりの子と。若い方からの気づきも多い。自分は陳腐化していると思っただけで意外とディスカッションできるな、と思った。こういうことは自分は教えられるんだ、とか。説明の仕方がうまいな、と学部生から教わることもある。

2. 入学前、他のリカレント教育は実施されていましたが？

(明治大学の公共政策大学院など)

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

英語と推薦書 2 通、前の大学院の先生と上司がエネルギーを使いました。半年くらいはかかったかな。TOEFL とか含めて。推薦書はギリギリになってしまったので、プロセス上の課題はなかったです。

4. 学費は自費負担でしょうか？

自費

5. 3年履修制度などは活用されていますか？

ないです。

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？

7. 【派遣の場合】派遣先からの期待値は？

8. 【派遣の場合】

一週間の中で半分以上は仕事、残りの時間。土日までいれるとして。3.5日は仕事。両立する上での工夫は？ 大それたことはしてないですけど、切り替え。適当に途中でテレビ見たりビデオ見たりスマホ見たりリラックスして切り替えていきます。カレンダーとにらめっこしながら。

【オンラインになって切り替えはできていますか？】

今までは通勤時間が切り替えだったので戦闘モード。それがなくなったので。意識はしてないけど。【職場はテレワークを認めていますか？】全然なかった。職場に来てください、という感じだったので。元々在宅できる内容ではあるんでありがたいんだけどなと思っていたらコロナのおかげで在宅が実現した。

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（社会人）はいますか？（その人はどうして行かないのでしょうか？）

分からないです。あまり言われないうえね。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありますか？

そんなにない。期待通り。満足している。

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせますか？

〇〇さん（職業人学生の同期）です。あとはあんまりないです。ネットが繋がらないときは仲の良い職業人学生か、あとは事務局ですよ。

12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか？どのような点が変わればさらに通いやすくなりますか？

事務局？まーあんなもんですよ？もうちょっとサポートしてあげたらと思うのにな、と。最初はよくわからなかったけど、そんなに不便という感じはしなかった。法学部と公共政策で図書館の扱いが違うとか。

13. 1限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？

してますしてます。今でも。土曜はとったことない。取りたい授業があったから。今はコロナで在宅だから時間の融通がきくし。

14. 履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか？

はい。

15. 成績評価はご自身の満足のいく内容ですか？

そうですね。はい。

16. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありますか？

特にはないですね。便利すぎて面食らう感じですよ。履修の登録とか1クリックでできてしまう。明治と比べて？簡単です。先生によって違う。ITC-LMS 使い方が分からない。ファイル共有とか。

17. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

授業で。それ以外大学行ってなかったの。

【コロナではつながりは構築できていますか？】 悪いですよ。授業終わったらそこでぶちっと終わってしまう。オンライン飲み会くらいですよ。論文ばかり書いてるかも

18. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください
理解してもらっていると思いますよ。ふざけた時間の使い方をしているわけではないですし。
19. GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？脳の筋トレと比べると？
思います。業務に役に立つ授業だけ取っている。実務家も学術も両方からエッセンスを得られている。
20. 先生や横のつながりは、卒業後も役に立つ？
役に立たせたいですね。つなげられるものならつながりたい。
21. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください
チャレンジングな授業、ロースクールとか、先生に当てられる授業。きつくつらかったけど、終わって見たらよかった。
22. 研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？
両方。書かないともったいないです。
23. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？
これはさすがにできなかった。家族と仕事のことを考えると。抱えている仕事があるのでこれを投げ出してというのは。オンラインで提供されたら？中身に寄るけど。自分の中では入っていなかったけど、若くて行けるときは行った方がよいと思います。できればフルタイムで。
24. 東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか？それはどうしてですか？
聞かれりゃ勧めます。カリキュラム的にバランスが良い。法学政治経済のそれぞれの基幹、最初は大変だなと思ったけど楽しい。ミクロもマクロも英語話せなくてもめっちゃ面白い。
25. GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知ですか？また、卒業後は入会されますか？
あんまりよく知らない。入会してもいいかな、と思う。
26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください：スキル・学生との人脈・先生との人脈（1 が最も大きい）
① スキル ② 先生との人脈 ③ 学生との人脈

[コロナ禍に関する質問 (対象者のみ)]

27. 1年目は対面、2年目はオンラインでしたが、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか？それはどうしてですか？

結構分からなくて、1年目と2年目はやってることが違ったんですよね。1年目は単位を取って、2年目は論文。どちらともいえません。

28. オンラインで感じたメリットを教えてください

朝1限なんかも気軽に受けられる。移動の時間ですね。

オンデマンド動画の復習とかはライブの双方向交流はいかないけど好きな時間に見れるメリットがある。

【ショッピングウィークのオンライン化はメリットありますか？】 言われてみればそうかな、というのはある。免疫学とか気軽にできたな、というのはある。

29. オンラインで感じたデメリットを教えてください

人間関係がプチ切れてしまっている。オンラインだから雰囲気とか分からない。名前が表示されるだけで。そう意味ではドライですよ。本郷キャンパスの雰囲気がもったいない。事務所からキャンパスまで近いので。雰囲気を味わうというのがなくなってしまった。赤門くぐって安田講堂、図書館あって。厳粛な雰囲気というか、勉強しに来ているという空気を味わいながら。今は画面の中の空気だけなんで。寂しい気がする。山上会館で飯食ったりとか、そういうものも大学の思い出として残る。

30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は？(対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など)

これは当然併用にしてどっちかのオプションがある方が学生としてはありがたい。先生としては大変だと思うけど。学生としては理想ですね。

【オンラインでのテストは簡単でしたか？】

こういう風にやるんだな、という。経済学だけなので、オンラインだから良いとか悪いという感じではなく考えさせる出題だったかなと思います。

31. 卒業後、大学院での教育は社会で(職場やコミュニティで)評価されますか？理想は、どのように評価されてほしいですか？

評価するのは自分じゃないから難しいけど、手ごたえ的にはここで得たもので速攻で即戦力的なノウハウはかなりあるので早速使っているという感じです。そういう意味では評価はあると思う。どういう風に評価されてほしいというのは分からないけど、自分の

場合は一年ごとの契約更新なのでそれが続けばありがたいと思います。自分が今後リサーチペーパーや論文を書いていって雑誌なんかに寄稿する機会があり評価が上がれば世界が広がっていくかもしれないなと思います。

32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか？

今目指しているところです。

[最終質問]

33. 日本でリカレント教育が広がらない要因は何かご意見を聞かせてください。

34. 【時短 or フルタイム就労の場合】組織はテレワークを認めていますか？

【追加質問. 卒業後のキャリア展望について教えてください（所属団体における立場・年収の変化や転職する可能性など）】

論文とかうまく書けるようになってくれば世界は広がるかなと思います。国際的な学会とかにも出て、英語とかもあまりできないけどそこで波を作れたら面白いなと思いますけどね。充実感、自己実現。それはあとからついてくることなんで。年収も大いに越したことはないです。

【追加質問. 学位がなくても GraSPP を受けていたと思いますか？】

正直学位があった方がいい。それが強烈なモチベーション、明確な目標になると思うので、モチベーションも維持できるので学位があつてそれを目標に頑張るという形が自分としてはやりたかったことかな、と思いますけどね。

D さん

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|-------|---------------|----------------|----------|---------------|
| 1 | D | Yes | 男性 | 30代 | 東大 | 地方公務員 | 有 | 無 | 自費 | 学業に専念/休職 |

[入学前に関する質問]

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由は？（東大公共政策大学院を選んだきっかけは？） 公共政策を知るきっかけは？

ずっと勉強していて、学び直したいということが10年くらいたって思いが強くなったのと、修士がないと可能性が広がらないな、と。キャリアを変えようと思っても。修士を取るということもあるべき一つ。MBAも考えていた時代もあるんですけど、公共政策の分野というのが個人的には一番面白くて。卒業後公共政策のシラバスを見ててどういうテキストがいいのかというのはチェックしていた部分もありますし。修了生にも知り

合いがいて。東大以外は受けていないですが、可能性としては政策研究大学院大学とか。大阪大学とかもあるかと思ったのですが1年です。昔は県庁からの派遣もあったので同じキャリアはおもしろくないなと。大学院に行きたいというのはずっと書いていたんですけど人事が全然作ってくれないし。自分で切り開くしかないということで。

2. 入学前、他のリカレント教育は実施されていましたか？

特にしていませんね。基本的に学術書を買いためて。公共政策の。関心はずっとありました。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

7月くらいに応募だと思うのですが5月。ま、英語やるしかないという。対策としてはTOEFLくらい。あとは大丈夫だなと。確かに成績証明は学部が東京大学で、地方在住なので、同じ大学なので見てくれやとは思ったけど。U T A S みても前の成績も見れるけど。それほど課題でもなかった。

4. 学費は自費負担でしょうか？

はい

5. 3年履修制度などは活用されていますか？

いいえ

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？

自主的な入学です。今は派遣制度はあるけど対象大学が決まっています一橋のMBAとか。政策研究大学院大学は今危機管理のコースには派遣していたはずなんですけど、一般政策には全くない。休職してきています。【職場の説得は大変だったのでしょうか？】 異動希望のときに言ったので色々ありましたけどきちんと受け入れてくれる職場だったので。休職になると所属はしているけど別人員が来れるように調整されるはずなので能力の部分はどうなるかはあるんですけど人が足りなくなることはなくて。ちょうど忙しい時期で計画書いてというのもあるんですけど、大丈夫かな、と。

7. 【派遣の場合】派遣先からの期待値は？

知事も行ってきますという話をして、職場からデータとかも送ってもらえるようにと局長にもいってくださって。知事はどんどん行った方がいいという発想なので。大学院だけじゃなくベンチャー興して、みたい。知事と合っている感じ。考え方がロジカルなんで。

8. 【派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学

休職、100%学業です。【収入は？】給料が伴うような副業とか、職務専念義務は免除されているけど営利事業への従事許可されていればいいけど、地方公務員法にひっかかるので。貯金を切り崩しながら、という感じです。大学院に行こうと思ってこれくらいお金貯めようと思っていただけじゃなく、毎月一定額が貯まっていく関係なのかな、と。10年くらいやっていると。

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（社会人）はいますか？（その人はどうして行かないのでしょうか？）公共政策という分野を周りにご存知ですか？

私が行くって話をしたら同期の何人かが僕も行きたいんだけど、どうやったの。なぜできたの、とか。行きたいなら行けばいいよ、と言っていて。そもそもそれができるのかどうか。僕は自己啓発等休業を使っているんですけど、自治体においてどういう手続きで進めればいいのか。昔は自己啓発等休業とかなくて地方公務員法が改正されて。2年ないし3年でできる。その分給料は出ないよ、というのが。

【公共政策は？】AIに関心あるとか。自分が関心あるという分野に興味があるという感じ。存在自体？そこも地方公務員の中でも認知はあまりない気がします。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありますか？

先生とのディスカッションとかもっとしたかった。コロナのためでオンラインのせいというのもあるけど、終わってからそういう時間もないし、講義形式が多くて。もう少し事前課題があってもいいのかな、と。受講しなければいけない単位もネックになっている気もする。私はむしろ大学卒業直後の人よりも経験のある人と議論した方がいいのかな、と。もっと社会人の人や先生とディスカッションしたいという期待値なんですけど、そういうのもあまりできなくて。

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせますか？

授業とかだと、あまりしてないけど Line のグループとかは使えるのかな、とか。目の前のことで。実際どういう履修計画したんですか、とか研究論文したんですか、とか。卒業生の結構先輩に聞いてます。

12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか？

全くないです。何もしてくれないというイメージです。学部時代から。

【どのような点が変わればさらに通いやすくなりますか？】

特に公共管理コースの場合は法政策もそうですけど人数少ないと思うんですよね。となると指導教員や担当教員を置くのはどうかと思うんですよね。経済政策みたいに人数多いと難しいと思うんですけど。議論する場を定期的にとか。ホットラインする先がないというのは問題だと思う。コロナ禍で。

13.1 限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？

6限は取ってます。良い授業がないから取らないというのが理由です。

14. 履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか？

はい

15. 成績評価はご自身の満足のいく内容ですか？

そうですね。

16. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありますか？

特には、あっ、ITC-LMSの仮登録をするとUTAS履修登録後に消す。一部の先生は仮登録も見れるように。そんなに閉鎖的に大学院の授業ってやるんですかって。

ITC-LMSは特には。最初の頃はあったような気もするけどITC-LMSに統一しようっていう流れができていっばいなので。

17. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

よっぽど少人数のゼミみたいところで連絡を取り合わないといけない場合はつながると思うんですけど。5人くらいのゼミにいるんですけど。授業中は話すんですけど。今のところはないですね（オンライン飲みとか）自分が言えばいいのかもしれないですけど。遠慮するところもあり。

18. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください

オンラインで外に出ないのが大きいと思います。外に行くということで運動量とか人と接触して刺激の多さ。オフラインであれば違ったと思うんですけど。一人だと鬱になってただろうなど。

19. GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？

客観的に自分の業務を見ることができるようなきっかけを得られるということで役立つと思います。本当に業務に役立とうと思えば科目をより分けないといけないと思うので、役立つという観点からは公共哲学というのは役立つと思うんですよ。どういう視点で判断するとか。

【スキル習得と脳の筋トレと比べると？】 論文をこれまでも書いていて。どちらかというといろんな科目を見て内容でヒントがほしいと。どっちもかもしれないです。

20. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください

金井利之先生は、大学にずっといらっしゃるのに実務の根本が分かってらっしゃるなという、すごいなと正直思っているのと。今学期に正木先生が総務省から来られていて実務を意識させられる授業で。理想的な公共政策ってこうあるべきみたいな議論を大学院ってしがちなんですけど、結局は交渉とか落とし込みができない。持続化給付金とか。学生は理想論を書いていて。実際にやるときってドロドロしていて。誰に花を持たせるか、とか。そういう世界になるんだよっていうことを伝えてくれている。公共政策をやると思うと。それを踏まえてどうしようか、となるので。それを見せない授業も多くて。それを踏まえてどうするかという議論。みんな必修にしていんじゃないかと思うくらい。どういう判断で公共の世界が動いているか。

21. 研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？

リサーチペーパーを作成します。研究論文もしたいな、とは思ってます。自分が大学院に来た理由というのにも絡むので。自分で色々考えたいという時間がほしかった。

22. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？

したかった。海外行きたいですね。本当は。ちょっと難しい。経済面とか以上に英語力ですかね。学費の面は考えてないこともあって。お金のサポートなどを奥さんできると思うんだけどまず二人の生活設計。

【オンラインで海外？】 それはちょっとないかなと思って。学位を取得するという目的を最前線に持ってくればあるんですけど、海外留学は授業内容よりも人とのつながりだと思うので。内容なんて分からないので。日本語で学ぶ方が一番よくて、内容で勝負できないのであれば人脈の中で培われる国際的な感覚だと思うので。今の東京大学の国内で横のつながりが難しい中で海外はましてや難しいでしょ、と。

23. 卒業後のキャリア展望について教えてください（所属団体における立場・年収の変化や転職する可能性など）

県庁に戻ってというのが、今は。そういう形で申請してきていますし。【転職はゼロではない？】そこは、はい。

【評価？】むしろ下がるのかなと思ってます。これも地方公務員法で、自己啓発当休業、毎年度昇給するんですが、期末勤勉手当、いわゆるボーナスが反映されるはずなん

ですけど、勤務年数に応じて加算される。通常4号給毎年度上がるんですけど8号級分損する。そこは毎年度上げてくださいという申請をして出てきました。ボーナスは制度上あげられなくて。2年分丸ごといたという風には上げれなくて。もう一点はキャリアの中断になるので、それをよしとする職場か、悪いと取るか。上の人たちと話す2年間経験がないね。と地方公務員は。行くまでにどれほど信頼度を勝ち取れているか。帰った時の上の人たちの見方が大きいです。

24. 東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか?それはどうしてですか?

そうですね。GraSPPにもっと地方公務員行くべきだと思っているので、私が行っているのでぜひ来てほしいという。授業の内容がいいから、というのとは別なんですけど。

【オンラインでもプラスになりますか?】 知的好奇心を満たしたいということであれば。でもオンラインで十分な大学院って何なんだろうとは今言われて思いました。大学院に籍を置くことで学びの場の広がり、海外の文献にアクセスしやすいなど。図書館は学部卒でも使えたので。東京に来て大学に通えて。学問に集中できる時間があるということがフルタイムで大学院にいることのメリットかなと思います。地方にいて仕事しながら勉強となると中途半端になる面もあるかなと思いますけど、そういう場に入れる良い面も。

25. GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知ですか?また、卒業後は入会されますか?

はい

【何を期待して入会されますか?】

何も期待していません。ネットワークが。情報があつて場があるということだけがメリットでそれを活用できるかどうかは期待していません。東大の Alumni のネットワークもあるけど何か使っているか、というわけでもなく。定期的に大学の情報が送られてくるくらい。

26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください (1 が最も大きい)

- ① スキル (人脈ができていないので) ② 先生の人脈 (接点が多いので) ③ 学生の人脈

[コロナ禍に関する質問 (対象者のみ)]

27. 対面とオンライン、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか?それはどうしてですか?

効果の中でも色々あって。個人的にはオンライン全面は良かったと思いますけど。学習目的を達成するための、授業の科目を取るという点ではですね。ただ、話を先生とするという場を重要視していたので、授業中もそうですし終わってからもヒントをもらって。そういう場が全くないというのはしんどい。

28. オンラインで感じたメリットを教えてください

移動時間ゼロですかね。集中して考える時間、物切れにならないメリット。ただ移動した方が頭が働くという場合もあると思うので。ショッピングウィークとか、教室がいろんなところにわたっているようなのでたぶん無理だったろうな、というのが。大学内の移動という面でも。オンラインで良かったと思います。メリットを一つ忘れていたのですが、いろんな資料をパソコンで見れたりするという。ディスプレイを別につけたりして講義を受けられるので、大学院に通っていたらできなかったです。

29. オンラインで感じたデメリットを教えてください

オフレコがあまり言えないイメージがありますね。どうしても先生と1対1とかの面談だとかしこまってしまうし、質問するときもかしこまってしまうし、先生の調子も良く分からないし。人の感じを見ながら。終わった後にぎくばらんに話せないです。

30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は？(対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など)

ちょうど2年目になって履修科目も少なくて済むので通いたいなというのもありますね。どっちかにしないと中途半端になる。何人はオンラインで何人はオフラインでとなると。併用もあると思うんですけど、先生が来ている人とオンラインの人を差をつけるんだろうな、と。かまわない、と言っていたとしても。印象に残るのは目の前の人でしょうし。成績をつけるとき不公平さは出てくると思うんですよね。公平な成績評価に結びつかないと思うんです。

31. 卒業後、大学院での教育は社会で(職場やコミュニティで)評価されますか?理想は、どのように評価されてほしいですか?

そうですね。中身ではあまりない気がしますね。仕事で示していくしかない。【評価されたらいいのにな、という思いはありますか?】形式要件なんだと思うんですよね。大学院に出ているという評価をする文化が必要。内容は担保されていて。きちんとつくられていることが前提で。修士持っていますということが評価されるような職場に変えないといけない。地方公務員の職場は変わっていて、高卒の方も多い。大卒も増えてきている。学歴というのは意識しない文化で。それで学びに対する姿勢というところも軽

視されていて、上司によって。学歴を重視しない文化と。今からの時代修士とか、そういうのもないと公共政策とかやっていけない時代になると思うので。

32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか？

視野にはあります。ゼロではないです。

[最終質問]

33. なぜ日本でリカレント教育が広がらないと思いますか？ 何が一番ハードルでしたか？

広がらないのはキャリアの中断になるということだと思うんですね。日本の仕事っていうのは新卒一括採用で経験を重視する。転職がしづらいというのもそうですし。よそのキャリアパスを目指しにくい。特に地方自治体にいると恵まれるかどうか、実務と学問は違うんだという発想に立つ人も多くて。おまえ研究者じゃないんだからと言われたら最大の侮辱で。そういう言葉って結構使われていて大学院に行くことを下に見るような。

学問と実務をつなぎたいというのは自分の中であって。関心事なので。

地方公務員のことを考えると他に選択肢がある。自治体大学校や政策研究大学院大学は受け入れている。そこに行っているんだから、他の公共政策大学院に行かなくていいんじゃない、という。熊本県は特殊で。埼玉県も昔は来させてましたけど。神奈川県も。どこの自治体も大学院派遣はやっている。鹿児島県は滋賀大学のデータサイエンス学部とかもある。人事が開拓する先というところがどこかによるということですね。素人がやっているというのは危うい。公共政策は簡単じゃないのに単純化しているだけ。そもそも仕組み考えるのが単純すぎる。

34. 会社や職場はテレワークを認めていますか？

【追加質問. 学位がなくても取っていたと思いますか？】

来てないです。学位はやったことの証ですし、次のための踏み台です。

自治体学校でも取れるはずで、同じ内容をやっているはずで、自治体大学校と変わらないはず。学位なかったら。差をつけるには。

【追加質問. 進学にあたり大変だったのは？】

そういうのがない状況だったタイミングなのかも。企画部門で外部との接点も多いし、知事のマインドに近いところでの動きも近くて、反対する人がいない。それが本当に別の部署にいて閉鎖的だったら。上司がいいよ、と言わない限り。特殊なのかもしれないですね。転職もしているので、色々道はあるわと思っている面もあって。その点ずっと地方公務員やっている人が外に出るのか、という点は違う気がします。

【追加質問. 給付金の存在は知っていましたか?】

知らなかったですね。

E さん

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|-------|---------------|----------------|----------|---------------|
| 1 | E | Yes | 男性 | 20代 | 他学 | 国家公務員 | 無 | 無 | 組織 | 学業に専念 |

[入学前に関する質問]

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由は? (東大公共政策大学院を選んだきっかけは?) 公共政策を知るきっかけは?

人事が話題になる時期に当時の部長に、選択肢の一つとして大学院に行かないかと上司に言われて、行きますとなって。自分で意向調査で書いたというより、上司との流れで行くことになりました。あまりこう積極的に手を挙げてというわけではないですけど。いずれは行きたいと思ってました。

上司は男性です。うちでいえば、大学院に派遣される枠というのがあるんですよ。そういうところに誰かしらは行くことになっているというのも大きいかなというのもあると思います。若手にも声をかけてみようかというのがすごく良かったと思います。

【公共政策という分野は決めていましたか?】 そうですね。当時5年まで留学含めてしていたんですけど、そのとき大学院進学もよぎったんですけど。海外に交換留学で言っていました。1年ほど行ってました。

【学部時代は真面目に勉強していましたか?】 していた方だと思います。GPA をある程度。留学したくて。

【GraSPP を選んだきっかけは?】 基本的に国公立なんですけど。特に東大行こうが一橋行こうが制限はないです。部長は東大行ってほしいなという雰囲気だったので。そこに絞って受験していました。

2. 入学前、他のリカレント教育は実施されていましたが?

特になかったですね。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか?

そうですね・・・3か月くらいかな。社会人選抜、職業人の方だったんですけど。科目を勉強したりとかではないので志望動機書いたりとか推薦書とか。準備期間であれば2-3か月くらいだったと思います。

【プロセス上の課題?】 私の場合特に苦勞した点はなかったんですけど久しぶりに志望動機を書いたくらいなんですけど、特に悩みとかはなかったんですけど、私の場合職場の上司から推薦書いただいたり学部にお世話になっていた先生が東大に籍を置いていたんですけど。別の方だったら苦勞されたんじゃないかと。イメージだと、キャリアアップを視野に入れて職場を辞めて大学院に行くと、職場に書いてもらえるものなのかなと思ってたんですけど。それだと一般になってしまうんですけど。

4. 学費は自費負担でしょうか?

公費です

5. 3年履修制度などは活用されていますか?

してないですし、予定もないです。

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか?

オフィシャルな派遣です。

7. 【派遣の場合】派遣先からの期待値は?

特に何を学んできてほしいかというのは自分で決められる感じだったんですけど、2年で修士論文書いて戻っておいで、という感じでした。

私も恵まれているなと思ったんですけど、上司が東大出身で。学歴的にも東大で大学院で箔がつくんだしいんじゃないと、というのもあったみたいです。キャリア的にも大学院で学ぶことがプラスになるんじゃないかというのはお考えにあったと思います。

8. 【派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学

人事課に籍を置いたまま、学業に専念しています。

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人(社会人)はいますか?(その人はどうして行かないのでしょうか?) 公共政策という分野を周りにご存知ですか?

自分が大学院に行ってるんだってことをうらやましがられることもあるんですけど、自分が行きたいというのはないみたいです。【なぜ?】一つ声としてあるのは、社会人としてまた学ぶことの価値だったり、もう勉強したくないという方が多い気がしますね。

【公共政策?】大学院があるというのはご存知かもしれないですけど、何を学ぶのかということとはイメージ出来てないかもしれないですね。ざっくりと政策とか学べるくらいじゃないかな、と。民間であればステップアップであったりお給料の昇給につながったりだとか。公務員として、年功序列の世界なのでステップアップにつながったりとかなと思うんですよね。院卒として職場に入るのであれば給料区分が違うと思うんですけど。公務員

の世界特有なんですかね。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありますか？

想像以上に大学院で学べるなと思ったし、もっとこう積極的に授業取りたいなと思いました。期待値自体は上がったと思いますね。法政策なので入前は法律と政治だと思ったんですけど入った後は統計とかも学べて、大学院で勉強できることの期待値は上がりました。

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせますか？

内容にもよるんですけど、大学院の制度であれば学事ですし、基本的にホームページだったり、内容によりますね。単位履修関係だとかスケジュールは学事にメールしてみたり行ってみたりとか。

12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか？

社会人だから何か特別に何か、というのはなかったんですけど、社会人向けに学事がサービスするというのは確かないかなと思って。私社会人になって3年目で、大学時代から学ぶことで時間が経っていないので授業履修したりは大学の延長というのはイメージで来たんですけど、これがリカレントで10数年ぶりの方は難しいんじゃないかと思いました。

どのような点が変わればさらに通いやすくなりますか？

うーん。そうですね。久しぶりに授業受けたりとか大学院というところに身を置くにあたりサポートでしたり、いきなりオンラインだったからというのものもあるんですけど、オリエンテーションがなかったんですよね。対面式であれば4月入学のときに構内の案内や、オンラインならオンラインなりに ITC-LMS の関係でしたり授業の受け方とかあったほうが。案内自体はあったと思うのですが。分かりやすいものが良かった方が良いと思います。これは質問は違ってしまうかもしれないのですが、履修科目によってはこれが前提で、事例研究のこれを取るならまずこれを。統計の重要性に気付くのは初めの授業とか。授業の履修の関係とか関心の変化に合わせて柔軟に取れるような。現状取れるようになってないとか。こういう関心を持ったらかうみたいなの。一貫性を自分で作るしかない。それを自分なりにアレンジしていく、みたいに。先輩がこんな関心を持って授業を取りました、みたいな機会があればいいなと思いました。

【Zoomなどのツールの的に、横の連携（グループワークなど）は十分に行えますか？】

ええっとですね、十分ではないと思いますね。大変ですね。授業によっては共同でレポート作ったりとか。ITC-LMSで連絡先を共有して、Excelか何かで連絡して、あとは個人の

世界ですけど LINE したり個人的にメールしたりとかになるでしょうし。プレゼンを共同でする仕掛けがなければ連絡先を交換することもないわけで。少人数のゼミ系であれば。一人仲良くなった、春学期に一緒に授業取った方が秋学期にもう一度取った方と連携してレアだなと思いました。

13.1 限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？

今学期は1限、週4つ結構とってますね。逆にオンラインだから取れてるかと思います。これが通学だときついかも。6限は週1コマ。

基本的に取りたい授業がたまたま1限だったという理由でした。1限じゃないと融通が利かないからというわけではないです。

14. 履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか？

春学期の成績だけですけど今のところは順調だと思いますね。卒業は問題なさそうだなと思います。

15. 成績評価はご自身の満足のいく内容ですか？

春学期は満足いく結果だったかなと思いますね。秋学期はオンラインだしやることないし多めにとってしまってあたふたしている感じです。GPA を重視される方と、将来博士号につながるのであれば成績ってすごく重要ですし、一方で何を重視したいかで手を広げて結論として GPA は低くなるんでしょうけど、多くのことを学べていると思います。

【Eさんの場合は？】今は半々で。GPA は秋はたくさんとったから怪しいぞということかもしれないけど、そのために授業絞るのはナンセンスだなと思います。

16. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありますか？

特にはないですね。自分が利用していないだけかもしれないですけど、ITC-LMS の左上に何かお知らせが来ると、メールできたりとか。そういうのがあれば ITC-LMS にか行かなくても自分のメールで確認できるので便利だなと思いました。

私の先生はほとんど ITC-LMS で。提出物の提出自体は特に問題は。あ、でもオンライン環境で、テストによってはオンラインで受けて、答案を写真で取って ITC-LMS にあげてほしいと、時間内に、技術的にできず。ちょっとどうにかならないかなと思いました。これは試験の話ですけど。 財政法は答案を郵送するというのもありました。法学部のスタイルに準じてというのだと思いますけど。私が先ほど申し上げたのは、計量経済学でした。

17. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

授業をきっかけとして、たまたまメールアドレスを交換する機会があったりとか。春とった授業でやり取りを Slack で、生徒間でチャットのやり取りができるので、授業に関係あ

ることないこと技術的にできたので、授業の方法を通してというか。あとは〇〇さん（職業人学生）が学事を通してLINEのグループを作ろうじゃないかというので、グループ自体は続いてないんですけどやり取りは続いています。

18. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください

そうですね。これが4月入ってからコロナで、私の場合3月までそんなに自宅勤務になる前に職場離れて、4月からオンラインのコロナ体制で、すごく変化したと思うんですけど、これが対面形式だと職場通うか大学通うかくらいかと思います。

19. GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？

そうですね。授業によっては、政策に関わることなので、担当の委員会というのがあるんですけど、その運営をするのであればロジスティクスのことなので行かされないかと思うんですけど、議員の先生方とのやり取りの中で役に立つと思いますし、調査局という部署もあるんですけど、そこは租税法であれば租税法、授業で学んだことを政策的に生かすことはできると思いますし。あとは自分で履修して、将来これはこうやって生かしていきたいというのは、芽というか、卵というかを育てていって、大学院に入ることで学んで、将来花を咲かせられたらいいなと思いました。

【スキル習得と脳の筋トレとどちらが実感ありますか？】 職場で言えば、省庁との比較になってしまうんですけど、私の職場ではロジメインで、レポート書いたりとかプレゼンとか職場の業務を円滑にするのであれば活かせると思いますね。私も3年しか働いてないので調査局とか、租税法とか学んだこととか、担当するであればいろんな勉強しなければいけないことを具現化で来たのかと思います。

20. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください

ええと、財政法の藤谷先生が印象残ってますね。国の財政健全化の、すべきかの価値観自体も学んだんですけど、議会が関与できるようなツール、それが予算だったりと限定的に捉えていたんですけど、金融だったり貨幣だったりかなり幅広い分野に財政法が関わっていて、国会が幅広く関われる、授業内容に感銘を受けた感じです。

21. 研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？

はい。卒業論文は少なくとも書く予定でして。卒論は必修ではないんですけど、うちの職場は基本的に卒業論文を書いて来いと。職場で、過去大学院に派遣された方の実績みたいなのが職場のイントラにズラッとあるので。おそらくそうするよというのが一時期から決まったようです。最近は成果物をそこに乗せるという風に。

プレッシャーですね？ そうなんですよ。本当職場から派遣で、国からお金出してもらって

いるので単位を落とせないな、とか。仮に落としちゃった場合は職場にどんな顔を。

22. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？

これはないですね。職場の派遣制度としてできなくなっていて。私も一時期ダブルディグリーとか関心あったんですけど、職場に行って聞いてみたらちょっとできないと。予定はないですね。

オンラインで海外？そうですね。オンラインであれば。なんといいですかね。自分もなんで職場でダブルディグリーがダメなのか、というのは覚えてないんですけど、もしかしたらオンラインもダメかもしれないですが、渡航の負担もないので職場の許可が出れば。

23. 卒業後のキャリア展望について教えてください(所属団体における立場・年収の変化や転職する可能性など) 転職はゼロではない？

立場が変わることはないと思うんですよね。公務員だと基本的に年功序列になっていて、採用区分としてある程度、何年やってこの役職という。大学院にいったら変わるということは短期的にはないと思うんですよね。培ったものを、大学院を直接したことが直接の影響にはならないけど、そこで得たものを能力的に発揮したらなると思うんですけど。

【転職は？】今のところはないですね。基本的に公務員で派遣される方は少ないと思うんですけど。すぐに転職すると、確か5-6年くらいは職場にいなければ学費を払えと言われてしまう。そういう制度が一つあって。自分の予定で言うと、今の自分としては、大学院に行ってこういうことを自分ができるかもしれない、転職したらどうなるみたいなことが見えた気がします。例えば議会に関心を持って今の職場に入ったので、転職しても変わらないと思うんですけど、仮に今の職場でできないことを将来的に独立なり外に出たりだとかは面白いんじゃないかなというのは大学院に入ってから思ったことですね。

24. 東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか？それはどうしてですか？

そうですね。例えば同僚とか職場の先輩後輩とかから聞かれたりしたら GraSPP はおすすめしたいですし、授業で学んでいることを積極的に話していきたいなと思いますね。

25. GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知ですか？また、卒業後は入会されますか？

これ知らなかったですよ。チラッと見たかも。

【何を期待して入会されますか？】

卒業後もいろんな方と交流したいというのがありますかね。GraSPP に入ることの魅力って、いろんな考えを持った優秀な方々と交流したり考えを深めたりだと思うので。OB/OG 会であればいろんなバックグラウンドを持った人と交流できて魅力的だなと思

うので。

26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください（1 が最も大きい）

- ① スキル ② 先生との人脈 ③ 学生との人脈

[コロナ禍に関する質問（対象者のみ）]

27.1 年目はオンラインでしたが、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか？それはどうしてですか？

これも、すごく難しいというか、授業に寄るかなと思うんですよね。ゼミ形式とかディスカッションの方がそりゃ対面の方がいいと思うんですよ。ただ、レクチャー形式の授業とか、何か法律的なことを学ぶというか、特にオンラインで聞くことで差し支えないですし、対面とかであればレコードできないと思うんですよね。こんな難しい授業をレコードされないなんて到底単位取れなかったと思うんですよ。好きな時間に復習できる環境がすごく良かったと思います。

28. オンラインで感じたメリットを教えてください

そのことにつきますかね。自分で時間を自由にできる。移動しなくていいことなど。10分くらいの移動とか、昼食だと2限と3限だと50分じゃないですか。時間を錬金するじゃないですけど。授業を受けつつご飯食べたり。

29. オンラインで感じたデメリットを教えてください

他の学生や教授とコミュニケーションが取りにくいということと、テストが取りづらいということですね。

30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は？（対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など）

理想は併用だとは思いますが。オンラインで受けられる学生も。受けたい学生も受けられるように。自分は対面だと思いますけど、対面になるにしてもレコードはしてほしいと思います。それが技術的に可能なのか分からないですけど。

【地方の大学の授業がオンラインで受けれたら？】 興味ありますね。論文とかみたとときに興味あるとき、そういう先生の授業にオンラインで受けられたらいいな、と思いますね。

オンラインが広がれば聴講とかで、職場で籍を置きつつ、リカレントじゃないかもしれないですけど。

31. 卒業後、大学院での教育は社会で（職場やコミュニティで）評価されますか?理想は、どのように評価されてほしいですか?

評価が数値になったりはしないと思うんですよ。ただ、例えば自分が何か学んで来て、それを元に職場で何か提案できる立場になったら、大学院でこれを培ってきて、これをやってみたいんだけど、ということが採用されたり少しでも新しいことができたなら嬉しいなと思いますね。

32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか?

場合によってはあると思うんですけど、うちの職場ではレアなケースだと思うんですよ。修士号取って終わりだったり。なかなか職場で働いて、仕事をしてほしいという、出向というよりも。場合によっては研究寄りというか、議会関係の学会の方と交流を持つことは職業柄あるので、先輩によっては大学で客員というか教鞭をとられる方もいるので、そういう方の一部は博士号をお取りになって研究に活かされた方もいるので、自分が将来そういう方向にいくとなれば取りたいと思うんですけど、当面はないですね。可能性レベルではちょっとあるかもです。今後のキャリア次第では。

[最終質問]

33. 日本でリカレント教育が広がらない要因は何かご意見を聞かせてください。

なぜ日本でリカレント教育が広がらないと思いますか？ 何が一番ハードルでしたか？ やっぱり職場での柔軟性というか、築くべきキャリアの在り方というのが柔軟じゃなくて。最近転職も増えてきましたけど、自分が民間じゃないからかもしれないですけど、一つの職場でずっとだと、派遣してもらえなかったり、転職のハードルが高いのであればステップアップとして大学院を挟むというのは難しいんじゃないかと。キャリアの慣行が一つの会社にずっと務めることが進学という検討を消している可能性があると思います。

34. 【時短 or フルタイム就労の場合】組織はテレワークを認めていますか？

【追加質問. 学位がなくても取っていたと思いますか？】

あんまり考えたことはなかったですね。知識って、箔がなくても得られるじゃないですか。これは切り口として職場が派遣するかという問いでもありますし。ただ、自分の中でも修士号を持つというのが大きいと思うんですよ。あるのとないの考えは変わると思います。あることによってモチベーションになる、2年間頑張った成果として学位が取れるというのはモチベーションになっていると思います。

【追加質問. 給付金は知っていましたか？】

存知上げなかったです。社会人にとっては労働法という意味で、給料の何%は補償するよ

うにとか、休職するのであればそういう形もあると思いますし、失業保険という意味合いで学ぶにあたって転職の中間として学費以外で生活費とか補填する方が魅力があるんじゃないかとおもいました。

Fさん（書面による回答に加えてオンラインインタビューで情報を追加）

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|----|---------------|----------------|----------|---------------|
| 1 | F | Yes (自営業) | 女性 | 30代 | 他学 | 民間 | 有 | 有 | 自費 | 時短 |

[入学前に関する質問]

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由は？（東大公共政策大学院を選んだきっかけは？） 公共政策を知るきっかけは？

国会議員になりたかったので、日本の公共政策を学べる場を探していました。法律・国際関係・行政についてある程度勉強してから、政治活動を始めたいという意図です。

ええーと、社会人になってから知りましたね。政治塾みたいなのところに入るべきか、公共政策か二択だと思うのですが、政治塾に最初は行ってこれは全然勉強にならないなと思いました。それくらいの知識がないと政治家はやれないだろうと思って。一瞬ロースクール、司法試験のもあった方がいいと思ったんですが、そこまでなくてもいいかなと思って落ち着きました。サラリーマン辞めてすぐに出馬しようと思ってなかったですね。

東大一本で併願してないです。

2. 入学前、他のリカレント教育は実施されていましたが？自ら希望したのですか？

（IT系の業務に関わる）資格の勉強の費用は、勤めている企業持ちでした。

【自ら？】いやー、半強制的にですね。会社で。【仕事には役に立ちましたか？】一応は。転職するときには足しになったかな、と。（ITツール名）は自分で構築しないといけなくなって。（ITツール名）も金融ユーザーで Configuration をやっていた。

公共政策等は何もしてないです。ニュース読むくらいです。古賀茂明さんの政治サロンに入っていたくらいで。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

期間は2年くらいですかね。いつまでに出馬したいというゴールはあって。転職前する前からありました。実際に GraSPP にいた友達に話を聞いたりしました。それが2017くらいですね。決まったら2週間くらいで出した感じ。

【願書のプロセス？】北京大學に1年留学していてその時の修了証書が中国で、翻訳しなければいけないのは。自分でやっちゃいけないのはめんどくさかったですね。あとは TOEFL は試験時間が長いじゃないですか。推薦書も2部必要で。

社会人受験の「現在所属する団体(企業や自治体など)に卒業後も所属すること」という条件が引っかかりました。幸い、副業として起業していたので、こじつけですが「自分が代表を務める企業に卒業後も所属し続ける」ということで条件を満たしました。事務局の方もこのようなケースは私が初めてだと仰っていました。意欲と能力があれば誰でも受け付けるべきだと思います。なぜこのような縛りを設けるのか意図がわかりません。これからの時代は、10-15年ごとくらいにリカレント教育を受け、職業人としてアップデートし続けないと時代の変化について行けません。そのようなサイクルを妨げる条件だと思います。実際、勤めていた企業ではデジタルマーケターを年中募集していましたが、かたや同じ職場でなかなか正社員になれないと悩んでいる派遣社員がいました。欲しい人材は見つからないが、不要な人材が大量にいるというのが現状です。このようにスキル不足により、労働市場で偏りが起きているので、リカレント教育は労働政策・経済政策として重要です。

所属団体による「二年間学業に専念させます」という誓約書も必須でしたが、「(自身の氏名)は(自身の氏名)が学業に専念することを誓います」といったジョークのような文面で提出しました。

推薦状 2 通。1 通は出願時に勤めている企業の日本支社長に「推薦状書いてください。もしそれで合格になったら、会社辞めることになりませんが」と言って書いてもらいました。よく引き受けてくれたと思います。アメリカ人で個人のキャリアと人生プランを尊重してくれる方だったのが幸いしました。もう 1 通は前務めていた会社の役員に書いてもらいました。【所属企業の理解は得られている感じですか?】そうですね。転職とかが当たり前前の世界だし。【会社にはリカレント教育経験者は多かったですか?】(在籍していた外資系企業名)では多かったですね。理系の社員が多いので。新卒で入社した時の 12 人中 10 人いじょうが修士持っていた。理系が 11 人。唯一の文系。2 社目では大学院出ている人はいない、あ、いたかなー。

試験対策や準備は一切していません。

4. 学費は自費負担でしょうか?

はい

5. 3年履修制度などは活用されていますか?

いいえ

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか?

出願当時勤めていた会社は辞めて入学しました。自分が代表を務める団体からオフィシャ

ルに派遣している形ではあります(こじつけですが)。

7. 【派遣の場合】派遣先からの期待値は？

8. 【派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学

最近一日1~2時間コンサル業始めました

ない日もあるので、トータル週5時間くらいですかね。勉強と出馬に向けた準備をしています。

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人(社会人)はいますか？(その人はどうして行かないのでしょうか?) 公共政策という分野を周りにご存知ですか？

行きたい人はもれなく海外MBAやその他大学院に行っています。

【公共政策はご存知ですか?】あっ、知ってます。MBA系じゃないんだー、ってリアクションですね。政治家になりたかったんだよ、と言ったら。イメージはつきやすい。大学時代の友達で官僚も何人かいますし。NPO系とか。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値(授業内容など)に変化はありますか?

特に変化はないです。官僚の養成機関だと思っていたので予想はしていましたが、やはり元官僚の先生や、ゲスト講師で官僚の方が多いという印象です。特に外交の事例研究は先生もゲストも全員外交官で、少し驚きました(学部から直で大学院に入った生徒はこうやって洗脳されて行くのかあという感想です。ほとんどが外務省志望の学生だったので。先生とゲストには、日米地位協定・日米合同委員会・横田空域に切り込んで嫌われたかもしれません)。あとは留学生のレベルが日本人より高いような気がします。

日本人学生は社会人のほうが発言やディスカッション内容に面白みを感じます。

【勉強量については?】特にない。一緒です。予想していたのは日本人の先生の方が宿題が少ない。

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに(誰に)問い合わせますか?

最近は Discord の存在などを知り、そこで聞けるようになりました。

【Discord はどのようにして知ったのですか?】月曜日の6限の授業が後期から初めて対面ということで取りました。そこで知り合った友達から紹介してもらった。学部から来ている人です。前期は孤独だった。Line にも入ってなくて。

12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか?

特にサポートはありませんが、不自由していません。

【学務をご利用されることはありますか？何かご要望はありますか？】

あんまりしないですね。【履修方法とかはマニュアルで足りた？】はい。

どのような点が変わればさらに通いやすくなりますか？

前期はオンライン授業しか経験していないので、同じ授業を受けている人の連絡先を授業中に公開するなどしてもらえると、友達が作れるのになあと感じています。Discord である程度その悩みは解消されました。【Zoomなどのツールの横の連携（グループワークなど）は十分に行えますか？】みんな Line は持っているじゃないですか。とりあえず Line で連絡とり合って。そんなに不便ではないですね。例えば Teams とか Zoom とかも使えるようになっているじゃないですか。

13.1 限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？

はい

【それは取りたい授業があったからでしょうか、それとも単位取得のためでしょうか？】
取りたい授業があったからですね。

14. 履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか？

はい

15. 成績評価はご自身の満足のいく内容ですか？

そこそこです

16. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありますか？

ありません

【先生によってはファイル共有方法が異なるなどあると思いますが、統一してほしいなどのご要望はありますか？】

確かに。。ITC-LMS をもっと使えばいいんじゃないかな、と。生徒の発表資料をアップできないのは不便ですね。メーリスが発生してしまうので。

17. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

後期からは一部授業で対面式が解禁されたので、対面という理由だけで履修しています。不純な動機で選択しましたが、結果、惹き込まれる授業内容で非常に満足しています。その中で前期同じ授業を履修していた人もいたので、積極的に話しかけて、今では授業後に我が家で宴会するようになりました。【自ら話しかけられていますか？年齢差などを感じられたことはありますか？相手は留学生 or 日本人が多いでしょうか？】対面で初めてで

すね。オンラインだと授業中なので私語とかもできないし。ホストとかもできないチャット設定。相手はたまたま日本人です。日本語の授業で。

18. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください

会社辞めて入学してから、家賃光熱費食費は全部夫持ちになりました。

19. GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？

政治家になったら（なれたら）非常に役立つと思います

【学んだスキルと、学ぶ過程のプロセス（脳の筋トレ）と、どちらが多く得られていると思いますか？】前者（スキル）

20. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください

食糧安全保障と農業政策 山下一仁

教育政策と教育法 鈴木寛

【それはなぜですか？】

実際に携わってきた方のリアルな学びが多い。アカデミックな部分とリアリティな部分のどっちかでも行けないと思ってて、両方を教えることができる先生なので。今立法学という授業で伊藤和子先生、衆議院の法制局の授業も非常に立法過程というか、どうやって法律が作られていくか、他の国との議会との違いとか、ずっと法律を作ってきたことなので、その3人に共通するのはリアルにその仕事をやってきたということ、体系的な説明ができるということ。

21. 研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？

考え中です

22. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？

いいえ

【ご予定はありますか？仮にオンラインになったら受講に興味はありますか？】

出馬がなければやりたかったな、という感じですね。オンラインだったら？そうですね。

23. 卒業後のキャリア展望について教えてください（所属団体における立場・年収の変化や転職する可能性など）

国会議員になりたい!あとは、ビジネスを本格的に始めたいです。

国会議員になるというつながりではありますが、宮城県で根差したビジネスを始めて。

この人ですということと言い切れる人になりたい。

【伴侶からの理解？】フルサポートですね。

24. 東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか?それはどうしてですか?

その人の将来の目標に左右されます。一般企業であれば、そこまで勧めません。GraSPPでジャーナリスト志望の人はあまりいないように感じますが、ジャーナリストにこそ勧めたいです。国会で議論している内容の背景を深く知ることができるので、GraSPPからジャーナリストが生まれれば、日本の民主主義もレベルアップできるかと思えます。

25. GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知ですか?また、卒業後は入会されますか?

はい

【何を期待して入会されますか?】

人脈じゃないですか?うーん、特に官僚になる方多いと思うので政治家になるんだとしたら非常にいいかな、と。

26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください(1が最も大きい)

- ① スキル ② 学生の人脈 ③ 先生との人脈

[コロナ禍に関する質問(対象者のみ)]

27.対面とオンラインでしたが、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか?それはどうしてですか?

2020年入学なので、対面授業はまだ1コマしか経験していません。まだ判断つかないです。

28. オンラインで感じたメリットを教えてください

移動時間ゼロ。有効利用できているかって言われたら自信はないですけど、勉強に使えますというべきなんだろうが寝たり。特に女性だと家に出るときの準備とかがないというのがいいですね。

29. オンラインで感じたデメリットを教えてください

PCの音声の質が悪く、一日中授業を受けていると頭が痛い

ちょっと改善策もあって。夫のスピーカーで。パソコンから出るこの音って悪いじゃないですか。あとは横のつながりができづらい。

30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は?(対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など)

併用

【それはなぜですか？】

メリットデメリット両方あると思うんですけど、ちょっと風邪気味だな、とかはオンラインで、選択肢として両方あればいいのかなという思いです。

31. 卒業後、大学院での教育は社会で（職場やコミュニティで）評価されますか?理想は、どのように評価されてほしいですか?

有権者や党内には評価されるように思います。

【評価というのはどのような形や姿でしょうか?】印象がいいという評価ですね。

【専門性という印象でしょうか?】そうですね。有権者からは公共政策大学院の知名度は分からないんですけど、政治家になる前に勉強したんだな、という。

32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか?

未定。絶対取らないとも言えないからそう書いた。

[最終質問]

33. 日本でリカレント教育が広がらない要因は何かご意見を聞かせてください。

ハードル： 経済的などところじゃないですか。幸い結婚していて夫も収入があるので問題ないんですけど、会社を辞めて、収入は止まりますよね。収入がないというのがこんなにつらいものだというのはこんなに思わなくて。少なからず増えていく。あるものから使っていく減っていくのは精神的につらい気持ちになりました。たとえば独身で、となったらものすごくやりくりしていく。貯金をはじめないといけないし、大学院に通っている間所得がゼロになるということがリカレント教育が難しいと思う。学生であれば親の援助があることが多いと思うが、奨学金も。一旦収入がコンスタントにあるということは精神的に捉え方みたいなのはダメージ。私の掲げている政策はやる気のある人、学ぶことがおそらく所得アップにつながる場合は政府が勉強している間の生活費を給付するというかたちで。推進していかないと日本の人材が世界に遅れていく。

34. 【時短 or フルタイム就労の場合】組織はテレワークを認めていますか?

基本テレワークで。

【追加質問. 給付金の存在はご存知でしたか?】

そんなのありましたっけ?対象じゃなかったから。学費だけじゃなくて。オランダは所得の補償とかあるんですよ。リカレント教育のやっているときの。個人的な意見は学費じゃないと思うんですけど。一番大変なのは子供がいる、支えないといけない家族がいる。

Gさん

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|----|---------------|----------------|----------|---------------|
| 1 | G | Yes | 男性 | 30代 | 他学 | 民間 | 無 | 有 | 組織 | フルタイム勤務 |

**1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由は？（東大公共政策大学院を選んだきっかけは？）
公共政策を知るきっかけは？**

前から勉強したいと思っていた。仕事自体が政策に関わる。政治家という将来的なキャリアの展望もあり公共政策大学院を希望していた。元々はMBAも考えていた。通いやすい場所ということもあり、また、教員やカリキュラム、そこに集うであろう学生をイメージして東大一本で受験した。公共政策を概念として理解しているわけではないが、漠然としたイメージを持っており、MBAよりも自分にはこれだなと思った。

2. 入学前、他のリカレント教育は実施されていましたか？

本格的かどうかは分からないがしていた。会社が海外の有名なビジネススクールと提携した1ヶ月程度の、課題も毎週課されるMOOCを提供しており、手を挙げて4つ受けていた。日本のビジネススクールでも3か月くらい。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

ギリギリに決めて、TOEFLも一発勝負ではないと間に合わないタイミングだった。近所の試験センターでは予約できなかったため、業務が終わったと、深夜に厚木に向かい前泊して受験した。1月半か2か月くらいで準備した。印象としては紙が多い。オンラインで申請できるのはTOEFLのみ。成績証明書の取り寄せ（大学に行く必要があった）、推薦書など各書類も手書きを前提としたフォーマットや、手書きではなくても願書の破線内に収まるように貼り付けするなど。記載漏れのダブルチェックや、ちゃんと枠にはまるか、など糊や定規も使って非常に非効率的だった。書き損じた場合は再度願書を取りに行く必要があるなど。オンラインだとありがたい。

4. 学費は自費負担でしょうか？

自費の予定だったが、業務に役立つという理由で会社が負担することになった。会社にはオフィシャルな大学院派遣プログラムなどはない。

賛同してくれる理由としては今の業務にも役立つ。Self-development。自己学習に関する取り組みは会社も応援している。また、学費については安いという驚いた反応を示した（海外含めた上司）。

5. 3年履修制度などは活用されていますか？

申請している。ただ、2年に切り替えて卒業する予定。

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？

自主的な入学を会社が応援してくれたという形。

7. 【派遣の場合】派遣先からの期待値は？

普段の業務・政策立案への全体的な理解。個別に担当しているプロジェクトへのポジティブな影響、先生や横のつながりなどのネットワーク形成。あとは自己成長など。比較的ザクとした期待値。成績などは会社に報告している。

8. 【派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学

100%フルタイムで働きながら。

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（社会人）はいますか？（その人はどうして行かないのでしょうか？） 公共政策という分野を周りをご存知ですか？

いる気がする。やはり時間が作れるかが不安という観点と、会社辞めてまで行くメリットがあるのか、という。公共政策という分野はあまり知られていない。

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありますか？

先生との距離がもっと近いと思っていた。ディスカッションとか飲み会とか。教室の外での深い議論をする機会とか。そのようなことができる先生は違う。学びたい授業以外の必須科目がやはり多い。中にはなんのために受けているんだっけというようなものや。社会人を想定している設計にはなっていないと思う。特に、働きながら学業と両立するパターンは完全にスコープ外。職業人のためではないと思う。

[入学後に関する質問]

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせますか？

同期、友達。学部卒の学生や職業人学生の両方。分からないことであれば、事務の方にメールか電話で問い合わせ。

12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか？

オリエンテーションは大きく、友人を得る重要な機会になった。あとは学部から東大にいれば、履修のタイミングや登録方法などわかるが、他の大学から来ていることと、学部を離れてかなり時間が経過していたので最初は非常に困った。

【どのような点が変わればさらに通いやすくなりますか?】

情報がどこにあるのかがわからない。オンラインの掲示板だけでなく、何号館の前にある掲示板は見た方が良くとかある。著名な方の講演情報を廊下のチラシから知って、しかも先週終わっていたり。学内の知り合いが多いか、もしくは常にキャンパスにいないと情報が得られない。

【Zoomなどの工具的に、横の連携（グループワークなど）は十分に行えますか?】

できていない。学生同士のやり取りではLINEを使っているが、授業でZoomを用いても、その後の班に分かれてグループワークを行うにあたり、資料の共有やバージョン管理とか、学生同士のAd hocなチャットやウェブ会議などを行うことができないため、Teamsなど、全ての機能がワンストップで提供できるツールを導入することが望ましいと思う。

13.1 限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか?

ある。いい授業があったことと、単位を取るために必要な科目を取らないといけないという両方から。どうしても10時や13時などは打ち合わせが入る可能性が高いため、仕事とのバッティングを避けるためもっと基幹科目など、卒業に必須な講座を柔軟に配置してほしい。

14. 履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか?

ちょっと苦しい。仕事と学業両方のフルタイムで、且つ、仕事の事情もあり、2年で終わりたい。現在は政治単位を一つでも落としたり卒業できない状況に追い込まれている。

15. 成績評価はご自身の満足のいく内容ですか?

前期までは納得いていた。コロナで業務量が増えて、やや崩れてしまった。ただ、納得のいかない例としては、例えば自分自身では授業にも毎回貢献し、毎回変わるゲストスピーカーの著書も読み込み、スピーカー本人からも評価されるような質問を積極的に出し、レポートも時間をかけて創意工夫するなど、自己評価としては確実にAが取れると思っていた授業でBになったことがあった。朝日新聞の編集者である非常勤講師が対応する授業だったが、教授を通じて質問票を提出したが返答も得られなかった。その授業ではゲストスピーカーに対して有効な質問をすること、ゲストはそれに対峙することの重要性やメディアの役割などを教えることがゴールだったが、にもかかわらず担当する非常勤講師本人が学生の質問票に答えず、学生と向き合わない姿勢に対しては強い疑問を感じた。また、講師のタイムマネジメントにも課題があり、毎回授業が大幅に伸び、且つ全員が質問の機会を与えられないことがほとんどだった。職業人としては通告しない時間延長はゲストスピーカーや学生の貴重な時間を奪うという発想があるため、課題を感じた。たとえ学生であってもアルバイトなど生計を立てる必要があるケースも想定されるため、配慮が欠けていると感じた。また、私にとっては会社に成績を提出しないといけないこともある

が、将来的な博士号取得や、そもそも成績評価は学生が時間や労力を投資した成果のため、教員は透明性を確保することと、また、学生が疑問が出た場合には答える責任があると考ええる。相対的に判断、という抽象的な回答ではなく。アンケートにも書こうとも思ったが、アンケートは成績評価が発表される前に締め切られるため、学生が教員を評価する仕組み、また、他の学生がフリーライドで自身が準備した内容やアイデアを取るといった行為もあったため、Peer review のようなものも導入すべきと考える。

16. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありますか？

先生によってどれを使うのかバラバラなことがある。メールで、別で、ITC-LMS で、など。また、ITC-LMS で受講登録しても履修にはならないことと、UTAS のシラバスから履修まで一気通貫してできるわけではない。ワンストップになっていないのが不便に感じる。

17. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

同じ授業を取ったかどうか、特に少人数やゼミ形式。最初のオリエンテーションで社会人には会えたのが非常に大きかった。

18. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください

1年半は仕事との両立が大変。会社として配慮すると上司が言っていたものの、仕事の量は減らしてくれず、むしろ増えるという事態になった。土日と夜をフル活用して、睡眠時間を相当削って対応したため、健康が犠牲になっている気がする。出張も多く、コロナ前では、海外出張時に飛行機でひたすらレポートを書いていた。課題の本を大量に出張時に持っていくケースも多い。独身なので乗り切れたが、家族がいれば精神的にも難しかった気がする。

19. GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？

役に立つと思う。スキルもそうだが、普段の生活では絶対に会えないようなすごい先生方もいる。面白い先生もいる。ただ残念なことに時間帯がバッティングして受けられない授業も多い。あとは、脳の筋トレのような形で、膨大な量のリーディングを期日までに吐き気を感じながら読み込み、苦手な分野に対しても自分なりの考え方をまとめ、議論する、レポートを書くなどが身についたことで、学ぶことに対するハードルが下がった気がする。

20. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください

鈴木寛先生。増田寛也先生。斎木昭隆先生。やはり少人数制で、フィードバックがもらえる実務家教員の方の話は業務にもリンクしながら学ぶことができた。本音と建前、政策が決まる上での裏のパワーバランスなど他では聞けない話が聞けた。一方でアカデミックで

は谷口先生。理論はこうなっている。事例研究が特に楽しかったが、単位を超過して取ってしまい、基幹など必要な単位が取れていないことが悔やまれる。本当には他学部の授業とかをもっと受講したかった。

21. 研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？

かなり追い込まれながら研究論文を書いている。この2年間の学びとしての集大成。学んだことの証明。2年間は1日1日が過ぎ去るのが本当に早かった。

22. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？

すごく行きたかった。でも仕事との両立として海外はきつい。会社側への説明が難しい。オンラインでのオプションがあればぜひ行きたい。海外の先生や学生に意見をぶつけられる機会は貴重であり、オンラインでもある程度は吸収できると思う。

23. 卒業後のキャリア展望について教えてください(所属団体における立場・年収の変化や転職する可能性など)

たぶん、いきなり社内での立場は変わらない。学んだものをどう使うかは自分次第。大学院に行った、という行為そのものの評価を会社から受けようと思えることが違うと感じている。あくまでもアウトプットで評価されるべき。また、政治の道に進むときとか、仮に転職する場合の評価は期待している。転職もオプションの一つ。自社でも学費を返さないといけないというルールがあるが、転職先が契約準備金として出してくれる可能性もあるためそこまで重視していない。

24. 東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか？それはどうしてですか？

勧める。同じ方向性に興味のある学生であれば。MBAも大事だけど、政策的な国対国の視点など、MBAでは理解しづらい話もたくさん学べる。上司を説得できれば、行ける。それもスキルのうちだと思う。今の仕事ちゃんとやっているの？役に立つの？という上司は難しいが、必要性をロジカルに理解させるプレゼン能力は重要。ただ、GraSPPが入学時に求める、上司からの「学業に専念させます」という誓約書は不要だと思う。真面目に学業に取り組んでいるか否かは、その学生本人の成績評価で図ったほうがいいと思うし、著しく評価が悪い場合は容赦なく放校処分にするべきだと思う。

25. GraSPPのOB/OG会の存在はご存知ですか？また、卒業後は入会されますか？

はい。

【何を期待して入会されますか？】

繋がり。大学院出てから活躍する分野が国や自治体、政治を想定している。活発化していないのであれば、そこの活発化にも何か貢献したい。

26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください(1 が最も大きい)

- ① スキル ② 先生との人脈 ③ 学生との人脈

職業人が少なく、これから初めて仕事に就く学生が多い。すごく優秀な学生も多く、将来楽しみにしているため応援したい気持ちになるが、その人脈を期待しているわけではない。

27. 1 年目は対面、2 年目はオンラインでしたが、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか?それはどうしてですか?

仕事との両立という意味では、確実にオンライン。いろんな授業、仕事と連続してできる。コロナの影響で仕事量が膨大に増えたため、あの仕事量で対面であれば、おそらく両立は無理だっただろう。また、出席点が取られる授業もあり、それが本当に必要なかはやや疑問に感じる。また、先生や学生とのネットワークの構築はオンラインでは課題がある。1 年目の対面型もあったから、先生や学生とも仲良くなれたと思う。

28. オンラインで感じたメリットを教えてください

移動時間ゼロ。家から学校。教室から教室という瞬時に切り替えができる。また、分厚いテキストブックを持ち歩くこともない。あとは、心理的にも遅刻したくないものの、前の授業が延びてしまうこともあり、1 年目はストレスを感じていた。オンラインではストレスフリー。この時間は仕事、この時間はフリー。1 年目はキャンパスからテレワークしていた。あとは履修登録前のショッピングウィークはオンラインがありがたい。対面だと、1 コマ当たり参加できる授業が 1 つのみ、よって結構決め打ちで履修しなければならない。オンラインだといくつか行けるし、録画してもらえる場合もある。あとは苦手とする授業は録画データを見返して勉強することもできるのと、体調悪くても周りに気兼ねせず授業に参加できることが大きい。

29. オンラインで感じたデメリットを教えてください

横のつながりができない。他の生徒との距離が縮まらない。Break out room では会うけど、雑談ができるケースは少ない。先生を通じた 1 対 1 の関係しかできない気がする。

【オンラインでテストは難しい?】

システムの不安。紙で書くことを求める先生も。あとは、先生方が必ずしもオンラインに強いわけではないから、授業が 10-20 分始まらない、話し始めたらミュートになっている場合も多い。先生に期待されているのは Zoom の使い方ではないので、学務や学生にサポートしてほしい。先生もオンラインに応じた教え方の工夫をしてほしい。1 時間半ひたすら PowerPoint を読みながら一方通行で話されると質問もできず、理解が深まらない。後で録画でも良いと感じてしまうため、New Normal 時代の働き方改革だけでなく、教え方改革も必要と感じる。

30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は？（対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など）

100%オンラインと対面のハイブリッドを希望する。対面の方が良い授業もある。行きたいものもある。ただ、業務でどうしても行けない時もある。学費払っているからいけないというのは損失とを感じる。物理的に行けないからというだけで受けられないのは損。大講堂でやる授業は、オンラインの方がスライドも見やすい。感染対策にもなる。議論は学ぶための重要な要素。男性も女性も、現地にいけなくても参加できることは大きなメリット。あとは、きちんとオンライン側の人間に対して話を振るなど、企業のテレワークにおいても重要な悪意のない放置や、ファシリテーション技術が不可欠になる。

31. 卒業後、大学院での教育は社会で（職場やコミュニティで）評価されますか？理想は、どのように評価されてほしいですか？

社会ではされると思う。30代後半になって真剣に学び直したということ、成績や修論など、学位だけ取りに来たわけではないと評価されたら嬉しい。あとは、学んだことを自ら仕事や社会で示していくしかない。評価されるかどうかは自分次第。あとは、客観的に見てもどうしても納得の行かない評価しか受けられないのであれば、評価される場所を見つけるというスキルや決断も重要。

32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか？

院生になってみて、学び続けられる立場を純粋にいいなと思った。博士号、取れたら取りたい。ただ、仕事に一度振り切りたい。働きながら博士号は取れるはず。

[最終質問]

33. 日本でリカレント教育が広がらない要因は何かご意見を聞かせてください。

なんのために受けるのか。仕事のパフォーマンスを上げるためとか楽しいからとか人それぞれ。リカレント教育をしたから年収がアップするかといえば、考え方そのものが違うと思う。学んだから、給料が上がるのではなく、結果を出すのが大事。カルチャーの違いがある。新卒一括採用では卒業した大学名など学歴が重要視される。学んだ内容やスキルで評価する文化が醸成されないと、どんどん人材が流出すると思う。スキルで人を評価する文化が欲しい。ジョブ型雇用によるジョブディスクリプションはそのスタートラインだが、経営層および現場のマインドセットが変革されないと何も変わらず、また、学生に教育を提供する教員の意識も重要。

あとは、これまでは会社も大学も通勤や通学を前提にしていた。テレワークとオンライン授業の両立は極めて稀だった。社会人が学びやすい、ハイブリッド環境は頑張れば作れる。あと、学生は何のために学ぶのか、ということを個人として考えるきっかけが少なかった気がする。学部時代は学ぶって楽しいって思ったことはなく、ただ、その当時、身近で楽しく

学び直している職業人との接点があれば意識は変わっていくと思う。ロールモデルが少ない。

34. 【時短 or フルタイム就労の場合】組織はテレワークを認めていますか？

100%テレワーク。出勤を前提とされていない。移動には準備も必要であり、事故や感染などのリスクも有る。瞬間瞬間を無駄にしない（もしくは無駄にするという過ごし方も選べる）。ただ、業務の都合で、大学も授業を受けてすぐ帰るみたいな日が多く、残念だった。学部から上がってきている人たちからの刺激も非常に大きかった。仕事のために学ぶというより、学ぶ楽しさや苦しさを一緒に味わう仲間が必要。そのためには業務や学業以外の時間が必要。その時間の創出を、するためにもテレワークやオンライン授業の組み合わせは非常に価値があると思う。

【追加質問. 学位がなくても GraSPP に来ていたと思いますか？】

2年間フルでこなすのであれば学位がほしい。モチベーションにもなるし、海外の転職先企業からしたら、ただ受けましたという口頭説明や修了証より、どれくらいのコミットメントで本気度で取り組んだかわからないから、本気度を測る上でも学位があったほうがいい。

【追加質問. 給付金の存在はご存知でしたか？】

知っていた。東大は対象外だった。あとは、ハローワークに行ったりと手続きが大変だった印象がある。

H さん

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|--------|---------------|----------------|----------|---------------|
| 1 | H | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 独立行政法人 | 無 | 無 | 自費 | 産休後、復帰 |

[入学前に関する質問]

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由は？（東大公共政策大学院を選んだきっかけは？）

二つあって、一つは国際協力の世界は Master を取るのが普通というか、今後のキャリアを見据えた必要性。二つ目はアカデミックな部分で、(所属組織勤務) 8年目。(海外)に駐在していたことがあって。開発の現場で見たものがどう Generalize されたものとして消化できるのか、ということを考えるようになって。現場の問題意識を体系化して日々の業務に役立てたいなと思いました。

公共政策がいいというのは分野的に決めていて、ガバナンスといったこと。東大か GRIPS や一橋になるんですけど、プライベートなんですけど、夫も東大の情報学環を出ていて、世界でも知られている大学院に行った方がいい。世界の人でも理解できるということで知名度の高い東大を選んだ感じです。

2. **入学前、他のリカレント教育は実施されていましたが？**

特にしてないです。自己研鑽で読書したり会社の研修くらい。

3. **入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？**

社内選考があり、それに落ちちゃったんですね。国内は受かりにくい。なんで海外に行かないんだと面接でも聞かれて。入学の1年以上前、2年くらい前にはどういう風に進めていこうか考えていた。出願するかどうかというタイミングに。休職して大学は認められていない。病気か子供産むか。運よく合格して、子供もできて。子供が私のキャリアを作ってくれた。

【課題について？】上司の推薦書が必要でしたよね？なぜ会社から派遣されてないのに必要なのは謎でした。大学の指導教員は問題ないですよ。仲の良い上司に個人的に書いてもらいました。

4. **学費は自費負担でしょうか？**

自費

5. **3年履修制度などは活用されていますか？**

してないです。2年目で。

6. **所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？**

7. **【派遣の場合】派遣先からの期待値は？**

8. **【派遣の場合】**

ないと思います。でも広報とかで取り上げるでしょうね。育休中に大学院行きたいな。

9. **周りで大学院に行きたいけど、行かない人（社会人）はいますか？（その人はどうして行かないのでしょうか？）**

あります。特に女性の同じように育休に入る人たちから相談を受けることはあって、この機会に何かしてみたいと思う方は多いようで。でも私みたいにタイミングが合わない。

東大は保育園が併設されてるから良かったですけど。見てくれる人が近くにいないと。東大は弥生門のところに保育園があって。それがないと続けられなかったと思います。

女性のリカレント教育？ どんどん進めていった方がいいと思います。でも自分がやってみてすごくハードルが高い。家族の理解や、理解だけでなく物理的なサポートが必要。大学のシステムそのものもお母さんとかを想定していない。若くて家族がいない人を想定しているので、その配慮が進めばもっと進むと思いますし。親として母として政策に関わってすごく大切だと思ったんですよね。ダイバーシティがあった方がいいという前提であればよい環境がいいなと思います。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありますか？

あんまりない。そんなに期待もしていないというか、等身大の想像しかしていなかったの。

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせますか？

私は横のつながり、同期の方とか。オリエンテーションで出会った先輩。私は留学生とかに教えてもらうとか。

12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか？どのような点が変わればさらに通いやすくなりますか？

あんまり、母という面を除いたら、大学からのサポートはそんなに期待していない。自分でいかにマネージするかだけですよね。私はコロナになってからの方がやりやすくて、オンラインの方がコストが下がる。元々1年目もこうしてくれてればもっといろんな授業が取れたし。集中できたと思います。

13. 1限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？

受けてました。今年の前期でオンラインだから通学する時間を節約できるので1限が取れた。1年目はフルタイム学生だったので6限もあった。土曜日や集中講座は逆に子供が生まれてからだに通いづらかった。取りたい授業があったから取りました。

14. 履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか？

はい。

15. 成績評価はご自身の満足のいく内容ですか？

まーそうでもないですかね。もう少し頑張れるなと思うこともたくさんあったんですけど、どうしても疲れたり、レポートの期日を伸ばしてもらったり。修了することを目的に自分の学びたいことをどんなにボロボロの成績でもやるということを決めていたので。良ければいいですけど、必ずしも満足ではない。

16. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありますか？

そんなに困らなかったですね。でも GraSPP の掲示板を見ないといけない意識があまりなかったの、あそこに大事なものがあるという意識がなかった。UTAS,ITC,掲示板など媒体が多く情報が分散されてしまっている。貼り看板の文化が多い。ポスターとか。

17.

18. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

オリエンテーションと授業で座った時に話しかけて。日本人同士は緊張するけど留学生の方が話しやすいし、英語の授業の方が友達ができる。日本語クラスはすごいドメスティック。

【コロナ禍では？】結構厳しいかな。留学生との授業なんかは仲良しになる子もいたけど物理的にこっちに来てなかったりするのにつながっていても超バーチャル。

19. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください

(1学期目の7月末にご出産) 期末期間中に生まれるとわかっていたので代替措置を先生たちをお願いして。レポートに変更 OK は一人だった。先生の理解は人それぞれでガイドラインとかで決まってないんだと。最初はダメと言われたけど。そもそも取るな、と言われたり。あとは保健センターあるじゃないですか？あそこに妊娠中はここにきて休んでいいですか？と聞いたら、ここは本当に具合の悪い人のために妊婦のためじゃないので、と言われた。学内差別みたいなものがある。お腹が大きいのになぜ通ってるの？みたいな。私は社会人だからいいけど、学生たちで妊娠している人。授乳室はない。赤ちゃん連れてくる方とかいるので、その方たちのためにも作ってもいいのに。

20. GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？

業務にはすごく役立ちます。両方で、学問自体で学んだこと、公務員管理とか予算要求とか。独法で働いていること自体、日々の仕事がしやすくなる。あとは学んだ部分、政治的な考え方や日本の仕組みとか、途上国にどう生かせるのかなど。地方にどう予算をまくのかなど、そのままではないけど考え方とかの応用は可能。そもそもガバナンスをどう維持しているかなどかみ砕いている。すごく役立っていると思います。

21. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください

色々。留学生と一緒にやった授業。日本人同士の議論より、想像つかなかった意見が出

てくる、見えてくる世界。本来のフィールドで役立つ視点を思い出させてくれる。グローバルガバナンス。SDGs ポリシーチャレンジとか。留学生とたくさん議論して。学生らしくてよかったです。

【先生や横のつながりは、卒業後も役に立つ？】

そうですね。学生は特に。みんな将来有望な子たちですし。先生も業務上のつながりもある人ですし。そういう意味ではまた連絡してみたい先生に恵まれていると思います。

22. 研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？

リサーチペーパー書きたかったけど、実は城山先生に相談して書くつもりだったけど8月に復職して、激務で、その瞬間にあきらめて。リサーチペーパーの提出時期も、冬休みで業務ないときに作ればできたかもしれないけど思い切り繁忙期で。

23. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？

してないです。家族がいるということと、高い。本当はダブルディグリーとりたかったけど2倍かかる。それはきつい。育休手当は通常給与の67%とかで、経済的な部分と家族と一緒にいることを優先しました。

【オンラインだったら？】 手ごろな金額だったらうれしい。

24. 卒業後のキャリア展望について教えてください（所属組織における立場・年収の変化や転職する可能性など）

転職も視野に入れていて、パブリックセクターを見ること自体が面白くなってしまったんですよね。より広くコンサルタントとかでパブリックやっているような会社で。プライベートセクターからパブリックセクターを見るとか、パブリックセクターの可能性を感じている。MPAを取ることですごくプラスになるので。

25. 東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか？それはどうしてですか？

勧めます。開発などに携わる子が多い。学ぶことが日本社会に直結するし、先生もおもしろいし。

26. GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知ですか？また、卒業後は入会されますか？

はい。去年 Alumni の会に出て。構内にポスターが貼ってあって。掲示板にも出ていた気がします。日本人は少なくほとんど留学生。現役から入れます。

27. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください: スキル・学生と

の人脈・先生との人脈（1が最も大きい）

- ① スキル ② 先生との人脈 ③ 学生との人脈 （長い目で見たら現役学生で就職する方や留学生が母国に戻って活躍されたりすると思うので、間違いなく、学生との人脈→先生との人脈→スキルになると思います。

[コロナ禍に関する質問（対象者のみ）]

28. 1年目は対面、2年目はオンラインでしたが、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか？それはどうしてですか？

2年目のオンラインの方が学習に集中できたかなと思います。

29. オンラインで感じたメリットを教えてください

通学がない分、時間が有効に使える。緊急事態宣言は子供に保育園に預けられなくて悲惨だったけどそれでもできないことはなかった。子育てと両立は可能。通学は子供と一緒に負担が大きい。保育園に預けて。時間割を調整してオンラインの方が体力的にも楽。

【教室間の移動は？】 駒場と本郷みたいなのはなかったのでもそこまで。

【動画公開のメリットは？】 確かに。見直した授業もありました。が、逆にそれに頼ってしまうと授業の時間に集中できなくなってしまうのであくまでも補助的なツールとして。でも子供が叫ぶとゼロになるので。

30. オンラインで感じたデメリットを教えてください

横のつながりを作るのが難しい。Zoomの機能自体、先生とのインタラクションはできても横の人とおしゃべり、プライベートチャットとかすることはできないし、皆の前で連絡先を交換とかできないし、それが残念でした。悲しかった。

それ以外？顔が見えないというところですかね。必ずしも顔出しをMustではない授業も多かった。きっと今後会っても分からないと、寂しい。

【オンラインでのテストは簡単だったか？】

ネットでやること自体はむずかしくなかった。内容は難しかった。

31. コロナが終息した後の理想的な履修環境は？（対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など）

オンラインと対面の併用が良いと思います。コロナへの配慮。学習環境として通学時間をカットして集中できる人はそういうことをした方が良いと思いますし、自分が集中できる場所に行くんだというケースもあると思うので、人に合わせた学習環境を選べるということ自体が大事だと思います。

32. 卒業後、大学院での教育は社会で（職場やコミュニティで）評価されますか？理想は、ど

のように評価されてほしいですか？

修士を取ったということ自体は職場で評価される。申告しないといけないので一定の評価はガバナンスは強くなる。マタニティ大学生からママさん大学院生で修了したということが、自分にもできるんだということが、他の人から見て、もしかしたら私みたいな学位の取り方ができるかもと思ってもらえるという意味ではそういう評価をされてほしいです。一年だったらできるという人はいるけど2年は結構難しい。それをどうマネージしたか。それなりの Obstacle にぶつかったの。あ、もしかしたら自分にもできるかもしれないと日本の強い女性たちが気づいてくれれば。

33. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか？

目指さない。

[最終質問]

34. 日本でリカレント教育が広がらない要因は何かご意見を聞かせてください。

ドメスティック。日本人は英語のクラスとか取らない。失敗しちゃいけないと感じている。そういう人が官僚になってもそういう社会になる。留学生の友達がいる子も少ない。等身大の世界を大学の中で感じられないのは残念です。選んで避けて通れる。

35. 【時短 or フルタイム就労の場合】組織はテレワークを認めていますか？

職場のテレワーク？週3テレワーク。週に一コマある部分は午前休として午後そのまま在宅勤務。うちは時間給もできるので。

【追加質問. 学位がなくても受けていたと思いますか？】

学位がないとだめ。

Iさん

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|-------|---------------|----------------|----------|---------------|
| 3 | I | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 地方公務員 | 無 | 無 | 組織 | 学業に専念 |

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由、そして東大公共政策大学院を選んだきっかけを教えてください。また、公共政策という分野は元々ご存知でしたか？

行けと言われて行ったパターンで。毎年異動希望調書みたいなのがあって、勤務地で東京を書いたことがあるんですね。大学院は想定していなかったです。公共政策は知らなかった。なんですか？みたいなことを先輩に聞いてました。

2. 入学前、ご自身で他のリカレント教育は実施されていきましたか？

TOEIC とか。あとは用地買収をやっていたので宅建とかをちょっと勉強してみたりとかはしましたけど。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

そもそも辞令が出るのが3月末なので、7月くらいまででしたっけ。そんなに。3か月から4か月くらい。【課題は？】成績取り寄せるのは。大学は（出願時の居住地）じゃないので郵送で、とか。上司の方に書いてもらうところありましたよね。そのときの事務所の副部長。人事課が辞令だしてたのでそこが書けばいいのには思いましたが、辞令を渡した人なので、話はすぐに通るといふか。その方は男性ですね。

4. 学費は自費負担でしょうか？

公費

5. 3年履修制度などは活用されましたか？

使ってないです。

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？

7. 【派遣の場合】派遣元（上司など）からの期待値はありましたか？

ないんですよ。とにかくそこで勉強してきなさいという辞令なんですけど何を勉強してこいというのが全然ないのでちょっと困りました。

8. 【派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学

出向と同じ扱いで学業へ専念できる環境。

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（職業人）はいますか？（その人はどうして行かないのでしょうか？）

いないと思います。そもそも公募制の対象になっていて、それがいなかったから行ってこいという感じに。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありましたか？

最初は東大？すごい人がいっぱいいるんだろうな、と。確かにいるんだろうけど。もうちょっと熱心かと思ったけど。熱心じゃないとは言わないけど、国家公務員になりたい人のちょっと猶予期間っぽい場所になっている部分もあるのかな、と思いました。あと

自分が興味ある分野だけ取っても単位いかないじゃないですか。それ以外の授業を取って見て意外に面白くて興味や幅が広がった気がします。

11.何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせましたか？

やっぱり過去に派遣されていた先輩を知っているというのは強いですね。困ったことはレポートの書き方とか、法学部の試験って、どういう回答をするものなのか、答え方が分からなかったので聞きましたね。

【学務とかに質問？】 学生証の時くらいですかね。

12.在学中、職業人として教育を受けるにあたって大学（学務など）からのサポートは十分でしたか？どのような点が変わればさらに通いやすくなったと思いますか？

最初は ITC-LMS とかのログインの仕方が全然わからなかったですね。ネットワーク使うのも。

13.1限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？（それは受けたい授業があったから、もしくは職業人として業務との調整がつく枠だったからでしょうか？）

土曜日は取ってないです。集中は取りました。取りたいからです。

14.履修状況（卒業までの単位取得）は予定通り進みましたか？

そうですね。かなり。

15.成績評価はご自身の満足のいく内容でしたか？

ああ、そうですね。最初は東大とかでやっていけるの、という感じだったんですけど。

16.UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありましたか？

特にはないですね。どっからでもログインできますし。逆に職場で使うシステムがどこからでもつながらないので。

17.同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？今でも同級生の方とつながりは維持されていますか？

社会人選抜の飲み会とかありますよね。そこで。その時が一番。学部卒よりも社会人選抜の方のほうが話題があった気がします。今はつながりはないですねー。。LINE とかのグループとかあったり授業とかで先生含めて飲み会しましょうとかなるんですけど、

(現在の居住地) ですし、育休中で出張機会がないので会えないですね。

【今でも教員の方とつながりは維持されていますか？】

ただ、谷口先生は(所属する公共団体の)有識者会議にも入っているので、年に一回は来られるんです。

18. **在学時、ご家族の理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化(業務と比べ)について教えてください**

時間的な拘束がグッと減ると、私すごく夜型の人間なので、昼夜逆転してました。

19. **GraSPP で学んだ内容について、業務で役に立っていますか？具体例があれば教えてください。**

公務員なので、だいたい3-4年とかで職場変わるんですよ。それが自分の希望通りに異動できるわけじゃないので、なかなか難しいですよ。勉強してもそういった分野の部署じゃなきゃムリですよ。育休入る前は財政課で予算組むような仕事していて、担当が警察で、GraSPP にいたときに社会安全警察論の勉強していたんですけど、警察がどういった業務をしていたのかという予備知識みたいなのはあったかもしれないですけど、実際に予算を組むみたいところは勉強が活かしたとはないかもしれないです。

【脳の筋トレという効果はありましたか？】

それもあんまりですね。私たちが作る文書って行政文書で違うような気が。

20. **最も印象に残っている授業や教員、その理由について教えてください**

増田寛也先生。ゼミを取ってました。県知事経験と総務大臣とか、そもそも GraSPP の授業って結構あの国家公務員になる人のための授業というか、政策というのも国の政策ばかりなので、地方自治とかに目を向けている授業はそもそも少ないので、増田先生の授業は完全にそっちだったので、自分が知りたいこととか近かったというか。

21. **研究論文やリサーチペーパーは作成されましたか？**

はい。金井先生に指導教員をお願いしました。

22. **交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？**

してないです。行けるのかもしれなかったです。英語の授業とかほとんど取らなかったです。オンラインでも英語苦手なんで受けてないと思います。

23. 卒業後、GraSPP で学んだことによって所属団体における立場の変化について教えてください。（年収の変化や役割の変更など）

GraSPP に行ったから財政課に配属されたというよりも、GraSPP 派遣自体がそういうルートに乗るような話なのかもしれないです。GraSPP で学んだからというのではない感じ。それがあってもっとこれ学んできなさいというのがあると思うので。

24. GraSPP を面倒を見ている後輩に勧めますか？それはどうしてですか？

うーん。。その人に寄るかもしれないです。好奇心旺盛な方とか。自分から何かを求めている人だったら勧めるかもしれないです。【もう一度行きたいと思うか？】私は仕事しているときの方が楽しいです。

25. GraSPP の OB/OG 会には入会されていますか？

入っていると思うんですけどね。入ってるのかな。省庁に行った人とのつながりですかね。県職員からすれば。

26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください（1 が最も大きい）

- ① 学生の人脈 ② 教員の学生 ③ スキル

[コロナ禍に関する質問（対象外）]

27. 対面型とオンライン授業、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか？それはどうしてですか？

28. オンラインで感じたメリットを教えてください

29. オンラインで感じたデメリットを教えてください

30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は？（対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など）

31. 卒業後、大学院での教育は社会で（職場やコミュニティで）評価されますか？理想は、どのように評価されてほしいですか？

32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか？

ないです

[最終質問]

33. 日本でリカレント教育が広がらない理由について、個人的なご意見をお願いいたします。

私は転職経験ないので公務員の立場でしか分からないんですけど、少なくとも公務員の場合は学問で得られることが仕事に活きると思われていないんじゃないですかね。勉強

よりも実践の方がスキルが得られると思われてるんじゃないかと。みんなから。自分もそう思っているところがあると思うんですよね。産学官連携とか、学生とかとコラボしても色々ありますけど、純粹に学生のアイデアをもらって政策に活かすというか、アピールになることがあるかと。学生を巻き込むことでメディアに取り上げてもらってというか。

34. もしも働きながら在学された場合、職場ではテレワークを認めていましたか？

今はそうですね。コロナで。在宅勤務があるみたいで。

Jさん

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|----|---------------|----------------|----------|---------------|
| 1 | J | Yes | 男性 | 60代 | 他学 | 民間 | 有 | 有 | 自費 | 時短調整可 |

[入学前に関する質問]

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由は？（東大公共政策大学院を選んだきっかけは？）

50代の半ばで徐々にリタイア後のことを考えるようになりましたけども、一つの選択肢としてもう一度勉強してみたいな、と。今度は中学から高校、大学など、ねばならないではなく自分がやりたい勉強をやってみたいという思いがあって。例えばこういうのはどうかな、というのをいくつか考えてました。どれというのも決めきれず退職してしまった。そこから先、3-4か月は再就職するでもなく、学校も決めておらずゆっくりしていたんですけども、私が若い人から手伝ってほしいという依頼があってお手伝いすることにしたんですね。なんのお手伝いになるんだろうと思ったら。朝食勉強会で多い時は100人くらいになるひな壇でコメントをしてくれということになることもあり。製薬業界しか知らないし、産業としてもヘルスケアで社会保障に少し関与したということで、知識がないわけですね。会社の時に考えていたことだけでなく、一気に幅広に経済であったり、至急勉強する必要があった。ネット検索していたらぽりっとGraSPPの入試説明会が出て。公共政策で、あれ？こういうのを幅広く勉強する上で合ってるんじゃないかな、と思って。日を見たらまだ間に合う。東大じゃなきゃいけない、とかではなく、とりあえず。東大一本で進めました。

2. 入学前、他のリカレント教育は実施されてっていましたか？

仕事の中ではあります。会社のおかげでMBAに活かせてもらったり、会社の派遣で短期留学はあったんです。MBAは丸2年。あとは2か月とか2週間とかのコースはあった。30-40第半ばであった。通信教育で法律を勉強したことはあります。個人で。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

準備期間はほぼ0だと思うんですけども。締め切り間際に説明会に駆け込んだ。出願するにあたってどういうことが必要かと。大学の成績証明書、大学とMBAの証明書。あまりに昔なんで。大学なんて50年以上昔。コンピューターは行ってない。手書きで紙として残っている。成績証明書はWordかExcel。(MBA校)もそうでした。30年前。時間がかかっている。GraSPPは締め切り逆算すると全然時間がなくて。TOEFLは都内が全然なくて宇都宮まで新幹線で。(学部を卒業した地方大学名)に台風の日に用意してほしいと。大学も2日ほどで対応してくれました。(MBA校)も直接(キャンパス所在地)まで。翌日申し込みました。社会人なので上司(研究所の方は代表者がいるので)推薦書、朝食ご馳走するから書いてくれと。期日ギリギリに。

【課題は？】なかったと思うんですけどね。今の若者であればオンラインで。紙で全然結構なんで。期日の確認とか書類が成績証明書なのか卒業証明書なのか、お電話したりメールしたり。丁寧に回答いただけたりしたので。

4. 学費は自費負担でしょうか？

自費

5. 3年履修制度などは活用されていますか？

3年です。願書を出しつつ準備はしたが、経済面を勉強したことがなかったのでそういう意味で事前勉強したいな、と。本も何冊か読みました。とてもじゃないけど2年で修了というか、最初からついていけるかどうか、という心配があり。勉強の中身。単位が取れる取れないじゃなくて久しぶりに席に座って持つのかな、という不安があつて。1年目は授業に出ることに慣れる、経済科目に予習をするつもりで3年をお願いしました。

眠くなったことは全くないよね。ビジネススクールのときは授業はつらかったことはよく覚えている。

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？

自主的

7. 【派遣の場合】派遣元からの期待値は？

ほとんどネットでつながっている組織ですが、中身的にはそれなりのものだと思ってます。代表者はいまして。その方が長くやってらして。政治とか学問とかつながりが広い人なんですけどね。その人にはすごく自分もやりたい、と。すごいですね、と。もう一方もそうですよね。研究所の中でも例えば朝食研究会とかでのコメントの内容、先生方といろんな機会にディスカッションする。そんな中でも研究会のメンバーとして一通りの勉強をして

いる。顔だけつながっているロビー団体みたいではなく、背景をもって日本の重要な問題にも一通りの理解をしたうえでお手伝いしているというのは大変喜ばれている。

8. 【派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学

コロナ以前も毎日外に出かけるわけでもなく、月に一回。不定期に集まってディスカッションしたり、メンバーがそれぞれのところでやる。研究所の活動にはフルだが、毎日ではない。

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（社会人）はいますか？（その人はどうして行かないのでしょうか？）

私の年齢では滅多にいないんですけど、会社をリタイヤするときにできたら行きたいって人はいるけどそれは決断ですよね。やれるの？という。もっと若い人はそれぞれに、最近では夜学とか通信とか、MBA を取る方は特にいましたよね。記憶では女性が多かったと思います。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありますか？

期待以上。大変満足しているので、一つ一つの授業や宿題が大変だったりするものもあるんでついていだけで大変。学びという意味は期待以上に満足してます。入学前の自分と今の自分は外から見れば同じ顔同じ人間だけど、中身は知識面で変わったなど。

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせますか？

他の学生さんみたいに同級生がたくさんいて、というのは私の場合ないので。皆さんも職業人枠ではないので。今度のどの先生の授業取る？とかの情報はいいですね。そういうのがほしいですかっていうと、別に。どんなに大変でも2、3、4か月で終わるんだから。

12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか？どのような点が変わればさらに通いやすくなりますか？

基本メールですよ。ちゃんと担当の方で、機械的な返事じゃなくて何度かお世話になったことがあると思うんですよ。ですのでサポートは必要とすれば。唯一 Zoom になっちゃったので IT が苦手なので最初は苦労して、試験の時に。Zoom は大変で。

13. 1限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？

1限はとったことあります。6限は。土曜日や集中はない。仕事の関係で1限は取りづらい。夕方からも会食があったりすることもあるので取りづらい。一週間の中でフルに空い

ている時間がないと研究所の予定入れづらい。今でいえば月火水に固めている。木金はフリーにしている。受りたい科目もあるんですけど時間との組み合わせで。

14. 履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか？

そうですね。1年目、最初の夏はほとんど取れなかったんですけども。今期も続けているので来年あと少し残るくらいかな、と。勉強が大変、というよりテストが大変。レポートはいいんですけど。テストは覚えこんでないとその場でなかなか出てこないの。私くらいの年齢になると理解することはできても記憶する力は落ちてきているので。覚えこんで試験会場で吐き出すのはきついです。

15. 成績評価はご自身の満足のいく内容ですか？

そうですね。そう思います。レポートだけだと良い評価。

16. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありますか？

一番最初は全然わからなくて苦労しました。なかなか。今はすっかり慣れているので、困ることはありませんけど。Zoom になったときに授業によっては東大アカウントから入ってくださいとか。入れないとか。IT がらみのトラブルは私の年齢もあって。そのため一日やっています。というのもありましたけど。

17. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

去年なんかは自分の時間枠の授業に出て学生さんたちとの交流がなくてほとんどのなかったです。年齢が離れすぎて。カンボジアの留学生とはいつも同じ席に座って。今年になって Zoom 授業になってかえって演習科目なんかでミニグループ作って発表してほしいとか。若い22歳、学部の人たちと小さいグループで、Zoom ですけど。そういうふうにすると顔と名前を覚えてもらえたりして。授業関連ですけど。チャットしたり。楽しんでいます。

18. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください

こんな年齢ですから。私は私です。やめておきなさいよ、も何もないので。精神的にサポートしてくれている感じですかね。

19. GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？

私の場合は完全に役に立ちますね。

20. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください

単位にとれてないんですけどね。経済は授業だけ出るだけ出て。試験も受けなかった。ミ

クロ経済やマクロ経済。マクロ経済の授業だったんですけどね。最後に一斉に拍手しましたね。楡井先生、特別というわけではなく一生懸命。熱を持ってディスカッションして。結構外国人の生徒が半分くらい。大学の授業で感動して。終わるのがもったいないような。

【先生や横のつながりは、卒業後も役に立ちますか？】

この間まではゼロでしたけども。先生方にとってみても教室の中にいるというのは想定していなかったのではないかと。私を見つけるとびっくり。徘徊老人が紛れ込んだ。みたいな。今は Zoom で人数がいない授業の場合は顔出しの場合は。個人的なつながりまではいっているわけではないです。

21. **研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？**

幅広に勉強したいのでペーパーみたいなものは知らずにいました。

22. **交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？**

ない。【オンラインになったら？】 前期も今もアップアップなんで、英語の文献呼んでレポート書くスタイルの宿題がどの科目でもあって。大学時代とは全然違うくらいに勉強してるっていうか時間をかけている。それ以外のことには全然ない。余裕があれば。

23. **卒業後のキャリア展望について教えてください（所属団体における立場・年収の変化や転職する可能性など）**

教室の中でも自己紹介で。卒業後は就職したい。もう一回働こうと。研究所は手伝ってるけどリフレッシュ期間。もう一度働く。戻っていく。給料なのか個人なのか。余裕はなくてですね。来週の予習で。どこかの段階で。

24. **東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか？それはどうしてですか？**

きちっと勉強しようという思いがあるなら一番にすすめます。公共政策大学院というのは私も全然知らなかったけど、他の公共政策大学院と一緒にやるとやるワークショップ。みんな出るものと思ってひょいと出たら。こういったところにもあるんだな、と。公共政策、経済、政治、法律、こういった科目について幅広い理解をしたいというような。真っ先におすすめしたい。勉強するという決意がないとだめだと思います。

25. **GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知ですか？また、卒業後は入会されますか？**

知らない。入会するのかもしれないですけども私の場合は年齢があまりにも違い過ぎるので活発に参加することはないと思います。

26. **GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください：スキル・学生と**

の人脈・先生との人脈（1が最も大きい）

- ① スキル ② 先生との人脈 ③ 学生との人脈

オンラインになってから学生とのディスカッションが増えたので順位に大きな差はない

[コロナ禍に関する質問（対象者のみ）]

27.1 年目は対面、2年目はオンラインでしたが、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか？それはどうしてですか？

通学の時間を取られないので、オンラインでも全く問題なくできているので今はありがたいな、と思ってますが、それも1年目の対面があったからだ。

28. オンラインで感じたメリットを教えてください

【通学の時間以外に？】 質疑応答は対面の時よりもたくさんしていると思います。同じ先生の授業をこの夏受けている。あきらかに質問が多いよな、と。質問しやすかったり。誰も聞かないんだったら聞こうかな、と思ったり。ずいぶん。

29. オンラインで感じたデメリットを教えてください

あんまり感じないけど、冬の Semester は試験はちょっとやりづらいな、と。先生も困っているな、と。試験だけなら行って受けた方が。自分が Zoom に入れるかどうか、回答用紙をとって、写真を撮って準備する。アクセスがうまくいかなくて、やっと問題にたどりついたら15分しかなくて。文献を読んでいるうちに。残り5分。集中してじっくり向かうことができなかったので。ITのできない人間には。

30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は？（対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など）

オンライン併用ですね。地方の出身なんですけど。地元から東京へ来ていないんですけれど。九州の田舎なんですけど。生活費学費を親が見れない。来れていないんですね。地方創生の問題から働く場だけでなく教育の場が地方にない。一流の授業を一からフルではなくても時折対面があったり地方にいても受けれるんだよ。というのはこれから一つの方策として考えていかないと。

31. 卒業後、大学院での教育は社会で（職場やコミュニティで）評価されますか？理想は、どのように評価されてほしいですか？

どういう気持ちで大学院に入ってくるか。生意気なんですけど会社を退職するにあたって。多くの方は元気な限り働きたい、とおっしゃるんですけど。それまでやってきたことの知識経験を活かす。だんだん収束していく。100年時代でいくつも次のステップに進む前に新たに勉強して知識をたくわえて大学を40-50年を4年の勉強でやっていくんです

ど。1度ならず2度3度、本屋で勉強した程度じゃなくて。評価するとかそんな問題じゃなくて自分自身の人生設計の中で次のステップで。必要だよ。自分自身の内面。

32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか？

全くないです。

[最終質問]

33. なぜ日本でリカレント教育が広がらないと思いますか？

やっぱり日本ってあなた何歳なんですか、とか、60歳定年とか年齢年齢を言っている。私が会社を辞める時も定年ですよ、と。定年だよ、といっても、社員にだけやめさせるとかできなかった。何歳だからなんとかです。ということではなく50代後半になったけどそれから部長になったり役員になったり何ができるんですか、資格やスキル、能力で対応して。おまえも何歳だからな、ということを行わないような。あと何年かは自分が決めること。こういう社会だと外で勉強する余裕がない。

34. 会社や職場はテレワークを認めていますか？

テレワークといえばテレワーク。研究員ではないので。人と会うのが仕事。

【追加質問. 学位がなくても GraSPP を受けていたと思いますか？】

そうですね。ただあることで大変になってもあきらめないインセンティブになったと思います。

Kさん

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|-----|---------------|----------------|----------|---------------|
| 2 | K | No | 女性 | 30代 | 他学 | 元民間 | 無 | 有 | 自費 | 学業に専念/退職 |

[入学前に関する質問]

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由は？（東大公共政策大学院を選んだきっかけは？） 公共政策を知るきっかけは？

きっかけとしては学部に入學する前からずっと安全保障に興味があって、大学時代に行きたい学部いけなくて文学部に入って。あんまり安全保障とか国際政治やったということではなくて。院に進むにしてもお金稼がなきゃいけないと思って就職したんですね。就職してもいつか大学院に戻りたいなと思って。結果として7年いたというのはずいぶんいたなと思ったんですが、もういいかな、と思った瞬間もありました。でもやっぱり元々勉強したかったことをあきらめきれず30歳を手前に受験を決めたって感じでした。 なんと

くいつか大学院で安全保障を勉強してキャリアチェンジしたいなと思って。金融で外資ならつぶし聞かろうと思って。あと、お金はなんにでもかかわるので。

【GraSPP は？】一本に絞りました。理由はですね一つは公共政策に行こうと思った理由は普通の修士の院、実務大学院じゃないところだと、これまで研究成果を出さなければ入学が難しいイメージで。実務家はそういったものを求めないというか、公共政策が安全保障できるバックグラウンドを問われないと思って。日本だと京都大学とか政策研究大学院大学とか一橋とか。一つは近いということで、一番大きかったのは海外提携ですね。今まさにコロンビアにいますので、これを狙っていたというところですね。

【安全保障を学びたいと思ったきっかけは？】

9.11 が小学校6年生で、東京にいましたし、非常に衝撃を受けて、日本の平和教育や歴史教育は第二次世界大戦で、過去の遺物で、日本は平和というイメージだったので衝撃を受けて。戦争をなくすにはどうすればいいんだろうと子供ながらに思ってたんですよ。平和活動というよりはロジックで攻められないかと。国際政治とか安全保障とかを勉強したら。

2. 入学前、他のリカレント教育は実施されていまいましたか？

はい。MOOC をやったんですよ。全然続かなくて。お金も払ったんですよ。5-6 千円払うとチャットとかで Peer で採点したりするんですよ。最初の一週間くらいは頑張ったんですけど途中で挫折しました。一つは受験勉強を始めたタイミングだったので受験勉強に集中したというのがきれいな理由なんですけど、もう一つは、続けるのは相当モチベーションがないと続かないし、周りのイメージも分からないので。動画見ていると眠くなっちゃうので。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

期間でいうと10 か月くらいですかね。10 か月ほぼ自習室にいました。仕事を終わらせて忙しい人のふりをして18時半とか19時に逃げるようにして帰りました。まあまあ時間はかけたと思います。

【課題は？】

情報がほとんどなくて。数名の方の入試ブログをさすがのように読んでたんですけど。ほとんどが学部からなんですけど、国際法とか興味があっても一切知らない状況からスタートだったので何をしたらいいかわからないので友達とかにも聞けないじゃないですか。東大の知り合いも学部にはいないので。

4. 学費は自費負担でしょうか？

自費

5. 3年履修制度などは活用されていますか？

使ってないですね。普通の留学制度と同じで2年半の卒業になります。

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？

自主

7. 【派遣の場合】派遣元からの期待値は？

受験勉強は黙ってました。受かって本当にすぐにしましたね。上司の反応としては、転職の多い業界なので辞めることそのものは衝撃を受けない文化という意味では非常にポジティブに受け止められました。大学院に勉強するという事は、なんて素晴らしいんだ、うらやましいという反応をされました。

【上司は？】日本人です。アメリカのMBAを出ていて。ご本人も仕事しながら受験して、ある種自分も仕事を変えたいという方だったのですごく共感を得たというのがあったと思います。その時のチームのヘッドは女性で、間にいる上司は男性で。そのときは実務の世界なので人が減ることでショックだったみたいですけど、その方は日本の大学をでて。

8. 【派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学

退職。

【経済的な部分は？】

日本にいたときの生活費は夫が負担してもらおうという感じでしたね。学費は自分の貯金から。留学を元々目指していたこともあったので、できるだけお金をためなければと数年前から感じてためていました。

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（社会人）はいますか？（その人はどうして行かないのでしょうか？） 公共政策という分野を周りをご存知ですか？

そうですね。潜在的には結構すると思いますね。行った人が目につくので。MBAに行った人が結構な数いるんですよ。その数を見ていると案数として結構いるんじゃないかなと思いました。

【理由は？】

一つは、日本の大学院に行くという選択肢があまり考えられていないと思います。私の周囲だと専門職大学院だと当然海外という感覚がある。とりわけ20代後半や30代の方は格付けも潜在的な意欲なので、社費取っていくという感じなので、そのときに、自費だっ

たら日本の大学院でも行ける人は多いと思うんですけど。社費がだめならあきらめる。

【公共政策は？】

公共政策系の人たちも基本的には海外に行っているイメージですね。省庁の友人なんかも。私費の方も何名かは知っているんですけど。東は無理でも西になんとか。海外とかヨーロッパ。ちょっとその GraSPP を含めてなんですけど、学部卒からいく就職予備校みたいなイメージもあると思うので。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありますか？

ありました。かなりポジティブな意味で。ものすごく期待以上だったなという感覚でした。一つは10年前のイメージを引きずっていたというのもあって、学部卒がほとんどで。実際には留学生が多くて、学部卒の方も想定よりもとっても優秀で勉強も熱心で。思っていたよりもずっとアカデミックな感じで。Peer の雰囲気という意味ですごく良かったです。自分と10近くも若い方々と勉強したりが刺激になりました。

あとは GraSPP だけじゃない法学部の授業を結構たくさんとれるというのが個人的にはポジティブでした。ちょっとコロンビアとの比較が入っちゃうんですけど、専門職大学院って実務に偏っているイメージがあって、なんというか腰を据えてというよりは知識として知っておいてくださいね、という感じで。それはポジティブでもあるんですけど、私みたいに学問のバックグラウンドがない人間にとってはベースのところをちゃんとやりたかったので。東大のいいところって学部から院生まで全部同じところでやるじゃないですか。そういう意味ではフレッシュに取り組んでいる学部生から博士でやっている方も含めてみんなフラットに理論の話とかを、日本では超著名な先生から習えたというのはものすごく価値があったなと思ってます。

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせますか？

まずは13Fの窓口へ行っていました。

12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか？

十分だったと思ってます。入学前から。旧姓で通ってまして、それを入学手続きの前に行ったんですよね。その場で調べてくださって対応して下さったことはポジティブな印象だった。私は学部卒の学生とは違うケースだったと思うんですけど嫌な顔せず。留学に向けた情報収集に伺った時も色々とおアドバイスをいただいているのでざっくばらんとか。年もやや事務の方と学生の方の間にいるとか、近い感じのコミュニケーションしていただいた感覚がしました。リスペクトを持っていたいただいたと思います。

【どのような点が変わればさらに通いやすくなりますか?】

一つは情報発信かなと思っていて。私本当にこんなに社会人がいると思ってなかったのが意外というというのがポジティブな驚きだったんですね。もうちょっと社会人向けの説明会とかしてもいいんじゃないかなと思いました。GraSPPが今見てるのはどうしても学部卒か留学生で。若手の社会人とか掘り起こせば相当ニーズがあると思うんですけど。私は会社辞めてきているのでカリキュラム的なものというか、社会人にもっと情報発信があってもいいんじゃないかと思いました。特に留学制度については本当にそうだと思って、私の周りでは海外留学が無しか。GraSPP入ってしまえば学位も取れてしまうのもったいないな、と。

【Zoomなどのツールの的に、横の連携（グループワークなど）は十分に行えますか?】

それはそうですね。私自身は友達、みたいな感じは難しかったというのがあって。学部生と年の差があるというのももちろんそうなんですけど。あんまり大学側が音頭をとっている機会がないので、コロンビアはすごく多くて。私はあまり参加していないんですけど。英語が得意ではなくて授業でいっぱいばいばいで。大学主導で、コロナ前だと対面で、食べ物や飲み物を出して。学生数が全然違うので一概には言えないですけどもう少し大学からの働きかけがあってもいいのかなと思いますね。

13.1 限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか?

取りました。取りたいからでしたね。時間制約がなかったんで。

14. 履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか?

はい進んでおります。

15. 成績評価はご自身の満足のいく内容ですか?

はい、経済系の苦しみ以外は。最悪の経験でした。統計が。

16. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありますか?

困ったことは特にはないですね。結構頻繁に使ってました。

あとは先生によっては Dropbox だったりとか独自のホームページとか。私見つけられなくて迷ったことがあって。コロナの後で誰にも聞けず。対面だったら隣の子に聞けばというのがある。ちなみにコロンビアでは相当きっちり一つのシステムになっています。

【コロンビアではグループワークは?】

Zoom でやっていますね。

17. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

東大のときはクラスですね。特にゼミですね。藤原先生のゼミ取ってたんですけど泊まり込みで。そういう機会は仲良く話がしやすかったりとか。懇親会とかあると、打ち解けやすい感じはありますね。なかなか授業の中で、グループワークとかはたまにあったんですけど、やって終わりになっちゃうとか。友達を作ろうとする勢いもあると思うんですけど。なかなか長期的な関係を築くのには半年くらい時間をかけて毎週会うとか。

18. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください

私の場合は結婚していて、夫もあなたの権利というか、お互いの人生というか好きにしてくださいとか。私が今まで働いていた分がしばらくなくなるというのは理解を得て。いつかあなたが2年間大学院いくなり無職なりは許すと 笑 基本的には自分のキャリアなのでそこは比較的ポジティブだった感じですね。生活も働いていたときより下手すると忙しくなって。それは学生なんだからというのではないですね。家事とかも分担してますし。論文とかのときは何もしないとか。そういう関係性であるべきだという。個人的にも男女の格差なんかも問題のある日本なのでそういうのも当たり前にしたくないなというのもありますので積極的に偉そうにしているというのもおかしいんですけど、学生だからと言って言い訳せず同じテンションを保って。

19. GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？

はい。キャリアチェンジ組なのでそのままダイレクトに直結するものから逆算して授業取っているのです。カリキュラムが非常に自由じゃないですか。それはいいと思ってますね。

【脳の筋トレと比べると？】

その部分はある程度取ってないだけかもしれないんですけど、そういうスキルトレーニングみたいなのに力が入っているイメージはないですね。MBA的なディスカッション能力とか。リーダーシップとか。

20. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください

一人に絞るのは難しいのですが、例えば藤原帰一先生は元々本とかを読んでいて。東大で受けられたのは嬉しいですね。彼の元でリサーチペーパー書くこともできたので。ゼミを。半年教えていただけたのは。あとは前田先生。行政。前田先生の授業を受けたくて。春学期はそれは半分くらいだったんですけど。東大にこういう若手の新進気鋭の先生がいると思わなくて。非常にフラットな先生で。フェミニズムとかも力を入れておられる先生でしたのでうれしかったです。ヘン先生。GraSPP の安全保障関係の授業を持たれていてGraSPP の中では結構メインで。すごく印象に残ってて。あとは山脇先生です。

21. 研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？

リサーチペーパーは藤原先生で。修論は今のところはないですね。

22. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？

ダブルディグリーです。奨学金ももらっています。東京大学のダブルディグリーの学生向けの狭いけどかなりの額をサポートしていただいているので、これに通れば自費でニューヨークに来れるというやつで。35歳までなんですけど。まー、結構社会人でも射程に入る方は多いと思うので。金額が決まっています。学費上限500万、かつ生活費毎月15万。かつ渡航費往復。たぶん東大だと一人だと思ってしまうんですけど、ダブルディグリーはそんなにいないので。Candidate自体は10人もいないんじゃないかと。たぶんアメリカが高いので選ばれやすいと思ってます。どこにも所属していないで、これ知ってるかどうかでチャレンジできるかどうかは。もう一年残ってもいいくらいですよ。

【オンラインで海外？】

ただ、やっぱり GraSPP で受ける刺激とは全然違う刺激がありますし、学位も東京大学という学位は日本ではもちろんゴールデンチケットだと思ってしまうんですけど世界で見たらアメリカのアイビーとか、私の場合はキャリアチェンジが主軸なので学位が取れるというのは大きいと思いますね。

23. 卒業後のキャリア展望について教えてください(所属団体における立場・年収の変化や転職する可能性など) 転職はゼロではない？

基本的には金融から安全保障とかシンクタンク。就職活動とかも始めてますね。コロンビアは就活サポートもすごくて。結構キャリアセンターとかと面接して。カバーレターの書き方とか。いついつまでに内定が得られる確率%とか、LinkedIn の使い方もレクチャーとか。無料アカウントならここまでできるとか。プロフィールの書き方とか。東大だと社会人経験者の多くはそのまま戻れるからニーズがないのかもしれないけど、コロンビアだと限定のサイトがあってジョブポストがあって。一般には出ていない求人が出たりするという意味では。

【今後のキャリアの選択肢について】国内か海外は、難しいですね。最終的には日本というのはあるんですけど、あとこちらで英語が苦手なので正直自信がややないというのはあるんですが、一方でこちらでチャンスがあればビザが続く限りは経験としてこっちで働くというのは視野に入れているということでもありますね。

24. 東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか?それはどうしてですか?

はい、もう力強く勧めています。

25. GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知ですか?また、卒業後は入会されますか?

はい、なんとなく知ってます。毎年集まっていますよね。それはもちろんすると思いますね。

【何を期待して入会されますか?】人とのつながりというか。学部生の方とかだと官庁行かれる方も多いので。ネットワークの価値。あまり活用されているイメージはないですが。

26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください: スキル・学生との人脈・先生との人脈 (1 が最も大きい)

- ① スキル (まさに今勉強している専門の研究というか) ② 先生との人脈
③ 学生との人脈

[コロナ禍に関する質問 (対象者のみ)]

27. 1 年目は対面、オンラインでしたが、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか?それはどうしてですか?

対面ですね。やっぱり。そこは人とのつながりなんでしょうね。純粋な勉強であればオンラインの方がいい時もあると思うんですけど、直接会って話すことの価値をこの1年で実感したのもったいないことをしたなと思います。

28. オンラインで感じたメリットを教えてください

通学時間がないとか、朝起きた瞬間に授業とか。結構春学期は計量経済という私の苦手とする授業とか、前田先生のゼミとか。院ゼミ。大学に通っていたら回っていたんじゃないかなと思って。大学に行くまでの通学時間とか女性だとメイクしてとか、それを全部省いて授業に出られるのはメリットだったんですけど。

29. オンラインで感じたデメリットを教えてください

終わった瞬間に切れてしまう。メリハリが聞いていて、思考が深まる瞬間が。終わった後にもキャンパスにいて考える時間があったんですけど、オンライン授業だと、結構疲れるのもあってとりあえず別のことをして、という細分化して。メリハリが聞いてしまうことが学問的な余裕とか、思考の広がりに限られるのはマイナスだなと感じました。

30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は? (対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など)

併用ですかね。純粋に講義を受けるという意味では正直録画みても同じというのはありますよね。特に GraSPP で英語が厳しいとかはオンラインで見たり調べたりとか。それを事前課題にして大学来たらディスカッションとか。人とのインタラクティブにフォーカスするというのにはありかなと思います。

31. 卒業後、大学院での教育は社会で（職場やコミュニティで）評価されますか?理想は、どのように評価されてほしいですか?

はい。評価されると思います。というかそれがないとだめというのもあるので。修士がないと採用しません。一つは私は学部時代あまり勉強してなかったダメな学生だったので勉強の仕方とか、論文の読み方とか書き方とか、今やっているものと比べるとゴミみたいなものだったので。修士レベルの読む力、ある程度のレポートを書く力とかはすごく大きいなと思って。実際社会人やってても情報の探し方とかできないかたもいて、大学院にいると必要な情報を探してきて信憑性がどれくらいあるのか、情報価値があるのかなど、当たり前にしなないといけない環境というのは、仮に直接大学院とキャリアが直結する人じゃなくても大きな財産になるんじゃないかなと個人的には思いますね。

32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか?

はい。可能性は。

[最終質問]

33. 日本でリカレント教育が広がらない要因は何かご意見を聞かせてください。

一つは修士に対する評価が低い感じはしますね、学位に対する。新卒一括採用でプロフェッショナルよりもゼネラルに、ポテンシャルがある人を採用したいという社会的な風潮からすると修士とっても必ずしも評価につながらないというのがあればモチベーションが上がらないのかも。海外の大学院は箔がつくというか、ハーバードといたらなんかわからないけどすごいみたいな。東大は学部は大変だけど院は簡単に入れるんでしょ、みたいな。だったら入ってみろよ、という感じなんですけど 笑。それは社会人が少なかったというのが、例がないというのはあると思うんですけど。特に政策大学院となると一部の官僚の人とか行政に携わっている人以外はあまり関係ないというか。

海外だと職業人が7割とか出入りも激しいので。会社についても。皆さん箔付けというか、もう一步ステップアップするための通過点というか。キャリアチェンジのためにというか。会社からきてますという人もいるんですけど。終身雇用感がある社会の中では価値を感じづらいことがあるのかもしれないですね。あとは女性の方が修士があった方が自分に自信につながるというか、仕事に通じるのかもしれないですね。

学部の授業取ると世界違うというか女性少なかったり。前田先生の授業で Zoom 懇親会があったんですけど、話題がなんとなくそういう方向にいったんで。選択的夫婦別姓の話で。東大の法学部でこういう話する人いないから前田先生は驚いていて。GraSPP は半分女性だし留学生だし。せっかく異端なのであれば学部サイドというか、東大全体にポジティブな影響を与えるくらいの力を持てたらいいのになと思いました。

あとはアカデミアに対するプライドの高い先生も多いので。辛いことをやり抜いたので、これで前田ゼミにいたといえるので。それは大きいと思います。参考文献一つとっても、男性と女性がいれば同じボリュームであれば女性の文献を持って来るなど。彼のゼミは女性が多いんですよ。

34. 【時短 or フルタイム就労の場合】組織はテレワークを認めていますか？仕事を辞めずに進学することは検討しましたか？

会社にそもそも制度がないので仕事しながらになっちゃうので。かつキャリアチェンジというのもあったのであまりなかったんですけど。一橋は会社を辞めても職業人選抜があるんですよ。ただ、個人的には受験してよかったなと思います。博士は在職したままというのも考えてます。修士に関してはちょっと仕事とのつながりがちょっと遠いのであまり考えてなかったですね。前の会社はコロナ前からテレワークは比較的柔軟ではありましたね。

【追加質問. 学位がなくても取る？】

私の場合は No です。

【追加質問. 給付金？】

はい。英会話教室で使いました。GraSPP は対象じゃなくて。

L さん

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|-----|---------------|----------------|----------|---------------|
| 3 | L | No (1ヶ月のみ) | 女性 | 50代 | 他学 | 元議員 | 有 | 有 | 自費 | 家族介護と両立 |

[入学前に関する質問]

1. **社会人として大学院に行こうと決めた理由、そして東大公共政策大学院を選んだきっかけを教えてください。また、公共政策という分野は元々ご存知でしたか？**

元々はハーバードの方でドクターの方で戻ってこないかと言われていたんですけど、自分も元々はそのつもりでいたんですけど、家族のことを考えているとそういう状況ではないと。ただ、教育をやりたくて、公共政策をやることで教育の方の経験に結べたらな、と。言語政策とかを市議の時にやっていたんですけど。自治体であれば細かいことであれば英語教育をどうする、とか。英語教員のための研修とか。国としての政策としても興味があって。ソフトバンクやユニクロとかも増えてきて。本来は公共政策大学院に入って、言語学関係のところの先生とお話しして論文とか書いたら面白いかな、と思って。

1 か月弱だけ仕事と重なりました。市議の4月というのはほとんど何もないんですね。議会とか。ほとんど何も重ならず。市議員を2期やって、3期目はどうしようかなというのが元々あったんですけど、介護と天秤にかけた場合、介護を優先させてもらいたいな、と思い。そこが心苦しくて。それでちょっと仕事から身を引いたところがある。自分が100%できないのであれば。入学して1学期目とかは、国政とかで言語政策やったらおもしろいな、と思っていたので、そういう政策に携われたら楽しいな、と。

2. 入学前、ご自身で他のリカレント教育は実施されていましたか？
3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？
4. 学費は自費負担でしょうか？

自費ですね。介護をどっぷりするとは思ってなかったの。当時の収入からは払えない額ではないと思っていた。ただ、介護でアルバイトもできなくなってしまい、月々いくらかというのが入ってこないというのと、前年の収入に対する税金は結構厳しくて、慌てて奨学金を探しました。でも、年齢を重ねるとあんまりないですよ。最終的に、すぐにももらえるものではなくて、選考を重ねて1年後とか。貸付金のものに申し込んで、それで支払うことに。結局休学しなければ成績優秀者で免除になるんですけど、休学してしまうとだめで、今でも引き落とししてます。

5. 3年履修制度などは活用されましたか？

途中で休学しているんですね。基本的には3年履修ということになっているのですが、私自身が倒れたり手術したり。春学期の終わりから休学はできないので単位を全部落とす感じで、翌9月から休学して。治ってすぐ交通事故にあっけり、そんなに大きな事故で首をやられてしまって、リハビリとかにも通い。その後介護で。

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？
7. 【派遣の場合】派遣元（上司など）からの期待値はありましたか？
8. 【派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学
9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（職業人）はいますか？（その人はどうして行かないのでしょうか？）

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありましたか？

自分が何を取るかという部分があると思うんですけど、単位だけを取りたいというだけで、絶対取らないといけないのもありますけど、でもそれって、自分が元々教員だけだったこともあるので、やる気ない生徒も多くて、先生も。若いとしょうがないと思うけど、大学

院の授業って、学生同士の高め合い方というか、グループワークへの参加の仕方というか。それで授業の質が変わってくると思うので。そういう意味ではばらつきはあります。職業人もそんなには多くなかったです。埼玉県庁や熊本県庁とか、警察庁の方。いわゆる民間の方は少なかったですね。

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせましたか？

基本ネットとかで情報を見て、そこで問い合わせしていただいたメールとかで。

12. 在学中、職業人として教育を受けるにあたって大学（学務など）からのサポートは十分でしたか？どのような点が変わればさらに通いやすくなったと思いますか？

私自身が社会人だったから、最後の最後の部分だけを手続きをやっていただくという感じだったんですけど。大卒だったらもう少しサポートなんか、私立なんかはしっかりしているので、そういうのは少なかったかもしれないです。

13. 1限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？（それは受けたい授業があったから、もしくは職業人として業務との調整がつく枠だったからでしょうか？）

14. 履修状況（卒業までの単位取得）は予定通り進みましたか？

15. 成績評価はご自身の満足のいく内容でしたか？

自分自身はまあ、割とそんなに難しい科目ではなかったかな、と。一つだけレポートが出しにくかったのがあったけど他は特になく、先生と交渉して、自分が病気で手術が必要だというときに、追試レポートとかで成績出してもいいですよ、という方もいらっしゃった。その場合はA+は上げられないね、と言われたんで。BとかCになるなら未受験に。グループワークで結構がっかりしたのは、クラスによってはグループワークやったら全員同じ成績がつく、というのがあった。ゼミだったり実践科目ではなく、人数がすごく多い、他の学部と一緒にやるようなものはそうするとどうしてもやる人とやらないフリーライダーがいることも。

16. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありましたか？

17. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？今でも同級生の方とつながりは維持されていますか？

18. 在学時、ご家族の理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化（業務と比べ）について教えてください

19. GraSPP で学んだ内容について、業務で役に立っていますか？具体例があれば教えてください。

本来はフルタイムで何か仕事をしていたとしたら、役立っているんだとは思うんですよね。

今はかなり仕事を縮小しているんで。唯一直接じゃないけど、英語教員の資格を取ったんですが、時々フリーランスとしての仕事。国際政治経済とか、具体的というよりは頭の中の考え方や展開。民法の授業。自分が本当に熱く。体系的にというと自分が生かし切れていないかなど。政治とマスメディアはすごく面白かった。自分が興味があったから。

20. 最も印象に残っている授業や教員、その理由について教えてください
21. 研究論文やリサーチペーパーは作成されましたか？
22. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？
23. 卒業後、GraSPP で学んだことによって所属団体における立場の変化について教えてください。(年取の変化や役割の変更など)
24. GraSPP を面倒を見ている後輩に勧めますか？それはどうしてですか？
25. GraSPP の OB/OG 会には入会されていますか？
26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください: スキル・学生との人脈・先生との人脈 (1 が最も大きい)
 - ① スキル ② 学生の人脈 ③ 教員の人脈本来だったら 教員、学生、スキル。 教員や学生とはほとんど連絡とっていないくて。

[コロナ禍に関する質問 (対象者外)]

27. 対面型とオンライン授業、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか？それはどうしてですか？
28. オンラインで感じたメリットを教えてください
29. オンラインで感じたデメリットを教えてください
30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は？(対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など)
31. 卒業後、大学院での教育は社会で(職場やコミュニティで)評価されますか？理想は、どのように評価されてほしいですか？
32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか？

[最終質問]

33. 日本でリカレント教育が広がらない理由について、個人的なご意見を願います。

終身雇用とかが元々影響しているのかな、と思いましたね。一つの良い会社に入ったら、最後まで退職しないし。途中で辞めたら仕事がなくなっちゃう。いわゆる世間的なランクが下がっている人の方が多いですね。会社ではそんなに認めてくれない。こういうのに通うことも認めてくれなかった。休職扱いでいっても司法修習生も認めてもらえなくて。ほとんどの人の場合は、いろんな大学院がありますからね。辞めて大

学院行ってとなると新卒じゃないととらないよ、とか。自分の会社に戻れたとしても大幅に給与がアップすることはない。アメリカみたいに。その分、みんなより仕事の遅れがあったことになる。Degreeを取った後の仕事についてが一番かなと思いますね。やりたいとはみんないうけど、そこまでリスクを取りたくない。そこは元々日本人の根底にある。みんなと同じでいるのが安心ですし。日本は他の会社に転職させないくらい専門性を高めさせるような感じだったので。

【教育機関で何度も学び直すきっかけは？】

教育って自分が持っているものを皆さんにお伝えしてというものなので、新たに仕入れないと、自分を高めていかない限り良い教育者になれないんじゃないかな、と。東大の先生とは言わないけど何年も前のスライド使っている先生とか、暗記してしまっている先生とか。そういうふうにはなりたくないな、と。お金を稼ぐだけなら教育者じゃなくても良いと思うので。得た知識は何年か経つと古くなっちゃうので、言語の方にしても教え方にしても世の中の動きによって変わってしまうので。あとはいろんな人と会ったりとか、GraSPPで他の学部の人と、宇宙工学やってる人とグループワークやったりとか、得られない発見があるので、何年か一回は必要かな、と。あまり重くは考えてないのかもしれないですね。

34. もしも働きながら在学された場合、職場ではテレワークを認めていましたか？

オンラインだったら当時は本当に楽だったと思いますね。(自宅)から通うのは往復で3-4時間かかっちゃうんですよ。時間的に一科目取るだけでも大変なので、休学しなくても済んだことがあったと思うんですよね。グループワークだってやろうと思えばオンラインでできますしね。そういうのも生まれてくるといいですね。日本はオンラインは少ないなと思いますね。ずいぶん前からアメリカではストリーミング配信がありますし。

Mさん

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|----|---------------|----------------|----------|---------------|
| 2 | M | Yes | 男性 | 60代 | 東大 | 民間 | 有 | 有 | 自費 | 時短調整可 |

[入学前に関する質問]

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由は？(東大公共政策大学院を選んだきっかけは?) 公共政策を知るきっかけは？

私の場合は金融機関で、同期が役員になっていくタイミングで外に出ていく。だいたい親元の銀行がキャリアを、働き場所を紹介してくれるんですよね。63、4、5くらいで紹介くらいなものを終える。働きたければ自分で。私としては70くらいまでは社会とつながり

ながら、仕事という意味で、きちんとした形でつながりたい。仕事とかNPOとかもありなんですけど、社会貢献ということであるならばせつかくなら勉強して論文書くとか若い方々、先生方含めて議論することを含めてそういう関わり方もあるのかな、と思ったんです。そもそも社会に対してやりたいテーマもあるので。何やるかっていうのは、ロンドンに8年いたんですけど、あちらで生活していると、中央省庁とかエージェンシーとかに対する監視役、ウォッチドッグ、監視機関が独立して。我々金融機関だったので、FSA、その監督を受けていたんですよ。常時モニタリングしているし監視監督をしているし。そこが自分たちの人員削減したり、ダイナミックな動きをしていて。いい関係でパフォーマンスを上げているのをみていて、日本ではそういう組織は全然ないな、という。昔は行政監査という機能、今は行政評価という自己評価。銀行一般もそうなんです。日本に取り入れるには何が必要かと。

2. 入学前、他のリカレント教育は実施されていましたか？

(都内有名私立大学)と(都内有名私立大学)の科目履修生を何科目か。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

職業人選抜ではなく受験しました。3月くらいですね。2019年。TOEFL受けるのか、とかですね。少し英語の勉強したり。行政学とかですね。政治学とかの本を読んでみたりとか。

【プロセス上の課題？】さほど感じなかったですね。今は成績証明書も郵便で簡単に取れますし。

4. 学費は自費負担でしょうか？

自費

5. 3年履修制度などは活用されていますか？

3年にしています。非常勤なんですけどそこそこありますので。3年くらいがいいかな、ということで。正直ベースで言いますと仕事に戻るつもりでもありませんし、いつてみれば長く学校にいたいという。

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？

自主的な入学

7. 【派遣の場合】派遣先からの期待値は？

社長には言いました。おもしろい話があったら教えてくださいよ、みたいな。会社の仕事関連で期待は全くないです。自分の生活の一部にしています。

8. 【派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学

週のうち1日仕事であとは学生。

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（社会人）はいますか？（その人はどうして行かないのでしょうか？） 公共政策という分野を周りにご存知ですか？

はっきり行きたいという表明したりする人はいないですね。公共政策は分からないと思います。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありますか？

Zoom ですからね。圧倒的にそここのところなので、そもそも対面で学生生活を送っていることと想像もつかない。今は Zoom だからということもあるんですけど、先生方と直接意見を交わすことも少ないですし、同級生の皆さんとの議論の場もどうしてもない、少ないという。Zoom の場合は先生との議論は作ろうと思えば作れるけど。学生間は難しいですよ。実際はかなり年齢も上なので、実際に会ってみたいと理解が。

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせますか？

これからなんですね。私の場合は3年にしたので1年は助走期間として考えるしかないなと。専門職大学院ですけど、通常の大学院に近い位置づけで。修論書こうと思ってますし。公共政策大学院の場合は修論を意識しない学校ですから、こちらから自分のテーマに沿ったテーマを探してですね。これからやっていかないといけないわけですから。そこですよ。最初は先生と話しさせていただく機会を一生懸命作ってですね、お手伝いできる先生を探してですね。学務にもほとんどないですね。ロッカーを借りるくらいですかね。

12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか？

正直まだわかりません。ロッカーの話も電話の時も対応は悪くはなかった。

【どのような点が変わればさらに通いやすくなりますか？】

一人一人学生に対して、人によってずいぶん事情や立場も違いますし。キャリアも多様でしょうし。一人一人に対してメンターとは言わないけどアドバイザー的なものがあつたら良かったかもしれないですね。とりわけ Zoom のとき。

【Zoom などのツールの、横の連携（グループワークなど）は十分に行えますか？】

授業の時に、別部屋でやるケースは別ですけど、そこは一回しかなくて、なかなか難しいですね。そうなると思わないですね。今まであったのは〇〇さん（職業人学生）とお話し

する機会があったゼミの担当を複数でやると。そこで連絡を取り合って。

13.1 限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？

取ってます。1限も6限。この授業取りたい、から。

14. 履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか？

予定通りです。

15. 成績評価はご自身の満足のいく内容ですか？

助走したのとはずいぶん違いましたけど、ああ、そうか、というくらいで。特に違和感はないです。全くこだわっていないんですけど、先生のレポートとかがどうご覧になっていたのか、が分かるので意外感がありますね。成績そのものというよりも自分がその授業の中でどれくらいの位置づけだったのかがわかるのが面白いです。

16. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありますか？

特になかったですね。よくできたシステム、重複感が少し戸惑うところありましたよね。でもこういうシステムはそういうものかなと。

17. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

ゼミの担当を複数で担当するときですね。

18. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください

（家族からは）ああそうですか、くらいの話で。非常勤になるタイミングで動き出したので仕事に行くのと変わらなくなってしまった。Zoomなので世の中一般と一緒に家にいる時間が増えた。普通通りです。

19. GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？

今の業務、社外取締役で、行っている会社がなかなか色々あるので、そういったところに対する、アドバイザーと言ったら怒られるんですけどそういう社長なり取締役会に対しては現に役に立っています。

【脳の筋トレと比べると？】

コーポレートガバナンスとか経営学とか、仕事には役立っているんですけど、どちらかと言ったら授業ですかね。

20. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください

仕事とあまり関係ないんですけど面白かったという意味では苅部先生の日本政治思想史演習。公共政策大学院の2年の〇〇さん(職業人経験のある一般入試学生)も出てらして。Zoomじゃなくてチャットなんですよ。みんなでワイワイやっていると、すごく面白いですね。

21. 研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？

研究論文を書きます。

22. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？

ないですね。とりあえず修論を書く準備をしたいという。

【オンラインで海外？】

そうですね。英語力がですね。追い付かないなと思いますね。とりわけ Zoom とかオンラインでやっていくとなると自信がないですね。

23. 卒業後のキャリア展望について教えてください(所属団体における立場・年収の変化や転職する可能性など) 転職はゼロではない？

私の場合は特殊で、社外取締役をいつか辞めることになりまして、学生になりますし。研究者になっていきたいとなるんですかね。教職に就くとかは全く考えてないですし、消費生活をする学生という感じですね。老後の道楽でしょうか 笑 積極的に仕事はしませんが、今の勉強の延長があれば、でもメインに考えている話ではありません。

24. 東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか?それはどうしてですか?

今特にそういう具体的に勧めているのはないんですけど。コロナが終息してくると、自分の体験とかを共有していきたいと思います。例えば50代くらいになってる方に、自分の経験が役立てば。

25. GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知ですか?また、卒業後は入会されますか?

質問票を見て知りました 笑 それは入ってもいいなと思ってました。どういう活動か全く知らないの。一般的な意味のOB会であれば面白いなと思います。

【何を期待して入会されますか?】

今自分がやりたいこと、テーマについて聞きたい。公共政策大学院でそれなりに勉強した人たちであれば行政に対する意識もお持ちですし、広く聞いてみたい。

26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください: スキル・学生との人脈・先生との人脈 (1 が最も大きい)

- ① スキル ② 学生との人脈 ③ 先生との人脈

[コロナ禍に関する質問 (対象者のみ)]

27.1 年目はオンラインでしたが、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか?それはどうしてですか?

完全不十分ですね。知識をつけつつ、先見だった学生の皆さんと議論することを期待していたので。

28. オンラインで感じたメリットを教えてください

いろんな授業がのぞき見できる場所ですね。途中でアクセスできなくなったりとか、当然といえば当然ですけど、履修登録してない人は拒絶したりとか。いろんな授業を見れるのは面白いですね。移動というのももちろんありますね。駒場の授業も見れますし。

29. オンラインで感じたデメリットを教えてください

モチベーション維持ですね。周りに熱心に勉強している学生がいて、というのがなくて、自分の部屋でPCに向かってというと集中力が続かないですね。

30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は? (対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など)

私自身は対面ですかね。大教室の講義にしてもその場で聞きたいな、というのはあります。

31. 卒業後、大学院での教育は社会で (職場やコミュニティで) 評価されますか?理想は、どのように評価されてほしいですか?

まさに社会になんらかの貢献をしたいという気持ちも込めてやっているんで論文の形で社会に少しでも刺激を与えることができればやりがいがありますね。

32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか?

許してもらえらるものならば。

[最終質問]

33. 日本でリカレント教育が広がらない要因は何かご意見を聞かせてください。

大学の勉強を重視してないからじゃないからですかね。学問を甘く見ている。学問の知識ベースで仕事をするという慣行が欠けているからじゃないでしょうか。一般的な社会の風潮というか。我々の世代が会社に入った時代というか、大学で勉強したことを仕事に活かすということはあまり考えてなかったですよ。大学というのは証明書をもたらうもの、

こういう大学であればこういう会社という。会社に入ってから実務を通して学んでいくという。とりわけ文科系の場合はそうじゃないかなと思うんですけど。とりわけ行政学とか経済学とか、体系立てて学んだことを活かすということができなかつたんじゃないかな、今もできていないんじゃないかなと思います。今は実務でも、相応の立場で仕事するからには身に着けていなければいけない知識があると思うんですけど。

自分がやっていることが学問的にはこうだ、とか。きちんと学ばないと根無し草みたいにウロウロしている。会社でも偉そうな方がいるので、変えていかないと大変だと思います。日本の企業の競争力ってどんどん落ちていくと思いますので。

公共政策は知識ベースで役に立つこともあるとは思いますが、権力とかアプローチの仕方とか大事だと思うんですけどね。公共政策大学院って MBA 的な要素もたくさんあるし、他の学部の授業も取れないこともないので使い勝手の良い組織だと思いますけどね。すごい先生たちと話できるわけじゃないですか。

これからはどんどん外人になっていく、ITなどは、日本の会社でも。

34. 【時短 or フルタイム就労の場合】組織はテレワークを認めていますか？

Zoom で取締役会を 4-5 月はしましたけども、あとは取締役会をオフィスに行ってやります。会議は Zoom やオフィス行く時が半々くらいですね。

今の段階では取締役会とバッティングしたら仕方ない、くらい。仕事優先になりますんで、欠席することになります。

【追加質問. 学位がなくても取る？】

全然、同じだったと思います。

【追加質問. 給付金？】

知ってました。お金はいくらあってもいいのでほしいですけど、人の枠を食ってはいけな
いと思って想定していませんでした。

N さん（事前に表にして回答をいただき、その後オンラインインタビューで深掘り）

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|----|---------------|----------------|----------|---------------|
| 1 | N | Yes | 男性 | 20代 | 他学 | 民間 | 無 | 有 | 自費 | やや時短 |

| 分類 | Question | Answer |
|-----|-----------|-------------------------------|
| 入学前 | 1. 社会人として | 学部卒で新卒入社したときから、定程度職務経験を積んだ後に大 |

| | | |
|--|--|---|
| | <p>大学院に行こうと決めた理由は？ (東大公共政策大学院を選んだきっかけは？)</p> | <p>学院にいこうとは思っていません(学部は経営学部)。公共政策にした理由は自身の研究テーマ(将来のキャリア・実現したいこと)をやっていくうえで、政策立案者としての観点を養うべきと感じたためです。東大を選んだ理由としては、知名度や業績等の様々な面で国内トップというのが第一にあります。現実的な理由として、オフィス(赤坂)から通える距離であることと国立大学の学費の安さ、というのがあります。また、職業人選抜だとペーパーテストがない(TOEFLのみ)ので、一番受かりやすそうというのもありました。そうした観点から東大以外の受験はしておらず、今年落ちたらまた来年東大一本で、というつもりで受けました。公共機関(ミュージアムの経営改善に携われたらいいな、と)公共政策は正直そこまでしていませんでした。</p> <p>今は(所属企業名)の公共政策側。実務のサイドと政策立案のサイド。それで公共政策大学院を知った。最初は政策研究大学院大学。そこから東大。</p> <p>4-5月に考えて。TOEFLを受けたのが6月。7月で2回目。推薦書は最初のPJ上司。大学の頃に卒業の直前に海外派遣があり、そのときのSV(フォロワー)の教授の方にLineでお願いした。</p> <p>当時の上司、今の上司も全員サポータータイプでした。パートナーレベルの人もいいですね。人事上のところで手間取ったというか、大学への許可証が必要な時、大連に文言について変化依頼があった。業務外の時間については。</p> <p>ITのところは、先生によってDropboxを使う人もいればGIGAファイルもあれば、統計も海外のITC-LMSだったり、統一されていないのでめんどくさいし、ITC-LMSも使いがってをもっと改善の余地あるなと思いますね。教授のPPT読みにくいのがあるので。あとから読んだとき分からない。</p> <p>大学の先生の質はそこまで遜色ないクオリティ。その点はすごいなとおもいますね。</p> <p>PPTやITC-LMSはオンライン以前の問題なので。しいていえば</p> |
|--|--|---|

| | | |
|-----|--|---|
| | | <p>課題が多いとかそんなところ。</p> <p>オンラインテストの感想（試験）：試験監督の立場からすると不正のチェックがザルになるな、という感じ。持ち込み可の授業とか。スキャン。障壁はなかった。</p> <p>基本は東京、来週は宮崎から。先々週は沖縄。千葉県。【地方移住についての興味は？】あるっちゃありますかね。大学にも行きたいので、東京住む前提ですけど、関西が実家なので働くだけなら。沖縄。3-2 月末まで会社はテレワークなので。対面で会えなくて支障はない。</p> <p>GraSPP にフルタイムで入るにあたり躊躇したことは、なんとかなると思ってた。長期履修制度は知っていたので。</p> |
| 入学前 | 2.入学前、他のリカレント教育は実施されていましたか | (学部卒から 3 年で大学院入学なので質問に該当しないと思いますが) 実施していません |
| 入学前 | 3.入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？ | 今思えば特にめちゃくちゃ困った部分はなかったように思います。書類審査のみなので、エッセイなどに何を書くべきか・上手く書けているか（→審査に通過出来るか）、などは気になりました。また、それらを添削・相談出来る相手もいないことや仲間はいないので、その点は困りましたが特に大きな障壁ではなかったです。 |
| 入学前 | 4.学費は自費負担でしょうか？ | YES |
| 入学前 | 5.3 年履修制度などは活用されていますか？ | YES。4 年で登録しています。(2 年で卒業出来るペースで履修していますが 4 年間在学する予定です) |
| 入学前 | 6.所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか | 自主的な入学です |

| | | |
|-----|--|---|
| 入学前 | 7.【派遣の場合】派遣先からの期待値は | N/A 送り出すというよりは個々人のキャリア開発の観点。個人がどういう風にキャリアを描きたいか、口をとやかく出さない理由がない。ジョブ型なので。個人の戦い方を。100人のマネージャーがいれば100通りの働き方。公共政策というバックグラウンドを武器に。会社のパフォーマンスがいかにも多様で。他人への貢献など見えづらい評価を。 会社としては大学院にいかせるプログラムはない。戦略の部門でMBAはあっても公共政策はない。 |
| 入学前 | 8.【派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学 | N/A |
| 入学前 | 9.周りで大学院に行きたいけど、行かない人社会人はいますか？その人はどうして行かないのでしょうか | いますが、そんなに本気ではない気がします。あるいは海外大学を考えているなど。考える理由としてはやはり入試に向けた準備の煩雑さとかかかと思うのと、金銭的な不安（時短にするとその分給料は減る or 休職するほどの余裕はない）が大きいのと思います。 |
| 入学後 | 10.入学前と入学後のGraSPPへの期待値授業内容など）に変化はありますか？ | 特にありません。ただコロナ禍で図書館とかが使いにくい状況なのはマイナスですがやむを得ないです。 |
| 入学後 | 11.何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に問い合わせますか？ | 事務的なことは大学のアドミンにメール連絡しますが、授業でキャッチアップ出来ない場合に相談出来る相手がないのが厳しいです。コロナ禍のため実質放送大学に通っているのと変わらない感じではあるので。 |
| 入学後 | 12.在学中、社会人として教育を受け | 大学からのサポートという意味ではあまりないかなと思います。公共管理コースであればあまり関係ないですが、今年度は |

| | | |
|-----|--|---|
| | <p>るにあたって大学からのサポートは十分でしたか？どのような点がかわればさらに通いやすくなりますか</p> | <p>Micro/Macroeconomic、Statistical Methods などのコア科目を履修しており、それらの授業時間割は平日日中帯が多いので、その点は社会人にとっては厳しいです。録画が提供される授業であれば良いですが。なので、必修科目は夜間 or 早朝ないしは土日で開講してもらるか最低限録画をマストにしてもらえると助かるなどと思います。</p> |
| 入学後 | <p>13.1 限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？</p> | <p>春学期は履修しました。</p> |
| 入学後 | <p>14.履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか</p> | <p>YES</p> |
| 入学後 | <p>15.成績評価はご自身の満足のいく内容ですか</p> | <p>YES。80%くらいは満足しています</p> |
| 入学後 | <p>16. UTAS や ITCLMS などの活用にあたって困ったことはありますか？</p> | <p>学内システム多いのと ID 体系がごちゃごちゃしてて分かりにくいです。（職業柄というのは大きいですが…）</p> |
| 入学後 | <p>17.同級生など横のつながりを構築するきっかけが一番多いケースは</p> | <p>繋がり全くないですが強いて言えば LINE グループくらいです。あれ（オンライン飲み会）以来。授業一緒にならないとしゃべる機会がない。オンラインのデメリット。教室いっているとあの人見るな、と多少顔覚える。つながりを生むという意味で言うと。先生とのつながりも苦しい。気軽に研修室行くこともできない。</p> |
| 入学後 | <p>18.家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください</p> | <p>学校と仕事をパラレルにこなすことが想像していた数倍しんどく、生活習慣が元々そんなに良くなかったですが、更に不規則・悪化したように思います。 マルチタスクじゃなくていい。そうじゃない仕事にだけ集中できる環境。メンタル的な負荷の高さ。</p> |

| | | |
|-----|--|---|
| | | <p>学業によって仕事のパフォーマンス低下？ 多少はありますね。学校のことを頭の中でゼロにできない。大学の Gmail 見たりとか。集中力が下がってしまうこともある。7-8月は大学ないので、それまで週 1-2 日</p> <p>・月が一応履修日として会社とは。でも自己申告なので。春学期は週 2 日くらいやめてトレーニングしている。</p> <p>・給料を 8 割にして、時間も 8 割。時短勤務。短日勤務、短時間勤務制度。最低 20 時間からであれば働いて OK</p> <p>【横の理解（同僚）？】 特に何も言われたことはない。あまり意識してなかったけど基本理解してくれている。</p> |
| 入学後 | 19.GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？ | 役立てたいとは思っています。ただ、コースによっては 1 年次は必修科目を履修するので精一杯だと思いますが、それらは実務に繋がりにくいかなと思います。やはり事例研究などの科目のほうが実務寄りだと思います。 |
| 入学後 | 20.最も印象に残っている授業や教員について教えてください | 現在履修している増田先生の事例研究。私の所属する部署の一番の顧客というのは大きいですが、やはり誰もが知っているビックネームの授業が受けられるというのは印象的です。 |
| 入学後 | 21.研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？ | 作成したいと思っています。 ダブルディグリーを検討中です。 コロンビアなど奨学金インタビューの準備やフルブライト応募していて。学生に負けたくない思いもあります。 |
| 入学後 | 22.卒業後のキャリア展望について教えてください | 卒業後もコンサルを続けたいとは思っていますが、よりセールスや国・自治体への働きかけといった部分に携わっていきたいと思っています。転職は考えていないですが、いまと同じような仕事が |

| | | |
|------|--|--|
| | 属団体における立場・年収の変化や転職する可能性など | 出来てよりよいオファーがあれば考えます（特になければ転職するつもりはないです）。 |
| 入学後 | 23. 東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか？それはどうしてですか？ | いまの PJT に後輩がほぼいないのでなんともいえませんが、、、意欲がある方には勧めたいと思います。個人的な考えですが、CxO に近くなるほど学問的素養やバックグラウンドを持つことは重要だと考えているのと、特に民間の公共部門のトップであれば、公共政策に関する理論的な素養は必須だと思っています。現在の（所属企業名）の公共部門トップはや次期トップと言われている方は学部卒でして、いまの時代のうちはそれでいいかもしれませんが、10年後などより（所属企業名）の規模が拡大した時に会社の看板を背負う人間は、相応の学問的バックグラウンドが必要だと個人的に思っているのです、そういうポジションを目指す人には GraSPP かどこかでちゃんと公共政策を学んだほうが良い、と思っています（めちゃくちゃ上から目線ですが）。 |
| 入学後 | 24. GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知ですかまた、卒業後は入会されますか？ | NO。（そんなのあるんですか？入会はたぶんするかなと思います。年会費とメリット次第…） |
| コロナ禍 | 27. 1年目は対面、2年目はオンラインでしたが、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか？それはどうしてですか？ | 授業履修しすぎたのがありますがオンライン授業でめちゃくちゃ助かっており、今後もゼミ形式以外の授業はオンラインをベースにしてもらえると良いなと思います。 |
| コロナ禍 | 28. オンラインで感じたメリットを教えてください | 移動が全くないので、直前まで仕事をしていても問題ない。なんなら授業聞きながらでも仕事が出来てしまうこと。 |
| コロナ | 29. オンラインで | ゼミ形式の授業はかなり難しい。 → オンライン独特のしゃ |

| | | |
|------|---|--|
| 禍 | 感じたデメリットを教えてください | <p>べりにくさ、1:1 は全然いいんですけど。質問ある人いますか？同時に誰かが話し始めた時。空気間。となりにいる人との小話が絶対できないので。それが難しいな。対話が発生することが前提の授業だと結構きついな、と。講義形式はオンラインで全然いいんじゃないかな、むしろオンラインの方が録画もできるのでいいんじゃないかな、と思います。 ネットワークづくり？ 結構きついですね。密に授業で話し合っても授業終わったら忘れてしまう。顔も見たことない。相談しようというのが心理的な距離が遠いかな、と思う。顔合わせないと不利。</p> <p>横のつながり？ ツール？ 結局 LINE 使っちゃう。学生同士の会話だと。チャットベースでやって必要に応じて Zoom でしゃべって。大学側のツールではどうしてもできないと思うものの、それを大学側がまかなうのかというのも分からない。Gmail があれば少なくともチャットやビデオ会議ができる状況なので。</p> |
| コロナ禍 | 30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は？ 対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など | 必修科目を中心にした講義形式はオンライン&録画 ゼミ形式は対面授業 |
| コロナ禍 | 31. 卒業後、大学院での教育は社会で（職場やコミュニティで）評価されますか？ 理想は、どのように評価されてほしいですか？ | <p>弊社では積極性という観点で評価されます（学歴そのものというより）。また社内でも大学院に行き短日勤務することを伝えたとき、ほんの少しでも否定的なコメントをする方は一人もいなかったもので、会社としてこうした積極性を評価してくれる土壌・文化が既にあると思います。この意味では他企業と比べるとかなり良い意味で特殊なのかもしれません。</p> <p>評価という点では、クライアントへの価値提供の度合いが第一に評価されるべきというのは変わらないです。仮に同程度のバリューが発揮できているという状況において、大学院の経歴などは比較的大きな基準として考えてもらえると良いなと思います。</p> <p>（所属企業名）っていう肩書だけでやるのも面白みがない。会社に下駄。個人の名前。評価される。</p> |

| | | |
|------|-----------------------------|---|
| | | <p>まだ入社3年半なので、今のうちは自分の市場価値をできるだけ高めること。会社の中でどうか。外に出た時に自分がどれくらいの価値を出せる人間か？いわゆるプロフェッショナルファーム、クライアントの要件に合わせて臨機応変な環境。年収は無視はできない。仕事の成果に応じて。</p> <p>東京で15人同月の新卒同期。年でいえば40人。</p> <p>学位を評価してそのスキルを活かせる仕事が来たら？今の仕事よりも自分の興味関心がきたら、ミュージアムに限定してできます、とか、自分の経験を武器にできるなら。現状はこの会社にいるというのはどうしてもあるので、仮定の話ではあるけど。</p> |
| コロナ禍 | 32.ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか？ | <p>YES。いつ頃かは全く未定ですが取れば良いなと思ってます。※英語の敬称で Mr/Ms とかの選択肢以外に Dr って選べるのカッコよくないですか？それが理由の60%くらいです。</p> |
| 最終質問 | 34.会社はテレワークを認めていますか？ | <p>テレワークを会社が認めていなかったらこの環境？絶対無理じゃないですかね。1限の授業とか6限の授業。会社行きながらは結構きついです。大学も仕事もそう。</p> <p>上司も、大学があるのでこの打ち合わせムリです、といっても何も言われない。</p> |
| 追加質問 | 副業への興味はありますか？ | <p>あるっちゃありますね。自分の研究テーマに重なるところでコンサルなど。</p> |

追加： GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください：スキル・学生との人脈・先生との人脈（1が最も大きい）

①スキル（知識や思考力など） > ②先生との人脈 > ③学生との人脈
の順番になりますね、、、②は何名かの先生と話せてますが、③は（著者）さんくらいなので。
①については、授業や課題、自習において身につけた知識はもちろんです、
仕事しながら学業も回していくという点で、ワーキングメモリが相当鍛えられたのは大きい
と思っています。

Oさん

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|----------|---------------|----------------|----------|---------------|
| 1 | O | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 士業、議員事務所 | 有 | 有 | 自費 | 適宜調整 |

[入学前に関する質問]

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由は？（東大公共政策大学院を選んだきっかけは？） 公共政策を知るきっかけは？

我々弁護士の世界って留学が普通なんです。肌感覚的に 1/3 とか半分は周り留学してるんですよ。ボスが4人いて、2人は留学してるんですよ。留学は絶対した方がいいよ、という。留学するのは割と普通。別にロースクール行っても良かったんだけどLLMやるのは弁護士で普通だし、当時英語があまりできなくて留学が遅くなっちゃったのもあるんですけど、政策秘書もやっていて法律の議論はできるんだけど経済とか全然わからなくて、役所の人とガチの議論するときだめだなと思って。

公共政策大学院があるのは知っていたかな。私の先輩の弁護士がコロンビアの公共政策大学院に行ったんですよね。そういう先輩もいたので、公共政策か、MBA か、LLM か。全く分からない分野勉強しようと思って。

2. 入学前、他のリカレント教育は実施されていましたか？

2校目。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

何にもしてない。正直本命はストレートで留学したかったんですよ。英語の勉強をずっとして。だから行けるんだったら公共政策大学院行きたかったんだけど。東大は受かったらいいかなー、くらいで。説明会行って、コロンビアも行けるんだと思って。

プロセス？別にないけど、姓の問題。成績証明は（出身大学）では（現在の姓）では取れない。

4. 学費は自費負担でしょうか？

自費

5. 3年履修制度などは活用されていますか？

知らなかったんです。真面目に調べないで。調査が足りなかった。

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？

自主的ですが。

7. 【派遣の場合】派遣先からの期待値は？

なんにもないです。え？行くの？くらい。

入った時にいずれ留学したいんです、と言ったら、えー、みたいな。

(職場) はいけいけ、みたいな。

8. 【派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学

フルタイム。授業時間以外はほぼ仕事していて。

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人(社会人)はいますか？(その人はどうして行かないのでしょうか?) 公共政策という分野を周りにご存知ですか？

弁護士はほぼほぼ言っている。あとはお金かな。自分で稼いで、シンガポールでめっちゃ使って。学費より生活費じゃない？

シンガポールは1千万最低かかるって言われていて、娘の保育園もかかるし。マンションも高いし。【奨学金?】東大は10万円くれるじゃないですか?あとは自前で。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値(授業内容など)に変化はありますか?

留学するのが目的だったので、公共政策大学院ってこんなもんなんだ、というのが分かったのと、シンガポールとの比較で言うと負荷が軽い。そんな刺されないし、予習してこななくてもいいし。シンガポールは1コマ3時間。グループワークとか発表とか。シンガポールは毎日課題やってて。働きながらだとシンガポールは到底できないと思いました。ロースクールの頃は司法試験に受かるというのがあったんですけど、兼業はちょっと無理だな、と思いました。予習や課題も多かったし。東大意外と軽いじゃないですか。比較で言うと。だから兼業できたかなという。

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに(誰に)問い合わせますか?

学務。論文もすぐにメールしちゃった。学務の青島さんという留学担当の方が結構親切にしてくれて。単位も斉藤さんにも聞いて計算してくれて。

12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか?

うん、まあわりと即レスしてくれると思いますし。

【どのような点が変わればさらに通いやすくなりますか?】

今のコロナで例えば授業は通ってた頃に知ってる人がいるから友達に LINE するとかするけど、今のコロナで知り合いがいらないと思うし。大学院行く意味がほぼないと思う気が

する。

【Zoomなどのツールの、横の連携（グループワークなど）は十分に行えますか？】
なんか私一個、事例研究の、グループワークやっていて、うちのチームは結構社会人の人も多くて、他のチームは私抜けます、みたいな。顔が映らないからやりづらいですね。いわゆる座学は全然 Zoom でいいんだけど。そういうチームワークはあった方がいいなと思います。

13.1 限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？

取らなかったな。仕事の調整もあったけど、取りたいのはなかったのと、土曜日は娘のこともあって。当時は Zoom でもなかったの。

14. 履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか？

進んでません。あと3コマ。2021年3月卒業の予定です。

15. 成績評価はご自身の満足のいく内容ですか？

正直卒業できればいいな、と思ってるので以外に期待値低いけど。英語はしんどかった。

16. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありますか？

ほらログインを前田先生の授業って東大のアカウントで入らないといけないという。

17. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

コロナの前はオリエンテーションかな。留学生と知り合って入学式もいったし。社会人飲みとかやってたし。

18. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください

お迎えは半々なんですよ。超修論で大変なときは夫がやってくれて。今日は違うんですけど。元々半々だったし。留学費用は全部自腹でやってるんで。試験期間のときは親が来てくれたんです。4キロやせた。一か月で。

19. GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？

正直あんまないよね。間接的にはあるかもしれない。経済がとにかくわかってなかったから。ミクロとかマクロとかスタティスチックとか、視野が広がったという意味では使えるのかもしれないけど。例えば、公共政策大学院の難しいところだと思うんですけど、ロースクールだったら司法試験に結びつく勉強とか実務、例えば検事とか裁判官とかに結びつく勉強があったと思うんですけど、公共政策大学院って、公共政策について知る機会があって、視野が広がったという意味ではそれはそうだし、間接的に役立っているのかもしれない

ないけど、目に見える形で役立つ感は少ないかなと思いますけど。行ってもよかったなどは思うけど。私の場合とにかく英語ができなくて、留学生とかたくさんいるので多様な人と英語でしゃべったり食事したりとか、留学しないで東京でいろんな人と会話できたり多様性に触れられるというのは、英語も上達したし、と。

20. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください

能勢先生の Statistics とかは難しかったけど、丁寧で勉強になったけど、統計学って私できないという。指導教員の高村先生も気候変動では有名な先生で。

21. 研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？

高村ゆかり先生で、気候変動について。

22. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？

ダブルディグリー

【オンラインで海外？】悩むよね。留学の良さってその土地に行って色々経験したりとか何気ない会話をしたりとか、そういうのに良さがあるのにさ、そういうのが全くできなくなってしまうのは。年齢的な限界があるので、今がチャンスと。前期は対面、後期はオンラインだった。あちは対策が徹底して、旧正月一月下旬くらいで段々感染が増えてきて。1月の末に、1月14日にさかのぼって2週間の隔離をしろと。しかも徹底していて、マジで誰とも会えない。食事も部屋の前まで。ちなみにシンガポールは今ゼロだからね。毎日。よかったと思うのはシンガポール政府がこうやっていること、政策決定ってこうやるんだということ学べた。

23. 卒業後のキャリア展望について教えてください(所属団体における立場・年収の変化や転職する可能性など) 転職はゼロではない？

闇の中 笑。本当はコロナがなかったら夏くらいも海外でインターンしたいなと思ってたんですよ。東南アジアとかで。ロックダウンが始まるという状況になったので1週間後の飛行機取って急いで戻ってきたんだけど。留年したのも修士論文とかもあったんですけど、海外でインターンするのもあったんですけど。当初の目論見は全部崩れた。お金もほしいし。所属が変わるとかは常に考えますよね。

24. 東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか?それはどうしてですか?

うーん。いやま、公共政策学びたいと言ったらいいかもしれないですけど、私の周り弁護士ばかりだからいないよね。

25. GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知ですか?また、卒業後は入会されますか?

なんか一回飲み会みたいなの、一回行ったけど。オンラインだと参加意欲下がっちゃって。

【何を期待して入会されますか?】 特にないよね。

(私立大学名) ロースクールは理事とかやってたんですけど運営大変ですよ。

交流ができたらいんじゃない、在学中に仲良かったから続いている感じかな。

26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください: スキル・学生との人脈・先生との人脈 (1 が最も大きい)

① 学生の人脈(しいていうなら外国人の友達できたし。コロナだと友達できない。)

② スキル(英語が含まれるなら) ③ 先生の人脈(難しいよね。)

[コロナ禍に関する質問 (対象者のみ)]

27. 1 年目対面はオンラインでしたが、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか?それはどうしてですか?

座学は対面でいいけど、英語しゃべるとか、対面かな。

28. オンラインで感じたメリットを教えてください

仕事の両立。時間。移動なくていいじゃない。タクシーの中で聞いたりしたことあるよ。

29. オンラインで感じたデメリットを教えてください

教室だと、特に英語だと発言しやすいよね。グループディスカッションもちょっとやりづらかな。直の方がコミュニケーション取りやすいし、無駄話もできるし、オンラインだと用件だけみたいなの。

30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は? (対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など)

(食い気味で) 両方

31. 卒業後、大学院での教育は社会で (職場やコミュニティで) 評価されますか?理想は、どのように評価されてほしいですか?

思わない。わかんないけど。いつかなんかの役に立つかな、くらいかな。私は留学したいというのがあったので。

32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか?

ゼロじゃないけど低いよね。やっぱさ、日本って博士号とったからだからなに。みたいなの。弁護士です、を100としたら、公共政策大学院を卒業しましたよ、というのは実感値と

して10とかかな。留学したというのは英語で切るといってお墨付きは50くらいかな、と。弁護士の資格の方が100倍役に立つ。海外だともっと高いと思うんですけど。

[最終質問]

33. 日本でリカレント教育が広がらない要因は何かご意見を聞かせてください。

評価されないからじゃない？費用対効果というか。すごく分かりやすいのはロースクールは草創期の先輩とか知ってるんですよ。10倍以上の倍率で入って弁護士になってキャリアチェンジしてるんですけど、会社員、特に私は自営業だからいつでも稼げるな、というのがあるのでリカレント教育は苦勞しないんですけど、会社員として辞めてとなると中断しちゃうじゃないですか。日本の会社って教育したことはあまり評価されないけど社会人経験は評価される。弁護士になれるみたいな超ニンジンがあるなら。(私立大学名)は8割くらいは弁護士になれるというのがあったので8割くらいは社会人で。でも、当時は合格率は数%で、どこも杓子もロースクールが増えちゃって、司法試験に受かるのがすごく大変になっちゃって。今は新卒で、社会人辞めてまでくる人はほとんどいない。もちろん受かった人もいるんですけど。そうじゃない人もいるし、学べてよかったと言っても弁護士という肩書もないし。(私立大学名)も年間300万くらいかかるし。どんどん社会人が来なくなっちゃって。欧米は学んだこともプラスの経験って評価されるような雇用体系になってしまって。顕著に人が来なくなっちゃうなというのを感じます。

34. 【時短 or フルタイム就労の場合】組織はテレワークを認めていますか？

自由ワークだからテレワークみたいなもんですけど、議員系の仕事って結局行かないといけないからさ。企業によってはオンラインでというのもあるけど。

【追加質問. 給付金について知ってましたか？】

知ってました。活用はないです。自分で稼いでやろうと思って。ロースクール行ったときに育英会の奨学金とか貸与とかやってたけど、結局返さないといけないじゃないですか。そんなお金も稼げないならいかないという。

【追加質問. 学位がなくても取る？】

どうせ金払っていくならあった方がいいよね。知る人にはつながりできるし。

Pさん

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|-------|---------------|----------------|----------|---------------|
| 1 | P | Yes | 女性 | 20代 | 他学 | 地方公務員 | 無 | 無 | 組織 | 学業に専念 |

[入学前に関する質問]

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由は？（東大公共政策大学院を選んだきっかけは？）

言われたからがきっかけ。あとは私自体が法学部出身ではなくて、行政職員は法学部が圧倒的に多いので。私はバックグラウンドがない状態で、仕事進める中で経験則で進めるなかで、学問とか正しい行政とかどうなんだろうかと、という実践を踏まえて学びたいと思ってきました。もちろん行きたくなかったら断れたんですけど。GraSPP 決め打ち、知事の意向で。

2. 入学前、他のリカレント教育は実施されていましたか？

まったくしてないです。県庁のスキルアップ制度とか、ファシリテーション授業とか業務に直結しそうな制度は受けたことがあります。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？
応募することを決めてから出願まで3か月。

3か月は短いなど。勉強と準備について。文書主義は職場でもあるので、（居住地）からの遠方のやり取りなので入学決まってからも成績表だしたり、大学が（東京圏の大学名）だったのでやり取りが郵送で、ギリギリで死ぬかと思ったことがありました。必要な書類というのが。オンラインだったら楽だったけど、（東京圏の大学名）の取り寄せも大変だし、何往復もする。

4. 学費は自費負担でしょうか？

職場負担。

5. 3年履修制度などは活用されていますか？

2年一択です。

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？

7. 【派遣の場合】派遣先からの期待値は？

帰って業務に活かしてくれということだと思うんですけど。期待値を持っているのは知事で。言われて人事課もやっているの。ただどう活かしてもらうのかというのもそこまで定まっておらず。帰ってきてみんなが同じかといえばそうでもないし、県も実験的にやっているのではと感じています。

8. 【派遣の場合】

休職ではなく出向と同じような扱い。所属は東京事務所という扱いで学業に専念してま
す。

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（社会人）はいますか？（その人はどうして
行かないのでしょうか？）

いないですね。県の人ってバイタリティ溢れる人は自分で動く人で。県の助成制度で学
費の半分負担を使って行っている。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありますか？

入学前はイメージがなかったです。引き継ぎ書でなんとなく。結構学問的なイメージが
強かったけど GraSPP は実務家の方が多くて、実際の政策とか中身とか、学術的なもの
というよりも現状を踏まえての需要が多かったの。とっかかりやすかった。ただ英語
縛りが多いので選択肢が狭まりました。

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせ
ますか？

同期の人々。学務ってあんまり冷たくないですか？

12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか？ど
のような点が変わればさらに通いやすくなりますか？

学務は勝手にやってくれ、各授業も自由、先生次第という雰囲気。先生たちによって
出席絶対とかになると仕事でいけなかったり、GraSPP は外部の先生が多いから、職業人
の生徒がこれくらいいて、とか実状を理解していない先生も多いと思うので、先生側が
理解してもらえるように学務もサポートしてほしいなど。

13. 1限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？

してないです。逆に取らなかったです。

14. 履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか？

はい。

15. 成績評価はご自身の満足のいく内容ですか？

まーまーまー

16. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありますか？

今は慣れましたけど、最初はめちゃくちゃ分かりづらかったですよね。メールとか WiFi とか試験受けたりと、法学部のテストとかも、大学の Utokyo WiFi でしか見られないとか独特なシステムとか苦手な人にはハードルが高いです。

17. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

オリエンテーションが大きい、授業で班とか一緒に発表したりする共同作業とかだとより仲良くなります。

18. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください

東京一人暮らし。地方から引っ越しもして環境はかなり変わりました。

19. GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？

役に立つと思います。政策の話とかあって、例えば観光だったら良い事例が紹介されたり具体的な政策、交渉術やテクニク的なこととか活かせるな、とか。還元できると思います。

【先生や横のつながりは、卒業後も役に立つ？】

役に立てたいですね。

20. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください

増田先生、金井先生、谷口先生。政治とか法律にバックグラウンドがなくても、厳しい面もあるんですけどそれを受け止めてくれる、自由な意見も受け止めてくれる先生だったので学びやすかったです。実務家かどうかより、個人。

21. 研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？

しません。ギリギリまで悩んだんですけど、それを先輩に相談した時に書いたのはその人だけだったので。

22. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？

UC SanDiego に行きました

23. 卒業後のキャリア展望について教えてください（所属団体における立場・年収の変化や転職する可能性など）

院卒の給料になるかもしれないくらいなんじゃないかなと思いますけど来る前

より視野が広がったというか感じがします。

24. 東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか？それはどうしてですか？

勧めます。色々、GraSPP でしか受けられない授業もありますし、同期のつながりや人脈的な意味でも良かったな、と思って。

25. GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知ですか？また、卒業後は入会されますか？

知らないです。入会はします。

26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください：スキル・学生との人脈・先生との人脈（1 が最も大きい）

- ① スキル ② 学生との人脈 ③ 先生との人脈

[コロナ禍に関する質問（対象者のみ）]

27. 1年目は対面、2年目はオンラインでしたが、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか？それはどうしてですか？

どっちもどっち。授業の移動が激しかったので、遠い部屋とか、空き時間に家事ができるのでとても楽です。良い面悪い面があります。

28. オンラインで感じたメリットを教えてください

空き時間に家事、移動が楽、キャンパス内踏まえて。（地方）で受けようと思えば受けれたんですが独り暮らしの方が集中できる。大変なのは図書館ですよ。レポート書いたりするときに。

29. オンラインで感じたデメリットを教えてください

人とのつながりっていう面で生まれにくいかと。孤独。講義形式だと、対面とオンラインの一方通行は違いますし。共同作業とか大変です。あと良い先生と悪い先生の差が激しいです。

30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は？（対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など）

併用。講義形式だったら学習面は大きな差はないのかなと思うけど、ディスカッションとかできるけど対面の方がやりやすいし、活発化できるのかなと。駒場の授業とか遠い授業ならオンラインの方が。ショッピングウィークとかだともめちゃくちゃいいです。1

時間以内に5個くらいのぞき見できる。聴講しやすい。対面は集中しやすい。

オンラインでのテストは簡単だったか？

元々持ち込み可だったら変わらなかったんですけど、めちゃくちゃ英文が出て、オンラインのおかげで翻訳機能使っても一命をとりとめた。逆によかった。手順は複雑でしたけど、中身は変わらないというか。

31. 卒業後、大学院での教育は社会で（職場やコミュニティで）評価されますか？理想は、どのように評価されてほしいですか？

一応でも、なんですか、たぶん、職歴、人事情報に乗るので、行ったんだということ
は。

32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか？

ありません。

Qさん（京都大学公共政策大学院）

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|-------|---------------|----------------|----------|---------------|
| 4 | Q | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 地方公務員 | 無 | 無 | 組織 | フルタイム勤務 |

[入学前に関する質問]

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由は？（京大公共政策大学院を選んだきっかけは？） 公共政策を知るきっかけは？

職場からの推薦という形で、個人としての進学したいという思いは特段考えてなかったというのが実情です。うちは希望制をとっておりまして、そういうパターンもあります。私
の場合は職場から言われた形で。公共政策大学院は知らなかったですね。

2. 入学前、他のリカレント教育は実施されておりましたか？

いや、全くしてないと思います。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

職場から声かけが10月中旬で、そこから正式に県から派遣されることが決まったのが1
0月下旬。試験が1月だったので2か月くらいですかね。土日や年末年始の休日に集中し
た形で。職業柄申請書類とかは慣れていると思うので、困ったことはなかったですけど、
大学の成績証明を取り寄せるときに料金納付とか、そういう手続きは多少手間がかかるな

と思った記憶があります。

4. 学費は自費負担でしょうか？

公費

5. 3年履修制度などは活用されていますか？

2年です。

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？

オフィシャルな。

7. 【派遣の場合】派遣先からの期待値は？

特にはないですね。派遣をするのは人事課という所属で、地域振興課とは別で。そちらの担当の管理職の方とは面会をする機会が2度ほどあったのですが、私自身として何を学びたいかということは聞かれましたけど、職場としては特になかったですね。管理職の方は女性です。

8. 【派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学

出向扱いで学業に専念。

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（社会人）はいますか？（その人はどうして行かないのでしょうか？） 公共政策という分野を周りにはご存知ですか？

職場で言うと、京都大学公共政策大学院と政策研究大学院大学が派遣であるんですが、一応それなりに応募があると聞いてますし。公共政策は一応周知はされていて、敏感な方は意識されているのではないかと思います。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の 京大 への期待値（授業内容など）に変化はありますか？

そうですね。公共政策という学問について具体的な実務上のケーススタディとか学問を学ぶと考えていたのですが、経営学や経済学、法科大学院が相互に受けるという形で、各分野の学問を学んでいくという感じだったので、意外ということで、私自身学部が政治学学科でしたので、公共政策と政治学の違いは何だろうと思っていたところで、公共政策の方が広い範囲で、でも一体政策立案能力をどう身に着けるのかというのは個人の学び方によると思うので公共政策という学問自体は分かりづらいなと思います。

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせま

すか？

個人的には1年先輩の社会人学生の方に聞くことが多かったですね。年次が上がれば先生や事務の方に直接聞くこともあるんですけど、一年生の時は先輩が多かったと思います。

12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか？

事務室については本当に事務的なことなどはアドバイスいただけるんですけど、社会人なのでなんでも割とできてしまうということではあるんですが、学部生よりは距離感があるのではないかな、と。向こうもそこまで。特段手厚いサポートを求めているというわけでもなく。お互いに。

京大は誓約書みたいなものもなく、長期履修制度を使う人も前の代で二人いましたし、仕事と両立している方が多いのも、実績があるのは大学院の配慮ということかなと思います。

どのような点が変わればさらに通いやすくなりますか？

いろんな申請とかが窓口の手渡しというのがあるので、この時世、印刷して持っていくんだということが意外だったので。私は京都に住んでいるのでいいですが、遠方に住んで通っている方としては。成績表取り寄せたりとか。もう少しインターネット上の手続きが進んでもらうといい。

【Zoomなどのツールの的に、横の連携（グループワークなど）は十分に行えますか？】

今は対面との併用でオンラインが8割くらい。Zoomです。

少人数の授業、ディスカッション形式や演習は10人以下であればオンラインでも対応できるのではないかと思います。チャット機能とか使えばそれなりの質が保たれるのではないかと思います。逆にレクチャー式の授業については通信教育というか、一方で聞いているだけで終わってしまうので割と集中ができないというか。テレビを見ているような感覚になってしまいますね。コミュニケーションにしてもディスカッションにしても雑談含めてZoomでもできますし、Zoom飲み会とか別でやったりとか。

13.1 限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？

面白い授業があったら取るという。私は自分の興味を優先していますね。地方自治関係の授業が土曜日の午前とか隔週とか、一応学校としても自治体職員学生が多いので、配慮はカリキュラム上しているのかな、と。学生としてはきついですけど。私たちの代では1-2人ですけど。民間企業はあまりいなくて、国の出先機関や公務員が多いです。

14. 履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか？

そうですね。はい。順調に。

15. 成績評価はご自身の満足のいく内容ですか？

そうですね。はい。自分の手ごたえと成績評価はかなり一致しているので。できなかったやつはできなかったな、と。

16. ツールなどの活用にあたって困ったことはありますか？

シラバスの閲覧については冊子も配られるんですけど、同じ内容がサイト上で見れるので特段困ったことはないです。あとは授業アンケートというものがあるんですけど、学期が終わった最終授業で。またしても前は紙だったので。今回はコロナでオンラインでした。

【先生によって違いはありますか？】 システム上にアップロードする方は限られていて、メールが一番多くて。それ以外に事務局に紙で提出という先生でしたし。サイトでアップロードと混在はしていました。コロナになって紙はなくなりましたが未だにメールはいらっやいます。

17. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

入学式の後に懇親会が開催されていまして、入学式にオフィシャルのパーティが昼と、その後学生が主催する夜のパーティ。先輩方が。京都大学の学部出身者がリーダー的な存在となって。次の代に引き継いでいく。1学年40人いまして。職業人が5名前後。留学生が5名くらい。残りの30人が学部卒になるんですが、内部進学者はだいたい半分くらいじゃないかなと。

18. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください

一人暮らしです。岐阜で働いているときも一人暮らしでしたのであまり変わってないですが、岐阜は車社会なので京都はもっと来れなかったのが公共交通で移動するのと、通学時間というか、働いてるのは5-10分のところで、今は片道30分くらいのところに。

19. 大学院で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？

役立つ授業もありますし、直接的には関係ないと言ったらあれですけど、そういう授業もあります。

【スキル習得と、脳の筋トレと比べるとどちらの印象が強いですか？】

知識とかの方が多いです。

20. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください

結構たくさんあるんですけど、一つケーススタディの授業で、省庁の人間の立場と、経団連とか労働組合とか、様々な立場の役回りをもって交渉の授業があって、テーマが働き方改革だったんですけど、自分は常に行政側の人間でしたが、他の役割を演じることとか、他

の方の主張を調べることによって違う視点を得られたのが印象的でした。先生が人事院の方で実務家教員の方で。実務家教員の方が開催される授業は実務上も使いやすい面が多いので。直接的にこういう観点が仕事でつかえるなという印象が強いです。

21. 研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？

書いてないです。

22. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？

私たちの代は誰も使ってないですね。ひとつ前はいましたけど、あまりメジャーではない気がします。

【オンラインだったら検討しますか？】 うーん。語学力が自信がないですが、今の学生がいろんな国でボランティアしている人が多いので、そういう経験が足りないとか劣等感というか、もしもあれば使ってみたいです。

23. 卒業後のキャリア展望について教えてください(所属団体における立場・年収の変化や転職する可能性など) 転職はゼロではない？

一応人事面談を先日受けてきて、過去研究テーマとかに沿った人事配置がなされているのかなど。前任者は立法政策というか条例とかを学んでいたのもそういう部署で仕事をしていますし、もう一つ前は観光政策で、観光課というところに。大学で学んだエリアを希望すれば可能性は高いかな、と。私自身が希望したわけではないので、地域振興は興味があったのですが、もう少し政策立案に関わる部署や議会、長期計画などの企画部門に関わりたという話はしているので配属になるといいなと思います。

私自身も人事課にいたことがあって、県として若手育成の時に適性を見てどこに配置したいかもするんですけど、希望と合致させるということもモチベーションということで。なんで大学行かせた、という意味にもなってしまうので配慮もしています。私の後とか若い世代というのは学ぶことというよりも、法律関係の業務に就きたいという方が大学院を受ける方もいると思います。今のところ転職を考えてはいないです。

24. 京大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか?それはどうしてですか?

そうですね。本人の意思があれば、勧めると思います。

25. OB/OG 会の存在はご存知ですか?また、卒業後は入会されますか?

大学全体のはあります。職場はオフィシャルにはないです。私で3代目なので。なんとなく知っているの。もう一人は同期だっていうこともあり。

【入会は?】 する予定です。期待値としては、社会人学生同士であればいろんな相談乗ってもらったりとか、交流をしていきたいと思いますし、特に今の学生さんとかと関わって

いると若い方が活躍されているのは嬉しいので見守っていきたいと思います。

割と学生さんが社会人に積極的に声かけてくれたりとか。恋愛相談とか。男性が圧倒的に多いと思います。8割とか。学生さんも地方大学って、自分たちでネットワークを作らないと就職活動もそうですし、その後も含めて人間関係を作ろうという意識は強いのかなと思いますね。

26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください: スキル・学生との人脈・先生との人脈 (1 が最も大きい)

- ① 学生との人脈 ② スキル ③ 先生との人脈

[コロナ禍に関する質問 (対象者のみ)]

27. 1 年目対面はオンラインでしたが、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか?それはどうしてですか?

対面だと思います。言葉では言い表しにくいんですけど、緊張感ですかね。やってないとか分かってないというのが先生とか学生同士で見抜かれるので、オンラインだと黙っていても終わるので。

28. オンラインで感じたメリットを教えてください

課題とかに追われた時の時間の使い方、空き時間や通学にかかる時間、京都の家や実家でも受けられますし、出先でも受けられるので、場所に拘束されないということで授業を受けやすい、授業以外のものと両立しやすいと思います。

29. オンラインで感じたデメリットを教えてください

効率性とかは上がると思うんですけど、偶然性が排除されてしまうので、雑談とかアクシデントから生まれる気づきですとか、必然性以外のものは排除されてしまうので。

30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は? (対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など)

個人的には対面ですが、大学や自分以外の学生全体のことを考えると併用が望ましいんじゃないかと思います。

31. 卒業後、大学院での教育は社会で (職場やコミュニティで) 評価されますか?理想は、どのように評価されてほしいですか?

評価はされると思います。歴代行かれた方が京大や政策研究大学院大学の方が職場で活躍しているというのを目の当たりにしているのが大きいと思います。

32. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか？

いや、ないです。

[最終質問]

33. 日本でリカレント教育が広がらない要因は何かご意見を聞かせてください。

学ぶ側からすると実務で学ぶ2年間と大学で学ぶ2年間のどちらが自分のキャリアにつながるのかと考えた時に、それを比較した時に大学で学んだことの方が有利だという確証はないと思うんですよね。私が大学院に行くことを迷ったことはやはり2年間実務を離れることが怖かったというのがあって。日本の企業は職場ごとの慣行みたいなものが多いと思うので、大学で学ぶことと職場のリンクがあまりないと考えられます。

34. 【時短 or フルタイム就労の場合】組織はテレワークを認めていますか？

あまりないですね。職場の配慮がどれくらいかというところだと思うんですけど、私の場合は残業が多かったので勉強は両立できなかつたな、と思います。勉強ができるように配慮されたとしても仕事のやりがいがないと思うので。一応テレワークを認めています。

【追加質問. 学位がなくても取る？】

はい、私は学位に特にこだわりはないので。

Rさん（書面によるインタビュー）

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|-----|---------------|----------------|----------|---------------|
| 3 | R | No | 女性 | 30代 | 他学 | 元民間 | 無 | 無 | 自費 | 学業に専念/退職 |

[入学前に関する質問]

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由、そして東大公共政策大学院を選んだきっかけを教えてください。また、公共政策という分野は元々ご存知でしたか？

学部卒業後、証券会社で勤務したが、ノルマに追われる日々で証券営業は自分には向いていないと感じたことがきっかけ。利益を追求する民間企業ではなく、公務員の方が自分には合っているのではないかと考え、もう一度学び直したいと考えたから。私が入学したのは2009年だが、その当時、公共政策大学院が東大の他、他大学でも設立された時期で、学部時代に学んだ法律の知識に加えて幅広く学べると思ったから。

受験前は「公共政策」という言葉は聞いたことがあったが漠然としたイメージしかなく、幅広く学べるのかな～というくらいの認識だった。

2. 入学前、ご自身で他のリカレント教育は実施されていましたが？

実施していない。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

学部卒業後、1年間証券会社で働き、退社後から受験までの半年間、独学で勉強した。受験科目は行政法と国際法だったので、学部時代に学んだ知識を確認し、ひたすら論述の方式に慣れる訓練をした。英語はTOEFLだったので、願書提出までにTOEFLを受験する日程調整が大変だったと記憶している。

4. 学費は自費負担でしょうか？

はい

5. 3年履修制度などは活用されましたか？

活用なし

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？

証券会社は退社してからの入学なので、完全な自主入学。

7. 【組織派遣の場合】派遣元（上司など）からの期待値はありましたか？

8. 【組織派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（職業人）はいますか？（その人はどうして行かないのでしょうか？）

私の夫（県職員、学部は商学部）もMBA取得に興味があるようだが、休職して入学となると経済的に厳しいので諦めている。県から派遣という形で大学院で学べるなら応募したいと考えている。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後のGraSPPへの期待値（授業内容など）に変化はありましたか？

変化なし

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせましたか？

まずは同期の友達。特に、東大のことは分からなかったので、（学生の氏名）くんには色々助けてもらいました 笑

12. 在学中、職業人として教育を受けるにあたって大学（学務など）からのサポートは十分でしたか？どのような点が変わればさらに通いやすくなったと思いますか？

13. 1限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？（それは受けたい授業があったから、もしくは職業人として業務との調整がつく枠だったからでしょうか？）
履修した。受けたい授業があったから。

14. 履修状況（卒業までの単位取得）は予定通り進みましたか？

はい

15. 成績評価はご自身の満足のいく内容でしたか？

はい。ただし、（出身大学名）時代と異なり、東大で「A」を取るのには難しいと感じた。

16. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありましたか？

特になし

17. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？今でも同級生の方とつながりは維持されていますか？

試験対策。数人程度であるが、つながりは維持している。

今でも教員の方とつながりは維持されていますか？

維持していない

18. 在学時、ご家族の理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化（業務と比べ）について教えてください

退職してまた学生に戻ったので、両親から経済的なサポートを受けた。大学院に行くことも応援してくれた。

19. GraSPP で学んだ内容について、業務で役に立っていますか？具体例があれば教えてください。

はい。情報収集をして資料にまとめるというスキルを養えたと考える。公務員として10年働いたが、GraSPP で学んだことが土台になっているかな～と思う。

20. 最も印象に残っている授業や教員、その理由について教えてください

増田先生、徳永先生（警察庁）の事例研究が印象に残っている。実務を踏まえた上での授業は気づきがたくさんあり、大変興味深いものであった。

21. 研究論文やリサーチペーパーは作成されましたか？

増田先生のゼミで、(学生の氏名) さんと (学生の氏名) さん (県から派遣されている職業人学生) の3人でリサーチペーパーを作成した。

22. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？

活用なし

23. 卒業後、GraSPP で学んだことによって所属団体における立場の変化について教えてください。(年収の変化や役割の変更など)

大学院卒業後、新規採用職員として入庁したため、立場の変化等はなし。

24. GraSPP を面倒を見ている後輩に勧めますか？それはどうしてですか？

はい。GraSPP の授業は実戦的であり、公務員として働く際に必要なスキルを養えると考えられるため。

25. GraSPP の OB/OG 会には入会されていますか？

はい。メールでお知らせ等は届く。(OB/OG 会に入会しているのかはよくわかりません…)

26. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください(1 が最も大きい)

A) スキル B) 人脈 (学生) C) 人脈 (教員)

A、B、C の順番

[コロナ禍に関する質問 (対象者外)]

27. 対面型とオンライン授業、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか？

それはどうしてですか？

28. オンラインで感じたメリットを教えてください

29. オンラインで感じたデメリットを教えてください

30. コロナが終息した後の理想的な履修環境は？(対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など)

31. 卒業後、大学院での教育は社会で(職場やコミュニティで) 評価されますか？理想は、どのように評価されてほしいですか？

32. 将来博士号を取得される可能性はありますか？

現在のところなし

[最終質問]

33. 日本でリカレント教育が広がらない理由について、個人的なご意見を願います。

まず、潜在的に学び直したいと考えている人はある程度いると思うが、経済的な理由から断念するパターンが多数ではないかと考える。また、日本では、社会人になって再び学び直すことについて、積極的な評価をする環境にはないのではないかと考える。これらが主な要因ではないかと考える。

34. もしも働きながら在学された場合、職場ではテレワークを認めていましたか？

【追加質問. パートナー様が MBA 取得にご興味ありという点について、経済的に厳しいという点については、「学費」と「その間の生活費」、「仕事を離れることにより収入が一時的になくなる精神的な負担」という観点ではどの思いが高いでしょうか？】

「その間の生活費」が厳しいという感じです。数十年経って子どもが独立したら、要検討ですかね。私個人としては、やはり大学院での勉強は得るものが多かったので、興味があるなら夫にはぜひ挑戦してほしいと思っています。

【追加質問. 職場からは「公共政策大学院卒（公共政策学修士）」という点は評価（関連する部署への配属等）されていると感じられますか？】

今年で入庁 10 年目、現在 3 か所目の部署にいます。これまで農政部と保健福祉部に在籍してきましたが、評価されているのかはよく分かりませんね（笑）。。

【追加質問. 将来的に転職を検討される可能性はございますでしょうか？】

現在のところ可能性なし。1 年間だけでしたが民間企業で働いた経験と比べてみても、自分は公務員の方が合っているかな～と思います。このまま県庁で経験を積んでいきたいと考えています。

S さん

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|-------|-----------------|----|-----|----------|-------|---------------|----------------|----------|---------------|
| 3 | S | Yes | 女性 | 30代 | 他学 | 地方公務員 | 無 | 無 | 相織 | 学業に専念 |

入学前

1. 社会人として大学院に行こうと決めた理由は？（東大公共政策大学院を選んだきっかけは？） 公共政策を知るきっかけは？

職場からの辞令。それまでは手を挙げるだけだったけど、それがいなくなってしまう。それからは辞令。希望する方は何人もいたんですけど、受験に落ちて。それからすごく慎重になって。希望というよりは受かりそうな人。公共政策は何も知りませんでした。東京に行ってもいい独身女性を探していたんだと思います。その中で結構異動希望のときに空欄だったので、行ってもいいということだと。

2. 入学前、他のリカレント教育は実施されていきましたか？

いやー、特にありません。職場でもスキルアップ研修とか。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

内示が3月なので、受験してください。と。TOEFLが5月末までしか受けられなかったの
で3か月くらいですかね。TOEFLの試験は紙で届いたものを送らないといけなかったの
で、いつまでだったら間に合うのかというのが分からなくて結構困りました。

TOEFLは私までは自己負担です。予算はあったんですけど、公共的な支払なので、クレジ
ットカードの支払いが証明ができなくて、私たちの代までは自己負担。

4. 学費は自費負担でしょうか？

公費

5. 3年履修制度などは活用されましたか？

2年です。

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？

派遣

7. 【派遣の場合】派遣元からの期待値は？

特に何もありませんでした。

8. 【派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学

学業フルタイム。一番最初に行った人は週に何回か勤務というのが決まっていたんですけ
ど、両立が難しいだろうということで東京事務所に掛け合ってくれて。

平成22年からだと思います。

**9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（社会人）はいますか？（その人はどうして行か
ないのでしょうか？） 公共政策という分野を周りにはご存知ですか？**

誰もいませんね。

入学後

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありましたか？

入学する前は実務というよりは法律の解釈とか制度的な理解に寄っているのかなと

思ったんですけど、それと実務と紐づけられる先生方が多くて役に立ったなと思いました。

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせましたか？

同級生ですね。

12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか？

公共政策の中では学務はなくて STIG はお世話になりました。

STIG を取ってました。

13. どのような点が変わればさらに通いやすくなったと思いますか？

あんまり学生生活で困ったことはなかったので特になかったと思います。

14. 1 限・6 限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？

1 限 6 限は取ってましたね。取りたい授業があったから。

15. 履修状況（単位取得）は予定通り進みましたか？

そうですね。

16. 成績評価はご自身の満足のいく内容でしたか？

えーまーそうですね。（表彰を受けたそうですが？）表彰ですけど、当日いきなり呼ばれる感じですね。

17. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありますか？

システム自体は不便ではなかったんですけど受講する先生によって ITC-LMS で共有しますとか使いませんか、ばらついた対応があったので、この先生はこれっていうのが毎回毎回違う対応をするのが少し手間だったかなと思います。

18. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

同じ講義とか必修とかが多かったので、皆で宿題教えてもらって。

19. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください

元々東京に住んでいたこともあったので昔のところに戻ったかなと思います。

20. GraSPP で学んだ内容について、業務で役に立つと思いますか（役に立っていますか）？

そうですね。今私がいるところが情報政策課なんですけど、6 限でやっていた奥村先生の授

業がデジタル社会で、考え方が行かされているんじゃないかなと思います。
元々講義をとるときにいろんな分野を受けよう、どこに異動になるので、先輩たちが取っていないところ。デジタル行政のやつはその一例に過ぎないのかな、と思います。
自分が新しい部署に希望したから、元々背景には GraSPP もあったと思うけど、それだけではないと思う。

21. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください

デジタル社会の奥村先生ですね。受けてみたかったので。

22. 研究論文やリサーチペーパーは作成されましたか？

してません。

23. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？

してません。

(オンラインで海外のオプションがあれば活用しましたか?) 同時通訳がつけば受けていたと思います。

24. 卒業後のキャリア展望について教えてください(所属団体における立場・年収の変化や転職する可能性など) 転職はゼロではないですか？

異動先が情報政策課が2か所目なんですけど、1か所目は財政課なんですけど、おそらく取った講義とか希望が活かされた気がします。私と(同組織からの派遣学生)さんが初めてのケースです。それまでは全然バラバラ。転職は、ないですね。返金させられるし。

自分が资格的なものを取っていたらあったと思うんですけど、多分ないと思いますね。

25. 東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか?それはどうしてですか?

そうですね。どちらかという学部卒でそのまま行くよりはリカレント教育の方がいいかなと思います。実際に仕事を経験した後に制度の話とか事例の話とか、持って帰りやすい。自分ならこうするとか考え方が得られやすいと思います。

26. GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知でしたか?また入会されていますか?

多分入っている・・・。メールが英語で来るからあんまり読んでません。でももしできるとしたら OB 会を立ち上げる時、私が在学しているときに設立されたので、私も熊本地震だったので紹介とかしたんですけど、オンラインとかで講演会とかが受けられるといいかなと思いました。

27. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください(1 が最も大きい)

スキル ①

人脈学生 ②

人脈先生 ③

28. 卒業後、大学院での教育は社会で（職場やコミュニティで）評価されますか?理想は、どのように評価されてほしいですか?

大学院に行ったことはそんなに言わないので。結局自分で希望したわけでもないのに、異動という観点でたまたま勉強ということかなと思ってます。

昇進希望はないですね。できるだけない。男性脳の方が理路整然と人に説明できると思うので。人に自分の判断が正しいという自信がないからですかね。判断能力とか調整能力とかに優れているんですよ。自分はないと思います。

（将来的には？）仕事の内容的には、いろんな部署でいろんな仕事をしたいと。自分がどうい能力があるのか分からないので、どこかで誰かの役に立てればと思います。

人事以外では、省庁派遣とか大学院とか自治大学とか、公募制で手を挙げる事ができるんですよ。行きたいといっても、1割行かない採用率。行きたいかなと思った人が2年は動かせないで、どっちも困ってしまうので、よほど適正がない限り難しいと思います。縛りがなければやる気があって回していければと思います。

29. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか?

いえ、ないです。

30. 学位がなくても取っていたと思いますか?

そうですね。専門職学位でなければ修論書いていたと思います。専門職だと結局仕事をするうえで必要な知識を取っていけばいいと思うんですけど、そうでなければ私人としての興味も含めて取っていけばいいと思います。

31. なぜ日本でリカレント教育が広がらないと思いますか？ 何が一番ハードルでしたか？

仕事をしていくうえで必要性を感じないのかなというのはありますね。実際自分で行ってみて役に立ったと思うんですけど、だからといって人に薦めるのは、人それぞれだと思うので。例えばなんですけど、うちの職場は高卒で採用された方が夜間に大学に行くために夜間すぐに帰れる部署に置いていて。大卒になったら大卒じゃないといけない部署に異動したり。職務上必要性を感じられたら。この職場に行くにはこの資格が、というのは行政職はないので。

【追加質問】 教育訓練給付金の存在はご存知でしたか？

給付金？全く知らないです。

【追加質問】 会社や職場はテレワークを認めていますか？

はい。でも、両立は難しそうです。職場と学業とか。

T さん（アジアからの留学生）

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|---------|-----------------|----|-----|----------|-------|---------------|----------------|----------|---------------|
| 1 | T (アジア) | Yes | 男性 | 30代 | 他学 | 海外公務員 | 有 | 有 | 組織 | 学業に専念 |

[入学前に関する質問]

社会人として大学院に行こうと決めた理由、そして東大公共政策大学院を選んだきっかけを教えてください。また、公共政策という分野は元々ご存知でしたか？

海外留学する職員を選抜するプログラムがあって応募したことです。国の発展のためと、個人的な実力の発展のため。元々は京都大学の MBA と比較したんですけど東京大学を選びました。東京大学には MBA がありませんよね。経済学科の夜間課程だと思うんですけどちゃんとできてない感じで、東京大学の公共政策大学院にきました。公共政策は元々知っていました。

2. 入学前、他のリカレント教育は実施されていまいましたか？

はじめてです。でも会社働きながら Financial Analysis の勉強を4年間やりました。

3. 入試対策など、準備にかかった期間と、出願プロセスで感じた課題はありましたか？

結構時間がかかりました。外人としては自己紹介とか文書のチェックも厳しかったです。自分の手で書かなければならなかったこと。東京大学のブランドに関わると思いました。それ以外には？ オンラインで全部やればすごく楽なことを、返還用の封筒を入れて、私は海外に住んでいます。アジアやヨーロッパの学生もいっぱいいるのに日本の返還先を記載しなきゃいけない。外国に住んでいる人たちはインターナショナルポスト切手を貼らなきゃいけない。それが高い。

4. 学費は自費負担でしょうか？

組織です

5. 3年履修制度などは活用されていますか？

2年で卒業予定です

6. 所属団体からのオフィシャルな派遣、もしくは自主的な入学でしたか？

オフィシャル派遣です。

7. 【派遣の場合】派遣元からの期待値は？

弊社ではそんなことは全くありません。すごく自由です。選抜されていることが認めている感じではあるのでそれ以上の、教育自体に期待はないです。

8. 【派遣の場合】休職 or 時短 or フルタイムで働きながら在学

フルタイムで勉強。給料も出ます

9. 周りで大学院に行きたいけど、行かない人（社会人）はいますか？（その人はどうして行かないのでしょうか？） 公共政策という分野を周りにご存知ですか？

多いです。時間がなくて。あと海外行きたいけど自分仕事してるし。機会費用が高いし。金融系って給料相対的に高いので自分であきらめていくのはきついですよね。（公共政策は？）私の知ってる公務員たちは結構行きたいと思います。

[入学後に関する質問]

10. 入学前と入学後の GraSPP への期待値（授業内容など）に変化はありますか？

15年前に経験した（日本の大学名）は規模も小さいんですよね。でも留学生に対する姿勢やサポートって（日本の大学）の方がものすごい（良かった）。東京大学は気にしていない感じでした。例えばですよ、（日本の大学）に初めて留学しにきたときは空港に職員の方が迎えにきてくれた。そういうことを期待しているわけではないけど、そういうところとか。今回は隔離されてるんですけど、KNT っていう Travel Agency に外注したんですけど東大からは一度もメールもなかった。ちゃんと着いたのか、ホテルからどう移動するのか、とか。今回の問題は私以外の留学生に聞いてみるとわかるんですけど、今回の隔離 11/25 に日本に来ました。その時、飛行機のスケジュールとか隔離があるのですごく不安ですよ。私のホテルが成田空港に近いホテルでした。でもこのホテルが出発の2-3日前に千葉県に変わりました。外人の目線から見ると成田から千葉まで移動することはすごく不安。外人で電車利用できない。その説明も何もなかった。何回もメールした後、出発する前の日に連絡が来ました。（その連絡では？） 私が3-4回くらい連絡したあと KNT から来ました。最後まで大学からは来なかったです。私も公務員で Public Sector で働いているんですけど。全然働いていないのではないのでは。

11. 何か在学中に困ったこと、分からないことがある際にはまずどこに（誰に）問い合わせますか？

同じ国籍の同級生がいないので。いや、分からないんですよ。学校行ってないから。Line で知り合った一年上の先輩に。

12. 在学中、社会人として教育を受けるにあたって大学からのサポートは十分でしたか？

新入生が会う機会も一回もなかった。先輩ともなかった。全体が難しいならコースごとに分ければいいと思う。新入生に対する、まー、何もないですね。PDF のファイルだけ。きついんです。学生証も、自分から聞いて、もらいに行く。これはだめですよ。私が行ったときは学生証がすごくありました。メール1通だけ。隔離が終わったら学生証とかロッカーのキーもらいに来てください、というそれだけでも送れば便利なのに。窓口行って、説明して、担当者見つけて。会社から来てるから気楽だけどお金ない学生は厳しいですよ。

13. どのような点が変わればさらに通いやすくなりますか？

（日本の大学名）ではちゃんとやってたし、ほとんどの会社組織でやってるけど、Tutor が一番いいですね。その制度。先輩とか同級生、日本人も、すごく役に立つと思いますよ。（日本の大学名）ではそれがあつたんですよ。日本の学生がキャンパス案内してくれたり、図書館カード作ってあげたり。学校からその Tutor にバイト代が出るというシステム。日本の学生もコロナでバイト減ってるんでしょ。役に立つと思いますよ。今の学部から来た日本人学生と、私のような仕事経験者を Tutor、すごくいいです。同じ業界や異業界の交流もめっちゃいいですね。

（Zoom などのツールの、横の連携（グループワークなど）は十分に行えますか？）

Active な授業参加ができないですね。クラスメイトとインタラクティブな活動ができない。授業に集中することができない。個人的に株もやっていますが、授業やりながら株価の確認とか、私が悪いんですけど、現場ならしないです。

14.1 限・6限、土曜日の開講授業や集中講座などを履修されましたか？

1限や6限の必修は取ってます。

15. 履修状況（単位取得）は予定通り進んでいますか？

分からないです。

16. 成績評価はご自身の満足のいく内容ですか？

半分くらい。予想よりも良くなかった。成績のフィードバックが何もないので分からない。

社会人と年を取っていると抗議することができないんですよね。

17. UTAS や ITC-LMS などの活用にあたって困ったことはありますか？

ITC は困ったことがあります。動画で案内するともっと効果的だと思います。PDF200 ページをメールで送られると確認しないんですよね。

18. 同級生など横のつながりを構築するきっかけで一番多いケースは？

いないんです。3人くらいいるんですけど。現場授業一回やったんですよ。そのとき以外はいないです。皆外国人です。(日本人は?) 横のつながりをオンラインでつくるのは不可能です。

19. 家族のご理解やサポート体制、入学後の生活環境の変化について教えてください

家族は(国)にいますので変化ありました。

20. GraSPP で学んでいる内容について、業務で役に立つと思いますか？

いいえ。率直ですね。私も15年くらい働いてきてもうCFEの資格も持っていて、そんなに役に立てないんですよね。でも、会社に戻って、学位が必要ですからなんとなく頑張ってるんですけど。でも、ケーススタディとか、ハーバードケネディスクールみたいにすごく事例研究みたいに授業参加するものがないんですよね。この1年間。それで公共政策大学院は選択が幅広いんですよね、それで、全部授業が基礎から始まる。職場で活用するには難しい。これが公共政策大学院みたいに多様な学生がいるからそのディベートみたいに活用することが全くない。残念です。

(脳の筋トレと比べると?)

率直に申し上げますとそれも感じてない。なぜかというと、この公共政策大学院に入ってる人は、その前から頑張ってる人。自己開発に頑張っている人たちですよ。なので大学院に入ってそんなに変わらないと思います。

21. 最も印象に残っている授業や教員について教えてください

東京大学公共政策大学院って日本を代表するハイレベルの公務員が退職して、国際機構行って、そのあと東京大学に戻って特任教授とかやられる先生とかいらっしやるんですよね。授業の内容が下手そう。ハイレベルで役に立てない。その人たちはCxOレベルの役員で、我々は課長とか次長とかのレベルで。授業自体の内容が役に立ってない。例えば自分が国際機構で働いた経験とかではなく、色々な分野を基礎から話す。教育に対してちょっと。政治に対してちょっと。金融に対してちょっと。それが不満でした。

22. 研究論文やリサーチペーパーは作成されますか？

元々は書こうと思ったんですけど今は考えてます。専門職、東京大学の博士にはいかないので、それと、もう一つは、リサーチペーパーとか、指導先生の OK サインが必要ですよね。公共政策大学院の職員たちは、ゼミとかそういう制度がない。一年間先生に直接会ったことがない。どうやって指導教員にお願いすればいいか分からないし、自分の興味に合う先生が誰なのか分からない。先生の興味分野と私のがマッチすればベストですけど、私が頼んだトピックが、先生に興味ないと難しいし、どんな人がいるか分からない。GraSPP は掲示板に提出期限しか書いてない。だめですよ。

23. 交換留学やジョイントディグリーなどのプログラムは活用されましたか？

いいえ。パンデミックだし、日本が好きなので東京大学選んだので。

(オンラインで海外？)

パンデミックが続くと興味あります。こういうのが続くと。対面が始まれば興味ないです。

24. 卒業後のキャリア展望について教えてください(所属団体における立場・年収の変化や転職する可能性など) 転職はゼロではない？

スポンサーで来たので5年間働かなければいけない。そういう契約をしてきました。プロモーションには良い影響が出ると思います。給料には影響は政府機関なのでだいたい変わらないです。プロモーションでは複雑な影響なんですけど、東京大学の大学院を出たことによるプロモーションではなく、こういう教育プログラムに選ばれることが良い評価だし、会社に戻ると、この留学の経験が給料以外に他のメリットだと。2年間海外で勉強に専念できることがメリット。今までのプロモーション速度よりはこの期間は少し下がる。この頃ちょっと変わりました。留学してすぐ昇進する人もちょっと出て期待しています。

学費と生活費の支援費も返さないといけない。規定があるんですけど、学費は東京大学はそんなに高くない。でも生活費も毎月 2,200 USD くらいです。2年間学費全般含めて 1300 万円くらいもらえます。基本給だけ出て特別給与は出なくなる。生活支援とか基本給とか。実費ではないので。

25. 東大公共政策大学院を面倒を見ている後輩に勧めますか?それはどうしてですか?

東大公共政策大学院は Recommend しないですけど、日本語しゃべれる人は結構いて。これまでの選抜プログラム 25 年で、日本を選んだのは私だけです。あとは欧米で、子供の留学はお金で、海外行きます。私の後輩たちは、日本語話せる人たちには推薦します。東京という Mega city と東大のブランド。これは私にとって大事なことなんですけど、公共政策大学院は、働きながら支援することは難しいです。公共政策大学院は書く試験がない(筆記) んですよ。これは海外留学生にみるとすごくメリットです。これは外国人が日本語で何かを書いて

試験を受けるのはすごく大変ですよ。

26. GraSPP の OB/OG 会の存在はご存知ですか?また、卒業後は入会されますか?

知ってるんですけど活動ってないんですよ。

(何を期待して入会されますか?)

入会はします。そんなに期待はしてないんですけど。

27. GraSPP で得たメリットについて、下記の中から順位をつけてください: スキル・学生との人脈・先生との人脈 (1 が最も大きい)

スキル ②

人脈学生 ③

人脈先生 ①

でもバンデミックじゃなければ、同級生のネットワークが大事なんですよ。私が期待したのは同級生とのネットワークが一位でした。

[コロナ禍に関する質問]

28. 1 年目はオンラインでしたが、どちらの方が当初の学習目的の達成に繋がったと思いますか?それはどうしてですか?

Face to face です。それは私から議論はないです。

29. オンラインで感じたメリットを教えてください

通勤時間短縮ですか。それ以外はないです。

30. オンラインで感じたデメリットを教えてください

ネットワークしにくい、同級生と先生と先輩と。学校の施設が利用できない。それと授業に相対的に集中できない。それとディスカッション授業が全くできない。

31. コロナが終息した後の理想的な履修環境は? (対面のみ・オンラインと対面の併用・オンライン継続、など)

Face to face です。

32. 卒業後、大学院での教育は社会で (職場やコミュニティで) 評価されますか?理想は、どのように評価されてほしいですか?

社会では評価されます。有名な大学、東京大学も、評価されます。

33. ご卒業後、博士号などを目指す可能性はありますか？

いや、東大ではないです。他の大学ではある可能性はあります。50代以降。取る先輩は多いですよ。（学部時代は勉強するほうでしたか？）真面目でした 笑

34. 学位がなくても取る？

いいえいいえ。私は Degree はすごく大事だと思います。職場や社会にちゃんと証明できる。

[最終質問]

35. なぜリカレント教育が広がらないと思いますか？ 何が一番ハードルでしたか？

日本からみると同僚の Peer pressure じゃないですか。私が博士取るには提示退社しなきゃいけない。周りに迷惑をかけるかもしれない。私から考えるとすごく同僚のプレッシャーが心配です。一般的には（国）でもあります。どこでもあります。今は教育派遣されている感じで、自分が自分で自費で会社の後に夜間の大学に行こうとしたらすごく気になります。会社からのシステマ的に支援する教育プログラムと、自分からの自己発展だと全く違います。でもこれがだんだん変わりました。2-3年間、1週間52時間法律的な働く時間の規定があります。上司とか目線気にしなくて退社する人が増えています。

36. 会社や職場はテレワークを認めていますか？

元々なかったんですけど政府がしなきゃいけないという指針があり、できるようになった。

Uさん（MPP/IPの中国人留学生。英語によるインタビュー）*質問構成は日本語と同様。

| グループ | イニシャル | 組織への在籍 (在学時) | 性別 | 年代 | 出身 学部 | 職業 | 転職経験 (入学前) | 外資系企業/ 海外経験 | 学費 負担 | 就労状況 (在学時) |
|------|--------|-----------------|----|-----|----------|----------|---------------|----------------|----------|---------------|
| 2 | U (中国) | No | 女性 | 20代 | 他学 | 元民間 (海外) | 無 | 有 | 奨学金 | 学業に専念 |

1. What was the reason you decided to enroll into a graduate school? (Why did you choose GraSPP) Did you know about Public Policy degree?

Primary reason is that I want to study and live in Japan, originally I thought that was achievable because I was in a global bank, and they have as you know global mobility program that can allow your switch your working location to other places. But after entering the job I actually found that the particular business I am doing, Japanese market was small so Japan did not have much positions. I talked to my manager and usually you have to prove yourself in your local location and then you can appeal them that you can switch your location. And it also depends on the opportunity and

there must be a headcount in Japan so for me it will take 2 to 3 years and by that time I would be too old to pursue this kind of opportunity so I decided to do myself, because now the cost is still affordable.

(Why GraSPP?)

Yeah so initially I was applying for the graduate school of economics program called UTIP so that program is more to my research interest in economic topics but was extremely difficult to foreign students especially if your English speaking and if you want to apply for English program it is extremely difficult and only accept 10 students from the world, and prefer students from English speaking countries such as US and Europe other than Asia like China, Korea and South East Asia. Then I had an advisor and she suggested that maybe MPP/IP is more practical oriented and is more tailored for my interest. And MPP/IP is more easier to get in that economics.

(You knew about Public Policy?)

Not really. In China, people are quite remote from any political subject, most of the time people choose subjects like finance, engineering that kind of more remote from politics topics so initially I did not even know about MPP/IP program existed so primary it is my advisor who knows about the program that gave me the information.

2. Were you in any recurrent education process before you enrolled in this university?

I was attending vocational type of part time school. It was only a small training but I am quite actively engaged in reskilling gaining more useful skills in general. So I think it was not for MPP/IP I would consider other options. Actually previously I was considering doing MBA in later years. Maybe in United States. Currently my plan is to find a job in Japan, and 2 to 3 years, maybe I will take that option, that's like one more chance to switch your track.

3. Did you have any challenges in the application process and/or preparation phase before you enrolled?

Oh, a lot. Firstly it's like Japanese universities are very inward targeted. So I feel like unlike US, I felt that Japanese universities are not interested in recruiting foreign students at all. Most websites are in Japanese, most of the exams and application materials are in Japanese. For me I can handle daily conversation but if you ask me to write personal statement in Japanese that will be quite challenging. You can write one but cannot deliver same quality in English, so language barrier. Secondly I think Japanese universities are extremely paper based. Which is surprising

and like when I was applying for it, they had deadline you need to mail the paper document to the university. I was in Hong Kong and was quite expensive and had to count how many days will take to arrive to Japan. If it was late it doesn't count. If you are in a more remote location which will take one week to mail to Japan, I think that will be a significant barrier for some people. And also the third thing is that I wonder whether you know but graduation time of oversea universities is different from Japanese universities and so bachelor certificate granting timing. So on Hong Kong if you are graduating in May, your graduation certificate will be given in November. And by November you must apply to Japanese university so you don't have a certificate yet. University can give letter to prove but Japanese university does not accept such kind of letter and only want official certificate. That is also one of the reason for myself and for few other friends they decided to take a gap year after their graduate from bachelor studies. After they officially received their certificate they can start the application. I think for many people a gap year is a significant cost because you consider the time and uncertainties it is quite troublesome and is really more difficult than you go and work.

I think MPP/IP is a lot better already because staff can respond in English and willing to help but for Chinese students applying for lower ranking universities in Tohoku that is significant difficulties of paper work and current process. And if you consider Chinese students, the options are different, have option to work, or go to Chinese university, or study in UK or US universities and they are very smooth in the process, you can submit everything online, and they don't need you to mail anything, if haven't graduated yet they are okay, very flexible. As long time view I don't think it is good for Japanese university losing highly talented international students. The thing is, the world won't wait for you. You are competing with other countries, not with your fantasy.

4. Are you paying your tuition (or your organization)?

No. I am receiving this scholarship from Japanese government called Monbu Kagakusho Shogakukin, so it's like 147,000 (yen) each month and also they will exempt entrance and tuition fee for you.

5. Are you enrolled in a 3 years graduation program?

I am kind of hesitating, the program itself is 2 year but I want to extend it because this year, due to COVID, there was hardly anything but attending courses with not interactions with students and professors. If I extend my studies I can experience more and try to find the better professors

who could give more advise on future career path.

6. Do you have any friends around you (mid career) who are willing to enroll into a graduate school but are hesitant? Please share the reason. Are those people familiar with the academic area of Public Policy?

Sure, two aspects. I think Hongkong people and China people is kind of different. In China market condition in China is quite harsh, company will not take any student without masters degree. So most students choose to directly go to a graduate school without working, soon right after bachelor. Either in Japan, Korea, United States, Australia, Singapore is another popular option. That's the case in China. I think for these people their primary goal is to find their first good job. They need to find their literally their first job in their life and they are going to graduate school to build their resume to have better opportunity.

In Hong Kong the case is really different. It is similar to Japan, it is quite rare for students to go back to go back to graduate school to study. After they graduate from bachelor they go to companies and work there. I have few friends who want to switch their path by doing a graduate degree but I think the primary barrier is that as they enter their late 20s, it is not so easy to consider this option without planning their families. They probably are already married and have kids, and cannot leave them in Hong Kong to do degrees so there is a significant amount of planning needed. And in my previous industry if you wanted to apply for schools it required significant amount of research and preparation and you don't know whether the result will be good.

And also compared to those who have never been back to graduate schools, from their perspective, you are kind of wasting your time, because if you go to graduate school by the time you are 30 you are still an analyst and while those who started career early may be a VP, and at that time you will feel difficult to handle the situation. That is my opinion. And also there are part time graduate schools you can attend so they could also choose that without quitting the job.

10. Did you have any change/gap in expectations before and after you enrolled in GraSPP?

Yeah they are some. But this year the situation is kind of special so I don't know whether it is applicable with normal years.

I think my expectation before coming to this school is, (A) if I can find a job in Japan so studying in University of Tokyo the best university in Japan will definitely help that. And secondly I

wanted to explore whether there are other path other than finance I can explore in future, for example NGOs and consulting. Japan is very developed country and active in international affairs. I feel that in that space Japan can give more better exposure and Tokyo is the center of Japan. That was my expectations.

And coming into school, firstly landing a job, I guess it is still difficult for foreigners to completely speak the native level of Japanese which is required in most of the big companies and also I just find the job hunting process in Japan is way more complicated than in Hong Kong or United States or China. Like there is a specific timeline and the competition is quite harsh. There are lot of like small things you must complete before you can land a job. In Hong Kong it is quite straightforward and you just go, submit your resume, and pass, you will go into 2 or 3 round of interview in English. So I think finding a job in Japan is probably will be little difficult than I imagined especially given that this year I couldn't do a lot of networking with people which will slow the process as well. And secondly to explore new possibilities, I think the major way is to talk to people you encounter in school either professors and students like yourself who comes from a very diverse background which I can learn and explore, but this year I find it quite difficult. I don't know maybe in normal year, it is my gut feeling but it seems like the connections in MPP/IP that professors have with students are weak. They just deliver the course and leave. It's not like the case in Kenkyushitsu where your professor helps you like a boss in career planning and all that. In MPP/IP I feel that everything must be proactively done.

11. When you have troubles or need of support regarding GraSPP, where/who do you contact?

It depends on the matters, most of the time I contact the GraSPP office people firstly if it is administrative issues like how do I report tax to city office, how do I move in and out, what should I do when I buy bicycle and register. But they couldn't help with personal matters. There is two resources, first is international school student office who could provide career advise, they could do some counselling if you feel troubled in your studies, and if you need psychological pro counselling they can introduce to reliable sources. There is another career office in University of Tokyo as far as I know, but they are targeted for all students in U-Tokyo thus primary language is Japanese which is quite difficult.

12. Would you consider the support from GraSPP office sufficient ?

Let me put in this way, they are doing a decent job but they wouldn't help you if that is beyond their duty. Maybe that is typically Japanese. When something they need take responsibilities or

they need to proactively do something to help you, they would just say "Oh I am sorry but this is beyond my reach and I am sorry for your situation." The attitude is good but cannot get support and that is quite different from what I got in US. Let me give an example. I am receiving scholarship and if you are not in Japan personally they will not give you the scholarship. Only after I land in Japan in December I was able to receive scholarship. And you need a Japanese bank account for receiving the scholarship and this year there was 2 weeks quarantine and could not do bank opening and all that. By the time you can apply for bank account, it's already half month past. And if you apply for bank account and if you are not a Japanese person it will take another few weeks. During this 1 month there is not money you can receive and there is no workaround. This one friend from Korea who are participating in Campus Asia is exactly same for them. For the 1 month, you still need to live and pay your bills, it is extremely difficult and there is nothing the office can do to support you. In Hong Kong it is more flexible. I was also receiving scholarship in Hong Kong and first time you land and do not have bank account they can give check so it can keep working instead of this outdated process.

13. What kind of support/improvement would make your academic work more efficient?

I have never thought about that. So there is a system in China like in universities or graduate schools so professors are basically responsible for your studies, they are only responsible for teaching courses or academic related issues. If you bring life or career related it is not that relevant, they can give advise but not professional. In China there is a system like a mentor and mentee. As soon as you enter the university the university will assign one person who will take care of your all of your life and career and all that issues, and you can go to this person during the study in university. He can basically help in anything and have direct channel in university including high level official so he can further report out and things can get solved quite easily. They can find other alternatives because this person is quite experienced in all that kind of things. In Hong Kong there are similar systems and I am not sure if it available in U-Tokyo.

(Are those mentors peer students one year older or faculty member/staff?)

The mentors are staff of university. But there is also a peer system, they automatically assign a senior student, he or she have 4 to 5 junior students and you can always go to this student for any advise. This works quite well but I think it depends on how is the culture of that university. If it is a culture that seniors will invest a lot for junior students, it will help drastically but in U-Tokyo I also get one mentee but she never talks to me so I think I don't see the culture here that senior will build that personal connections with juniors and help them. In Singapore it is the same, and

the orientation is quite good and there is also similar junior senior relationship there so I am quite surprised that in Japan everything feels quite remote.

14. Have you taken courses 1 or 6th period, Saturday, or intensive course?

Yeah, I took period 6 courses ending in night time. One Saturday courses.

15. Are you on schedule for earning credits?

I think so.

16. Are you satisfied of the academic records (grades) you received?

Well I haven't received the first semester grades so I don't know but now I could say that maybe it will not be that satisfying. I was attending one course which is primary taught in Japanese so it's actually really difficult for foreigners to participate. It is difficult to join the discussion and even teachers allow me to submit assignment in English, you need background knowledge of Japanese context in politics to deliver a good project. In that aspect I need time to adjust. And also this year because most of the courses were completed when I was in China so you can't really find any good materials, sources, information only thing you can use is Google scholar.

17. Do you have any trouble utilizing UTAS or ITC-LMS?

Yeah. I invested a bit of time to figure out how it works and I also reached out to my Chinese seniors and asked them how to select or drop courses things like that. It's kind of weird because in Hong Kong usually there will be an orientation camp and they would teach you how to do this but here I just had to figure out myself. There is an assumption that students know how to do this. I don't know where this assumption comes from. They are saying that they want diversified student base, international students, but their mind is not following and not ensuring these students can have a good experience. And also people like you and me, who are already working, if something is not working you will actively find the way to make it work and find out by yourself which is an advantage, but for students who never worked before like the Chinese students I mentioned, their experience will be way worse than ours.

18. What is the most frequent case to build new network with other students? How do you make friends at school?

There isn't one formula, but I guess it's about being proactive, and like during course, you think somebody is making good points you PM him from Zoom and discuss more and after class get his contact and maybe you can reach out to have a cup of coffee chat, something like that. And also participate in online activities, like I was participating in language exchange program where I met a Japanese guy. He introduced to me another friend who is interested in learning Chinese. Another is Chinese circle, and they quite know each other well so if you join such circle you get to know Chinese people in Japan as well.

19. Do you think you can utilize the knowledge/skills you acquired in GraSPP for work?

Generally I think the answer is yes, but I think the degree varies a lot depends on the situation and depends on the person. For me firstly of course in GraSPP I can further polish my Japanese and that is going to be useful for me any way. And secondly the academic research capability and the professional expertise I think will definitely help either if you wish to go to PhD or going back to the workplace. You will have better idea of how the world works. You will have a better way to look at the world. Before coming to GraSPP, my perception of political landscape of world was whatever the media tells you, and most people in investment banking is like that. Today this happened so what will happen to the stock market and so on. But now you can really doubt whether that news transmitted is grounded. For example US presidential election, FOX, CNN, New York Times are all sending for different interest groups. And you learn that it is not necessarily true to believe in one source. Requires more critically thinking. And through encountering people with different individuals like my case encountering people who are anti China. You learn to back your idea with solid evidence. Even perceptions don't match, you ask questions like why do you say that, do you have any source to support that, a lot of critical thinking will be useful for any workplace.

20. Please describe a class or faculty you which left a strong impression?

Professor Kohara. He's like, I don't know, but negative I guess. He's quite interesting because in the first place, I actually did not know who he is so I googled him on website and he former ambassador in Shanghai, Japanese embassy, and wow. This is going to be something. But I entered the course and found out that the course was not really helpful and English delivery was quite surprisingly low. And at the end, the essay and paper will not be helpful as well. I think he is also a person who is very difficult to make personal connections. Any way the expectation was quite high but the reality was not so sexy.

And also I would like to mention my positive experience as well. I attended in period 6 in Friday, using Micro data to analyze policy trend something like that, taught by Hayashi Tomoko and Umetani Kentaro. So two professors formally working at the Naikaku-fu (Cabinet Office). Their insights were really really deep and the lecture experience was quite good they did not force you to discuss. It's a Japanese course but in the first class I asked that I am interested and I cannot write Japanese essays and papers, and asked English paper. They welcomed any students keen in studying new knowledge and during class, even I don't discuss in Japanese they never discriminated me. I think I learned a lot from that class and interactions with the professors was really good.

21. Do you plan to write a thesis or research paper?

Yeah I do want to write.

22. Did you enroll into exchange/joint degree program?

Originally that was the plan but scholar forbids.

23. Are you interested if there is an online course for universities overseas?

I don't think that is attractive personally. If you want to learn something it does not have to be paid university courses. You can find many ways to learn from online courses so you don't have to enroll. The point of exchange is to go and see how people are living there and maybe if you want to work in that country in the future, for example for my friends who wants to work in the United States, living and can maybe lead to job offers which you can't get sitting at home. Online situation during COVID significantly undermines that perspective.

24. What is your career aspiration after graduation? How will the study in GraSPP impact your career?

Now it is a bit hard to say but I think the reason why fundamentally and originally you want to come to Japan to get a degree is to pursue higher achievement. I was working in the investment banking before and after attending MPP/IP and still return to the same position is not, something higher and different. Maybe something that could pay more, have better opportunities or be more fulfilling to your personal goals or personalities. For example some of my friends who like

cosplay found a very good gaming company and the pay is relatively nice. So I think that could be a very interesting path to go. This kind of opportunities you usually don't get in Hong Kong and China. Existence of different opportunities is the reason why people want to study in MPP/IP or generally in graduate school. The bottom line is to return and get back to the same original position and take the two years study as extended travel or vacation.

(What is the value or criteria when you decide your career?)

So there are several dimensions, for example like financial, like pay or benefit, compensation package that kind of thing is of course one. Secondly personal growth maybe. How much I can learn, how the career path is clear. In traditional Japanese company it is very inflexible and even if you do more you still need to wait after few years to get promoted. And whether in other companies you get promoted once you prove yourself. Maybe how that career would relate to some of other personal goal you have. Like in my friend's example she can land a job in Microsoft, Google, as one dimension of money or good job, but if she goes to a game company she could also learn 3D modelling, painting, designing of game figures, and I think that is what excites her. That is also another dimension to consider. Of course work life balance. When you can finish your job is quite important. What kind of life style you can achieve. As female foreigner I would consider how friendly that company is. Whether there is weird oji-san who will ask you out after work, whether you will be discriminated because you are a female person. You have a scoreboard with many dimensions and see how a certain job can satisfy you.

25. Will you recommend GraSPP to a close friend of yours? Why?

I think, kind of, if there are people who are already interested in studying in Japan I think I would recommend several programs to them including MPP/IP. It's relatively easy to get into MPP/IP if that person is targeting to study and live in Japan and find a job after graduation. Because compared to kenkyushitsu kind of program, MPP/IP there is better exposure and people can know more classmates which will be a very useful network for the future. Also Japan is a country quite generous in giving scholarships and study support. The tuition is not that high in first place also. So I think I would recommend Japan as a whole for study for many of my Chinese friends who want to study at graduate school. Also now China-US competition is quite intensifying. In the past the really popular options was US, Australia, and UK. Now Australia, Ministry of Education in China officially announced that people should be very careful choosing Australia as a destination to study, which is basically a no. You can go but if anything bad happens we will not be responsible because we warned you in the first place. US a bit tricky because for STEM subject they are

restricting Chinese students to learn them. Study literature like that will not add value and case of COVID is so high, parents are generally worried about their children's safety. I guess especially South Korea, Japan, Singapore, and UK as well, because UK is relatively neutral, are becoming more heated destination for studying and competition is even harsher than before.

26. Do you know about the alumni organization of GraSPP?

Uh, yeah I've heard about it I think but never had any interactions so it's like kind of a legend. Toshidensetsu.

(Will you join, and what would you expect if you become a member?)

Of course I would like to join but how do I join and what kind of benefit I can get? They are like a mysterious organization existing.

27. If you were to list your priority for the objective of studying in GraSPP for below, 1st the highest, 3rd the lowest, what would it be?

Skill ③

Network of Students ②

Network of Faculty ①

28. The courses in 1st year was fully online, but compared to face to face, which method of education do you think will enable you to achieve the academic goals?

Of course face to face.

29. Do you have any benefit you felt from online education?

Some. For example the first semester I was at home doing my degree which gave me significant amount of time to spend with my family which was quite rare I have been always studying outside of my country. They usually just see me during Chinese New Years. And also I think online teaching removes the barriers between people that you have to meet in person to discuss or get to know each other. Now it is pretty easy to just ask somebody for virtual coffee chat. More proactive people like myself is good news. Some of the classmates are still in other countries I can still reach out and find time, facetime, have virtual coffee chat and let me know more about you, that is a plus. I think life quality is better if you are at home you can cook and do multi task,

do gym while attending classes.

(You are quite active in this new normal, and effectively building network?)

Trying my best but still not optimal level that I could achieve if it is offline, requires lot of work.

30. What was the challenge of online education?

(A), I think I mentioned this before as well but even if you attended class, professor will not know you were there, even after you finish the course there is no personal connection. You can't really build the connections with him for future studies. There is very minimal personal interactions although some of the professors have already trying to do it. And because it's online courses it finishes on time, if it is face to face you can stay in the classroom and do some discussions with professors. And some professors are not really good at using remote teaching technology. It is probably very new for them even like PowerPoint but this will impact their teaching quality. It will be difficult talking to camera versus person. I think this impacted the amount of content they can deliver. Also within students it is also difficult to set a study peer group. Specific to China, Zoom is banned in China so you always need to find VPN workaround. Generally I heard from my friends that people in Japan are kind of shy. I had some classmates from Japanese class I was attending after one semester nobody was getting contacts of other people because they were shy to get contacts of other people. Then it will be purely lessons and if you only want the knowledge there are many other ways than doing these schools.

(The percentage of your Japanese vs non Japanese friends made in university?)

Japanese: 20%

Non-Japanese: 80%

31. What would you consider as the ideal learning environment after COVID? (Face to face only, hybrid, only online, etc.)

I think it could be hybrid, and to elaborate more on that, I think students could choose to attend in person or by watching video recordings that the professor uploaded and complete the assignment. And if discussions are mandatory of course everybody should be there face to face only, there should be no options. But for courses like there are like 100 students enrolling I think it is better to do it hybrid.

It is better to remove the attendance taking system which I really dislike. The point is to learn the knowledge and to assign a reading before class or quiz after class is fine but attendance I don't feel of any necessity in current world consider COVID. Some people are watching question 9am or 9pm and how does that even matter. It's like a primary school. Some people studying overseas in Europe because they tell the professors in advance so they never need to submit any attendance and get full attendance. We spend so much energy on stupid attendance.

I have never seen similar thing either Hong Kong, Singapore, or United States. In Hong Kong they would tell you that maybe this course will have in class exams and if you don't come on that day you are dead but if you are little late to class that is still acceptable. Attendance does not matter at all. And in Singapore it is even better because they always upload quickly the recording for lectures. And because Singapore is very hot in summer it is quite a torture to go to class room. Some people finish class by watching video never going to classroom. And in United States it is another case, teacher never use attendance as a tool to secure attendance. They use content of the teaching. What they teach is so interesting that you don't want to miss out which is quite different from Kohara. If people don't want to attend you should reflect on yourself whether your class is relevant to students, if it is, I will naturally be there.

In Hong Kong the grade really matters. If you graduate from the top university with low score like 2.3 out of 4, and another person from second tier university of 3.8 out of 4, is going to be evaluated highly because people think after you join university you get lazy and won't challenge yourself. Your grade is the best indicator in how much effort you are putting in your studies. In China, after entering university, many people are investing more energy in studying that high school. Companies will look at grades. For example in investment banking, if you get lower than 3.3 they will throw your resume away. For consulting threshold is even higher, they just want top graders from top universities. If your grade is less than 35% of total scale they just throw your resume away. And they will specifically ask you during interviews, I got asked a few times, "did you study mathematics, programming, what was your grades in these classes?" A lot of explanation needed.

(Do you think the grading criteria is transparent in GraSPP?)

No. Not really comparable in any of my experience in overseas. They were more clear. In Hong Kong, it is very clear, how many students will get A, A-. They have it all sorted out with curve. Teacher in first class will explain what is required to get a A. What kind of quality should be expected for final essay. The criteria and expectations are all very clear. By the middle of the

semester you kind of know where you are and where you will be landing. In Singapore as well, there are many mini quiz and presentation and after each, grades will be generated. In US as well, I think the professor communicates with students quite closely. If you are behind, and go to the professor, he would help you like take a look at essays. Sometimes you don't even have the basic instructions like how many pages, what is the spacing, what I need to write in essays. Some professors just say "just write an essay and submit by this day." I feel really really strange. In general there is a lack of communication in both sides. And for foreign students there is another concern, whether a certain professor will adjust your grade based on political stance you are holding. I experienced in Hong Kong because my Japanese is quite good as foreigner so I went to take a lesson related to Japanese culture and knew I will do it well but the professor was very anti China. I thought he just graded my, I got a C from that class. So I think he simply graded my work based on nationality. In U-Tokyo maybe some teacher may have anti China kind of tendency so actually I am personally quite worried how they evaluate your work. It is difficult to make a strong case in such implicit discrimination they can always argue that your quality of grade is not great, why are you assuming about discrimination, etc.

32. Will the academic accomplishment in GraSPP be evaluated positively in your community? Idealistically, how do you want it to be evaluated?

In my community like my family friends and Chinese people, of course if you have a higher grade it is easy to explain you have put efforts in to your studies during your two years. In Hong Kong's case, people don't know other people's grade unless they accidentally find out. For me what really matters is how future employer is going to see my grade. If they think they are helpful I will put more effort, but if they don't really care as long as you graduate U-Tokyo that is also fine. Practically speaking if I can achieve my goal it doesn't matter how they see my grade. But I think grade is relatively a fair parameter to use in evaluation process because people come from different background and you can do extra curricular activities and for Japanese people that would be easier, join different clubs, and foreign students would be difficult to find the resources.

33. Do you have any possibility to pursue a PhD degree in future?

Yeah. I am currently considering but still not very transparent, how could I achieve, which professor to ask for supervise, still unclear what I get a PhD. It doesn't feel like a significant improvement in my life though.

34. Would you have enrolled in MPP/IP even without any Masters degree?

No.

35. What do you think are the challenges of recurrent education?

I think it is mainly three aspects, A is financial side, your income will be significantly reduced. If you need to quit your job that is a very big risk. Like in the consulting firms they will sponsor you to do a MBA so many people will take that opportunity. Financial and career risk is definitely the number one reason. Second I think is family. So mid-career people they have solid way of life already. It takes a lot of courage to change that. They might have kids and would be very difficult to make both way work. You must take care of baby and study, and maybe you need to finance yourself. For women it would be very difficult, and your parents wouldn't support you, why bother to risk your opportunity to take another masters' degree overseas. In Japan also, traditional companies you need to follow the years to get promoted, so once you leave the workplace it is difficult to return.

36. Did your previous workplace permit remote working?

Yes. The permit because of COVID, before COVID it was not available. It's not always you can work remotely, but you can choose if COVID is quite serious.